平成 28 年

第 1 回美浜町議会定例会会議録

平成 28 年 3 月 1 日 開会

平成 28 年 3 月 15 日 閉会

愛知県知多郡美浜町議会

平成28年第1回美浜町議会定例会会議録目次

3月1日（火曜日）第1号

議事日程	1
会議に付した事件	2
会議に出欠席した議員	2
説明のため出席した者の職、氏名	2
職務のため出席した者の職、氏名	3
開会及び開議の宣告	3
会議録署名議員の指名	4
会期の決定	4
美浜町議会副議長の選挙	4
所属常任委員会の変更の件（採決）	6
美浜町議会運営委員の辞任の件（採決）	7
美浜町議会運営委員の選任（採決）	8
知多南部衛生組合議会議員の選挙（採決）	9
知多南部消防組合議会議員の選挙（採決）	9
知多南部広域環境組合議会議員の選挙（採決）	10
美浜町公共下水道調査研究特別委員会の報告について（委員長報告）	11
美浜町公共下水道調査研究特別委員会の廃止について（採決）	11
平成28年度の施政方針について	11
報告第1号から議案第34号まで35件一括提案説明	15
散会	26

3月3日（木曜日）第2号

議事日程	27
会議に付した事件	27
会議に出欠席した議員	27
説明のため出席した者の職、氏名	27
職務のため出席した者の職、氏名	27
開議の宣告	27
町政に対する一般質問	28
○1番 横田貴次君	28
1 美浜の里構想事業について。	
(1) 美浜の里構想の事業の概要は。	
(2) 本事業の目的と期待される効果は。	
(3) 本事業に関連するインフラ整備の概要は。	
(4) 本事業の予算概要と財源の見込みはどのように考えているのか。また、地方創生交付	

金を活用する予定はあるか。

(5) 平成28年度予算（案）の中で関係する事業の提案はあるか。

2 「まち・ひと・しごと創生事業費」に関する交付金について。

(1) 1月の行政報告会時点で完了5事業、実施中10事業と報告されたが、その後の進捗状況は。

(2) 平成28年度に向け新たに交付金申請を行う予定はあるか。また、平成28年度予算（案）の中で地方創生交付金に関する事業提案はあるか。

3 美浜町まち・ひと・しごと創生本部について。

(1) 今後の創生本部、人口減少に立ち向かうためのプロジェクトチーム及び第三者委員会の役割は。

(2) 創生本部は地方創生交付金の申請に関わるのか。

(3) 地方創生加速化交付金など新たな交付金申請に関する提案、決定にいたるまでのプロセスは。

(4) 「美浜町まち・ひと・しごと総合戦略推進会議」を設置するとしているが推進会議の構成員や会議設置の進捗状況は。

(5) 推進会議での重要業績評価指標及び各種施策の評価・点検結果は誰にどのような手法で公表されるのか。

○2番 荒井勝彦君 38

1 美浜町の公共施設における喫煙状況について。

2 美浜町消防団団員支援について。

(1) 愛知県は新たに団員募集活動に補助金を出したり、民間事業者に対し団員らへ優遇サービスを奨励するそうだが、町はどのような計画をもっているか。

(2) 大学生の「学生団員」を町としてどのように考えているか。

○3番 大岩 靖君 47

1 平成28年度予算（案）で、第5次総合計画のうち何を重点的に進めていくのか。

2 美浜町子ども・子育て支援事業計画について。

(1) 病児・病後児保育事業について、地域包括支援に取り組んでいる知多厚生病院にどのような働きかけをしているのか。

(2) ファミリーサポート事業におけるファミリーサポートセンターの利用人数が少ないように思うが、今後どのような予定でいるのか。

3 空き家等対策で特定空家に関して、調査状況はどのようになっているか。

4 河和中学校の自転車通学路となっている海岸線の防犯灯設置及び街路灯の球切れ等の交換は終了したのか。

○7番 山本辰見君 57

1 空き家対策関連事業の充実について。

(1) 都市計画課で担当者を専任し、職員が率先し事業の展開をはかるべきだが、準備されているか。

(2) 再利用できそうな家屋・土地等のリストをピックアップし、登録件数を増やすべきと

考えるが、その取り組みの予定は。

(3) 住まいの提供と関連して、農業体験や農地の貸し出し、働き場所の紹介など関連する事業展開が重要と考えるが、どのような企画を考えているか。

2 神谷町長が構想している、まちづくりの長期戦略について。

3 小学校での「通級学級制度」、これに見合う中学校での対応をどのように準備されているか。

○8番 鈴木美代子君 66

1 巨大地震に備えて防災対策を。

(1) 来年度の新規事業で、「空き家対策推進業務委託」があり、危険空き家等に対する措置内容ですが関連はあるのか。

(2) 町内ブロック塀を総点検し、安全対策が必要ではないか。

(3) 河とお城山のふもとが土砂崩れをしている。町としてどう対処するつもりか。

2 少子化が進む中で河和南部小学校の今後は。

3 介護保険の制度改善を。

4 病児保育の実施を。

散 会 76

3月7日（月曜日）第3号

議事日程 77

会議に付した事件 77

会議に出欠席した議員 77

説明のため出席した者の職、氏名 77

職務のため出席した者の職、氏名 77

開議の宣告 77

町政に対する一般質問 78

○14番 江元梅彦君 78

1 新年度予算案に対する神谷町長の基本的な考え方について。

(1) 新年度予算案の中で、特に力を入れた施策とその内容は。

(2) 美浜町の財政規模で、無理のない起債額はどの程度が妥当であるか。また、臨時財政対策債の概念について聞きたい。

2 生活排水処理事業について。

3 道路工事承認申請制度について。

○13番 杉浦 剛君 85

1 耕作放棄地対策について。

(1) 政府は、昨年末に農地の固定資産税改正を発表した。この要点は何か。

(2) 農地バンクに登録すれば減税となる、10アール当たりどのくらいになるのか。また、農地バンク登録条件に当てはまらない事例があるが、実際はどうか。

(3) わが町に合った水田農業・畑地農業の耕作放棄地対策を考えるべきだが、展望を伺う。

2	山林や遊休農地の情報管理について。	
3	空き家バンク制度について。	
○12番	石田秀夫君	9 3
1	上野間方面からの野間中学校生徒の自転車通学路について。	
散 会		9 6

3月8日（火曜日）第4号

議事日程		9 7
会議に付した事件		9 8
会議に出欠席した議員		9 8
説明のため出席した者の職、氏名		9 8
職務のため出席した者の職、氏名		9 8
開議の宣告		9 8
同意第1号（質疑・討論・採決）		9 9
議案第2号（質疑・委員会付託）		1 0 0
議案第3号（質疑・委員会付託）		1 0 0
議案第4号（質疑・委員会付託）		1 0 0
議案第5号（質疑・委員会付託）		1 0 0
議案第6号（質疑・委員会付託）		1 0 1
議案第7号（質疑・委員会付託）		1 0 1
議案第8号（質疑・委員会付託）		1 0 1
議案第9号（質疑・委員会付託）		1 0 3
議案第10号（質疑・委員会付託）		1 0 3
議案第11号（質疑・委員会付託）		1 0 4
議案第12号（質疑・委員会付託）		1 0 4
議案第13号（質疑・委員会付託）		1 0 5
議案第14号（質疑・委員会付託）		1 0 5
議案第15号（質疑・委員会付託）		1 0 5
議案第16号（質疑・委員会付託）		1 0 5
議案第17号（質疑・委員会付託）		1 0 6
議案第18号（質疑・委員会付託）		1 0 6
議案第19号（質疑・委員会付託）		1 0 6
議案第20号（質疑・委員会付託）		1 0 6
議案第21号（質疑・委員会付託）		1 0 7
議案第22号（質疑・委員会付託）		1 0 7
議案第23号（質疑・委員会付託）		1 0 9
議案第24号（質疑・委員会付託）		1 0 9
議案第25号（質疑・委員会付託）		1 0 9

議案第26号（質疑・委員会付託）	1 1 0
議案第27号（質疑・委員会付託）	1 1 0
議案第28号から議案第34号まで7件一括（質疑・委員会付託）	1 1 0
発議第1号から発議第2号まで2件一括（提案説明・質疑）	1 3 5
散 会	1 3 8

3月15日（火曜日）第5号

議事日程	1 3 9
会議に付した事件	1 4 0
会議に出欠席した議員	1 4 0
説明のため出席した者の職、氏名	1 4 0
職務のため出席した者の職、氏名	1 4 1
開議の宣告	1 4 1
議案第2号から議案第13号まで12件一括（委員長報告・質疑・討論・採決）	1 4 1
議案第14号から議案第16号まで3件一括（委員長報告・質疑・討論・採決）	1 4 7
議案第17号から議案第21号まで5件一括（委員長報告・質疑・討論・採決）	1 4 9
議案第22号（委員長報告・質疑・討論・採決）	1 5 1
議案第23号から議案第24号まで2件一括（委員長報告・質疑・討論・採決）	1 5 3
議案第25号から議案第27号まで3件一括（委員長報告・質疑・討論・採決）	1 5 4
議案第28号（委員長報告・質疑・討論・採決）	1 5 6
議案第29号から議案第31号まで3件一括（委員長報告・質疑・討論・採決）	1 6 4
議案第32号から議案第34号まで3件一括（委員長報告・質疑・討論・採決）	1 6 7
発議第1号から発議第2号まで2件一括（討論・採決）	1 6 9
報告第2号から議案第35号まで4件一括（提案説明・質疑・討論・採決）	1 7 2
議会閉会中の継続調査事件について	1 7 6
閉 会	1 7 7

平成28年3月1日（火曜日）

第1回美浜町議会定例会会議録（第1号）

平成28年 3 月 1 日（火曜日） 午前 9 時 00分 開議

◎ 議事日程（第 1 号）

日程第 1 会議録署名議員の指名

日程第 2 会期の決定

日程第 3 美浜町議会副議長の選挙

日程第 4 美浜町公共下水道調査研究特別委員会の報告について

日程第 5 美浜町公共下水道調査研究特別委員会の廃止について

日程第 6 平成28年度の施政方針について

日程第 7 報告第 1 号 専決処分事項の報告について

同意第 1 号 美浜町固定資産評価審査委員会委員の選任について

議案第 2 号 行政不服審査法の施行に伴う関係条例の整理に関する条例について

議案第 3 号 美浜町行政不服審査会条例について

議案第 4 号 美浜町消防団条例の一部を改正する条例について

議案第 5 号 美浜町消防団員等公務災害補償条例の一部を改正する条例について

議案第 6 号 美浜町人事行政の運営等の状況の公表に関する条例の一部を改正する条例について

議案第 7 号 美浜町職員の勤務時間、休暇等に関する条例等の一部を改正する条例について

議案第 8 号 美浜町職員の退職管理に関する条例について

議案第 9 号 美浜町議会の議員その他非常勤の職員の公務災害補償等に関する条例の一部を改正する
条例について

議案第10号 美浜町議会の議員の議員報酬、費用弁償及び期末手当に関する条例の一部を改正する条
例について

議案第11号 美浜町証人等の実費弁償に関する条例の一部を改正する条例について

議案第12号 美浜町特別職の職員で常勤のもの給与及び旅費に関する条例の一部を改正する条例に
ついて

議案第13号 美浜町職員の給与に関する条例の一部を改正する条例について

議案第14号 美浜町母子家庭等医療費支給条例の一部を改正する条例について

議案第15号 美浜町国民健康保険税条例の一部を改正する条例について

議案第16号 美浜町遺児手当支給条例の一部を改正する条例について

議案第17号 美浜町公共用物の管理に関する条例の一部を改正する条例について

議案第18号 美浜町道路占用料条例の一部を改正する条例について

議案第19号 美浜町漁港管理条例の一部を改正する条例について

議案第20号 美浜町漁港土砂採取料等徴収条例の一部を改正する条例について

議案第21号 町道路線の廃止について

議案第22号 平成27年度美浜町一般会計補正予算（第 6 号）

議案第23号 平成27年度美浜町国民健康保険特別会計補正予算（第 1 号）

議案第24号 平成27年度美浜町介護保険特別会計補正予算（第 2 号）

議案第25号 平成27年度美浜町土地取得特別会計補正予算（第 2 号）

- 議案第26号 平成27年度美浜町農業集落家庭排水処理施設特別会計補正予算（第2号）
- 議案第27号 平成27年度美浜町水道事業会計補正予算（第2号）
- 議案第28号 平成28年度美浜町一般会計予算
- 議案第29号 平成28年度美浜町国民健康保険特別会計予算
- 議案第30号 平成28年度美浜町後期高齢者医療特別会計予算
- 議案第31号 平成28年度美浜町介護保険特別会計予算
- 議案第32号 平成28年度美浜町土地取得特別会計予算
- 議案第33号 平成28年度美浜町農業集落家庭排水処理施設特別会計予算
- 議案第34号 平成28年度美浜町水道事業会計予算

◎ 本日の会議に付した事件

日程第1から日程第3までの各事件

- 追加日程第1 所属常任委員会の変更の件
- 追加日程第2 美浜町議会運営委員の辞任の件
- 追加日程第3 美浜町議会運営委員の選任
- 追加日程第4 知多南部衛生組合議会議員の選挙
- 追加日程第5 知多南部消防組合議会議員の選挙
- 追加日程第6 知多南部広域環境組合議会議員の選挙

日程第4から日程第7までの各事件

◎ 本日の出席議員（13名）

1番	横田 貴次 君	2番	荒井 勝彦 君
3番	大岩 靖 君	4番	横田 全博 君
5番	大崎 卓夫 君	6番	丸田 博雅 君
7番	山本 辰見 君	8番	鈴木 美代子 君
9番	野田 増男 君	10番	森川 元晴 君
12番	石田 秀夫 君	13番	杉浦 剛 君
14番	江元 梅彦 君		

◎ 説明のため出席した者の職、氏名（26名）

町 長	神谷 信行 君	副 町 長	石川 達男 君
教 育 長	山本 敬 君	会 計 管 理 者	大井 徳男 君
総 務 部 長	本多 孝行 君	企 画 部 長	永田 哲弥 君
厚 生 部 長	岩瀬 知平 君	経 済 環 境 部 長	齋藤 博 君
建 設 部 長	斎藤 功 君	教 育 部 長	牧 守 君
総 務 課 長	沼田 治義 君	防 災 安 全 課 長	石濱 克彦 君
税 務 課 長	廣澤 辰雄 君	企 画 政 策 課 長	磯 貝 尚 美 君

秘書広報課長	谷川徳寿君	住民課長	茶谷佳宏君
福祉課長	西田林治君	子育て支援課 主幹	久綱勇君
健康推進課長	坂本順一君	農業水産課長	天木孝利君
環境保全課長	岩本健市君	土木課長	鈴木学君
都市計画課長	石川喜次君	水道課長	鈴木晴雄君
生涯学習課長	河村伸吉君	学校給食 センター所長	森川幸二君

◎ 職務のため出席した者の職、氏名（2名）

議会事務局長	岩本修自君	主幹兼議会係長	夏目明房君
--------	-------	---------	-------

[午前9時00分 開会]

○議長（森川元晴君）

それでは、皆様、おはようございます。

平成28年第1回美浜町議会定例会開催に当たり、皆様の御出席をいただき、ありがとうございました。

日曜日がとても暖かかったので、けさの雪にはびっくりいたしました。きょうから3月に入りました。ことしは寒暖の差が激しい日が続いていますが、各地域では、祭礼の準備やおはやしの練習も始まり、春の訪れを感じ、またわくわくする季節がやってきたと思っています。

また、本定例会は、28年度予算を審議する大変重要な議会となります。また、例年にはない変則した日程を組み、副議長の選任から始めさせていただき、現在13名の議員となりましたが、一丸となって議会を務めさせていただきたい、そのような考えでおりますので、よろしく願いいたします。

それでは、開会に先立ち、町長より招集の御挨拶を願います。

町長。

[町長 神谷信行君 登壇]

○町長（神谷信行君）

それでは、皆さん、おはようございます。

今、見渡しますとかなりマスクをやってみえる方が、咳が出たり、また執行部のほうも大分マスクのほうもやっておりますし、庁舎内でもかなりインフルエンザ、風邪がはやっておりますので、どうか皆さん、予防にはしっかりと気をつけていただいて、お体のほう御自愛いただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

それでは、本日の平成28年第1回的美浜町議会定例会を招集いたしましたところ、議員の皆様方には御出席をいただき、まずもって御礼申し上げます。

さて、暦も3月を迎えまして、日差しには春の気配を感じることもふえてまいりました。先ほども議長さんのお話のように寒暖差も非常に激しく、お体のほうも体調を崩しがちになるかと思いますが、そうした中で、季節の移ろいにも気持ちは弾みがちではありますが、新たな年度を迎える今、何をすべきかを考えたときには、身も心も引き締まる思いであります。

今定例会には、新年度当初予算を含め、住民の皆様様の暮らしに直結する多くの議案を提出いたしております。

いずれも住みよいまちづくりをしたいという気持ちを込めたものばかりでございます。議員の皆様方には、慎重審議をお願いするとともに、美浜町が暮らしやすい町であり続けられるよう、御意見、御助言をくださるようお願いを申し上げ、開会の挨拶とさせていただきます。

〔降壇〕

○議長（森川元晴君）

ありがとうございました。

それでは、会議に入ります。

ただいまの出席議員は13名であります。定足数に達しておりますので、これより平成28年第1回美浜町議会定例会を開会します。

直ちに本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、あらかじめお手元に配付したとおりであります。

監査委員より、平成27年11月分、12月分及び平成28年1月分に関する現金出納検査結果の報告及び定期監査、財政的援助団体の監査の結果の報告がありましたので、報告書の写し並びに本定例会に説明員として出席の報告があった者の職、氏名の一覧表をお手元に配付しましたから、御確認を願います。

なお、山下子育て支援課長でございますが、病気療養のため欠席させていただき、代理として久綱子育て支援課主幹が出席しておりますので、よろしくお願いいたします。

また、商工観光課長、竹内康雄君が急病のため欠席との報告がありました。

以上で、議長の諸般の報告を終わります。

それでは、日程に入ります。

日程第1 会議録署名議員の指名

○議長（森川元晴君）

日程第1、会議録署名議員の指名を行います。

本定例会の会議録署名議員は、会議規則第125条の規定により、議長において7番 山本辰見君、14番 江元梅彦君を指名します。

日程第2 会期の決定

○議長（森川元晴君）

日程第2、会期の決定を議題とします。

お諮りします。本定例会の会期は、本日から3月15日までの15日間としたいと思います。これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森川元晴君）

御異議なしと認めます。よって、本定例会の会期は、本日から3月15日までの15日間と決しました。

日程第3 美浜町議会副議長の選挙

○議長（森川元晴君）

日程第3、美浜町議会副議長の選挙を行います。

選挙は投票により行います。議場の出入り口を閉鎖させます。

[事務局 議場閉鎖]

○議長（森川元晴君）

ただいまの出席議員は13名であります。

ここで立会人を指名します。会議規則第31条第2項の規定により、立会人に1番 横田貴次君、14番 江元梅彦君を指名します。

投票用紙を配付します。

[事務局 用紙配付]

○議長（森川元晴君）

投票用紙の配付漏れはありますか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（森川元晴君）

配付漏れはなしと認めます。投票箱を点検します。

[事務局点検]

○議長（森川元晴君）

異常なしと認めます。

念のため申し上げます。投票は、単記無記名です。投票用紙に被選挙人の氏名をフルネームで記載をお願いします。

ただいまから投票を行います。横田貴次君から順に、議席の番号順に順次投票をお願いします。

[投票]

○議長（森川元晴君）

投票漏れはありますか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（森川元晴君）

投票漏れなしと認めます。投票を終わります。

開票を行います。1番 横田貴次君、14番 江元梅彦君、開票の立ち会いをお願いいたします。

[1番 横田貴次君、14番 江元梅彦君立ち会いのもと、事務局開票]

○議長（森川元晴君）

立会人よろしいでしょうか。

[1番 横田貴次君、14番 江元梅彦君、「異議なし」と呼ぶ]

○議長（森川元晴君）

立会人は席に戻ってください。

選挙の結果を報告します。

投票総数13票、そのうち有効投票13票、無効投票ゼロ票です。

有効投票のうち、大崎卓夫君 8票、野田増男君 5票、以上のとおりです。

この選挙の法定得票数は4票です。したがって、大崎卓夫君が副議長に当選しました。

議場の出入り口を開きます。

[事務局 議場開錠]

○議長（森川元晴君）

ただいま副議長に当選されました大崎卓夫君が議場におられます。

美浜町議会会議規則第32条第2項の規定によって、副議長当選の告知をします。

この場をおかりして、副議長に当選されました大崎卓夫君より副議長の挨拶を願います。

〔副議長 大崎卓夫君 登壇〕

○副議長（大崎卓夫君）

ありがとうございます。

1年間という短い期間ではございますが、副議長として美浜町議会のために皆さんと一緒に頑張っていきたくて思っております。どうぞよろしく願いいたします。

〔拍手 降壇〕

○議長（森川元晴君）

ここで暫時休憩とします。再開時間につきましては、追って連絡をいたします。

〔午前9時18分 休憩〕

〔午前9時35分 再開〕

○議長（森川元晴君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

ただいま大崎卓夫君より、現在、総務産業常任委員会に所属しておりますが、文教厚生常任委員会への所属の変更の申し出がありました。

ここで、お諮りします。大崎卓夫君からの申し出のありました所属常任委員会の変更の件を日程に追加し、追加日程第1とし、議題とすることに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森川元晴君）

御異議なしと認めます。よって、所属常任委員会の変更の件を日程に追加し、追加日程第1とし、議題とすることに決しました。

追加日程第1 所属常任委員会の変更の件

○議長（森川元晴君）

追加日程第1、所属常任委員会の変更の件を議題とします。

ここで当事者が議場に見えますので、地方自治法第117条の規定によって、大崎卓夫君の退場を求めます。

大崎卓夫君、退場してください。

〔5番 大崎卓夫君 退場〕

○議長（森川元晴君）

お諮りします。大崎卓夫君からの申し出のありました総務産業常任委員会から文教厚生常任委員会への所属の変更について認めることに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森川元晴君）

御異議なしと認めます。よって、大崎卓夫君の所属常任委員会の変更を認めることに決しました。

ここで大崎卓夫君の入場を求めます。

〔5番 大崎卓夫君 入場〕

○議長（森川元晴君）

ここで暫時休憩とします。休憩中に議会運営委員会を開き、委員会の構成等の協議をし、議長に報告を願います。

再開時間につきましては、追って連絡をいたします。よろしく申し上げます。

[午前9時38分 休憩]

[午前10時00分 再開]

○議長（森川元晴君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

ただいま大崎卓夫君及び石田秀夫君より、議長宛てに美浜町議会運営委員会の辞任の届けが出されました。

ここでお諮りします。大崎卓夫君及び石田秀夫君から提出されました美浜町議会運営委員の辞任の件を日程に追加し、追加日程第2とし、議題とすることに御異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○議長（森川元晴君）

御異議なしと認めます。よって、美浜町議会運営委員の辞任の件を日程に追加し、追加日程第2とし、議題とすることに決しました。

追加日程第2 美浜町議会運営委員の辞任の件

○議長（森川元晴君）

追加日程第2、美浜町議会運営委員の辞任の件を議題とします。

ここで当事者が議場に見えますので、地方自治法第117条の規定により、大崎卓夫君及び石田秀夫君の退場を求めます。

大崎卓夫君、石田秀夫君、退場をしてください。

[5番 大崎卓夫君、12番 石田秀夫君 退場]

○議長（森川元晴君）

お諮りします。大崎卓夫君及び石田秀夫君から提出されました美浜町議会運営委員の辞任について、許可することに御異議ありませんか。

○6番（丸田博雅君）

すみませんが、辞任の理由を述べてください。

○議長（森川元晴君）

2名ですか、2名とも。

まず、大崎卓夫君が先ほどの副議長に選任されました。そのため、議会運営委員会としては、前回メンバーであった大崎議員は、今までの美浜町の慣例によりまして、副議長はオブザーバーというふうな形でかかわってもらおうという形になります。

石田秀夫君の場合は、美浜町の議会運営委員会の慣例によりまして、会派が3名の場合は議会運営委員会としては1名の選出ということになっておりますので、その辺の変更に伴う今回の議案になります。よろしく願いいたします。

それでは、お諮りします。大崎卓夫君及び石田秀夫君から提出されました美浜町議会運営委員の辞任について、許可することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森川元晴君）

御異議なしと認めます。よって、大崎卓夫君及び石田秀夫君、両名の議会運営委員の辞任は許可することに決しました。

ここで大崎卓夫君及び石田秀夫君、両名の入場を求めます。

〔5番 大崎卓夫君、12番 石田秀夫君 入場〕

○議長（森川元晴君）

次に、美浜町議会運営委員の選任を日程に追加し、追加日程第3とし、議題とすることに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森川元晴君）

御異議なしと認めます。よって、美浜町議会運営委員の選任を日程に追加し、追加日程第3とし、議題とすることに決しました。

追加日程第3 美浜町議会運営委員の選任

○議長（森川元晴君）

追加日程第3、美浜町議会運営委員の選任を議題とします。

お諮りします。美浜町議会運営委員の選任については、美浜町議会委員会条例第5条第1項の規定により、議長から指名することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森川元晴君）

御異議なしと認めます。よって、議長から美浜町議会運営委員を指名します。

新たに美浜町議会運営委員として、丸田博雅君を指名します。

なお、任期は、前任者の残任期間とする。

以上でございます。

ここで暫時休憩をします。休憩中に議会運営委員会を開催し、副委員長を互選し、議長に報告を願います。

再開時間につきましては、追って連絡をします。よろしく願います。

〔午前10時07分 休憩〕

〔午前10時40分 再開〕

○議長（森川元晴君）

それでは、休憩前に引き続き会議を開きます。

ここで諸般の報告をします。

美浜町議会運営委員会副委員長に山本辰見君が選出されました。

以上で諸般の報告を終わります。

次に、知多南部衛生組合議会議員の選挙を日程に追加し、追加日程第4とし、議題とすることに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森川元晴君）

御異議なしと認めます。よって、知多南部衛生組合議会議員の選挙を日程に追加し、追加日程第4とし、議題

とすることに決しました。

追加日程第4 知多南部衛生組合議会議員の選挙

○議長（森川元晴君）

追加日程第4、知多南部衛生組合議会議員の選挙を議題とします。

知多南部衛生組合議会議員は、衛生組規約第5条の規定により、本議会議員より4名を選挙することとなっておりますが、現在1名欠員となっておりますので、欠員となっております1名を選挙したいと思います。

また、慣例により、正副議長は一部組合議会議員に所属することになっておりますので、その辺を御了解お願いいたします。

お諮りします。知多南部衛生組合議会議員の選挙方法については、地方自治法第118条第2項の規定により、議長による指名推選したいと思います。これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森川元晴君）

御異議なしと認めます。よって、選挙の方法は議長による指名推選で行うことに決しました。

知多南部衛生組合議会議員に大崎卓夫君を指名します。

お諮りします。ただいま議長が指名しました大崎卓夫君を知多南部衛生組合議会議員の当選人と定めることに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森川元晴君）

御異議なしと認めます。よって、ただいま議長が指名しました大崎卓夫君が知多南部衛生組合議会議員に当選されました。

当選されました大崎卓夫君が議場におられますので、会議規則第32条第2項の規定により当選の告知をします。

次に、知多南部消防組合議会議員の選挙を日程に追加し、追加日程第5とし、議題とすることに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森川元晴君）

御異議なしと認めます。よって、知多南部消防組合議会議員の選挙を日程に追加し、追加日程第5とし、議題とすることに決しました。

追加日程第5 知多南部消防組合議会議員の選挙

○議長（森川元晴君）

追加日程第5、知多南部消防組合議会議員の選挙を議題とします。

知多南部消防組合議会議員は、消防組規約第5条の規定により、本議会議員より4名を選挙することとなっておりますが、現在1名欠員となっておりますので、欠員となっております1名を選挙したいと思います。

先ほども言いましたが、慣例により、正副議長は一部組合のほうに所属することになっておりますので、御了解のほうをお願いいたします。

お諮りします。知多南部消防組合議会議員の選挙方法については、地方自治法第118条第2項の規定により、議長による指名推選したいと思います。これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森川元晴君）

御異議なしと認めます。よって、選挙の方法は議長による指名推選で行うことに決しました。

知多南部衛生組合議会議員に大崎卓夫君を指名します。

お諮りします。ただいま議長が指名しました大崎卓夫君を知多南部消防組合議会議員の当選人と定めることに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森川元晴君）

御異議なしと認めます。よって、ただいま議長が指名しました大崎卓夫君が知多南部消防組合議会議員に当選されました。

当選されました大崎卓夫君が議場におられますので、会議規則第32条第2項の規定により当選の告知をします。

次に、知多南部広域環境組合議会議員の選挙を日程に追加し、追加日程第6とし、議題とすることに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森川元晴君）

御異議なしと認めます。よって、知多南部広域環境組合議会議員の選挙を日程に追加し、追加日程第6とし、議題とすることに決しました。

追加日程第6 知多南部広域環境組合議会議員の選挙

○議長（森川元晴君）

追加日程第6、知多南部広域環境組合議会議員の選挙を議題とします。

知多南部消防組合議会議員は、知多南部広域環境組規約第5条並びに第6条第1項の規定により、本議会議員より3人を選挙することとなっておりますが、現在1名欠員となっておりますので、欠員となっております1名を選挙したいと思います。

先ほどと同じように、正副議長が所属することが慣例となっておりますので、よろしく願いいたします。

お諮りします。知多南部広域環境組合議会議員の選挙方法については、地方自治法第118条第2項の規定により、議長による指名推選にしたいと思っております。これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森川元晴君）

御異議なしと認めます。よって、選挙の方法は議長による指名推選で行うことに決しました。

知多南部広域環境組合議会議員に大崎卓夫君を指名します。

お諮りします。ただいま議長が指名しました大崎卓夫君を知多南部広域環境組合議会議員の当選人と定めることに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森川元晴君）

御異議なしと認めます。よって、ただいま議長が指名しました大崎卓夫君が知多南部広域環境組合議会議員に当選されました。

当選されました大崎卓夫君が議場におられますので、会議規則第32条第2項の規定により当選の告知をします。

日程第4 美浜町公共下水道調査研究特別委員会の報告について

○議長（森川元晴君）

次に、日程第4、公共下水道調査研究特別委員会の報告についてを議題とします。

公共下水道調査研究特別委員会委員長の報告をお願いします。

〔公共下水道調査研究特別委員長 大崎卓夫君 登壇〕

○公共下水道調査研究特別委員長（大崎卓夫君）

公共下水道調査研究特別委員会の経過並びに結果について御報告申し上げます。

本町議会では、公共下水道事業の一体的な調査研究が必要であることから、平成25年12月に公共下水道調査研究特別委員会を設置し、工事手法・管理手法などの諸問題、環境、経済の両面から本町及び住民に及ぼす影響等について調査研究を行ってまいりました。これまでに12回にわたり委員会を開催、公益財団法人日本環境整備教育センターより講師を招き、生活排水処理施設の整備上の留意点の御講演をいただきました。また、長久手市の長久手南部浄化センターを視察し、現在の公共下水道の汚水処理プラント機械設備等を自分たちの目で見て、関係当局から汚水処理の詳細な説明を受けて、調査研究に役立ててまいりました。

しかし、平成27年度に作成された美浜町汚水適正処理構想では、厳しい財政状況、少子高齢化の急速な進行や人口減少といった社会情勢の変化に伴う財政悪化が予想され、公共下水道事業は困難であるとの判断により、当面の間は合併処理浄化槽による汚水処理を進めていくとの方針が示されました。当委員会の設置目的である公共下水道の調査研究をする必要がなくなりました。

なお、今後において、公共下水道の調査研究が必要となったときには、改めて特別委員会を設置し、調査研究を行いたいと思います。

以上で、公共下水道調査研究特別委員会報告を終わります。

〔降壇〕

○議長（森川元晴君）

公共下水道調査研究特別委員会委員長の報告が終わりました。

日程第5 美浜町公共下水道調査研究特別委員会の廃止について

○議長（森川元晴君）

次に、日程第5、公共下水道調査研究特別委員会の廃止についてを議題とします。

お諮りします。公共下水道調査研究特別委員会については、今ほど委員長から報告が行われましたので、調査研究の必要がなくなったものとし、公共下水道調査研究特別委員会を廃止することとしたいと思います。これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森川元晴君）

御異議なしと認めます。よって、公共下水道調査研究特別委員会は廃止することに決しました。

日程第6 平成28年度の施政方針について

○議長（森川元晴君）

日程第6、平成28年度施政方針についてであります。

町長、登壇を願います。町長。

〔町長 神谷信行君 登壇〕

○町長（神谷信行君）

それでは、私のほうより、施政方針と予算の大綱につきましてお話しをさせていただきます。

平成28年第1回美浜町議会定例会の開会に当たり、私の町政運営に対する所信と予算の大綱を申し述べ、議会並びに住民の皆様への御理解と御協力を賜りたいと存じます。

昨年4月の統一地方選挙において町長に就任させていただいてから、はや10カ月が経過いたしました。この間、議員の皆様並びに住民の皆様から多大なる御支援、御協力をいただきましたことに、まづもって深くお礼申し上げます。

私は、町長就任以来、住民の皆様にご喜んでいただき、活力に満ち、安心・安全に暮らしていける町にするため、平成27年度予算に基づき町政運営に当たってまいりました。

そうした中、最大の懸案事項であると私が考える公共下水道事業整備計画の見直しについては、中止に向けて国及び県に幾度となく状況を御説明いたしました結果、御理解いただき、かつ従前と変わらぬ良好な関係を保つことができたと考えております。

また、総合公園グランド拡張整備計画についても、厳しい財政状況を踏まえて必要最小限の整備とするよう見直しを進めております。これらの取り組みは、美浜町の身の丈に合ったものであると考えております。

さて、皆様も御存じのように、我が国は平成20年をピークに人口減少の局面に突入し、今までにないスピードで少子高齢化社会へと進んでおります。また、東京圏への若者の一極集中と、その影響である地方経済の縮小という負のスパイラルも発生しています。

これらを打開するため、国は平成27年を地方創生元年と位置づけ、日本全国の人口の将来展望を示す「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」と、それを踏まえた5カ年の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定いたしました。本町も、この国の長期ビジョンと総合戦略を念頭に、町の特色や地域資源を生かした「美浜町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、住民の皆様、各種団体、事業所、そして行政が自分ごととして捉え、施策に取り組むことで、人口減少と地域経済縮小の克服を目指してまいります。

本町では、中長期的視野のもとに総合的かつ計画的な行政運営を進めるため、「ひと・まち・自然、健康に輝くまち美浜」を将来像とする新たなまちづくりの指針として、平成25年11月に作成した第5次美浜町総合計画に基づきまちづくりを進めておりますが、この「美浜町まち・ひと・しごと創生総合戦略」は、定住促進や少子化対策、「まち・ひと・しごとの創生」にかかわる戦略的なプロジェクトを示すものであり、町の総合計画と一体的に取り組むことにより、その目的を達成してまいりたいと考えております。

それでは、新年度における主要事業につきまして、6本の柱ごとに順次御説明申し上げます。

初めに、1本の柱、「自然を生かし、快適に住み続けられるまちづくり」としては、町の発展の基礎となる道路、交通、港湾及び公園緑地など並びに暮らしを支える上水道、排水処理などの維持及び整備推進を図り、住みやすく快適なまちづくりに取り組んでまいります。

まず、市街地の整備への取り組みとして、既成市街地の整備改善を促進するための既成市街地整備調査業務を、また、奥田駅東地区を交流拠点として日本福祉大学と連携できる土地利用を検討するため、奥田駅前拠点整備事業調査業務をそれぞれ実施するとともに、空き家等の活用を促進するため、空き家等対策推進業務を実施してまいります。

交通ネットワークの充実への取り組みとして、地域の道路網の安全性と信頼性を維持するため、橋梁の耐震

化・長寿命化及び町道の道路舗装を引き続き進めてまいります。また、新年度予算には計上されておませんが、地方創生加速化交付金を利用して、巡回バスの増車を図る経費を本定例会に補正予算として計上いたしており、利用者の利便性向上を図ってまいります。

上水道の維持への取り組みとしては、安定した上水の供給に資するため、各地区において整備並びに布設がえ工事を行ってまいります。また、災害時における上水の確保のため、上野間配水池から町総合公園への連絡管整備に要する設計業務に着手いたします。この連絡管が整備された場合には、私の美浜の里構想の推進においても大変有効であると考えております。

排水処理についての取り組みとして、適正な排水処理を推進するため、合併浄化槽普及促進拡充整備事業を実施いたします。具体的には、これまで専用住宅のみであった補助対象を商店や事業所まで広げるものであります。これにより、浄化槽設置に係るコストの削減が図られ、商店や事業所の本町への誘致を推し進めることができると考えております。

2本目の柱、「安心・安全なくらしができるまちづくり」として、巨大地震など大規模災害から暮らしを守り、全ての住民が安心して生活できるよう、防災・防犯、そして安全対策などの充実を図るとともに、生活環境の保全等も進めてまいります。

取り組みを申し上げますと、まず、循環型社会の推進への取り組みとして、太陽光発電システム設置補助事業を引き続き実施し、生活環境の保全への取り組みとして海岸漂着物清掃委託事業を行うとともに、地震・津波・がけ崩れなどへの対策として、家具転倒防止対策事業及び建築物耐震改修促進事業を継続して進めてまいります。

また、消防・救急体制の充実への取り組みとして、消防水利の未整備地区において防火水槽を整備することにより、消防体制の強化を図ります。

消費者の保護と育成への取り組みでは、半田市と郡内5町による広域連携事業として、消費生活センターを設置いたします。

3本目の柱、「産業経済に活力のあるまちづくり」として、町の基幹産業である農業、水産業及び観光業の振興を図るとともに、後継者の育成やさらなる付加価値の創造、そして都市との結びつきの強化などを通じて産業基盤としての整備を推進いたします。

まず、農業振興への取り組みとして、意欲ある農家の経営規模拡大及び経営の多角化などを応援するための経営体育成支援事業を実施するとともに、新規就農者の経営安定を図るための新規就農総合支援事業並びに所得向上と地域活性化を図るため都市農村交流事業をさらに推し進めてまいりたいと考えています。

また、新規事業として、地域の畜産関係者が連携と結集をすることにより、畜産における収益性向上を図る畜産クラスター事業への支援を行うことにより、ブランド肉の生産と販売拡大を目指します。

水産振興への取り組みとして、新たに魚場改良事業への補助を行うことにより、海苔養殖における環境の改善を図ります。

このほかでは、水産物の安定供給のため、有害動植物の駆除を実施し、漁場環境の維持及び向上を図るための水産多面的機能発揮対策事業を実施するとともに、水産資源の維持及び繁殖の推進により漁家経営の安定を図るための放流種苗育成事業、地域ブランド商品の研究及び開発並びに情報発信等に取り組むことにより、地域産業の活性化を推進する事業への補助を実施いたします。

魅力ある地域商業の振興への取り組みとして、町内での消費を喚起し、地域経済の活性化を図るため、引き続きプレミアム付商品券発行事業を実施いたします。

また、子育て支援対策とあわせて観光産業の振興に寄与するため、子育て世帯を対象として町内施設の年間パ

サポートを交付するレジャー施設利用券交付事業を引き続き行います。

4本目の柱、「支え合いに満ちた、人にやさしいまちづくり」については、全ての住民が尊厳と生きがいを持って健やかに暮らし、元気で活躍できるよう、保健、福祉、そして医療の連携と整備充実を図り、人に優しい町を目指します。

まず、地域医療の確保についての取り組みとして、特別交付税に関する省令において公的病院に定義される知多厚生病院に対して、安定した救急医療体制の確保等のため、運営に対する補助を実施いたします。なお、当該補助に係る経費は特別交付税にて措置されることになっております。

地域福祉の充実についての取り組みとして、若い人が子どもを産み育て、町に定住していただくため、河和団地に若者世帯向けの平屋建て住宅10戸を建設し、定住促進に努めてまいります。

また、国の事業ではありますが、消費税引き上げの影響を踏まえ、低所得者に対する臨時福祉給付金の給付を行います。

高齢者の福祉・健康への取り組みとして、高齢者タクシー助成券の配布、ダイヤモンド婚・金婚を祝う会の開催、敬老会の開催、保養施設利用助成事業、高齢者サロン活動支援等の事業を引き続き実施してまいります。

子どもの福祉・健康への取り組みとして、河和小学校内で開設している放課後児童クラブの利用児童の増加が見込まれることから、保育室の増設整備を行います。

また、保育所園児の熱中症対策として、2保育所へのエアコン設置工事を実施し、保育環境の充実を図ってまいります。

加えて、町内の私立幼稚園が幼稚園と保育所の機能を持つ幼保連携型認定こども園を整備する事業に対し支援を行い、保護者が就労している家庭の児童に対し、教育を受ける機会を提供いたします。

そのほか、家庭での保育等が困難な状況にある児童等を対象に、育児の援助を受けたい人と援助を行うことを希望する人をつなげ、お互いが助け合うことができるようにするファミリーサポートセンター事業や、児童虐待等に対する迅速な対応を行うための児童相談員を配置し、児童虐待防止等を推進する事業を継続してまいります。

また、乳児を養育する保護者に対しておむつ等の費用を助成することにより、子育て世帯の経済的負担を軽減し、子どもの健やかな成長と、あわせて地域の活性化を目指して子育て世帯応援事業を実施する一方、心身の発達に支援を要する児童及びその保護者を対象に、自立した日常生活及び社会生活を営むことができるように、美浜町立わかば園による児童発達支援事業を行います。

社会保障の充実への取り組みとして、国保加入者の健康状態の分析に基づき、疾病の予防及び生活習慣病重症化予防の保険事業を適正に実施するための計画を策定してまいります。

5本目の柱、「人が学び合い、育ちあうまちづくり」については、子育てにかかわる総合的な環境整備や施策の連携を図り、次の地域社会を支えることのできる人づくりを積極的に進めます。

まず、学校教育の充実への取り組みとして、児童が外国語に触れ、また、外国の生活や文化になれ親しむ等、小学校段階にふさわしい学習が行えるよう、モデル事業として英語教育を布土小学校の全学年で実施いたします。

また、あいち森と緑づくり税を活用し、愛知県産材木を用いた児童生徒用机、椅子、教卓、ロッカー等への更新を進める木の香る学校づくり推進事業を実施するとともに、フレンドシップ草の根国際交流ホームステイ事業を引き続き実施いたします。

6本目の柱、「参画と協働によるまちづくり」については、自立した住民みずからが主体的にまちづくりを担っていくことができるよう、住民参画やボランティア風土を育て、参画と協働を基軸とした町を目指します。具体的には、ボランティア活動の支援と推進を目的として、花火大会応援対策事業を継続して実施いたします。

また、地域主権に対応した行財政運営への取り組みとして、平成28年1月にリニューアルしたふるさと納税制度を一層推進し、財源の確保と本町特産品の販路拡大に努めるとともに、財政負担の軽減と平準化を図りつつ、公共施設等の最適な配置を実現するため、公共施設等総合管理計画策定支援業務と納税者の利便性を高めるためのコンビニ収納対応事業をそれぞれ新規に実施いたします。

住民の参画と協同については、行政区や地区組織の活動を支援するため、宝くじ自治総合センターの補助金を利用したコミュニティ事業への補助を実施する予定でございます。

また、住民主体と協働のまちづくりを推進するためのまちづくりエンジョイプラン交付金事業、地域社会を担うことができる人材育成の場としての美浜地域大学の開講等を継続いたします。

さらに、地域資源を生かして出会いの場をつくる婚活支援事業においては、結婚を望む独身者を応援する出会いサポーター制度を取り入れ、より一層積極的に支援してまいります。

以上、新年度において実施予定の主要事業を御紹介いたしました。

私は、住民の皆様と力を一つにして、美浜町が自立した住みよい町であり続けられるよう、そして「明るく・健康で・笑顔の絶えないまち美浜」を目指し、町政を進めてまいります。

議員の皆様並びに住民皆様の御理解と御協力を心からお願い申し上げまして、平成28年度の施政方針といたします。

ありがとうございました。

[降壇]

○議長（森川元晴君）

これをもって、平成28年度施政方針についてを終わります。

日程第7 報告第1号 専決処分事項の報告についてから

議案第34号 平成28年度美浜町水道事業会計予算まで35件一括提案説明

○議長（森川元晴君）

日程第7、報告第1号、専決処分事項の報告についてから議案第34号、平成28年度美浜町水道事業会計予算まで、以上35件を一括議題とします。

以上35件について、提案理由の説明を求めます。

町長、説明を願います。町長。

[町長 神谷信行君 登壇]

○町長（神谷信行君）

本日御提案申し上げますのは、報告第1号、専決処分事項の報告についてを初めとして35件でございます。全案お認めくださいますようお願い申し上げ、早速、提案理由を御説明いたします。

初めに、報告第1号、専決処分事項の報告についてでございますが、去る2月2日午後5時30分ごろ、美浜町大字奥田字御茶銭地内の町道奥田野間線において、本町在住の方が運転する普通自動車町道を走行中、破損した側溝のふたにより、車両右側後輪のタイヤ及びホイールキャップが破損する事故が発生いたしました。この事故に関しまして双方で話し合いを行ったところ、示談が成立し、損害賠償金として車両修理費の3割、3,512円を支払うことで協議が調いました。

よって、地方自治法第180条第1項の規定により、損害賠償の額及び和解について2月15日付で専決処分をいたしましたので、同条第2項の規定に基づき、議会に御報告を申し上げます。

次に、同意第1号、美浜町固定資産評価審査委員会委員の選任についてでございますが、現在委員をお願いしております山本義忠氏が3月31日をもって任期満了となりますので、新たに住民の代表として日比福市氏を選任いたしたく、地方税法第423条第3項の規定により、議会の同意をお願いするものでございます。

なお、任期は、同条第6項の規定に基づき、平成28年4月1日から平成31年3月31日までの3年間でございます。

次に、議案第2号、行政不服審査法の施行に伴う関係条例の整理に関する条例についてでございますが、行政不服審査法が全部改正され、行政処分に関し住民が不服を申し立てることのできる制度が公平性の向上、救済手段の充実・拡大等の観点から見直されたことに伴い、関係する条例の一部改正を行うため、本条例の制定をお願いするものでございます。

内容といたしましては、美浜町行政手続条例を始めとする8つの条例について、字句の整理、法の適用除外、手数料の規定等、行政不服審査法の全部改正に伴い、必要な事項の改正を行うものでございます。

なお、施行日につきましては平成28年4月1日でございます。

次に、議案第3号、美浜町行政不服審査会条例についてでございますが、行政不服審査法が全部改正されたことに伴い、美浜町行政不服審査会を設置する必要性が生じたため、本条例の制定をお願いするものでございます。

内容といたしましては、所掌事項、組織、委員等に関する事等、審査会の設置に必要な事項を定めるものでございます。

なお、施行日につきましては平成28年4月1日でございます。

次に、議案第4号、美浜町消防団条例の一部を改正する条例についてでございますが、消防団組織見直しに伴い、本条例の一部改正をお願いするものでございます。

改正の内容でございますが、団員の定員を253人から238人とするものでございます。

なお、施行日につきましては平成28年4月15日でございます。

次に、議案第5号、美浜町消防団員等公務災害補償条例の一部を改正する条例についてでございますが、非常勤消防団員等に係る損害補償の基準を定める政令の一部改正及び行政不服審査法の全部改正に伴い、本条例の一部改正をお願いするものでございます。

改正の内容でございますが、公務上の災害等に対する損害補償に関し、同一の事由により他の法律による年金たる給付が支給される場合における傷病補償年金及び休業補償の額に乗じる調整率の改定並びに字句の整理を行うものでございます。

なお、施行日につきましては平成28年4月1日でございます。

次に、議案第6号、美浜町人事行政の運営等の状況の公表に関する条例の一部を改正する条例についてでございますが、地方公務員法の一部改正及び行政不服審査法の全部改正に伴い、本条例の一部改正をお願いするものでございます。

内容といたしましては、地方公務員法の改正により「人事行政の運営等の状況」を公表する際に、「職員の人事評価の状況」及び「職員の退職管理の状況」を加えて公表する規定の追加並びに行政不服審査法の改正により、「不服申し立て」を「審査請求」に改めるものでございます。

なお、施行日につきましては平成28年4月1日でございます。

次に、議案第7号、美浜町職員の勤務時間、休暇等に関する条例等の一部を改正する条例についてでございますが、地方公務員法の一部改正に伴い、美浜町職員の勤務時間、休暇等に関する条例、美浜町職員の育児休業等に関する条例及び美浜町職員の特殊勤務手当に関する条例の3本の条例の一部改正をお願いするものでござい

す。

内容といたしましては、地方公務員法の条文を引用している部分について、法の改正により項番号が変わったことにより、関係条例を改正させていただくものでございます。

なお、施行日については平成28年4月1日でございます。

次に、議案第8号、美浜町職員の退職管理に関する条例についてでございますが、地方公務員法の一部改正に伴い、本条例の制定をお願いするものでございます。

内容といたしましては、退職し、再就職した職員がその企業等と本町または本町の小中学校との間で行う契約等の事務について、退職後2年間、職員に働きかけをすることを禁止するものです。対象職員は本町職員及び本町立小中学校の教職員でございます。

なお、施行日につきましては平成28年4月1日でございます。

次に、議案第9号、美浜町議会の議員その他非常勤の職員の公務災害補償等に関する条例の一部を改正する条例についてでございますが、地方公務員災害補償法施行令の一部改正に伴い、本条例の一部改正をお願いするものでございます。

内容といたしましては、公務災害補償における年金たる補償のうち、傷病補償年金と同一の理由により、厚生年金法による障害厚生年金等があわせて支給される場合の調整率及び公務災害補償における休業補償と同一の理由により、障害厚生年金等があわせて支給される場合の調整率が0.86から0.88に引き上げるものでございます。

なお、施行日につきましては平成28年4月1日でございます。

次に、議案第10号、美浜町議会の議員の議員報酬、費用弁償及び期末手当に関する条例の一部を改正する条例についてでございますが、国家公務員の特別職の職員の給与に関する法律の一部改正及び美浜町特別職の職員で常勤のものの給与及び旅費に関する条例の一部改正することに伴い、本条例の一部改正をお願いするものでございます。

内容といたしましては、期末手当の支給率を3.1月から3.15月に0.05月分引き上げるもので、第1条では平成27年12月分で0.05月分引き上げ、第2条では平成28年6月と12月に0.025月分ずつ振り分けるものでございます。

施行日につきましては、公布の日からとし、第1条については平成27年4月1日から適用し、第2条については平成28年4月1日から施行するものでございます。

次に、議案第11号、美浜町証人等の実費弁償に関する条例の一部を改正する条例についてでございますが、農業委員会等に関する法律の一部改正及び行政不服審査法の全部改正に伴い、本条例の一部改正をお願いするものでございます。

内容といたしましては、農業委員会等に関する法律の改正による根拠条項の改正及び行政不服審査法の改正による出頭を求めるものを対象者に加えるものでございます。

なお、施行日につきましては平成28年4月1日でございます。

次に、議案第12号、美浜町特別職の職員で常勤のものの給与及び旅費に関する条例の一部を改正する条例についてでございますが、国家公務員の特別職の職員の給与に関する法律の一部改正に伴い、本条例の一部改正をお願いするものでございます。

内容といたしましては、期末手当の支給率を3.1月から3.15月に0.05月分引き上げるもので、第1条では平成27年12月分で0.05月分引き上げ、第2条では平成28年6月と12月に0.025月分ずつ振り分けるものでございます。

施行日につきましては、公布の日からとし、第1条については平成27年4月1日から適用し、第2条については平成28年4月1日から施行するものでございます。

次に、議案第13号、美浜町職員の給与に関する条例の一部を改正する条例についてでございますが、国家公務員の一般職の職員の給与に関する法律の一部改正、地方公務員法の一部改正及び行政不服審査法の全部改正に伴い、本条例の一部改正をお願いするものでございます。

内容といたしましては、給料月額について、1,100円を基本に2,500円から1,000円の範囲で引き上げ、並びに勤勉手当の支給率を1.5月から1.6月に0.1月分引き上げるもので、第1条では平成27年12月分で0.1月分引き上げ、第2条では平成28年6月と12月に0.05月分ずつ振り分けるものでございます。

また、第2条においては、地方公務員法の改正に伴い、引用条項の改正及び等級別基準職務表の追加、勤勉手当を支給する基準のうち、「勤務の成績」を「人事評価の結果」に改正するほか、行政不服審査法の改正に伴い、引用する条項を改正するものでございます。

施行日につきましては、公布の日からとし、第1条については平成27年4月1日から適用し、第2条については平成28年4月1日から施行するものでございます。

次に、議案第14号、美浜町母子家庭等医療費支給条例の一部を改正する条例についてでございますが、学校教育法が改正され、小中一貫教育を実施することを目的とする義務教育学校の制度が創設されたことに伴いまして、本条例の一部改正をお願いするものでございます。

なお、施行日につきましては平成28年4月1日でございます。

次に、議案第15号、美浜町国民健康保険税条例の一部を改正する条例についてでございますが、地方税法施行令が改正され、国民健康保険の課税限度額が引き上げられたことに伴いまして、本条例の一部改正をお願いするものでございます。

課税限度額の引き上げについては、美浜町国民健康保険運営協議会へ諮問し、平成28年1月28日付で「限度額を引き上げることが適当である」との答申をいただいております。

なお、施行日につきましては平成28年4月1日でございます。

次に、議案第16号、美浜町遺児手当支給条例の一部を改正する条例についてでございますが、学校教育法の一部が改正されたことに伴い、本条例の一部改正をお願いするものでございます。

改正の内容は、学校教育制度における学校種類のうち、中学校段階となる「義務教育学校の後期課程、中等教育学校の前期課程」を追加する規定の整備を行うものでございます。

なお、施行日につきましては平成28年4月1日でございます。

次に、議案第17号、美浜町公共用物の管理に関する条例の一部を改正する条例についてでございますが、美浜町道路占用料条例の一部改正に伴い、道路占用料と公共用物使用料との均衡を図るため、本条例の一部改正をお願いするものでございます。

改正の内容でございますが、公共用物の使用許可を受けた者が支払う使用料の額を改正するものでございます。

なお、施行日につきましては平成28年4月1日でございます。

次に、議案第18号、美浜町道路占用料条例の一部を改正する条例についてでございますが、道路法施行令の一部改正に伴い、本条例の一部改正をお願いするものでございます。

改正の内容でございますが、道路占用料の額を改正するものでございます。

なお、施行日につきましては平成28年4月1日でございます。

次に、議案第19号、美浜町漁港管理条例の一部を改正する条例についてでございますが、美浜町道路占用料条例の一部改正に伴い、道路占用料と漁港占用料との均衡を図るため、本条例の一部改正をお願いするものでございます。

改正の内容でございますが、漁港施設の使用の許可を受けた者が支払う占用料の額を改正するものでございます。

なお、施行日につきましては平成28年4月1日でございます。

次に、議案第20号、美浜町漁港土砂採取料等徴収条例の一部を改正する条例についてでございますが、美浜町道路占用料条例の一部改正に伴い、道路占用料と漁港土砂採取料等との均衡を図るため、本条例の一部改正をお願いするものでございます。

改正の内容でございますが、漁港区域内の水域及び公共空き地について占用の許可を受けた者が支払う占用料の額を改正するものでございます。

なお、施行日につきましては平成28年4月1日でございます。

次に、議案第21号、町道路線の廃止についてでございますが、道路の実情を調査した結果、路線の廃止をするものでございます。道路の廃止につきましては、道路法の規定により、議会の議決をお願いするものでございます。

次に、議案第22号、平成27年度美浜町一般会計補正予算（第6号）についてでございますが、第1条は、歳入歳出それぞれ6,346万3,000円を減額し、補正後の予算総額を72億9,727万6,000円とするものでございます。

第2条は、今回の補正予算に係る事業のうち、平成28年度に繰り越すものについて、地方自治法の規定に基づき繰越明許費とするものでございます。

なお、この繰越明許に係る事業は、主に国の地方創生加速化交付金及び学校施設環境改善交付金を活用するものでございます。

歳出予算の内容でございますが、まず、各款にわたり、初めに、本年度の人事院勧告に基づく特別職を含む職員給与の改定による人件費の増減を計上いたしました。

2款総務費、1項総務管理費では、7目企画費においては、生涯活躍のまち推進事業に要する費用として、地域大学講師謝礼を初め、コーディネーター委託料等を計上いたしました。

3項戸籍住民基本台帳費、1目戸籍住民基本台帳費においては、個人番号カード交付に係る地方公共団体情報システム交付金を計上いたしました。

4項選挙費においては、1目選挙管理委員会費において、選挙権18歳化に伴い、必要な修正を実施するための選挙人名簿システム改修委託料を計上いたしました。

また、3目愛知県議会議員一般選挙費及び4目美浜町長町議一般選挙費並びに5目美浜町農業委員会委員一般選挙費においては、選挙の執行に伴う執行残をそれぞれ減額計上しております。

次に、3款民生費、1項社会福祉費では、2目老人福祉費において、介護保険特別会計繰出金を減額計上するとともに、地方創生加速化交付金を活用したコミュニティハウス事業に係る費用を計上いたしました。

4目福祉医療費においては、実績に基づき未熟児養育医療給付金の返還に係る費用を計上いたしました。

6目国民健康保険費においては、実績に基づき保険基盤安定繰出金及び財政安定化支援事業繰出金を計上いたしました。

次に、4款衛生費、1項保健衛生費では、1目保健衛生総務費において、健康診査事業及び予防接種事業における実績に基づき減額計上をいたしました。

3目保健対策費においても、妊婦乳児の健康診査に係る負担金を実績に基づき減額計上しております。

4目環境衛生費においては、合併処理浄化槽の設置に係る補助金を実績に基づき減額計上いたしました。

2項清掃費においては、指定ごみ袋に係る入札残に係る減額を計上しております。

3項知多南部衛生組合分担金では、ごみ処理施設及びし尿処理施設における燃料費の減少等に伴い、分担金を減額計上いたしました。

4項知多南部広域環境組合分担金では、実績に基づき減額計上をしております。

次に、6款農業水産費、1項農業費では、3目農業振興費において、経営体育成支援事業及び新規就農総合支援事業に係る補助金を実績に基づき減額計上するとともに、地方創生加速化交付金を活用した地域資源活用事業に係る費用を計上いたしました。

5目農地費においては、農地事務における繰出金として給与改定に係る人件費の増加分を計上するとともに、多面的機能支払委託金においては、制度改正に伴い減額計上しております。

3項水産業費では、2目水産業振興費において、地方創生加速化交付金を活用した産業活性化推進事業に係る費用を計上いたしました。

また、3目漁港管理費においては、実績に基づき委託料を減額計上しております。

次に、7款商工費、1項商工費、3目観光費においては、地方創生加速化交付金を活用した観光総務事務事業に係る費用を計上いたしました。

次に、8款土木費、2項道路橋梁費では、3目道路新設改良費において、土地取得会計で支出した道路用地の購入費を計上いたしました。

5項都市計画費、1目都市計画総務費においては、民間木造住宅耐震改修に係る補助金を実績に基づき減額計上いたしました。

5目公園管理費においては、交流拠点グランド整備について事業の精査を実施することに伴い、本年度の事業を実施しない部分が発生したため、減額計上をいたしました。

6項住宅費、1目住宅管理費においては、町営住宅施設整備事業について事業内容の精査に伴い、減額計上しております。

次に、9款消防費、1項消防費では、1目常備消防費においては、実績により分担金の減額が見込まれるため、当該費用について減額計上いたしました。

次に、10款3項中学校費、1目学校管理費においては、学校施設環境改善交付金を活用し、体育館天井落下防止対策事業に係る費用を計上いたしました。

以上、歳出について御説明いたしました。このうち平成28年度に繰り越すものについては、第2表繰越明許費を御参照くださいますようお願いをいたします。

次に、歳入予算の主な内容について御説明をいたします。

まず、10款地方交付税において、国からの交付決定に基づき所要額を計上いたしました。

次に、14款国庫支出金、1項国庫負担金、1目民生費国庫負担金においては、国からの交付決定に基づき、保険基盤安定負担金の所要額を計上いたしました。

2項国庫補助金、1目総務費国庫補助金において、個人番号カード交付事業費補助金及びひと・まち・しごと創生交付金として、地方創生加速化交付金をそれぞれ増額計上いたしました。

同じく国庫補助金、3目衛生費国庫補助金において、合併処理浄化槽設置補助に係る循環型社会形成推進交付金を設置実績等に基づき減額計上いたしました。

4目土木費国庫補助金、2節都市計画費補助金において、木造住宅耐震改修の実績等により社会資本整備総合交付金を及び総合公園の交流拠点グランド整備に係る計画の精査に伴い公園整備費補助金を、並びに3節住宅費補助金においても、町営住宅施設整備事業の精査により社会資本整備総合交付金をそれぞれ減額計上いたしてお

ります。

5目教育費国庫補助金、3節中学校費補助金においては、中学校体育館の天井落下防止対策事業に係る学校施設環境改善交付金を計上いたしました。

15款県支出金、1項県負担金、1目民生費県負担金において、交付決定に基づき保険基盤安定負担金の増額を計上いたしました。

2項県補助金、1目総務費県補助金、2節選挙費補助金において、選挙権の年齢変更に伴う選挙人名簿システム改修費補助金を計上いたしました。

3目衛生費県補助金、1節保健衛生費補助金においては、合併処理浄化槽設置補助に係る循環型社会形成推進交付金を設置実績等に基づき減額計上するとともに、新たに補助金交付対象となった風疹ワクチン接種事業補助金を計上いたしております。

5目農林水産業費県補助金、1節農業費補助金において、台風被害復旧工事等に対する土地改良事業補助金を計上する一方、実績等に基づき新規就農総合支援事業補助金及び経営体育成支援事業補助金をそれぞれ減額計上いたしております。

6目商工費県補助金、1節商工費補助金において、国庫による補助決定を受けて地域経済活性化事業補助金を減額計上いたしました。

7目土木費県補助金、1節都市計画費補助金において、木造住宅耐震改修等の実績等により、民間木造住宅耐震診断費補助金及び民間木造住宅耐震改修費補助金をそれぞれ減額計上いたしました。

3項委託金、1目総務費委託金、3節選挙費委託金において、愛知県議会議員選挙執行委託金を実績に基づき所要額を減額計上いたしました。

また、18款繰入金、2項基金繰入金、1目財政調整基金繰入金においては、本補正による剰余金が発生したことにより、基金からの繰入額を減額計上いたしました。

20款諸収入、4項雑入、3目雑入において、がん検診料及び30代検診等に係る検診料をそれぞれ実績等に基づき減額計上するとともに、後期高齢者医療費療養給付費負担金過年度精算金を増額計上いたしました。

21款町債、1項町債、1目土木債、2節都市計画債において、総合公園の交流拠点グラウンド整備に係る計画の精査に伴い、公園整備事業債を減額計上するとともに、3節住宅債においても、町営住宅施設整備事業の精査により、町営住宅整備事業債を減額計上いたしております。

一方、同じく町債、4目教育債、2節中学校債においては、中学校体育館の天井落下防止対策事業に係る校舎等大規模改修事業債を増額計上いたしました。

次に、議案第23号、平成27年度美浜町国民健康保険特別会計補正予算（第1号）でございますが、歳入歳出それぞれ2,579万6,000円を増額し、補正後の予算総額を27億6,829万4,000円とするものでございます。

歳出については、3款後期高齢者支援金等において支援金額確定に伴う不足分を計上し、9款基金積立金においては、財政調整基金より発生する預金利子と同額を積み立てるため、不足分を計上いたしました。

また、10款諸支出金においては、平成26年度の療養給付費等負担金の精算に伴う国庫支出金等過年度返還金を計上いたしました。

歳入については、1款国民健康保険税において、退職被保険者の減少に伴い国民健康保険税の減を計上し、7款共同事業交付金においては、保険財政共同安定化事業交付金額確定に伴い減を計上いたしました。

8款財産収入においては、財政調整基金利子を追加計上いたしました。

9款繰入金においては、保険基盤安定繰入金と財政安定化支援事業繰入金を追加計上いたしました。

10款繰越金においては、前年度繰越金の確定による計上でございます。

次に、議案第24号、平成27年度美浜町介護保険特別会計補正予算（第2号）についてでございますが、歳入歳出それぞれ83万8,000円を減額し、補正後の歳入歳出それぞれの予算総額を17億7,286万6,000円とするものでございます。

歳出については、地域支援事業費を減額するものでございます。

歳入については、国庫支出金において、地域支援事業費の減による交付金の減額分と介護保険法改正対応のための事務費に対する補助金の増額分をそれぞれ計上し、支払基金交付金及び県支出金においては、地域支援事業費の減額に伴い、それぞれの負担割合に応じて減額計上いたしました。

一般会計繰入金においては、負担金の減額と国庫補助金の対象となった事務費分を減額計上いたしました。

次に、議案第25号、平成27年度美浜町土地取得特別会計補正予算（第2号）についてでございますが、歳入歳出それぞれ2,305万8,000円を増額し、補正後の予算総額を8,611万6,000円とするものでございます。

歳入歳出の内容でございますが、基金運用収入の増額、一般会計への売り払いによる土地売り払い収入及び土地開発基金繰出金、償還金を計上いたしました。

次に、議案第26号、平成27年度美浜町農業集落家庭排水処理施設特別会計補正予算（第2号）についてでございますが、歳入歳出それぞれ6万7,000円を増額し、補正後の予算総額を4,975万1,000円とするものでございます。

内容でございますが、歳出においては、人事院勧告に基づいた給与改定に伴う人件費の所要額を増額計上し、歳入においては、一般会計繰入金及び水道会計負担金の増額をそれぞれ計上いたしました。

次に、議案第27号、平成27年度美浜町水道事業会計補正予算（第2号）についてでございますが、収益的支出におきまして7万7,000円を増額するものでございます。資本的支出におきましても、4,000円を増額するものでございます。

内容でございますが、人事院勧告に基づいた給与改定に伴い、人件費の所要額の増を計上いたしました。これにより補正後の収益的支出は5億2,210万2,000円となり、資本的支出は1億9,217万7,000円となります。

次に、議案第28号、平成28年度美浜町一般会計補正予算についてでございますが、第1条は、予算総額を77億3,300万円、前年度当初予算に対し6億8,800万円、率にして9.8%の増とするものでございます。

第2条は、道路整備事業債初め3事業債において、計5億200万円の起債を予定するものでございます。

第3条は、一時借入金において、借入れ限度額を前年度と同額の2億円と定めるものでございます。

第4条は、歳出予算における款内流用ができる経費として、給料、職員手当及び共済費を定めるものでございます。

次に、歳出予算の主な内容について款別に御説明いたします。

1款議会費では、議会運営に要する経費を計上いたしました。

2款総務費では、総務管理、徴税、戸籍住民基本台帳、選挙、統計及び監査に要する経費を計上いたしました。このうち財政管理費においては、ふるさと納税寄附金制度について、自主財源の確保、また町のPRのため、より魅力ある地域特産品開発及び普及に取り組むための経費を計上いたしました。

財産管理費においては、公共施設等の全体の状況を把握し、公共施設等の最適な配置を実現するため、公共施設等総合管理計画の策定に係る経費を計上いたしました。

また、昨年度から準備を進めてまいりました住民税、固定資産税、軽自動車税及び国民健康保険税の4税について、本年度よりコンビニエンスストアでの収納を可能にするための経費を計上いたしました。

3款民生費では、社会福祉事業委託、敬老事業、障害者福祉サービス事業、障害者・子ども母子家庭医療事業のほか、国民健康保険・後期高齢者・介護保険など、各特別会計に対する繰り出し事業に係る経費を計上いたしました。

また、昨年に引き続き、臨時福祉給付金に係る経費を計上しております。

なお、放課後児童クラブの運営、整備については、河和児童クラブの利用児童の増加が見込まれることから、運営に係る費用を新たに計上しております。

また、町内の私立幼稚園が就学前の子どもに幼児教育、保育を提供する施設である認定こども園の整備に係る補助金につきましても、新規に計上いたしました。

4款衛生費では、保健衛生、清掃、知多南部衛生組合・知多南部広域環境組合に係る経費を計上いたしました。主な事業は、各種健診、予防接種事業、母子保健事業、健康推進事業及び住宅太陽光発電システム設置補助などの環境対策事業並びに分別収集及びごみ減量化などの清掃事業でございます。

なお、これまで行ってまいりました知多厚生病院への施設整備事業に対する補助に加え、地域医療の充実と救急医療の確保を図るため、病院運営費に対する補助金を新たに計上いたしました。

また、合併処理浄化槽普及促進整備事業につきましては、これまでの専用住宅に対しての補助に加え、商店・事業所に対しても補助の対象を拡大し、生活環境保全に努めてまいります。

5款労働費では、勤労者住宅資金融資制度預託金及び知多地区勤労者福祉サービスセンター負担金などの労働諸費を計上いたしました。

6款農林水産業費では、農業、林業、水産業の育成及び振興等に係る経費を計上いたしました。主な事業は、農業委員会の運営、愛知用水2期事業の償還金に対する負担金、各種農畜産水産団体への補助、農道・水路・ため池などの農業用施設の維持補修、土地改良、農業集落排水特別会計への繰出金、多面的機能支払事業などがございます。新規事業として、地域最大規模のモデル的養豚経営体を確立し、ブランド肉の生産・販売拡大を目指す畜産クラスター事業補助に係る経費を計上いたしました。

ほかに、海苔養殖漁場の環境改善を図る漁場改良事業及び地域ブランド商品の調査研究開発等に取り組む産業活性化推進への補助を新たに計上いたしました。

○議長（森川元晴君）

すみません、ここで議長よりお願いを申し上げます。

12時を回ってしまいましたが、本日の日程は終了させたいと思いますので、このまま続けさせていただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

町長、よろしく申し上げます。

○町長（神谷信行君）

では、続けさせていただきます。

7款商工費では、商工振興、観光及び消費者行政に要する経費を計上いたしました。新たに創業支援信用保証料補助事業に係る経費を計上しております。

また、町内での消費を喚起し、地域経済活性化を推進するため、商工会のプレミアム商品券発行に対する補助に係る経費を昨年に引き続き計上いたしました。

8款土木費では、道路・河川・排水路の維持修繕事業のほか、道路改良・舗装工事、排水路整備事業などを実施するための経費を計上いたしました。新たに既成市街地の整備を推進するための現状把握や課題等の整備を行い、地区の骨格となる道路や公園・広場等の整備方針を検討するための調査委託料を計上しております。

また、町内の空き家等の実態調査を行い、データベースを整備し、危険空き家等に対する措置や空き家等の活用を促進するための業務委託料を新たに計上いたしました。

なお、奥田駅東地区を交流拠点として、日本福祉大学と連携できる土地利用を検討するための調査委託料を予算計上したほか、老朽化が進んでおります町営住宅の建てかえに要する経費を平成27年度からの継続事業として計上しております。

9款消防費では、知多南部消防組合の運営に係る分担金、消防団の運営及び消防施設整備の充実に要する経費を計上しております。新たに布土権太地区の防火体制を強化するため、防火水槽を設置するための経費を計上いたしました。

10款教育費では、小中学校を初め公民館、図書館、町民グラウンド及び給食センターなどの運営並びに維持補修に要する経費のほか、社会教育、文化財保護事業に要する経費を計上いたしました。そのうち小学校の英語教育の必修化に伴うモデル事業として、布土小学校の全学年で英語教育を実施するための経費を新規に計上しております。

また、県の木の香る学校づくり事業交付金を活用し、県産木材を使用した机及び椅子などを購入する経費を昨年に引き続き計上いたしました。

12款公債費では、町債の償還元金、利子及び一時借入金の利子に充てるための経費を計上いたしました。

次に、歳入予算について御説明をいたします。

まず、1款町税では、昨年度は過去の推移等からかたく見積もりましたが、本年度は決算の状況等を踏まえ、対前年3.0%増の30億1,218万3,000円を計上いたしました。

地方譲与税及び各種交付金については、前年度までの収入実績、景気の動向などを勘案して計上しております。具体的に、2款地方譲与税、8款自動車取得税交付金については前年同額、3款利子割交付金、5款株式等譲渡所得割交付金については減額を、4款配当割交付金、6款地方消費税交付金、7款ゴルフ場利用税交付金、9款地方特例交付金、10款地方交付税、11款交通安全対策特別交付金については、増額として計上いたしました。

地方交付税において、昨年度は特別加算の廃止並びに地方財政計画の見直しなどを考慮し、かたく見積もりましたが、本年度は昨年度の実績等を踏まえ、対前年比15.4%増の11億5,400万円を計上いたしました。

12款分担金及び負担金が増額となったのは、平成28年度愛知海区漁業調整委員会委員一般選挙に係る経費を新たに計上したものでございます。

13款使用料及び手数料が減額となった主な要因は、町営住宅使用料の減によるものでございます。

14款国庫支出金については、社会保障・税番号制度システム整備、また、総合公園グラウンド周辺の公園整備に係る補助が減額となる一方で、認定こども園等施設整備事業、臨時福祉給付金及び町営住宅整備事業に係る補助金が大幅に増額となったことにより、全体として増となっております。

15款県支出金は、畜産クラスター事業補助金を新たに計上したことにより、大幅な増となっております。

16款財産収入では、基金利子及び株配当金の減を計上しております。

17款寄附金の増については、ふるさと納税寄附金制度の見直しにより、より多くの方々からの寄附金を見込み、増額計上いたしました。

18款繰入金では、財政調整基金からの繰り入れが減となっておりますが、新年度予算の執行においても精査を重ね、繰入額の減額を実現できるよう努力してまいります。

19款繰越金につきましては、同額を計上いたしました。

20款諸収入では、放課後児童クラブ利用料の増額を見込んだ一方、児童・生徒数の減により学校給食費の収入

減、また、勤労者住宅融資資金貸付金元利収入の大幅な減により、前年比で減を計上いたしております。

21款町債は、道路整備事業、また、町営住宅整備事業等に係る経費について、借入れをすることによるものでございます。

以上が歳入の主な内容でございます。

町政を取り巻く環境は、人口減少、地価の下落等、依然として大変厳しい状況に変わりはありませんが、身の丈に合った行政に取り組み、「明るく・健康で・笑顔のたえないまち美浜」を目指し、まちづくりを推進してまいりたいと考えております。

議会を初めとする住民の皆様の御理解、御協力を心よりお願い申し上げ、平成28年度一般会計予算の概要説明といたします。

次に、議案第29号、平成28年度美浜町国民健康保険特別会計予算についてでございますが、予算総額は歳入歳出それぞれ27億4,047万8,000円でございます。その主な内容でございますが、歳出におきまして、2款保険給付費16億3,028万4,000円、3款後期高齢者支援金等3億3,672万円、6款介護納付金1億3,653万7,000円、7款共同事業拠出金5億8,614万4,000円、8款保健事業費1,895万3,000円を計上いたしました。

歳入におきましては、1款国民健康保険税5億6,681万8,000円、3款国庫支出金4億6,248万1,000円、4款療養給付費等交付金1億21万4,000円、5款前期高齢者交付金5億7,044万円、6款県支出金1億3,811万9,000円、7款共同事業交付金6億2,114万7,000円、9款一般会計からの繰入金1億6,276万円、国民健康保険財政調整基金からの繰入金7,000万円、10款繰越金につきましては4,373万円を計上いたしました。

次に、議案第30号、平成28年度美浜町後期高齢者医療特別会計予算についてでございますが、予算総額は歳入歳出それぞれ2億9,332万3,000円でございます。その主な内容でございますが、歳出におきましては、2款後期高齢者医療広域連合納付金2億8,223万円、3款保健事業費759万2,000円を計上いたしました。

歳入におきましては、1款後期高齢者医療保険料2億2,033万5,000円、2款一般会計からの繰入金7,263万5,000円を計上いたしました。

次に、議案第31号、平成28年度美浜町介護保険特別会計予算についてでございますが、予算総額は歳入歳出それぞれ18億1,090万3,000円でございます。その主な内容は、歳出において、保険給付費で介護度1から5までに認定された方への介護サービス給付費15億7,722万6,000円、要支援1・2と認定された方への介護予防サービス給付費7,354万3,000円、地域支援事業費3,376万9,000円でございます。

歳入においては、第1号被保険者の介護保険料4億307万3,000円、国庫支出金3億5,190万1,000円、支払基金交付金4億9,013万3,000円、県支出金2億6,435万2,000円、一般会計からの繰入金2億5,550万円、介護給付費準備基金からの繰入金4,581万2,000円を計上いたしました。

次に、議案第32号、平成28年度美浜町土地取得特別会計予算についてでございますが、第1条予算総額は、歳入歳出それぞれ3,703万円でございます。

歳出の内容につきましては、土地取得費に3,600万円、土地開発基金費に17万8,000円、土地開発基金償還金に85万2,000円を計上し、公共用地取得の円滑化を図るものでございます。

歳入につきましては、財産運用収入17万5,000円、財産売り払い収入85万2,000円、土地開発基金借入金3,600万円、また預金利子、寄附金、繰越金にそれぞれ1,000円を計上いたしました。

次に、議案第33号、平成28年度美浜町農業集落家庭排水処理施設特別会計予算についてでございますが、歳入歳出予算総額は、それぞれ2,992万7,000円でございます。その主な内容は、歳出において、総務費で職員の人件費等832万3,000円、事業費につきまして、施設整備費で公共樹設置工事等40万円、施設維持管理費におきまして

は、施設の保守点検、清掃委託等に914万9,000円、公債費につきましては、償還元金、利子を合わせて1,175万5,000円を計上いたしました。

歳入においては、排水施設使用料250万円、一般会計繰入金2,310万7,000円、水道会計負担金414万7,000円を計上いたしました。

次に、議案第34号、平成28年度美浜町水道事業会計予算についてでございますが、業務量といたしまして、給水戸数8,693戸、年間総給水量289万440立方メートル、1日平均給水量7,919立方メートルでございます。3条の収益的収支でございますが、収入に5億2,301万5,000円、支出には5億680万9,000円をそれぞれ計上いたしました。

次に、4条の資本的収支は、収入3,157万3,000円、支出2億1,255万円となり、収支不足額1億8,097万7,000円については、過年度分損益勘定留保資金1億6,877万2,000円及び当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額1,220万5,000円で補填いたします。主な事業は、県費補助事業による緊急時給水拠点確保等事業、布土ポンプ場整備事業、配水管更新事業及び漏水管修繕事業でございます。

説明は以上でございますが、慎重審議の上、全議案お認めくださいますよう、よろしくお願いを申し上げます。

申しわけございません。先ほど議案第28号のところで、平成28年度美浜町一般会計補正予算と言ってしまったそうでございますが、一般会計予算でございますので、よろしくお願いいたします。

[降壇]

○議長（森川元晴君）

これをもって、提案理由の説明を終わります。

○議長（森川元晴君）

以上で本日の日程は終了しました。

お諮りします。議事の都合により、あす3月2日は休会としたいと思います。これに御異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○議長（森川元晴君）

御異議なしと認めます。よって、あす3月2日は休会とすることに決しました。

来る3月3日は午前9時から本会議を開き、町政に対する一般質問を行います。

本日はこれにて散会します。どうもお疲れさまでした。

[午後0時20分 散会]

平成28年3月3日（木曜日）

第1回美浜町議会定例会会議録（第2号）

平成28年 3 月 3 日（木曜日） 午前 9 時 00 分 開議

◎ 議事日程（第 2 号）

日程第 1 町政に対する一般質問

◎ 本日の会議に付した事件

〔議事日程と同じにつき省略〕

◎ 本日の出席議員（13名）

1 番	横 田 貴 次 君	2 番	荒 井 勝 彦 君
3 番	大 岩 靖 君	4 番	横 田 全 博 君
5 番	大 崎 卓 夫 君	6 番	丸 田 博 雅 君
7 番	山 本 辰 見 君	8 番	鈴 木 美 代 子 君
9 番	野 田 増 男 君	10 番	森 川 元 晴 君
12 番	石 田 秀 夫 君	13 番	杉 浦 剛 君
14 番	江 元 梅 彦 君		

◎ 説明のため出席した者の職、氏名（25名）

町 長	神 谷 信 行 君	副 町 長	石 川 達 男 君
教 育 長	山 本 敬 君	会 計 管 理 者	大 井 徳 男 君
総 務 部 長	本 多 孝 行 君	企 画 部 長	永 田 哲 弥 君
厚 生 部 長	岩 瀬 知 平 君	経 済 環 境 部 長	齋 藤 博 君
建 設 部 長	斎 藤 功 君	教 育 部 長	牧 守 君
総 務 課 長	沼 田 治 義 君	防 災 安 全 課 長	石 濱 克 彦 君
税 務 課 長	廣 澤 辰 雄 君	企 画 政 策 課 長	磯 貝 尚 美 君
秘 書 広 報 課 長	谷 川 徳 寿 君	住 民 課 長	茶 谷 佳 宏 君
福 祉 課 長	西 田 林 治 君	子 育 て 支 援 課 主 幹	久 綱 勇 君
健 康 推 進 課 長	坂 本 順 一 君	農 業 水 産 課 長	天 木 孝 利 君
環 境 保 全 課 長	岩 本 健 市 君	都 市 計 画 課 長	石 川 喜 次 君
水 道 課 長	鈴 木 晴 雄 君	生 涯 学 習 課 長	河 村 伸 吉 君
学 校 給 食 セ ン タ ー 所 長	森 川 幸 二 君		

◎ 職務のため出席した者の職、氏名（2名）

議 会 事 務 局 長	岩 本 修 自 君	主 幹 兼 議 会 係 長	夏 目 明 房 君
-------------	-----------	---------------	-----------

〔午前 9 時 00 分 開議〕

○議長（森川元晴君）

皆様、おはようございます。

きょう3月3日は桃の節句であります。女の子の健やかな成長を願い、ひな人形を飾り、ホームパーティーを開いていたころがとても懐かしく感じております。今でも、このようなよき日本の習慣や文化が若い世代の家庭にも続いているのかなということを感じる、けさ、そんなことを考えていました。

また、本日傍聴されます皆様、早朝よりお出かけいただき、まことにありがとうございます。

本定例会は、28年度予算を審議する大変重要な議会であります。また、本日3日と7日は、美浜町の将来を見据え、町民の代表として8名の議員が一般質問を行います。傍聴されます皆様、どうか忌憚のない御意見、御感想をお寄せいただき、ともに美浜町の将来を考えていきたいと考えておりますので、最後までおつき合い願うことをよろしくお願い申し上げます。

それでは、お手持ちの携帯電話は、マナーモードか電源をお切りいただくよう御協力をお願いいたします。

それでは、会議に入ります。

ただいまの出席議員は13名であります。定足数に達しておりますので、これより本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、あらかじめお手元に配付したとおりであります。

日程に入るに先立ち、諸般の報告をします。

本日の会議に、知多半島ケーブルネットワークのテレビカメラの持ち込みを許可しました。

以上で、議長の諸般の報告を終わります。

それでは、日程に入ります。

日程第1 町政に対する一般質問

○議長（森川元晴君）

日程第1、町政に対する一般質問を行います。

本定例会には8名の諸君より質問の通告をいただいております。本日は、そのうち5名の一般質問を行います。通告の順に質問を許可いたしますが、質問時間は答弁等全ての時間を含め50分以内とし、関連質問は認めないこととします。

初めに、議長からお願いを申し上げます。

美浜町議会会議規則において、「議員は、議会の品位を重んじなければならない。」とあります。議員の皆様においては、議会の品位や議員の名誉を傷つけるような発言はしないよう、品位と節度ある質問をお願いいたします。また、執行部の職員においても、誠実で簡明な答弁をされることを願います。

それでは、1番 横田貴次君の質問を許可します。横田貴次君は質問をしてください。

〔1番 横田貴次君 登席〕

○1番（横田貴次君）

皆さん、おはようございます。1番 横田貴次でございます。どうぞよろしく願いいたします。

新人、新人というお許しをいただけるのも1年だぞと、地元に戻るといつも叱咤激励をいただいております、この4月末をもちましてようやく1年ということでございまして、新人としての賞味期限も切れつつありますが、過日行われました女性議会を見習ってしっかりと一人の議員としてその職務を果たしていきたいというふうに思っておりますので、よろしく願いいたします。

本日は、平成28年度予算審議を控え、今後の美浜町のまちづくりの概要や、この美浜のまちづくりに大変大き

な要素となる地方創生交付金に関して、大きく3つの項目に分け、12の質問をさせていただきたいというふうに思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは、議長のお許しをいただきましたので、あらかじめ御提出をさせていただいております通告書に基づき質問を始めさせていただきます。

1つ目、美浜町長が公約として掲げる美浜の里構想事業についてでございます。

昨年4月に行われました統一地方選挙から早くも1年がたとうとしております。新体制で臨む初めての予算審議を迎える今、これからの美浜町のまちづくりの大きな柱となるであろう事業に関して、以下5つの質問をさせていただきたいと思います。

1つ目、美浜の里構想の事業の概要についてお聞かせ願いたいと思います。

2つ目、また、本事業の目的と期待される効果とは何かをお聞かせいただきたいと思います。

3つ目、本事業に関するインフラ整備の予定もあろうかと思いますが、そちらの概要についてお聞かせ願いたいと思います。

4つ目、本事業の予算概要と財源の見込みをどのように考えているのか。また、地方創生交付金を活用する予定はあるのかをお聞かせ願います。

5つ目、美浜町の平成28年度予算、本議会にも上程されておりますが、その中で、この美浜の里構想に関連する事業の提案があるのかお聞かせいただきたいと思います。

続きまして2項目め、「まち・ひと・しごと創生事業費」に関する交付金についてお伺いしたいと思います。

地方創生に関する平成28年度の概算要求も進んでいる中、国は地方創生の深化のため新型交付金を創設するなど地方創生予算への重点化を図り、要求・要望が進められてきました。美浜町の平成28年度予算審議に向け、「まち・ひと・しごと創生事業費」に関する交付金申請状況を1月の行政報告会にてお問い合わせいたしました。

平成26年度、27年度美浜町補正予算の関連より、地域消費喚起・生活支援型交付金として、6事業にわたり交付金2,864万円、地方創生先行型交付金として、これも6事業に対して交付金3,045万円、上乗せ交付金、タイプIIという交付金で3事業に対しまして1,000万円の交付金を獲得されているという御報告をいただきました。

以上15の事業に対しまして合計6,910万7,000円の交付金を、美浜町は今獲得しているとの報告をいただきました。

以上のことを鑑みまして、以下2つの質問をさせていただきたいというふうに思います。

1つ目です。1月の行政報告会時点で完了した事業が5事業、また実施中、継続中の事業が10事業あるというふうに伺いました。その10事業についてのその後の進捗状況はどのようになっておりますでしょうか。

2つ目、平成28年度に向け新たに交付金申請を行う予定はあるのか。また、美浜町の平成28年度予算案の中で、地方創生交付金に関係する事業の提案があるのかをお伺いしたいと思います。

本事業、多くの事業を申請いただきまして本当に多額の交付金を獲得されました。改めて執行部の皆様に心から敬意を表するわけでございます。今の現状の進捗状況をお聞かせいただければというふうに思います。

そして3つ目、美浜町のまち・ひと・しごと創生本部についてお伺いをしたいと思います。

平成27年10月に発表された、「美浜版まち・ひと・しごと創生総合戦略」と人口ビジョンの策定のため、平成26年12月に設置されました美浜町まち・ひと・しごと創生本部に関して、以下5つの質問をいたします。

1つ目です。総合戦略や人口ビジョンが策定されましたので、この創生本部としての担いは完了されておるかとは思いますが、今後、この創生本部と、創生本部内に設置された人口減少に立ち向かうためのプロジェクトチ

ーム、また第三者委員会の今後の役割はどのような形になるのかを教えてくださいたいと思います。

2つ目、設置された創生本部は地方創生交付金の申請に今後どのようなかわりを持っていくのかということをお聞かせいただきたいと思います。

3つ目、国では、地方創生加速化交付金など新しい交付金決定もなされています。今後、新たな交付金申請に関する提案、決定に至るまでのプロセスはどのような形で進められるのかをお聞かせいただきたいと思います。

4つ目、「美浜町まち・ひと・しごと総合戦略2015」の中でPDCAサイクルを確実にやっていくということでございます。総合戦略の着実な実行を行うために「美浜町まち・ひと・しごと総合戦略推進会議」なるものを設置するというふうにしていますが、この推進会議の構成員、また会議設置の進捗状況についてお聞かせいただきたいと思います。

最後になりますが、この推進会議にて毎年行われる重要業績評価指標及び各種施策の評価・点検を行った結果は、誰にどのような形で公表されるのかをお聞かせいただきたいと思います。

以上、大きく3つの項目に合わせまして12の質問をさせていただきました。執行部の皆様方からの御答弁をお願いしたいと思います。

以上をもちまして、壇上からの質問を終了させていただきます。よろしくお願いたします。

〔町長 神谷信行君 登壇〕

○町長（神谷信行君）

それでは、皆さん、おはようございます。

昨日からの皆さん方の体調、また職員のほうの体調を見ておりますと、きょうはみんなそろうことができるかなというふうにとちょっと不安に思っておりましたが、きょうは皆さん方全員おそろいいただきまして、まことにありがとうございます。

今回8人の皆様方から御質問をいただいております。どの質問に対しましても精いっぱいお答えさせていただきますと考えておりますので、よろしくお願いたします。

それでは、横田貴次議員の御質問にお答えをさせていただきます。

初めに、美浜の里構想事業についての御質問の1点目、美浜の里構想の事業の概要はについてでございますが、美浜の里構想につきましては、農・漁業者及び商業者の参画による官民一体型で美浜の魅力をアピールできるような6次産業による特産品加工場、直売所、貸農園、狩り園などの農業公園等大型複合施設を「町の観光拠点施設」として整備を進めるものでございます。

拠点のエリアとしましては、総合公園を中心とした、西は美浜緑苑入り口から南は日本福祉大学までとし、県道小鈴谷河和線北側についても視野に入れた範囲を想定しております。

また、本構想につきましては、交流人口をふやし、観光拠点を生み出すとともに、本町全域の資源や地域の特徴を生かして、子どもからお年寄りまでが健康で生き生きと活躍できる場もあわせて生み出していきたいと考えております。福祉の専門分野である日本福祉大学とも連携し、学校や学生の持つノウハウを生かした衣食住の提案や福祉のまちづくりへの取り組み、働き場所の提供につなげ、誰もが生涯活躍できるまちを目指していきたいと考えております。

次に、御質問の2点目、本事業の目的と期待される効果はにつきましては、人やモノ、農地を初め、地域資源をフルに活用した観光等拠点整備による経済の発展と雇用の促進を目的としており、地元農産物・海産物の消費拡大や地元商業者の販路拡大、産地の育成による第1次産業の振興と雇用の拡大、遊休農地の解消、就農者の支援という効果が期待できると考えております。

次に、御質問の3点目、本事業に関するインフラ整備の概要はについてでございますが、目的とするエリアにおきましては、上水道の安定した給水と防災対策を目的として、平成28年度に上野間配水池から総合公園までの連絡管を整備する配水管布設詳細設計の業務委託を予定しているところでございます。

今後、県道小鈴谷河和線沿線沿いに配水管が整備されることにより、企業や観光施設、店舗などの立地に適した条件ともなり、防災面と地域振興の両面に結びつくものと考えております。

次に、御質問の4点目、本事業の予算概要と財源の見込みは。また、地方創生交付金を活用する予定はあるのかについてでございますが、予算の概要につきましては、用地の買収、施設整備、インフラ整備、美浜の里運営等のための経費が挙げられます。

財源の見込みとして、施設整備にはなるべくコストのかからないよう、目的に見合う補助金制度等をしっかりと視野に入れて進めていきたいと考えており、また、周辺の観光施設とも連携を取り合い、相乗効果が発揮できるよう運営していきたいと考えております。

地方創生交付金の活用につきましては、本町の示す提案が美浜の里構想が目指すまちづくりと一致しており、交流人口の増加や雇用の創出など、今後の町の活性化と人口減少対策にもつながるため、国や県と連携を図り、情報収集に努め、積極的に活用していきたいと考えています。

次に、御質問の5点目、平成28年度予算（案）の中で関係する事業の提案はあるかについてでございますが、防災対策、上水道の安定給水の確保や産業の振興のため、配水管布設詳細業務の委託を実施いたします。

また、本年より立ち上げました検討委員会にて、関連法規の規制やほかの計画との整合性の検証など実施する方向性について確認や共有をし、具体的な実施計画を策定してまいります。

また、構想の中で展開が予定されるソフト事業につきましても、地方創生事業で実施予定である、地域資源を活用した6次産業の推進、農漁業体験ツーリズム、観光や体験事業等効果的な情報発信を目的としたシティプロモーション事業、雇用の創出等、美浜の里構想への足がかりとなると考えておりますので、成果を上げ、より充実するよう取り組んでまいります。

次に、「まち・ひと・しごと創生事業費」に関する交付金についての御質問の1点目、1月の行政報告会で完了5事業、実施中10事業と報告されたがその後の進捗状況はについてでございますが、地域の消費喚起に向け、地域の実情に応じた取り組みを国が支援する「地域消費喚起・生活支援型交付金」につきましては、6事業のうち、消費喚起プレミアム商品券発行事業、宿泊施設利用促進活性化事業と生活支援観光券交付事業の3事業が予定どおり完了しており、子育て世帯応援商品券交付事業、おむつ等育児用品助成事業と子育て支援お祝い事業の3事業につきましては、3月に完了する予定でございます。

また、地方版総合戦略の早期かつ有効な策定と実施を目的として国が支援する「地方創生先行型交付金」につきましては、6事業のうち地方版総合戦略の策定が完了しており、産業活性化のための野間海苔の佃煮開発や商工会のパンフレット作成、観光振興における「食と健康の館」整備、美浜町観光協会の独立と運営事業、また、子育て支援としてのファミリーサポートセンター事業の5事業については、3月に完了する見込みでございます。

そして、平成27年度9月補正にて交付されました上乗せ交付金（タイプⅡ）については、3事業のうち、インバウンド対策として、多言語パンフレットの作成が完了しており、シティプロモーション事業、放課後児童クラブの整備の2事業についても、3月に完了する見込みでございます。

次に、御質問の2点目、平成28年度、新たに交付金申請を行う予定はあるか、また、予算（案）の中で地方創生交付金に関する事業の提案はあるかについてでございますが、平成28年度に地方創生推進交付金として、「新型交付金」が予定されています。地域再生法に基づく交付金となりますが、本町のまちづくりに生かせるよう積

極的に申請を行っていきたいと考えております。

地方創生交付金に関する提案について、平成28年度予算案の中ではございませんが、このたび補正予算として計上し、平成27年度繰越明許として掲げています地方創生加速化交付金の申請の中で、28年度に実施する事業を提案しております。

地方創生加速化交付金の申請につきましては、現在、国において審査中でございますが、その内容は、地域の高齢者を初め、住民の皆様が地域で多世代と交流しながら健康で生き生きと活動的な生活ができる「生涯活躍のまち美浜ふくしモデル」の実現を目指すものであります。

具体的には、日本福祉大学と連携し、組織の立ち上げと計画の策定、交流の場の設置、高齢者買い物支援の調査と分析を行うとともに、健康づくりや生涯学びの場の設置などを行うものでございます。

また、地域の活性化を目指して愛知県と官民連携でツメタ貝の商品化を図る提案など、本町の特産品を都市部の商店や飲食店への販路拡大を図るとともに、健康づくりのためのメニュー開発に努め、名産品としてブランド化も図ってまいります。

次に、美浜町まち・ひと・しごと創生本部についての御質問の1点目、今後の創生本部、プロジェクトチーム及び第三者委員会の役割はについてでございますが、2点目、3点目、4点目の御質問と関連がございますのであわせてお答えをさせていただきます。

今後につきましては、総合戦略で掲げました目標の実現に向け、プロジェクトチームを含む創生本部による事業の実施と内部評価を行い、外部有識者による第三者委員会にて評価、点検をしていただき、計画、実施、評価、改善のPDCAサイクルを行い、総合戦略の着実な実施を行っていきたいと考えております。

今後の地方創生交付金の申請につきましてもこの体制の中で十分な協議、検討を行い、創生本部にて最終決定をしていく予定でございます。

なお、「美浜町まち・ひと・しごとの総合戦略推進会議」の進捗状況といたしまして、多様な主体である産業界、大学、金融、労働業界、マスコミ等の業界をこれまでの第三者委員会に加えて、幅広い見識で点検、評価をしていく予定をしております。

また、会議の開催につきましては、事業が次年度の予算に的確に反映できるよう、毎年、実施計画策定時に開催したいと考えております。

次に、御質問の5点目、推進会議での重要業績評価指標及び各種施策の評価・点検結果はどのような手法で公表されるのかについてでございますが、「美浜町まち・ひと・しごとの総合戦略推進会議」での検証結果を踏まえ、議員の皆様へ報告するとともに、広報、ホームページ等を利用して公表いたしますのでよろしくお願いいたします。

以上でございます。

[降壇]

○議長（森川元晴君）

再質問はありますか。

○1番（横田貴次君）

ありがとうございました。順次、再質問をさせていただければというふうに思います。

まず、美浜の里構想事業の概要につきまして御説明をいただきました。

耳で聞く分にはすんなりと入ってくるんですけども、具体的なイメージをしようと思うと、大変難しいのかな。私、子どもが小さいものですから、時があるとよく他町へ遊びにお出かけをするんですけども、最近、若

い世代は、金曜日の夜、車を走らせて、渋滞などを避けて道の駅を目指して夜中に着いて、朝まで車中泊をして、土曜日、朝から精いっぱい遊んで、夕方何とか帰るといような遊びのパターンが多いのかなというふうに思っています。その道の駅をイメージさせていただいて、いわゆる全国にある道の駅のような大型施設をイメージし、その中では、美浜の特産品の特売、また温泉もあつたり飲食も可能などところがあるといような形でイメージできるのかな。また付随して、美浜の誇るミカンやイチゴ、またキウイフルーツなどの狩り園なども併設されて、それだけではなくて、一時的な観光客を相手にするだけではなくて、農業公園や貸し農園ということも御答弁の中でいただきましたので、定期的にこの美浜の地に訪れていただけるような方への投げかけもしていく総合レジャー施設といようなイメージをしておるのですが、大体こんなようなイメージで頭の中に妄想といようなイメージをしてよろしいものでしょうか。

○町長（神谷信行君）

今、横田議員からの大体の構想の中でのイメージの関係でございますけれども、確かに、私もそういった総合的な構想として今挙げさせていただいております、道の駅、これも里構想の中にいろいろな補助メニューも、この道の駅として取り扱う中で、それを踏まえることによつていろいろな補助事業のメニューもございます。そうした中で、一番財政的な面も、先ほどちょっと説明の中にも入りましたが、そういったいろいろなメニューを模索しながら、そしてそれに該当するよなものも踏まえて、やはり町は財政的な、財源的な面を全て見るといことはとてもできませんので、そういったいろいろな補助事業、それからまた地域の皆様方にも参画していただいて、そうした中での事業実施を計画していくといいいのかなというふうに考えておりますし、大体今、横田議員さんがそういったイメージを持っていた中で、大まかには私もいいのではないのかなというふうに思っておりますので、またこれもこういった構想を順次作成をしながら、また皆様方にこういった構想ですよといことで示していける段階が出てきましたら、また示させていただきたいというふうに考えておりますので、よろしくお願ひしたいと思います。

○1番（横田貴次君）

ありがとうございました。

4歳の娘も、本当に道の駅に行きますとうきうきして、特にお風呂なんかに入りますと、地元のお年寄りの皆さんもよく利用されているといことで、お声がけをいただいているいろいろな話をしたり、本当に私自身、道の駅的なものが大好きでございますので、また今後の進捗を楽しみにさせていただきたいなというふうに思っております。

また、ほかに御答弁の中に、子どもからお年寄りまでが健康で生き生きと活躍できる場ということをお伺ひいたしました。私自身、議員になる際、選挙の公約に、子どもからお年寄りが光輝くまち美浜にしますといことで選挙公約に掲げさせていただいて、大変親近感がわく文言だなと思つて見ております。この美浜の里構想の事業について、お年寄りから子どもの皆さんがどのようなかわりを持たれるのかといイメージを教えてくださいなと思ひますが。

○町長（神谷信行君）

私も、この計画を上げさせていただくときに、子どもからお年寄りまでということを考えさせていただいております。といことは、この構想の中で、1つは、やはりこういった広大な農地の、その中で狩り園だとかいろいろな面で、または貸し農園だとかいろいろな形で、やはり土地を持ってみえます地権者の皆様、そしてまたお年寄りの皆様、そちらで耕作だとか、それからまたそういった体験農園でも、皆様方のそういった形でそういったとり方だとかいろいろなことをそちらで直接携わっていただいたり、それからまた観光農園等でも、そう

いったところでそういったお年寄りの経験やいろいろなものを生かしていただいて、そちらで来られたお客様と対応していただいたりということで、そういったことの一つは、お客様と接することによってお年寄りの方たちも、またそういう自分たちがこういった生きがいを持っていていただけるのかなど。

それともう一つは、やはり地域包括ケアというのは今、福祉のほうの面で、そちらの形で今言われておる時代でございますので、そういった中でも、やはり地域とお年寄りと医療と、それからそういった介護関係が一体的な形でその里構想の中で皆さんがお仕事をしながら、元気なお年寄りの人たちがお仕事をしながら、また、そういった地域の人たちとも触れ合いながらそういった環境づくりをしていく。1つは、福祉のまちということで、先ほどもちょっとお話に出たように、そういった形で元気なお年寄りをどんどん美浜のほうへも来ていただいて、そういったことで地域の農業やいろいろな今の里構想に携わっていただこうかなということも考えております。

そういった面と、将来的な、こちらにまだまだ計画はあれですが、子どもさんなどが、今の時点ではなかなかこういった少子化、私が少子化を、何とか人口増加に持っていきたいわけですがけれども、こういった、やむを得ず少子化になってきた場合、そういった中に今保育園が6個保育園があるわけですがけれども、そういった中で保育園を1つにまとめたりだとか、そういったことが生じてきますと、そうした中で子どもさんとお年寄りが一緒に昔の経験や体験やいろいろなことで、お年寄りと子どもさんと一緒に触れ合いながら、そういった遊べるような、また学習ができるような、そういった場も持ってこられるといいのかなというふうに考えておりますので、これはまだまだそういった面では先の話になろうかと思いますが、そういった場の中での交流もやはり活性化させていければなというふうに考えております。

以上でございます。

○1番（横田貴次君）

ありがとうございます。お年寄りの方は本当に道の駅に行きますと元気にされているので、私も岐阜のほうによく出かけるんですけども、元気なお年寄りの皆さん、楽しそうでいいなというようなイメージを持っておりますので、ぜひ今後も温めてお進めいただきたいなというふうに思います。

また、子どもに関しては、大変期待感のある一面をかいま見た気持ちでありますけど、この場においてはやはり御答弁いただける限度もあろうかというふうに思いますので、子どもも豊かに育つ土壌の一端ということで理解をさせていただきたいと思います。

もう一点、美浜の里構想概要の中で日本福祉大学、やはり美浜のまちづくりには、町の宝であります大学を生かしていかなければならないというふうに思います。

御答弁の中で、学校や学生のノウハウを生かした衣食住の提案や福祉のまちづくりへの取り組みというような御答弁がございました。こちらについての内容のイメージのほうをお聞かせいただきたいと思います。

○企画部長（永田哲弥君）

では、私のほうから御答弁をさせていただきます。

衣食住の提案ということで、先ほども町長から申し上げましたように、当然、元気で過ごしていただかなければならないということが前提になります。そうしますと、健康が一番だと思います。その中では衣食住、特に食については非常にデリケートだと思いますので、そういう部分では、日本福祉大学健康福祉学科というのがございます。そこの教授、また学生等のノウハウをいただきまして、栄養学と言うとちょっとあれですが、そういうノウハウをいただいて健康で過ごしていただこうというようなことで日本福祉大学との連携を持っていこうというふうに思っております。

それと、29年からスポーツ学部のほうも新設されるということで、スポーツと健康、それと住民の健康、非常

にマッチングした部分がございますので、そういうところで連携をとっていききたいなというふうに思っております。

以上でございます。

○1番（横田貴次君）

ありがとうございます。大変理解できました。先日も、異業種交流会の折に、日本福祉大学の学長様とお話をする機会がありまして、全国から有名なアスリートになられるような方もこの美浜にお越しいただくということで、単なる生活をするのではなく、日常生活、朝何時に起きて、朝食はどんなものを食べてということで、毎日の生活管理が大変重要になってくるであろうというお話をいただきました。この美浜は、朝早くから学生、軽いジョギングなど2時間ぐらいするについても、大変走るコースも自然に恵まれていて、胎教にもいいということで伺っておりますので、そういった要素を取り入れてこのまちづくりに生かしていただくということで、また一段と楽しみがわきましたので、ありがとうございます。

続きまして、質問の2つ目で伺いました目的と期待される効果につきましては、町長の御答弁で、目的は経済の発展、雇用の促進、期待される効果として第1次産業の振興、雇用の拡大、遊休農地の解消、就農者の支援ということで理解ができました。

続いては、3番について再質問させていただきたいと思います。

インフラ整備の概要につきまして、主に給水関係の御答弁をいただきました。この美浜町で今、年間を通じて開催をされております海遊祭とかマンシングウェアレディースの大会なんかがありますと、もう町内の道路事情は全てパンクしてしまうというような状況を鑑みると、やはりこれだけの施設を構えようとするならば、人の流れ、車の流れもあわせてやはりアレンジしていかなきゃいけないなというふうに思いますが、道路関係に関するインフラの予定等もしあればお聞かせいただきたいと思うんですが、いかがでしょうか。

○町長（神谷信行君）

ただいまの横田議員のインフラ整備の関係ですが、今の計画の中では、先ほど言いましたように、災害に対する、災害とあわせてのこういった上水関係の整備、それと、これは絵が描けてまいりましたら、計画に基づく中での配水整備と、あと道路ですね、今、横田議員さんが言っていたように、交通渋滞でというぐらいの、それだけ多くの方がお見えになっていただけるのを非常に期待しておりますけれども、そうした中で、先ほど申し上げましたように、一応河和上野間、県道小鈴谷河和線のところから大学のほうに向けても一応予定をしております。そういった中で、道路整備も施設に合わせた、それとまた周りにいろいろな施設ができてくる中で、その施設に合わせた道路整備も当然進めていかざるを得ないんだろうなというふうに考えておりますので、またその辺の渋滞解消とかそういったことも踏まえながら計画をつくってまいりたいと考えておりますので、お願いしたいと思います。

○1番（横田貴次君）

ありがとうございます。そうですね、本当に道路については、今までよく美浜町のほうからも県や国に申請を出しても、なかなか進んでいないというのが正直私も感じているところでございまして、何かきっかけを持ったときに一気に畳み込むように美浜の血の循環がよくなるように道路整備についてもあわせて検討いただきたいというふうに強く望んでおります。

最近、サイクリングロードというのも知多半島全般にわたり取り組んでいるという大きな流れもございますので、そういった関係者からお話を聞くに、美浜にとってはものすごく自然に恵まれたいいサイクリングロードができるであろうというところがございますので、車の道、また自転車にも豊かに活用していただけるような、そ

んな道路整備に対しても一つの戦略を持って当たっていただきたいというふうに思っておりますので、よろしくお願いいたします。

予算概要と財源の見込みについてお伺いいたしましたけれども、この後、地方創生に関する御質問もさせていただきますのはそのとおりでございまして、やはりこの構想と地方創生を両輪の輪としてやっていくことだろうというふうに思いますので、有効な助成金、交付金を獲得できるように強く願っているところでございます。

また、平成28年度の予算に関する事業提案につきましても、先ほど、配水管布設に関する詳細業務の委託の予算計上をしているというところでございます。その中で、検討委員会を立ち上げているということでお伺いをしたんですけども、この検討委員会に対する構成、運営に関して詳細をお聞かせいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

○企画部長（永田哲弥君）

では、私のほうからお願いいたします。

検討委員会の構成メンバーでございますけれども、現在、法令の関係部署の課長で検討委員会のほうをつくっております。今現在、1回実施をしております、その中では、町長の美浜の里構想の概要等の共有、それと関係法令のどういう規制があるかとか、どういう補助金があるかというようなことを今検討しておる最中でございます。

それで、将来というのか来年度というのか、28年度につきましては、もう少し若手の職員で、若手のノウハウを入れた里構想の検討をしていこうということで、プロジェクトチームプラス検討委員会というような形で、若い世代の案というのか構想、それと、それをチェックするような形で課長級で練っていただくというような形で進もうというふうに思っておりますので、お願いいたします。

○1番（横田貴次君）

ありがとうございます。ぜひ、若い方のニュアンスも入れていただいて進めていただきたいというふうに思います。

ほかにもたくさん聞きたいことがあったんですけど、珍しくあと残りが7分ということでございますが、はしょって、これだけは聞きたいということを1点、「まち・ひと・しごと創生事業費」に関する交付金についてということでお伺いをいたしました。大変多くの事業、また多くの交付金を獲得していただいた執行部の皆様方には、本当に心から敬意を表したいというふうに思います。

平成28年度に新たな申請があるかという御質問をさせていただきましたところ、交付金申請をされ、27年度補正予算として計上させていただいているということでございます。ツメタ貝の商品化につきましても、何度か試食をいただきまして、私自身も特産品化を心待ちにしておりますが、その中で、生涯活躍のまち美浜福祉モデルという事業の提案がなされておったと思うんですが、こちらの内容についてももう少し具体的に教えていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

○企画部長（永田哲弥君）

生涯活躍のまち福祉モデルということで、国が地方創生の加速化交付金でメインとしております福祉を通じての活性化をするという事業の内容でございます。

具体的には、1つは、地域資源を活用したプロジェクトということで、グリーンツー、ブルーツー等、美浜町がやっておるということで、その事業を活用して、また子どもたちにそういうようなのを紹介させていただいて交流人口をふやしていこうというような内容。

それと、コミュニティハウスの創設というのかプロジェクトがございまして、その中では、世代間の交流を必

要とされますので、お年寄りからお子様までが仲よく、お年寄りのノウハウを受けたり、子どもの元気さを受けたりということで、そういうようなコミュニティハウスを設置していく経費もございます。

それと、一番大きくは、地方創生加速化交付金の中で、将来どのようなことをやっていくかということの基本構想をつくりますので、その基本構想に要する経費、またそのコーディネーターとしてノウハウをいただける信号機のようないろいろなこういう方向ですよというような、そういうようなコーディネーターをつくる費用が入ってございます。

ちょっとわかりにくい町という形なんですけど、大きくは健康づくり、介護、それと若者の社会の協働というのか、若者とお年寄りの協働、それと生涯学習を含めた、その中でも、町長が申し上げた包括ケア、介護予防を含めた大きな組織というのか構想というのか、将来に向かってシニア世代、お子さんも元気で活躍できるような環境整備を進めていくというのが国が推進をしておりますCCRCという生涯活躍するまちというような形で、本町もその事業に乗って将来活気ある町にしていこうということで考えております。

以上です。

○1番（横田貴次君）

ありがとうございます。予算説明の中でも伺っておりまして、現在、布土保育所2階にコミュニティハウスの設置も予定されているということですが、こちらの事業なんですけれども、伺いましたところ、地方創生加速化交付金の交付の可否が現在審査中ということでした。これ、何%ぐらいの確率で可能な形となるのでしょうか。

○企画部長（永田哲弥君）

難しいところございまして、きのうときょう、東海市と半田がたしか加速化交付金の新聞が、きょうの朝も東海市が出ておったかと思えます。県内では知多市と武豊だけが出していないというような情報もちよっと入っていますが、ほかのところは提出しておるということですが、愛知県では40市町が出しているということで、非常に競争率の激しいということで、何とも申し上げにくいですが、感じとして、いろいろな御指導を国からいただいております。例えば、こういうふうにしたほうがいいんじゃないですかとかというような話もいただいておりますが、ぜひ合格するようというふうに思っておりますので、よろしく願います。

○1番（横田貴次君）

ありがとうございます。すみません、大変答えにくい質問をしてしまったと反省しています。

ただ、事業の内容を聞くと、本当に地域のお年寄りの皆さんが、イメージしますと、布土保育所に来る。布土保育所に通う子どもたちも、地域のお年寄りとのかわりも持てる。将来的にいうと、今本当に買い物に行けないお年寄りの方も多ということで、子どもたちと一緒に給食を食べるような姿も、地域に暮らす自分としては夢見るわけございまして、この事業が交付金が出なかったからやめになってしまうよということがすごく寂しいわけございまして、ぜひ交付金が出なくても何とか一般財源、苦勞して確保していただければ素晴らしい事業を推進していただきたいなというふうに思っておりますので、よろしく願います。

残り1分となりましたので、最後、まち・ひと・しごと創生本部につきましては、町長から御答弁いただきましたとおり理解をさせていただきます。ただ、情報の公開がホームページと広報ということになっておりますが、昨今、ホームページに掲載しても、果たしてどれだけ町民の皆さんに伝わっているかなということを見ると大変心配しております。この地方創生に関する事業の特番みたいな形で、町民の目に触れやすいような形での広報もお願いしていきたいなというふうに思います。

以上で一般質問のほうを閉じさせていただきます。ありがとうございました。

○議長（森川元晴君）

答弁のほうはよろしいですか。

○1番（横田貴次君）

もし、いただけるなら。

○企画部長（永田哲弥君）

ありがとうございました。加速化交付金のほうが合格しましたら、また頑張ってやっていきたいと思えます。

それで、公表の関係につきましては、まさに伝達というのか情報を発信して住民がわかるというのが非常にあれですので、ホームページもしかり、広報もしかり、やはりキャッチフレーズが大事ですので、何かそういうようなことでわかりやすいような形で公表をさせていただきたいと思えますので、よろしく願いいたします。

○議長（森川元晴君）

以上をもって、横田貴次君の質問を終わります。

〔1番 横田貴次君 降席〕

○議長（森川元晴君）

次に、2番 荒井勝彦君の質問を許可します。荒井勝彦君は質問をしてください。

〔2番 荒井勝彦君 登席〕

○2番（荒井勝彦君）

職員の皆さんの中にも数名、インフルエンザでお休みの方がお見えになると伺いました。健康だけが取り柄の、肺の中もきれいな2番 荒井勝彦でございます。

それでは、ただいま議長のお許しをいただきましたので、あらかじめ提出させていただきました一般通告書に基づき、本日は2項の質問をさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

まず1つ目ですけれども、美浜町の公共施設における喫煙の状況についてでございます。

昨年9月の議会におきまして、私はこれと同様の質問をさせていただきました。残念ながら、このことについて美浜町の取り組みのおくれを痛感させられてしまいました。

健康増進法第25条における受動喫煙防止の概念では、「喫煙場所を施設の出入り口から極力離すなど、必要な措置を講ずるよう努めなくてはならない」、このように明示されております。再度指摘させていただきますけれども、例えば、例えばということは、これはほかにいっぱいありますけれども、例えば、美浜町総合公園体育館の玄関先に設置されている灰皿は、出入り口の直近に設けられてあります。ということは、この法律に明らかに違反していると言わざるを得ません。残念ながら、この法律は、現在、努力義務を課しております、罰則の規定はございません。しかし、本年1月25日、政府は、受動喫煙防止に向け、全面禁煙など具体的な対策をとらない国内の公共施設や飲食店に罰金等の罰則を科すよう定める新法の検討を始めた。これは検討を始めたということで、今からこうしていきましようということで、まだ決定ではございませんけれども、検討を始めたと翌日の中日新聞一面トップにこのように大きく報道されております。これは、御存じのように、来るべく2020年東京オリンピックを見据えて、その開催国の取り組みに倣ったものでございます。先進国の中でも喫煙を取り巻く諸問題に対し一番立ちおくれしていると言っても過言ではないこの日本が、オリンピックを契機に考えを改めようとしているところでございます。

その中でも、対策がおくれている愛知県、またその中でも一番おくれていると言わざるを得ない美浜町が罰金を科せられる前に現状を改善するお考えはございますでしょうか。前回の回答のように、たばこの煙にまいたような歯切れの悪い回答ではなくて、すっきり明快な回答を期待いたします。

それでは、2つ目の質問に移らせていただきます。ここからはソフトなお話でございますので、よろしく願います。

美浜町消防団団員支援についての質問をさせていただきます。

まず1つ目ですけれども、昨年12月3日の愛知県議会一般質問で、地元、森下利久県議は、大村愛知県知事に対し、団員の確保が課題となっている消防団への加入を促すため、県としての対策を問いました。これを受けて愛知県は、2016年度、新たに市町村が取り組む団員募集活動に補助金を出したり、民間事業者に対し、団員らへの優遇サービスを奨励したりするそうですけれども、美浜町はこれを受けてどのような計画を持っておみえでしょうか。

2つ目ですけれども、現在、美浜町消防団布土分団では、現役の団員の中に、大学生の「学生団員」、このような方が活躍していると伺いました。先日の町長との新成人との対話の席で、私初めて、その学生の方の町長との対話をしている中でその存在を知りました。

美浜町には、せっかく日本福祉大学がございますので、この大学の学生たちにも積極的に呼びかけて、消防団活動を通じて、第2のふるさとでもある美浜町を深く理解し、ともに支えていただけたらと思いますけれども、美浜町としてはどのようにお考えでしょうか。

以上で、壇上での質問を終わらせていただきます。前向きな御回答をお願いいたします。

〔町長 神谷信行君 登壇〕

○町長（神谷信行君）

それでは、私のほうから荒井勝彦議員の御質問にお答えいたします。

私からは、御質問の2点目、美浜町消防団団員支援についてをお答えし、御質問の1点目、美浜町の公共施設における喫煙状況については、教育部長より答弁を申し上げますのでよろしくお願いいたします。

先ほどの、初めに、美浜町消防団団員支援についての関係でございますが、昨日たまたまテレビを見ておりましたら、そちらのほうで大島ですね、30年前に三原山が爆発した、そこの中での消防団員が1万人の島民の方たちを誘導して避難をさせたということでテレビに取り上げられておりました。そうした中で、私もそのテレビを見ながら、つくづく本当に消防団、これは消防署だとか、そしてまた他の、たまたま大島の場合は自衛隊だとか海上保安庁だとかいろいろところにも協力要請をしておりましたけれども、本当に島民の方々がスムーズに避難できたのは消防団員の活躍のおかげということでやっております、やはりこの消防団、美浜町がもし何かあったときにも、この消防団が、皆さんが活躍していただいて、この美浜町のまちをそういった形でいろいろな形で救っていただけるものだとつくづくそのテレビを見ながら痛感しております。消防団の必要性を見させていただきまして、今回、荒井勝彦議員が、この消防団の支援についてのお話の中でしっかりとした考え方を、この消防団の勧誘についても、入っていただくやつにつきましてもしっかりとした考え方で検討していかざるを得ないというふうに思っておりますので、よろしくお願いいたします。

まず、そうした中で、先ほどされました御質問の1点目の、愛知県は新たに団員募集活動に補助金を出したり、民間事業者に対し団員らへ優遇サービスを推奨するそうだが、町はどのような計画を持っているのかについてでございますが、まず愛知県の取り組みを平成28年1月21日の新聞記事を参考に申し上げますと、愛知県では平成28年度予算案に消防団加入促進事業費として合計2,000万円程度計上するとのこととあります。

内容は、1つ目といたしまして、新しい団員を確保するための活動に対し、1市町村100万円を上限に事業費の半額を助成する。2つ目といたしまして、優遇サービスとしては、県内の飲食店や物販店などから、「消防団応援事業所」を公募し、団員やその家族を対象にした特別割引などを用意してもらい、応援事業所や優遇内容の

一覧をインターネット上で公表する。団員らは、優遇を受けるためのカードを、応援事業所には周知するためのステッカーをそれぞれ配るといったものでございます。

しかし、詳細については、愛知県における来年度事業のため、具体的には把握できておりませんが、現在常滑市で行っている、「消防団応援の店」に似た内容ではないかと推察しております。

本町もこのような応援の店として、参加する意思の有無及びサービス内容などを、美浜町商工会を通じて同会員に問い合わせをしているところでございます。

なお、既に、平成16年4月1日に、愛知県消防協会と美浜町観光協会との協定がとり行われておりまして、観光協会加入施設での宿泊補助が、愛知県消防協会の予算の範囲内で、会員及び家族の福利増進を図る目的で行われているところでございます。

今後、愛知県から具体的な補助要綱等が示されましたら、消防団並びに商工会とも協議して支援実施についての調査・検討を一層推進してまいりますので、御理解いただきますようお願いいたします。

次に、御質問の2点目、大学生の「学生団員」を町としてどのように考えているのかについてでございますが、議員の御質問にもありますように、消防団活動を通じて第2のふるさと美浜を深く理解し、共に支えていただきたいと考えております。

しかし、現実問題として学生は4年で卒業してしまい、消防団というものを知らずに去ってしまうことも多いため、まずは消防団とは何かを知っていただくことが重要だと考えております。

そのために学生とのパイプ役として日本福祉大学の協力を得られないか、担当レベルで協議しております。そのパイプが機能し、学生の消防団に対する理解が深まることで、災害時のボランティア活動に対しての意識が高まるとともに、消防団への加入につながるのではないかと期待しております。

学生には、学生独自のネットワークがありますので、そのネットワークを活用して、災害時における学生間の連絡及び災害ボランティア等への協力などを大学と一緒にやっていけるよう考えているところでございます。

いずれにいたしましても、町内に多くの若者が集まる大学があることを積極的に活用する方法を、今後も検討してまいりますので、よろしく願いいたします。

以上でございます。

〔降壇〕

○教育部長（牧 守君）

1問目の御質問の、美浜町の公共施設における喫煙状況についてでございますが、議員御指摘のとおり、美浜町総合公園体育館の玄関付近に喫煙所を設けておりますが、これにつきましては、体育館を御利用いただく住民の皆様のために設置したものでございます。

健康増進法第25条では「多数の者が利用する施設を管理する者は、これらを利用する者について受動喫煙を防止するために、必要な措置を講ずるよう努めなければならない。」と規定しております。

また、これに加えまして、平成22年7月30日付の厚生労働省健康局総務課生活習慣病対策室長名で、各施設の入出口付近にある喫煙場所の取り扱いについて改めて通知があり、喫煙場所については施設の入出口から極力離すなど必要な措置を講じるよう努めてほしいとの要請があったことについても、私どもは承知しているところでございます。

町といたしましては、風除室の前後の自動ドアで仕切って出入りしていただいておりますので、煙のまざった外気の侵入はおおむね防がれていると考えておりますし、施設を利用される方の中に喫煙をされる方がおられますことを考慮し、現時点では最善の方法を取っているものと考えております。

いずれにしましても、現行法におきましては、努力義務とされているところでありますので、議員言われるような法律違反をしているとは考えておりませんので、よろしく御理解をお願いいたします。

なお、政府におきまして、健康増進法の改正、あるいはまた新法の制定になるのかわかりませんが、受動喫煙を規制するため公共施設を全面禁煙とし、施設管理者にこれを義務づけ、違反者には罰則も盛り込む方針とも言われているようでございますが、全面禁煙とはどういうことなのか、公共施設の敷地内では一切喫煙を認めないということなのかなど、現時点におきましては詳細は不明であります。いずれにしましても、改正法あるいは新法の内容が明らかになり、規定に合わない現状が判明した場合には、直ちに対応したいと考えておりますので、よろしくをお願いいたします。

以上でございます。

○議長（森川元晴君）

再質問はありますか。

○2番（荒井勝彦君）

私の質問のほうは、先に受動喫煙対策、これのほうでしたので、先にこちらを再質問させていただきます。

ただいま教育部長からありがたい御答弁がございましたけれども、これはやはり前回と余り変わらないなど、私、今率直に感じました。

例えば、オリンピックに向けて開催地に倣っておるということですが、これはほとんどの開催地が公共の場所での喫煙に対しても罰則を科しておりますので、いつになるかといいますと、もうすぐなるでしょう、私はそう思います。なってからじゃなくて、なる前にどうですかというのが私の意義でございますけれども。

先回9月の議会のときに私が同じ発言をさせていただきましたけれども、そのときに、議会の傍聴者へのアンケートというのが、町長も御存じだと思いますけれども、ごらんになっておりますでしょうか。9月議会のやつもごらんになっておりますか。

それでは、ごらんになっていない皆さんもお見えになるかと思っておりますので、ちょっとすみませんが、ここで披露させていただきます。原文のまま読ませていただきます。

これは30代の女性の方でありました。「前々から図書館、体育館の灰皿が嫌だった。すごく荒木議員の意見はよかった。小さい子どもがいるお母さんたちは、みんな思っていると思います。」ここでつけ加えておきますけれども、このお母さんは、私を荒木議員と誤記しておりました。ということは、私が支援者のどなたかにお願いをしてここへ来ていただいて、アンケートに答えていただきたいというお願いをしたものではないということがはっきりいたします。

続けます。「母の立場として言うと、図書館、体育館の喫煙場所も、小さい子や妊婦さんも通る場所です。灰皿設置はすぐやめてほしい。荒木議員が言うのはもっともだと思います。私の知人も何人もそう言っていました。ほかの人でもそう思っている人が多いと思います。」この方は続いて議場の隣、傍聴に見えた方ですので、控室のほうにもお見えになったと思いますけれども、この庁舎内のことにも触れております。「喫煙室の煙が漏れ過ぎていて嫌だった。役場の中なんだから、館内全て禁煙にしてほしい。ドアを開けっ放しで吸っていましたが、煙た過ぎます。全く意味がない。傍聴人の待つところにまで煙がすごくて、とても不愉快でした。工作中ぐらいたばこを我慢して帰ってからいっぱい吸ってください。」プンプンというイラスト入りで書いてございました。

このように、子育て中の若いお母さん方にとっては切実な問題であると思っております。弱者の立場に立ってこういう施策を行うことで、町長の目指す、明るく、健康で笑顔の絶えないまち美浜にしませんか、どうでしょうか。

○教育部長（牧 守君）

アンケート結果について、今初めてお聞きさせていただきました。吸う人の立場、そうでない人の立場、いろいろ御意見はあろうかと思えます。

今回の御質問を受けまして、社会教育のほうで管内5市5町の体育館の喫煙状況はどうなのかなというふうなことで、担当の者に調べていただきました。阿久比については町立の体育館がございませんので、阿久比を除きます5市4町の状況を見ますと、館内につきましては当然禁煙ということで、館外の敷地内につきましては、5市4町とも喫煙場所を設けて吸っていただいているというような状況でございます。これにつきましては、それぞれの監理者の立場で吸われる方、そうでない方のそれぞれの立場を考慮して、そういった害が及ばないような場所に、それぞれそういった喫煙所を設置していく必要があるだろうという配慮で5市4町のほうはそういった対応をされているものと私どもも判断しているところでございます。

いずれにしても、基本的には吸う場所で曝露しない、吸っているそばで曝露しない。そうすると、どれだけの距離を置いたところにそういった施設を置けばいいのかなという、そこら辺に落ちつくのではないかという気はするんですけども、先ほども申し上げましたけれども、新たな法律あるいは健康増進法の改正の中で、もう敷地内もいけないと、そういった法律が示されれば、当然私ども公務員ですので、その法律に違反するつもりもありませんし、そのように従っていくつもりでおりますので、よろしくお願ひしたいと思います。

○2番（荒井勝彦君）

前回も牧教育部長には似たような御答弁をいただいておりますけれども、やはり御自身が喫煙される方の御答弁だなというふうに今率直に感じました。

前回の私の質問に対する牧部長のお答えでは、「体育館、図書館では喫煙コーナーを明確にし、そこを他と区分することで完全な分煙ができ、実情に合った対応ができているものと考えております」、このように御答弁をいただきました。しかしながら、体育館の入り口のことに限定しますと、平面的に区分されているだけでございまして、いわゆる三次元的に区画されているわけではございません。当然、喫煙により吐き出された煙は広がっていきます。大きなイベントなどで人の出入りが多い場合、このときには体育館の中のアリーナの入り口付近でもたばこのにおいがいたします。これは町の職員の方とも直接アリーナの入り口でお話をしたこともあります。ここでも随分たばこの煙がにおうね。入ってきているということで、完全に分煙ができていない状態ではございません。これでも完全な分煙ができていて、現状のまま罰則を科せられて慌ててやる予定でございませぬか。

昨日の28年度の予算、これでは1億3,000万円ほどのたばこ税による収入を見込んでおられます。喫煙者に還元することに使ってもいいのかなと、私はそのように考えますけど、いかがでしょうか。

○教育部長（牧 守君）

完全ににおいを消すというのか、そこら辺は非常に難しいことだろうというようなことを思っておりますけれども、とにかく子どもたちや、先ほどのアンケートにありました妊婦さんたちが吸い込むというようなことをできるだけ避けようとするならば、現状の玄関入り口のところから離すしかないのかなというようなことは我々も考えております。ただ、やはりそれをやろうと思えば、それなりの設備というのか施設も要りますし、すぐに対応できるかというところもありません。現状のままで、新年度予算はもう既に動いていますので、28年度でどうだという話はずぐにはできないと思っておりますけれども、最終的にはそういった形も一つの方法だろうなというようなことも考えておりますので、現状においては玄関の隣で今できるだけ影響ないつもりではおりますけれども、確かににおいのほうはなくすることはできませんが、例えば成人式や何かの場合については、灰皿の位置をちょっと離させていただいてやらせていただいております。そういったことで、実際に雨の日に灰皿を出しておいて、灰皿あそこにあるから吸いに行ってくださいねと傘をさしてたばこを吸いに行ってもらおうのかという

ようなことも、それはちょっと管理する者としては、実際に先ほども、何度も言いますけれども、吸われる方もおりますし、吸われない方もいるという中で、吸われる方のそういったことも考えてあげるんだったら、現状においてはひさしのある今のところしかないのかなというようなことは思います。

以上でございます。

○2番（荒井勝彦君）

何遍も言いますがとおっしゃいましたので、私もまたくどいようですが。昨年の産業まつりでしたか、やはり同じところに灰皿がございまして、飲食ブースの一部になっていました。多くの出店などが出て、若干、最初のうち天気も悪かったので、そこにテーブル、椅子を設置して、そこで小さいお子さんを連れたファミリーが飲食をされておるところでぷかぷかとたばこを吸っている状態でした。明らかにこれは、今、フードコートでもこんな状態のところは一つもございません。これが考えておるといふふうになるのかなと、私はそのように考えます。すぐにはできないかもしれませんが、1億3,000万円もこの美浜町に貴重なお金を落としていただける喫煙者のことを思うのならば、やはり別の場所にそのくらい設置しても。一般財源の中に、どこに行っちゃったのかわからないなというふうにお金が、たばこの煙のごとく消えていくのがたばこ税ではないでしょうか。それをやはり喫煙者、納税していただいている方に還元してあげるのもまたひとつかもしれません。そのようなことを一度考えてみていただきたいと思います。

この方は役場庁舎の職員喫煙室、ここのことも先ほどアンケートのお母さんは触れておりましたけれども、議場の入り口にまでもおいは漂ってまいります。職員の喫煙による持ち場を離れた時間を計測したことはございますでしょうか。昼食後の定められた休憩時間内に喫煙される、これなら結構でしょう。しかしながら、いつでも喫煙を許されている状態ではございませんか。喫煙に費やされた、本来労働すべき時間をお金に換算したことはございますでしょうか。昨日の28年度の予算の中にも多くの人件費が計上されておりますが、本来労働すべき時間をお金に換算し、喫煙者の職員の意識改革もこれは必要だと思いますけれども、この点はいかがでしょうか。

○企画部長（永田哲弥君）

労働時間に換算するという部分について、私のほうから御説明をさせていただきます。

実際には、何本吸ったので何分だとかということは実際はやっておりません。一応基本的には、休憩時間等がございますので、そちらのほうで吸っていただいたり、自分の用を足していただいたりというふうになっております。なかなか管理する側として、そこまで実際に調査等をして管理するということは非常に難しいと思います。以前、時間を決めて吸うという方法もとってございましたので、また一度どのようなたばこ、トイレは生理現象ですので、たばこだとかほかの所用だとか、原則に細かく言いますと難しいところがあると思うんですね。たばこはいかん、これはいいというのが。トイレはいいと思うんですが、そこら辺をもう少しどのような状況があるかということ企画部のほうで調査というか検討してみますので、よろしくお願ひしたいと思います。

○2番（荒井勝彦君）

企画部長には大変前向きな回答をいただいて、ありがとうございます。恐らく、ケーブルテレビでごらんになっている町民の方の中にも、私に賛同していただける方はお見えになると思います。やはり喫煙者の方から見ますと、この荒井はまたたばこのことを言っとるのか。実際にヘビースモーカーの町民の方から大変お叱りを受けたこともございます。しかしながら、私の本意を酌んでいただきたい。これは、私は喫煙者の権利まで否定するつもりは毛頭ございません。これは前回の9月議会の一般質問でも最初に申し上げたことでございます。

私は、たばこを吸う人をはなから否定しているものではございません。町の職員の中にも大勢、町長を初め喫煙者の方がお見えになります。一生懸命納税をしていただいております。これには改めて敬意をあらわさせてい

ただきたいと思います。

たばこについて長々とすると時間がなくなりますので、私は、本来はこの消防団のバックアップ、これを一生懸命やりたいこととございますので、こちらのほうに移らせていただきますけれども、これね先ほどの御答弁の中で、大学生は4年で卒業してしまうと。しかしながら、本年1月7日の中日新聞には、名古屋市が大学生の消防団を4月に発足を目指してやっていくよということが大きく報道されておりました。4年で卒業しちゃうからということではなくて、4年間もこの町に若い世代がお見えになるということは、このマンパワーを活用しない手はないと私は思います。これを積極的に進めていただきたいと思います。

それと、岐阜県では消防団員を雇用すると最大200万円も事業主の事業税を控除する。これは多分、美浜町ではとてもできないと思いますけれども。1つ、私は部署の垣根を越えたことで消防団員と、これをやはり消防団の若い世代にも嫁不足で非常に悩んでいる現役の団員の方もお見えになります。これは豊橋で3月20日に団員との街コンをしませんかということで、消防団員を嫁さんを取り持とうということで企画しているんですけども、美浜町でこういう部署を越えて消防団員を何かの形で応援してやろうという、そういうような企画はございますでしょうか。

○総務部長（本多孝行君）

では、まず消防団は私の総務部の管轄でございますので一般論になるかと思いますが、お答えをいたしたいと思います。

まず、4年で卒業しちゃうから使わずにおくのはもったいない、どんどん活用したらどうだということとございますが、私どもといたしますか、先ほどの町長の答弁も、4年で卒業しちゃうから使わないよという意味は全くございません。学生さんにしてみると、4年しかいないので、なかなかそこまで興味がわからないといった事実があるのがとても残念だと。そういった意味では、役場がどうのこうのやるよりも、大学というパイプをつくって、大学という安心する立場の人から、消防団というものはこういうものがあると、学生さん、あなたたちもどうだというようなことを言っていただけるようなパイプづくりをしていくことによって、4年間のうち、例えば2年でも3年でもいいと思うんですね、消防団というのがあるのかと。じゃあ、それを一遍体験してみようと、そういった気持ちの人が出るような、そんな形にしていきたい。そういった意味では、荒井議員と全く変わるものではありません。4年間という限られた時間ではありますけれども、その時間を少しでも活用したいと、そういう気持ちは持っておりますので、その点だけまた御理解をいただきたいと思います。

さて、岐阜県では確かに、1事業所に対して最大200万円という、私も新聞を読みました。残念ながら、そこまではございません。ですが、できることは確かに進めてまいりたい。そういった意味では、やはり驚いたのは、団員が独身である。街コンをやってみたらどうかというのは、確かに違う目から見た団員へのサポートになるかというふうに今ちょっとびっくりして、いい意味でびっくりしてお聞かせいただいております。残念ながら、今のところそういった活動というのは具体的にはしておりませんが、団員さんが結婚をできるということは、ひいては、町民として結婚してまたお子さんをつくってという流れになるかと思います。それにつきましては、これは縦割りで申しわけございません、直接の担当ではないんですけれども、進められるものはぜひとも進めていきたいというふうに考えております。よろしく願いいたします。

○2番（荒井勝彦君）

ありがとうございました。

消防団の若者、これは先日、ある班の班長さんに伺いましたら、昔は幾らでも、自分の同級生なんかはつながりはあるけれども、もっとずっと若い世代では全然そういう情報が伝わってこない。まして個人情報でございま

すので、役場のほうでも、あそこあそこにこういう若者がおりますよということもなかなか、もちろん教えるわけにもいきませんが。しかしながら、何か役場として、やはり新規の団員を募集するのも情報もない状態で、唯一あった情報を頼りに行くと、親が出てきてはなからはねられて、息子にも会わせていただけないということで非常に悩んでおみえになりました。こういうところ辺を何か打破していくような、例えば、親御さんに対して、どうですか、息子を消防団で活躍しませんか。そういうことも説明して、役所のほうから説明したらいかんのかなというような時代になってきたと思うんですけれども、この点はいかがでしょうか。

○総務部長（本多孝行君）

荒井議員がおっしゃったようなことは、今から20年ぐらい前、私が団員だったときもやはりございました。御自分で団員をやった方ですら子どもにはやらせたくないというような方がおいでになります。ただ、その一方で、私どもが団員だったころと比べまして就労体制が大分違ってまいりました。やはり地元で勤めた人間と、例えば毎日、東海市、半田市、そういったところへ朝早く行く、あるいは勤務が難しくて、交代で朝早く行くときもある、夜遅いときもある。そういったようなことになると、消防団というものを決して否定するわけではないけれども、なかなか協力するのは難しい、そういったような方がふえてきたというのも、ある一面では事実ではないかというふうに考えております。

そんな中で、役場のほうで何か情報提供、あるいは親への説明とかそういったものはできんかということなんですけれども、正直、なかなか難しいというのが今の、現時点ではそのように考えます。

じゃあ、親御さんに消防団の必要性をどのように説くか。仮にそういうことをやるとしたとしても、それは広報で消防団の活躍だとか重要性を訴えていくということは、もちろん今よりも割増したものをやっていくことは可能かと思えますけれども、やはりその御家庭御家庭の状況もあるということも私どもは考えなければならぬ。そういった事実もございますので、なかなか難しい。けれども、何とかしていきたいという気持ちを持っていることだけは御理解いただきたいというふうに思います。

以上です。

○2番（荒井勝彦君）

残り10分ほどです。

私は、先ほどちょっと言いかけましたけれども、未婚の若い消防団員の方、この方たちは本当に日夜一生懸命訓練に明け暮れております。仕事が終わってからお疲れのところを、半分飯をかきこんで、それで練習場所へたどり着くような団員の方も多く見受けられます。

操法大会なんていうのは本当にその練習の成果を皆さんに披露する格好の場所でございますので、もっとPRをして、例えば、可能かどうかわかりませんが、PRDVDみたいなもの、今ユーチューブとかあいうのでいっぱい動画が流れる時代になってきました。美浜町消防団、かつこええ消防団、君たちもどうですかというようなDVDをつくって、本格的なというんじゃなくて、例えば、職員の中で好きな人がカメラを回すような形のもので結構だと思いますけれども、そういうことで町民の皆さんにアピールしてすそ野を広げていく、こういうことも必要なのかなと思います。

そして、先ほどの婚活と、私、美浜町婚活サポーター登録第1号でございますので、これに関連したような、関連質問じゃございませんので質問を許していただきたいですけれども、こういう機会、せっかくですので、例えば操法大会、メインのところに独身の女性の席を設けるぐらいにして、格好いい消防団員をアピールぐらいな、このくらいのことをやって、その後は街コンのような形で、垣根を越えた活動をして、何とか消防団員の若者を盛り上げていってやりましょうよ。どうですか、やっていく……

[発言する者あり]

○2番（荒井勝彦君）

いえ、その辺でも結構ですよ。気持ちはございますか。

○企画部長（永田哲弥君）

ありがたいお言葉で。消防団の婚活というのも、たしかよその市町はやったと思います。

消防団の勧誘でDVDという話は、過去に、私が消防団の担当をやっているときなんですが、各班の練習風景を撮りまして、それをたしかニューテレビか何かで流してもらったという、そういう記憶がちょっとありまして、以前やはり勧誘というのか、入っていただく方が非常に困難だったということで、荒井議員がおっしゃったように、ちょっとかつこええところ見せようじゃないかということでやった覚えがあります。

それで婚活のほうですので、婚活につきましては、操法大会だとか観閲式だとか出初め式だとかそういう席をつくってというのは私のほうは申しにくいところがありますけれども、対象として消防団員の若者にPRしていくということは非常によいことだと思いますので、特にサポーターの荒井議員につきましてはそういう方へも積極的にアプローチをしていただければなというふうに思っております。

勧誘につきましては、やはり地域の方が、やはりこういうふうだぞというようなことをおっしゃっていただくのが一番、経験者はそう思いますので、ちょっと余分なこともあります、そういうふうを考えております。よろしくお願いします。

○総務部長（本多孝行君）

今、婚活に絡めて企画部長のほうで御答弁いたしておりますけれども、確かに操法大会のときなど女性専用の席を設けるといったようなことはなかなか難しいという気がいたします。ですが、難しいから何もやらないというのはいかがなものかというふうにも思います。具体的にどういうことというのはまだ浮かんでまいりませんが、難しいからやらないということではなくて、できる範囲のことを、また逆にいろいろなところから御意見をいただきながら進めることに何ら私どもは拒否するものではございませんので、この場ではお答えできませんけれども、じゃあ、あしたこういうことを思いついたからどうだというようなことはどんどんお聞きしていきたいと思っておりますし、先ほどもありましたけど、まず役場も云々ございますが、やはり地域の消防団の経験者の方々が、消防団というのはこういう大切なもので、また大変ですけどごく楽しいこともあるぞということ、その地域で言うていただくのがやはり一番いいのではないかというふうに思っております。そういった意味では、ここにおいでになる皆様方が消防団に対して意識を持っていただいて、その辺をPRしていただければ非常に効果的ではないかというふうに考えておりますので、よろしく願いいたします。

○2番（荒井勝彦君）

ありがとうございました。私は婚活サポーターではございますけれども、消防団サポーターというのを今この時点で名乗らせていただきます。

そして、先ほど企画部長のほうから、かつてそういうビデオを撮ったことがあるということでございました。やはり私どもの地域にはケーブルテレビがございますので、ケーブルテレビの方に上手に、ただ操法大会をずっと撮りっ放しにしているのではなくて、格好いい消防団の姿を紹介するような、こういった番組をつくっていただいて、これを流していただくともっと効果があるのかなと思って、ケーブルテレビをお願いをいたしまして私の質問を終わらせていただきます。

どうもありがとうございました。

○議長（森川元晴君）

答弁のほうはいいですか。

○2番（荒井勝彦君）

もしよろしかったら。

○総務部長（本多孝行君）

どのような答弁をしていいのか今悩んでおりますけれども、ただ、今おっしゃったように、仮に団員が撮ったビデオでもいいんじゃないかというのにも確かにありますが、せっかくケーブルテレビさんに撮っていただいております。もちろん著作権とかいろいろなものがあるかと思っておりますので、その辺がもしもクリアできるのならば、それも一つの方法ではないかというふうにごこの場でお答えをいたしたいと思っております。

以上でございます。

○議長（森川元晴君）

以上をもって、荒井勝彦君の質問を終わります。

〔2番 荒井勝彦君 降席〕

○議長（森川元晴君）

ここで休憩としたいと思います。11時から再開をさせていただきます。

〔午前10時40分 休憩〕

〔午前11時00分 再開〕

○議長（森川元晴君）

それでは、休憩前に引き続き会議を開きます。

3番 大岩靖君の質問を許可します。大岩靖君は質問をしてください。

〔3番 大岩靖君 登席〕

○3番（大岩 靖君）

皆さん、こんにちは。ただいま議長の許可を得ましたので、あらかじめ議長宛てに提出いたしました一般質問通告書に基づいて質問させていただきます。

私も、先ほど前半に質問しました議員の人と同じでまだまだ1年生議員ですが、私も昨年度、町長と同じく、昨年の統一地方選におきまして皆様の支持をいただき議会議員になり、1年になろうとしています。私の目標として、年度ごとに自分の提出した一般質問に対し、進捗状況及び結果報告を町民の皆様へ説明していきたいと思っております。

いよいよ神谷町長の新年度が始まろうとしています。各部署からの予算申請も出たところで、1つ目の質問をさせていただきます。

質問1、平成28年度予算（案）で、美浜町第5次総合計画のうち、何を重点的に進めていくのかをお聞きいたします。

美浜町第5次総合計画6つの基本構想、1、自然を生かし快適に住み続けられるまちづくり、2、安心・安全な暮らしができるまちづくり、3、経済、産業に活力あるまちづくり、4、支え合いに満ちた人に優しいまちづくり、5、人が学び合い、育ち合うまちづくり、6、参画と協働によるまちづくり、以上6つの基本構想の中で、どれも大切なことではあります。特にこの年度はこれを進めていくのだという強い意思を示していただき、我々や町民にも理解しやすい明確な答弁を願います。

先月2月1日、2日と我々文教厚生委員は、愛知県の飛島村と兵庫県の多可町というところに行政視察に行ってきました。皆さんも御存じだと思いますが、愛知県の飛島村は全国でもトップクラスの自治体です。財政力指

数でも、美浜町の0.7に対し、飛島村は何と2.3以上の裕福な自治体であります。そこに小中一貫校飛島学園というものがあまして、そこを視察してまいりました。

財政力がそれほど豊かな自治体と同じようなことをしようとしても、なかなか難しいですが、私が一番印象に残ったのは、飛島村の首長としてのリーダーシップのとり方でした。どうか神谷町長にも、美浜町の首長としての強いリーダーシップを発揮していただき、年度ごとに確実に前へ進めていただきたいと思います。

そこで、2つ目の質問ですが、美浜町子ども・子育て支援事業計画、平成27年度から平成31年度の5カ年計画についてなんですが、2つほど質問させていただきます。

1、病児・病後児保育事業について、地域包括支援に取り組んでいる知多厚生病院にどのような働きかけをしているか。

私は、包括支援システムというのを、皆さん、介護のことばかりだと思っている方が多いと思いますが、私自身は、包括支援システムというのは、まちづくりが基盤になっていると思います。まちづくりができずにして、この地域包括支援システムは構築できないとっておりますので、その辺を理解していただきたいと思います。

2、ファミリーサポート事業におけるファミリーサポートセンターの利用人数が極端に少ないように思えるが、今後どのような予定をしているか。

質問事項の3、4番は私が昨年一般質問でさせていただいたものに対しての進捗状況と報告をお願いしたいと思っております。

3番の質問ですが、空き家対策等で特定空き家に関して、調査状況はどのようになっているか。

4、河和中学校の自転車通学路になっている海岸線の防犯灯設置及び街路灯の球切れ交換はどのように進んでいるのかをお聞きいたします。

以上4項目5つの質問をいたします。

以上で壇上の質問を終わらせていただきます。

〔町長 神谷信行君 登壇〕

○町長（神谷信行君）

それでは、大岩靖議員の御質問にお答えいたします。

初めに、平成28年度予算（案）で、第5次総合計画のうち何を重点的に進めていくのかについてでございますが、第5次総合計画は、本町の将来を展望した基本理念「ひと・まち・自然、健康に輝くまち、みはま」を実現するために各施策に取り組んでおります。

議員の御質問では、平成28年度予算（案）についてとの内容ですが、補正予算で計上しております、平成27年度繰越明許で掲げた事業も事業開始が平成28年度でございますので、あわせてお答えをさせていただきます。

全国的な人口減少と少子高齢化が進展する中、本町においては、子育て支援対策として子育て世帯応援事業、認定こども園施設整備事業や放課後児童クラブの保育室の増室について実施をしております。

また、人口減少に歯どめをかけ、活力あるまちづくりに取り組むため、地方創生事業といたしまして、日本福祉大学や民間企業と連携し、誰もが生涯活躍できる町としての推進組織の立ち上げと計画策定を実施するほか、コミュニティハウスの設置、運営に力を注いでまいります。

産業活性化対策として、地域資源を活用した特産品の開発なども実施してまいりますのでよろしくお願いいたします。

次に、美浜町子ども・子育て支援事業計画についての御質問の1点目、病児・病後児保育事業について、知多厚生病院にどのような働きかけをしているかについてでございますが、町といたしましても、町内の医療機関と

連携を図り実施できることが理想でありますし、子育てしやすい町をアピールするためにも今後取り組むべき課題と考えております。

この事業を実施するに当たり実施要件となる施設の整備費用、専門スタッフの確保等を勘案いたしますと、大岩議員が言われますように知多厚生病院での開設は、初期投資を最小限に抑えられ、立ち上げやすい環境と考えられます。

しかしながら、病院に御相談させていただいた中では、病院施設内に余裕スペースがないことから、実施に当たっては、現在使用している部屋の機能を停止させ保育室にする必要がございます。

病院としては、急性期医療と救急医療の拠点病院であることや、知多半島医療圏の第二種感染症指定医療機関であること、さらには災害拠点病院として指定され、地域医療への重要な役割を担っており、現状の医療の供給体制を維持していきたいとのことでした。

病院敷地内に独立した施設の設置についても、駐車スペースの確保に苦慮している現状において、敷地的に余裕がなく設置は困難との回答でございました。

本事業については、安定した収入が見込めず税金投入は必須でありますので、実現可能な実施体制について、引き続き検討する必要があると考えております。

次に、2点目のファミリーサポート事業における利用人数が少ないように思うが今後どのような予定でいるのかの御質問についてでございますが、昨年9月の事業開始から半年が経過し、現在は、依頼会員21名、提供会員8名、両方会員3名の合計32名の方に御登録をいただいております。

援助活動については、昨年は1件の活動でしたが、2月に3件、3月には4件の予約が入っておりまして、徐々にではございますが、皆様に御利用いただいているところでございます。

ことし1月には、保育所行事に出向きまして、全園の保護者を対象に説明をさせていただき利用促進を図っているところでございますが、来年度は、赤ちゃん訪問や小学校を通しパンフレットの配布をお願いする予定でございます。

今後は、町広報誌やケーブルテレビでも紹介し、一人でも多く方が会員になっていただくことで、地域の子どもさんを地域の方が預かり、ファミサポを通して子育て支援の輪が広がることを願ひまして、安心して御利用いただける環境を整えてまいりたいと考えております。

次に、空き家等対策で特定空き家に関して、調査状況はどのようになっているかについての御質問でございますが、まず空き家等対策特別措置法には、空き家等の定義を「居住その他の使用がなされていないことが状態である建築物とその敷地」としています。

この特別措置法は、全ての空き家等を措置の対象としておらず、その危険度や周辺に与える悪影響が大きい空き家を「特定空き家等」と定義しています。

この特定空き家等の判断は、明らかに該当する空き家を除き、町が設置する協議会で判断することになります。

なお、平成25年以降、家屋の倒壊、瓦・外壁の崩落のおそれがあるなどの苦情や通報が36件寄せられており、現地確認や台帳の整備とあわせ、必要に応じ所有者に対し改善のお願いをしまいましたが、解決に至っていない物件もございます。

今後の調査等につきましては、平成28年度に町内全域の空き家を抽出し、現地にて空き家等の状態を確認した上でデータベースの整備を予定しております。できる限り早期に特定空き家等に対する是正の措置を進め解消に努めるとともに、空き家の活用もあわせ実施してまいりますので、よろしく願いいたします。

次に、河和中学校の自転車通学路となっている海岸線の防犯灯設置及び街路灯の球切れ等の交換は終了したの

かについての御質問でございますが、9月議会での御指摘の事案と思います。

御指摘の区域のうち、既存の防犯灯では暗く感じられるものにつきましては、明るい防犯灯に変更する旨業者に手続済みでございます。少々時間がかかりましたが、町全体のバランスを見ながら設置及び取りかえを行ってまいりますので、御理解くださるようお願いいたします。

なお、街路灯の球切れ等の交換につきましては随時行っておりますので、重ねてよろしくをお願いいたします。以上でございます。

〔降壇〕

○議長（森川元晴君）

再質問はありますか。

○3番（大岩靖君）

町長、どうもありがとうございました。

私の1番目の質問なんです、私が町長にお聞きしていきたいのは、例えば、私が言いました6つの基本構想の中で、何を一番にということというのが、私は先ほども言いましたが、一般質問に対して年度ごとに確実にこれだけは前へ進めたいのを基本でやっていきたいと思っております。単年度でやれる事業というのはそんなに難しい事業じゃないと思うんですが、例えば、今、町長がおっしゃった答弁の中では、単年度でやれるようなことはなかなか難しいのがたくさんだと思います。ただ逆に言うと、例えば5年、10年先に、これだけはやっておかないかということのが必ずあると思います。それに対して、やはり単年度ごとに、ここまで確実に前へ進めるんだということをはっきりと申しただけかないと、なかなか形に見えて町民の方にも伝わらないと思いますので、その点を踏まえて、例えばですが、今回の町長の出された今の中でも、今回僕が本年度の予算審査の中で、奥田駅の近辺のことで新たに予算がついているところがありました、1,200万円。逆に私はすごくうれしかったです。日本福祉大学が美浜町にできて30年余りになるんですが、やっと奥田駅周辺の環境整備の調査費がついたということで。例えばこれに関しても、単年度でできる事業ではありません。ただ、逆に言うと、5年先には、ここまでやらないかということをはっきりしたことをまたお聞きしたいので、その辺について、町長、どういうふうにお考えになっているか答弁をお願いいたします。

○町長（神谷信行君）

ありがとうございます。大岩議員の言われる内容につきまして、先ほど、総合計画から見た形でのこの取り組みということでございましたので、大きくいうひと・まち・自然の関係のお話をちょっとさせていただいたわけでありまして、現実的に今回の総合計画と一致している部分と、それから今回の私のほうの28年度予算の中で捉えている部分というのが若干位置的に全体を網羅したような形になっておりますので、その中であえて言うのであれば、今私の一つの政策としては、やはり美浜の里構想。こうした中で、この里構想を少しでも一歩ずつ進めていきたい、前進させていきたいというふうに考えております。そのためにも、さきの御質問の中でもありましたように、防災も兼ねてのそういった、まず水利の当然配水管が必要ということで、そういった中で、今回、防災を兼ねての配水管を給水管を入れさせていただくということで予定をさせていただいております。これも、この里構想等もあわせた一つの事業の進捗と考えております。

そうした中で、今回私のほうも予算に計上されていない部分も多くあるわけでございます。実質的にこの里構想も、じゃあ、現実的に計画だとかそういったものを、本来はコンサルへお願いするということは、これが予算に計上されてくる話になるかと思いますが、私は、先ほどのお話の中にもありましたように、職員が、そしてまた地域と一緒にこの計画をつくっていきたいということで、今年度、予算で計上するという計画もありました

が、やめさせていただきます。あくまでもそういった中で、少しでも皆さんの考え方や思いやいろいろなものを詰めたものの構想をつくっていかうよということで予算には計上されておきませんが、そういったことも28年度で進めてまいりたいというふうにお考えしております。

その中でも一つの、先ほど産業関係でも、この産業の振興というのがありましたがおき、そういった中で、これも産業の振興につながるものということで長期的な取り組みで考えておきしております。

それと、先ほどもう一つ、大岩議員のほうからお話がありましたがおき、予算の中でも話をさせていただきますと市街地整備、既成市街地の再編整備、これは私の中でも一番人口減少、または若い方が出ていかにないように、定住対策といたしましても、旧市街地の再編整備を少しでも早く取り組んでいかにたいということで、これは今年度の予算に計上させていただきます。これにつきましても、今年度、町の市街地を再調査を行うことによつて、またモデル地区をどこに定めるかを決めまして、そうした中でこの再編整備を進めていかにたいと、これは先ほども人口減少と若い方の定住対策ということも言いましたが、また防災面でもあわせて既成市街地の整備をいち早く進めてまいりたいというふうにも考えておきしております。

それともう一つは、先ほど大岩議員のほうからお話がありましたがおき、奥田駅前東側の整備、この関係も大学が来られて30年ほど、そういった中で手つかず整備となつてきておきしております。私どもでいいますと、やはり奥田は西部の中心部分にあり、そして奥田駅というこいつた公共交通機関が整つておきる中で、全体的な整備が立ちおきれておきります。そうした中で、前も奥田駅前につきましてもは都市計画によります市街地整備をやらうということのお話も前々からおきりましたが、これにつきましてもは、やはりいち早く、今の若い方たち、大学という大きな資源がありますので、その大学も活用したまちづくりを行つていくためにも、この奥田駅前整備をいち早く進めていかにたいなというふうにも、これも重点事業として今回予算のほうに計上させていただきますと取りまさせていだきたいというふうにも考えておきるところでございます。

あとは子育て支援だとか、そういった今回の放課後児童クラブですか、そういったものも、やはりお母さんたちや働いてみえる皆様方が少しでも外に出て働ける環境をとということで、またかなりこいつた希望されるおきさんもおきふえてきたということもありますので、そういった面もおきあわせ進めてまいりたい。

放課後児童クラブにつきましても、今回、増設させていただきますと旨と、子ども認定保育園、これも大和幼稚園のほうが行おうとしておきります。この件につきましてもしっかりと将来を見据え、また、こいつた子どもが少なくなつてくる中で、こいつた認定こども園ができますと、町の財政的な面におきましても、こいつた民間が取り組んでいただける部分について、町のコストもかなり行政コストも抑えてくることのできるということも視野に入れながら、この子育て事業につきましても進めてまいりたいなというふうにも考えておきるところでございます。

それともう一つは、やはり住民の皆様方が安心して暮らしていけるよな、そして、いつでも安心して医療にかかることができます、知多厚生病院への救急の援助に対しまして、こちら町としましても公的な病院でもあります知多厚生病院をそうした中で、個人で病院のほうをやつておきみえになる方々も多くあられますがおき、一つの総合病院としてもそうした中で救急体制も充実し、そして、こいつた専門医師のそれぞれの配置も将来的にはこいつた援助をする中でお願いをしていくということ、皆様方が安心して医療にかかれるよなこいつた厚生病院の関係につきましても、今回力を入れさせていただきますとたいというふうにも考えておきるところでございます。

総合的に言いますと、予算のほうの中でもちょっと御説明させていただきますと部分が多く含まれておきるわけでございますがおきけれども、まず取り組んでいくべきことを今回は挙げさせていただきますとたいおきりますし、また、予算に計上していない中에서도、そうしてソフトの面、また計画の面でおき今から取り組んでいく面が多くありますので、そう

した中で、一歩ずつでも現実に向かうように、現実性を帯びるように進めてまいりたいと考えておりますので、皆様方の御理解をお願いしたいと思います。

以上でございます。

○3番（大岩 靖君）

どうもありがとうございます。今の町長の答弁で、何となく私たちも、じゃあ、一緒にやっぺいこうという力がわいてくるような気がいたします。

今、町長の答弁で、美浜の里構想をやはり第一に考えて、奥田駅周辺、近辺の市街化調整の話も順調に進めていきたいという答弁をいただきましたので、ぜひとも5年後には確実な形になっているように期待して、1問目の質問を終了させていただきます。

続いて、2問目の質問のほうなんですけど、今の子育て支援事業についてなんですけど、ただいま町長の答弁でもありましたが、知多厚生病院内ではなかなか難しいというお話を聞いたんですけど、本年度の予算の中でも、知多厚生病院に2,000万円ほど運営補助金という形で出ているんですけど、実をいいますと、我々、先ほども私の壇上の質問で出したんですけど、先月の行政視察の2日目に、実は兵庫県の多可町というところに行ってきました。この多可町というのは、財政力も人口も美浜町とほぼ同じぐらいのところなんですけど、そこが実は5年ほど前から病後児保育事業をやっております、その点でちょっと参考になればと思うんですけど、今ここで発表させていただきます。

この多可町は、5年ほど前に病後児保育を始めたわけなんですけど、国・県の補助金事業に年間240万円で実施しているそうです。ただし、この補助事業費は年間利用人数が最低10人いないと補助金がおおりてこないという現状です。職員の配置も、利用児童10人に対して看護師が必ず1人以上、利用児童が3人に対して保育士が必ず1人というかなりハードルが高い事業でもあります。ただし、多可町では27年度から兵庫県独自事業により診療所型小規模病児保育事業が、28年度から配置職員看護師等1人以上、利用児童2人以上で人件費を含み運営費補助が340万円で実施予定だそうです。美浜町としても、御存じの方もいると思いますが、この間、愛知県の本年度28年度予算の中に表記してありますが、病児・病後児保育サービスというのを充実させるために、国の定めた今の看護師、保育士のハードルを下げまして、保育士のかわりに子育て支援員を配置し基準を緩和するということが出ております。27年度末現在で、県内には36市町村に60カ所の病児保育施設が設けてありますが、これを平成31年度までに86カ所にふやす予定だそうです。ぜひとも美浜町も県の病児保育事業に積極的に働きかけていただきたいと思います。

先ほども、厚生病院がどうしてもなかなか難しいということをお聞きしたんですけど、僕が調べた範囲ですと、やはり今の病児・病後児保育というのは必ず病院がかかわってないと、看護師の面もありますので、なかなか難しい面があると思います。ただ、美浜町内におきまして、たまたま先ほど町長の答弁の中でありましたが、今度、認定こども園という形で大和幼稚園のほうで保育施設も併設されるということをお聞きしております。

やはり位置的に、例えば厚生病院近くでそういう施設が設けられれば、逆にいうと、そこに病児・病後児保育を新設するというのもなかなか前へ進めるんじゃないかと思います。

いろいろ今まで美浜町の資料を拝見させていただきますと、やはり今、若い御夫婦で小さい子どもを抱えてみえる人が、ほとんど9割の方がやはり保育園に入れて見ていただいていると思うんですけど、例えば保育園児が病気になった場合、どうしても片方が仕事を休まなきゃいかぬ。そういうことを鑑みますと、やはり病児・病後児保育をできる限り何とか早くつくっていきなさいと思っております。それにつきまして、やはり町としても今の厚生病院内が無理であれば、やはりその近辺に今の施設をつくっていただけるように、何かそういう働きかけをし

ていく予定はあるのでしょうか、その辺をちょっとお聞きしたいんですが。

○厚生部長（岩瀬知平君）

病児保育につきまして、厚生病院さんと詳しくお話をさせていただきまして、どのみち厚生病院さんと協力してやっていきたいと現段階で考えておりますけれども、病院側としては、院内感染ということを非常に恐れていて、病院内でやることは完全に隔離したような状態でやりたいということをおっしゃられておりまして、もともと厚生病院さん、診療棟をつくるときに、病児保育の構想はあったそうでございます。それらしい部屋も確かに存在はしております。我々はそこを改造して、どうでしょうかということを上申して話し合いを進めておったわけですが、その向かい側で院内の保育所がございまして、看護師さんたちのお子さんを預かっているということで、そこに感染するというのを非常に恐れられておりまして、もしも病児保育をやるのであれば、西知多病院が今度病児保育をやられておるそうなんですけど、完全に敷地内で違う建物で別個の保育所としてやられておりまして、そんなような形態でやりたいなということをおっしゃられておりますものですから、そこまですきますとかなりの予算が必要になってくるのかなというふうに現段階では思っております、何かいい方法はないかなと思っております。

先ほど大岩議員さんおっしゃられたとおり、愛知県からも病児保育をやってくれということはかなり働きかけを受けております。部長級の職員さんが見えて、どうでしょうかというような提案もいただいておりますけど、何にせよ、厚生病院さんとの連携と協力が必要であります。病児保育をまず受けるためには、医師の診察を受けていただいて、予約をしていただいて、医師が保育してもいいよということをお子さんを預かるというような、そういう事業でございまして、なかなか結構ハードルの高いというか、誰でも気軽に病気になったから預けられるというようなシステムには今のところなっておりませんが、そういう話し合いの中で何か見つけたいなと思っておりますが、また厚生病院の周りを歩いて、いい敷地があればというようなことも考えていきたいと思っております。

○3番（大岩 靖君）

ありがとうございます。確かにハードルは高いんですが、やはりハードルが高くても、まず1歩踏み出さないと、なかなか前には進んでいきませんので、今後とも今の県の話もありますが、美浜町としてはできるだけ県のほうにも働きかけて、具体的な案をつくって働きかけていただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

それでは、申しわけありません、質問3番のほうに移らせていただきます。

空き家対策等、特定空き家に関しての、先ほど答弁もいただきましたが、去年、私が一般質問した中で、たしか答弁の中で、本年度中に町の職員が歩いて調査するというをお聞きしました。現状、特定空き家に関しまして、今町内で何件ほど把握しているか、その辺をお聞きしたいと思います。

○建設部長（斎藤 功君）

先ほどの大岩議員の御質問でございますが、今年度どういう調査をしておるかという御質問と思っております。

先ほど町長が、壇上で答弁させていただきました。平成25年度から約36件の苦情等が寄せられております。今年度につきましては、その36件、再度現地確認のほうを今しておる段階でございます。

その中で、もちろん改善された物件もございます。今、西部地区がほぼ終了しておりまして、西部地区11件のうち5件は改善されておるとい状況になっております。そういった中で、町内で特定空き家等が実際何軒あるかということですが、今現在、職員の判断でございますが、東部1軒、西部1軒、計2軒というふうに今の段階では判断しております。

以上でございます。

○3番（大岩 靖君）

ありがとうございます。今の答弁ですと、西、東で1軒ずつということですか。

実は、私は東のほうというか、私は今河和地区に住んでいるんですが、特定空き家になるだろうと家屋を自分で調べまして、写真を撮ってきてあります。それだけでも7軒ほど。特定空き家というのは当然御存じだと思いますけど、近隣の家屋にも被害が及ぶんじゃないかとか、例えば県道、国道に面しておれば、逆に登校するのにも問題が出てくる。あとは環境的に大変まずいんじゃないかという判断でたしか特定空き家という認定がされたと思っておりますが、例えば、数年前にでもやはりたしか上野間か野間地区だと思いますが、台風の被害で近隣の家屋にかなりの迷惑になっておるといふ。この特定空き家に関しましては、ほっておいたらどんどん、もっとも特定空き家が当然ふえていくと思えます。

今の答弁の中で、例えば「改善」というお言葉を聞いたんですが、具体的にどういうことなのかお聞きしたいんですが。

○建設部長（斎藤 功君）

先ほどの西部地区の例でございます。改善というのは、修繕が済んでおると、例えば屋根、瓦の修繕が済んでおる。解体というのは、建物自体が撤去されている。また、ブロック塀の撤去も事例がございました。

以上でございます。

○3番（大岩 靖君）

ありがとうございます。やはり近隣に住んでいる方に迷惑がかかるようでは、やはり町としても早く対策をしていかないとだめだということです。

もう一つ、今の特定空き家に関して、当然、協議会の立ち上げをしなきゃいけないと思えますが、具体的に協議会はいつ立ち上がるのか。前回、私は一般質問でもこれを指していただいたと思えますが、この協議会の立ち上げに関しまして進捗状況と、具体的にいつぐらいを予定しておるのかというのをお聞きしたいと思えます。

○建設部長（斎藤 功君）

一応協議会、これにつきましては来年度から準備に入りたいというふうに考えております。ただ、時間的にやはり現段階では来年度は空き家の調査、データベースをまず第一に実施させていただきまして、そのデータをもとに空き家対策計画案の作成、計画案でございます、その中で協議会も必要となつてまいりますので、協議会のメンバー等の構成、そういったことも決めていきたい。実質的には平成29年度からの立ち上げになるかと思えますけれども、これにつきましては、一日も早く立ち上げるように努力していきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

○3番（大岩 靖君）

ありがとうございます。29年度から協議会の立ち上げと理解してよろしいんですね。本年度中にデータベースを作成というふうにして、そういう認識でよろしいのでしょうか。

○建設部長（斎藤 功君）

データベースにつきましては、今、来年度予算で計上してございます。それをお認めいただければ、来年度その予算でデータベースの作成をしていきたい。それに合わせて協議会の準備、空き家対策計画書の準備も合わせて行っていきたいというものでございます。

○3番（大岩 靖君）

ありがとうございました。本当に特定空き家に関しては、今の予定より前倒しで結構ですので、一日でも早く

やはり職員の方にもちゃんと調査していただき、協議会立ち上げに向けて早急に行動していただきたいと思えます。

それでは、質問4番目のほうに移らせていただきます。

先ほど、海岸線のほうの防犯灯の球交換のほうも町長のほうから答弁いただきましたが、これ、私が中学校の通学路というふうなことを言ったのは、町長の答弁でもありましたが、町内の街路灯、防犯灯をできる限りLED化していくという予算もついております。やはり優先順位をお聞きしたいんですが、その辺、町長、お願いいたします。

○総務部長（本多孝行君）

まず、どのような優先順位でいくかということなんですけれども、一般的な言い方をするのであれば、費用対効果を考えまして、今80ワット相当の水銀灯の防犯灯もございます。こちらにつきましては、正直な話、器具も高いし、電気料も大分高いものですから、まずその辺から早目に片づけていこうという考え方でおります。ですので、今、町内に、簡単に言いまして20ワットと80ワット、蛍光灯と水銀灯という防犯灯を2種類ごつくりあるというふうにお考えいただきたいと思えます。そのうち20ワットというのは、LED化しましても、そこまで大きな効果というのはないんですね。ところが、80ワットの水銀灯をLED化することによりまして、電気代としては3分の1とかがと下りますので、まずそこで費用を削減することによりまして、そこで浮いた分はまた次の更新に回すことも当然可能になってまいりますので、優先順位はと言われれば80ワットの水銀灯をまず優先してかえていくということでございます。

以上です。

○3番（大岩 靖君）

私が言う優先順位というのは、例えば、学生の通学路が僕は優先順位としては最上位に持ってきていただきたいというのがやはり、これからどんどん日が長くなっていいんですが、特に冬場はどうしても中学生、自転車通学の子もそうなんですが、徒歩の子も当然、部活動が終わると、もう夕方暗くなっている時間帯だと思います。野間中学にしても、河和中学にしても、自転車通学の子はなかなか暗い中を自転車で走っていかないかんということで、優先順位としては、やはり学生の通学路を先に優先順位を上げていただきたいというものがあります。

それと、今、電柱の80ワットの水銀灯に関しては高いという金額の面をおっしゃいましたが、じゃあ、逆に言いますと、既存の電柱に、例えば本体の街路灯を建てるとすごい設置費用も当然、本体の金額も高くなるんですが、既存の電柱に今の電球の球交換をやっていくということで早く進めていく予定はあるのでしょうか。

○総務部長（本多孝行君）

まず、御質問にお答えする前に優先順位の件で1つ申し上げますけれども、例えば、通学路で暗いところといったところを後回しにしているということではございません。毎年、毎年、各区のほうから防犯灯の設置については、設置というのは、これは交換も含めて新設も含めて出てまいります。そういった出てきたものを、全体のバランスを考えながら、必要であればもちろん優先してやっておりますので、その点はまず御了解いただきたいと思えます。

今の御質問の器具の取りつけですね、そういったものについてでございますけれども、今、80ワット相当のLEDの機器が1カ所つけますと3万5,000円から3万8,000円ぐらいかと思えます。20ワットのLEDですと2万二、三千円ぐらいかと思えます。器具的には蛍光灯とも余り変わりません。ただ、水銀灯はもうちょっと高いんですけれども。ですので、単純に20ワットと80ワットという明るさのことを考えますと、片や2万3,000円、片や3万五、六千円でできますので、その辺はバランス的には80ワット相当のほうの方が明るさもあり、費用対効果と

しては高いのではないかというふうを考えております。

以上です。

○3番（大岩 靖君）

ありがとうございます。ただいまの答弁の中で、ちょっとお聞きしたいんですが、今、区のほうにと言いましたが、じゃあ、ある意味、区長の裁量によって優先順位が変動するということもあるんでしょうか。

○総務部長（本多孝行君）

水銀灯ですとかカーブミラー、そういったものにつきましては、正直な話、個人の方からも、俺の家の前につけてくれという方は出てまいります。そうしたときに、それは全体のバランスから考えたときに、地域の全体の福祉、公共のバランスから外れることももちろん往々にしてございますので、そういった意味では、各地区の代表として、その区、区長さんといいますか区のほうですね、そちらのほうで、うちの区ではここは暗いから、これを要望しようじゃないかと、そういったようなことを諮っていただいて出すということでございまして、まず、その地区としての地区全体のバランスを考えた上で出していただいて、それをあとはうちのほうが予算のバランスもでございます。そういったことも考えて、なるべくなら御要望に沿うようにしてまいりたいということでございます。

以上です。

○3番（大岩 靖君）

どうもありがとうございました。総務部長の今のお話を聞きまして、やはりこれから、例えば暖かくなればいろいろ不審者とかそういう心配な面も出てきますので、できる限り今の防犯灯の件につきましては、当然、区を通してなんですが、区長の優先順位の決め方も正直というところもありますけど、その点は皆さん、町のためにできる限り防犯のことも考えて区長のほうにまた言っていただきたいと思います。

以上で私の質問は終了させていただきます。

○議長（森川元晴君）

答弁はいいですね。

○3番（大岩 靖君）

もし、防犯の区長に対して何かそういう答弁がありましたら、最後をお願いいたします。

○総務部長（本多孝行君）

初めに申し上げたように、区長さんに責任を押しつけるつもりは全くございません。やはり区の中でのバランスというのがあることは重々承知しておりますので、それを踏まえて、もちろん必要な方は申し出ていただいて、うちのほうもできる限りそれに応じていきたいという考え方でおるということでございます。

なお、防犯灯につきましては、今、新設よりも、やはり器具の傷みのほうが多くなってきた実情がございまして、これも参考に申し上げたいと思います。

以上でございます。

○議長（森川元晴君）

以上をもって、大岩靖君の質問を終わります。

〔3番 大岩靖君 降席〕

○議長（森川元晴君）

ここで休憩といたします。再開を午後1時からお願いいたします。

〔午前11時50分 休憩〕

○議長（森川元晴君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

7番 山本辰見君の質問を許可します。山本辰見君は質問をしてください。

[7番 山本辰見君 登席]

○7番（山本辰見君）

皆さん、こんにちは。7番 山本辰見です。ただいま議長より発言の許可をいただきましたので、あらかじめ提出してあります一般質問通告書に基づきまして、若干の町政における課題について質問をいたします。当局の簡便なる答弁を求めるものであります。

1点目は、人口減少対策事業の一環として、数年前から取り組みを始めました空き家対策関連事業の充実についてであります。

この本会議の中でも同僚議員も含めて、これまで繰り返し質問をされてきましたが、なかなか実態が伴わないこの事業について抜本的な改善を求めるものであります。

私は、総務産業常任委員会のメンバーの一員として、2月の初めに、隣町の南知多町の空き家バンク制度の実態、並びに長野県の飯山市での空き家バンクの取り組み、同じように長野県の下條村での移住・定住住宅等の取り組みについて行政視察をしてきました。それぞれの市町村の歴史や、また社会環境は違いますけれども、私も美浜町にも参考になるであろうすぐれた施策も学んできたところであります。具体的に美浜町のこの事業における取り組みについて、展望を伺います。

1点目は、都市計画課の中に空き家対策の担当者はいますけれども、他の業務と兼務であります。この際、担当者を専任とし、貸し出しの発掘、あるいは販売の発掘、対応等、そして利用者への紹介など、職員が率先してこの事業の展開を図るべきだと考えますけれども、どのように準備されているのでしょうか。

2点目は、これからこの28年度の事業予算の中でも空き家のリストを調査する、そしてデータ化することになっていますけれども、私はぜひ手始めに、再利用できそうな家屋の、また土地も含めてですが、リストアップすることを始めていくべきではないかと考えます。現状は、皆さんもホームページで見たことがあるかもしれませんが、美浜町の今の現状は、登録件数は3件でございます。問い合わせはもう少し2桁を超えておりますけれども、この状況を抜本的に改善し、具体的に登録件数をふやすべきだと考えます。その取り組みの予定はどうなっていますでしょうか。

3点目は、このような移住・定住のことも関連して、住まいの提供と関連して、例えば、農業体験あるいは農地の貸し出し、いろいろな何かツーリズムというのがありますけれども、そういった働き場所の紹介も含めた、この空き家対策あるいは紹介に関連する事業の展開が必要と考えておりますけれども、どのような企画を考えてみえるのでしょうか。

2点目の大きな質問でございます。神谷町長が構想しておりますまちづくりの長期戦略について伺っていきます。

神谷町長の構想は多岐にわたって展開されておりますけれども、どの事業を見ても、相当の規模と予算がかかると思われます。同僚議員の中にも、同じような関連した質問がありますけれども、このたくさんの事業の中の優先順位といいますか年度別に今はこれを、こういうことがあろうかと思っておりますけれども、なかなか優先順位とか事業の青写真が明確に示されておられません。どれも大事な課題だと思うわけですが、見方によっては全体が本当に重なってばらまきにならないのか非常に心配しているところであります。

具体的に、次の事業について、事業規模、いわゆる全体の予算はどのくらいのことを想定しているものなのか、あるいは優先順位、それから大まかな青写真ですね、建物あるいは設備、面積というものの、それから位置関係についてはどうなっているのか、詳しくは結構でございます、概略で結構ですから、必要なところは補充で聞いておきますので、概略で結構ですので、簡便にお答え願いたいと思います。

その事業の中身としては、グラウンド拡張事業がある。野間駅前開発、奥田駅前開発、美浜の里構想、日本福祉大学の、特に新しい施設を含めた連携事業でございます。

最後に3点目として、今、小学校では展開している、そして大きな成果を上げていると思っております「通級学級制度」、これに見合う形の中学校へ入学した場合の子どもたち、児童・生徒への対応についてどのような準備をされているのかお尋ねいたします。

以上で壇上からの質問を終わらせていただきます。

〔町長 神谷信行君 登壇〕

○町長（神谷信行君）

それでは、山本辰見議員の御質問にお答えさせていただきます。

まず、御質問の3点目の小学校での通級学級制度、これに見合う中学校での対応をどのように準備されているかについては、教育長より御答弁をさせていただきますので、よろしく願いいたします。ほかは私のほうから答弁をさせていただきます。

まずは、御質問の1点目、空き家対策関連事業の充実についての関係でございますが、都市計画課で担当者を専任し、職員が率先し事業の展開を図るべきだが、準備されているのかについてでございますが、本町におきましても、空き家等の対策を緊急性のある重点課題と捉え、空き家等の有効活用を目的とした空き家バンク制度を平成24年度に創設して以降、改修費等の助成制度も導入して取り組んでまいりました。その結果、12件の成約を得ることができました。

これまでの空き家バンクへの町のかかわりにつきましては、空き家所有者から登録の申し込みがあると、申し込みに基づく物件の間取りの確認と写真撮影を行い、ホームページに掲載し物件情報の提供を行っています。また広報、ホームページ以外に町外へ発送の固定資産税納税通知書に、この制度の案内を同封し物件登録を促してきました。

空き家利用者の相談に対しましては、空き家所有者の了解を得た宅建業者等の紹介までにとどめ、不要なトラブルの発生を防ぐため、宅建業者に物件の案内や契約の交渉等をお願いしています。しかしながら、この空き家バンクの運営上の課題の一つが、空き家物件の登録がふえないことであり、その一方で、空き家バンクへの物件登録を充実させることが、売却または貸し出しの成約をふやす最も有効な手段であることは認識をしております。

空き家の所有者・利用者から気軽に相談を受けられる「空き家相談窓口」の設置、専任職員の配置の検討も含め、町の実施体制の整備を図ってまいりますので、よろしく願いいたします。

次に、御質問の2点目、再利用できそうな家屋・土地等のリストをピックアップし、登録件数をふやすべきと考えるが、その取り組みの予定はについてでございますが、町においても、物件登録を増加させることを当面の主要目標として考えています。

具体的な取り組みといたしましては、来年度、町内全域の空き家の実態調査を行う予定をしています。この調査により、空き家の所在地・所有者及び物件の状態などが特定することができますので、所有者の意向確認などを含め、制度の周知、情報提供、物件登録の案内など、物件登録の増加につなげるよう努めてまいります。

次に、御質問の3点目、住まいの提供と関連して、農業体験や農地の貸し出しの事業展開が重要と考えるが、

どのような企画を考えているかについての御質問でございますが、空き家の活用促進や移住・定住の促進を図るためには、空き家と貸し農地を組み合わせた企画や新規就農場所の紹介、農業体験等を通しその魅力を知ってもらうことは有効な方法だと考えており、空き家の利用促進につながる可能性のあるあらゆる方策について、他市町村の運用状況を参考に検討してまいります。

さらに、空き家の活用対策を積極的に進め、町の課題となる人口減少の抑制や地域の活性化の維持を図ってまいりますので、御理解いただきますようお願いいたします。

次に、神谷町長が構想しているまちづくりの長期戦略についての御質問でございますが、まず、総合公園グラウンドの拡張整備につきましては、平成26年度に交流拠点基本設計を作成しております。

主な内容といたしまして、拡張する区域は約5.6ヘクタールで、事業費の概算につきましては、用地費も含め全体で約9億5,000万円であります。

施設の規模について、社会人軟式野球または、サッカーが2面可能な競技場のほか、遊戯広場、センター広場、駐車場366台分などを計画しておりましたが、利用予測からみた施設と規模、また、大規模災害に備えた避難所等の利用に必要な面積、費用のかかる残土の処分など再検討をするため、昨年10月に基本設計の修正業務を発注し、現在作業を進めているところでございます。

修正中の基本設計は、今年度末に完了の予定をしておりますので、まとも次第御報告いたしますので、よろしくをお願いいたします。

次に、野間駅と奥田駅前開発についてでございますが、日本福祉大学との連携事業につきましても関連がございますので、あわせて答弁をいたします。

野間駅と奥田駅前開発につきましては、これまでの経過として、平成24年度から26年度にかけて、駅前周辺の整備構想の作成、事業化の検討、事業実施に向けてのリスクによる事業への影響の調査を実施いたしました。

野間駅前開発につきましては、今後も引き続き、調査研究を行ってまいります。

奥田駅前開発につきましては、調査に基づき地権者、地元区、地元議員、大学の関係者により、土地区画整理を初めとする事業の実現化に向け協議をしておりますが、近年の地下価格の低迷などにより、事業の決定には至っていない状況であります。

このような中、駅前に立地する日本福祉大学及び同大学付属高校のある自治体として、今後、地域住民や大学との関係をさらに深めていく必要性と、また、第5次総合計画を初めとする各種計画上で、西部地区の拠点として位置づけられている観点から、今年度は、知多奥田駅前地区開発可能性調査を実施するとともに、町の関係部局と日本福祉大学の職員による検討会を組織して「知多奥田駅の周辺区域の基本構想案」の策定を行っております。本年度末には構想案がまとまりますので、まとも次第改めて御報告いたしますので、よろしくをお願いいたします。

その内容につきましては、地区の土地利用規制を前提に当地区に整備が優先され、ふさわしい施設を検討した結果、駅西側の早期事業化は難しいと判断しましたが、東側の区域開発については、未整備の2級河川山王川や都市計画道路の事業促進につながることで、また、日本福祉大学の玄関口であることなどから、事業の早期着手が必要と判断し、都市公園事業としての整備を進めていきたいと考えておりますので、よろしくをお願いいたします。

次に、美浜の里構想についてでございますが、横田貴次議員の一般質問でもお答えさせていただきましたが、美浜の里構想につきましては、農・漁業者及び商業者の参画による官民一体型で美浜の魅力アピールする大型複合施設を「町の観光拠点施設」として整備し、まちを活性化するものでございます。

拠点のエリアといたしまして、総合公園を中心とした、西は美浜緑苑入り口から南は日本福祉大学までとし、

県道小鈴谷河和線北側につきましても視野に入れた範囲を想定しております。

本構想につきましては、人やモノ、農地を初め、地域資源をフルに活用した観光等拠点整備による経済の発展と雇用の促進を目的としており、地元農産物・海産物の消費拡大や地元商業者の販路拡大、産地の育成による第1次産業の振興と雇用の拡大、遊休農地の解消、就農者の支援という効果が期待でき、地方創生総合戦略の内容も盛り込まれております。

美浜の里構想を実現するために、今年度、職員による検討会議を立ち上げ、事業の具体的規模や法の規制、国の補助内容や今後のスケジュール等を検討して構想案を作成し、また、必要に応じてコンサル等にも意見やノウハウをいただいて、実現に向け取り組んでまいります。

なお、これらの事業の優先度につきましては、どの事業も重要だと考えておりますが、具体的には3カ年実施計画の中で財源との調整も含め、優先度を検討してまいりたいと考えておりますので、よろしくお願いたします。

私からは以上です。

[降壇]

○教育長（山本 敬君）

続きまして、山本辰見議員の3番目の質問にお答えいたします。

小学校での通級学級制度、これに見合う中学校での対応をどのように準備しているかについてでございますが、通級指導教室のこととしてお答えさせていただきます。

通級指導教室につきましては、本年度6月定例会でも回答させていただきましたように、本町では、町内各小学校に設置されており、2名の教員が自校での指導及び巡回による指導を行っております。中学校につきましては、町内には配置されておりません。

中学校での配置は、知多教育事務所管内におきましては、37校中1校、愛知県全体では、名古屋市を含めた414校中19校に配置されているのみであります。小学校が、966校中237校に配置されていることと比較すれば、中学校での配置が極端に少ないことがわかりいただけると思います。

通級指導担当教員は、国から配当されるものであります。愛知県には、通常、国全体の5%程度が配当され、それが県教委、教育事務所を通じて市町村への配置が決定されます。中学校の通級指導教員が少ないのは、国からの配当が少ないことに起因するものであります。なぜ国の配当数が少ないのか、それは通級指導教室の性格上、小学校のほうが需要が多いからであります。

ここで強調しておきたいことは、今申し上げましたように、本町に通級指導教員が中学校に配置されていないということは、本町がどうしたい、こうしたいという簡単な問題ではないということでもあります。配当数の問題だけではなく、例えば、本町が中学校に通級指導教員の配置を希望する場合に、実際にそれを必要とする生徒数が担当教員を配置するに見合うだけ存在するのか、また専門的資質を備えた通級指導教員が確保できるかなど、もろもろの運用上のハードルがあります。これらにつきましては、山本議員には以前、個別に御説明したとおりでありますので、御理解をお願いしたいと思います。

しかしながら、今年度早い時期から本町の通級指導教室担当の教諭より、「中学校でも」という保護者の強い要望が出ていることをお聞きしております。

個人情報にかかわりますので詳細はお話しできませんが、既に当該の中学校とも何度か調整を図っており、その結果、特例として、中学校生活になれることを目的に1学期間、担当教員を小学校から中学校への派遣をすることを計画しております。

以上、よろしく申し上げます。

○議長（森川元晴君）

再質問はありますか。

○7番（山本辰見君）

最初のほうから取り上げていきたいと思います。

きょうは、同僚議員は、空き家の対策の問題で大きく2つ課題があると思います。いわゆる特定空き家、危険な家屋の改修なり対応策と、あわせて、いわゆる移住・定住に関連する利用・活用の問題です。

お聞きしましたら1,800軒近い空き家がある。その中で、当然いろいろな条件があると思いますから、空き家だからすぐ貸すとか売るといった形につながらないこともあろうかと思いますが、それを調査してやるということを知っているわけですが、実態は、今、小学校6学級あります。登録してあるのがたまたま重なっているわけですが、野間で2件、布土で1件、そういう3件だけでございます。何としましてもこれ、数で勝負するわけじゃありませんけれども、1つの学区に五、六件ぐらいずつ、合わせたら五、六、三十とか30件とか40件の登録に本当にふやしていく必要があるんじゃないかなと思うんです。それによって町外の方、また、中には町内の方もいるかと思いますが、一遍行ってみようかとか、のぞいてみようかという、この制度が本当に有効に活用されると思うわけですが、もちろん両方全体を調査するのは大事なことでございますけれども、先ほど私が取り上げました、いわゆるピックアップして優先してそちらのほうの登録をふやせないかということをもう一回お聞きしたいと思います。

○建設部長（斎藤 功君）

再利用できそうな家屋・土地のリストアップ、そちらを優先させたらどうだという御質問だと思います。

もちろんリストアップ、ピックアップできて、それを最優先というのは理想でございます。ただ、やはりその前に空き家の所有者の把握、空き家の実態、まずこちらを最優先させていただきたいと、そういうふうにお考えしております。その後において所有者の意向調査、所有者がどのように今の空き家を考えておられるのか、今後の取り扱い等、その辺を十分把握した上での今後の交渉というふうになってくるのではないかと捉えております。

○7番（山本辰見君）

先ほど町長のほうから、できるだけこれを充実させるために空き家の相談窓口も設置したい、それから担当者も、決して私、今、担当者が手を抜いているとかそういうつもりは毛頭ございません。本当に隣の南知多町でもそうでしたし、視察に行った市でも、本当に担当の方が朝から晩までそれに対応するような、役場に訪ねてきてくれたら一緒に対応するという形ですから、ぜひその辺は強化していただいて、今、部長から答弁があったように、調査してリストアップして対応していくわけですが、28年度に完成させるということではなくて、できれば今からでも動いて、4月には何件ちょっと前向きな答えがもらえたとかという形で、本当にこれを先行して進めていく必要があるんじゃないかなと思います。これは要望でございますから、ぜひ、その担当者もほかの兼務の仕事じゃなくてやれるような形に強化していただきたい。そして、本当に実績をつくりながらこれを進めていけたらなと思います。

今の件は答弁は結構ですが、もう一つは、具体的に、例えば率直に空き家になっている家がある。だけど、うちには仏さんがいるだとか、実はおじいちゃん、おばあちゃんが亡くなって荷物はそのままになっているとかいうところがあったとした場合、そういうことが多いわけですが、飯山市の経験では、耐震改修のこと、それからきれいに貸したいということについても補助金を出して、率直に言って、荷物を片づけるのと掃除に対しても支援という補助金を出して、まず貸せる状況をつくるための施策も考えていますけれども、

そういう形のことはどうでしょうか、考えていますでしょうか。

○建設部長（齋藤 功君）

その辺の補助の関係だと思います。

補助につきましては、平成26年度、本町もそのような補助を実際行っておりました。ただ、さまざまな問題がございまして、今年度、一部補助内容を改正して実施しているのが現状でございます。

先ほど申しましたように、空き家の所有者、例えばどうして空き家バンクに登録できないのか、そういったこともお聞きしながら、逆に、どうしたら登録していただけるのか。それには何が弊害、障害になっておるのか、そういったことも調査して、必要な補助が今後発生するようであれば、新しい補助制度ももちろん考えていきたいというふうに思っております。

○7番（山本辰見君）

決してほかの町のことをそのまま使ってやれるということは簡単にはいかないと思いますけれども、視察した飯山市でも率直に、空き家になっているけれども、実はもう、例えば息子さん、娘さんとか親戚は、もう戻る予定はないということだと、貸すというよりも、いわゆる買ってほしい、販売したいというケースのほうが多くて、登録件数も実は貸し出しの件数はうんと少ないんですけれども、販売目的というか販売として登録しているのがあります。そういう形でいくと、今いろいろ制度を充実させていきたいということでしたけれども、例えば、空き家を改修する場合の補助金、それから先ほど私が言いましたが、これは、この事業名では空き家活用事業補助金ということで家財道具の搬出だとか清掃に使う補助、金額とかはあえて言いませんけれども。それからもう一つは移住してくれる人、定住してくれる人が思い切って家を、空いた土地を買って住宅を建てる場合の助成金、あるいは中古住宅を買った場合の助成金という形で、もちろん金額はそんなに大金を投じているわけではないですけれども、そういったいろいろな形の、これはと思うような補助金を構想というか施策として持っております。

もう一点伺いたいのは、これらについての検討もですが、もう一つは、3点目に指摘しました農業体験、農地の貸し出しなども含めた、美浜町でもグリーンツーリズムとかブルーツーリズムとかいろいろな形をやっていますけど、とりわけこれは空き家だとか移住・定住ということとつながった行事じゃないような気がするんです。本当に美浜を紹介するような形に終わっているんですけど、ぜひこれを私は空き家バンク制度と関連して移住・定住につながる形でのいろいろな施策もあろうかと思っておりますけど、その辺ではどういう検討をしていますでしょうか。

○建設部長（齋藤 功君）

農地とのセットで空き家をとという取り組みは全国各地でも行われております。本町におきましても、当然そういった遊休農地等がもうございますので、農地を利用してきて、そういった空き家とセットで貸し出しができれば一番いい方法かと思っております。

また、美浜の里構想の中でも農業体験、貸し農園といった農業公園の構想もございまして。今後はそういったものもタイアップさせながら空き家のより一層の活用を進めていきたいとは思っております。

あと、農地以外でもさまざまな取り組みがインターネット等で調べますと、全国の市町村が行っております。そういった事例も本町に取り入れることができる事例があれば、そういったものも取り入れながら、一歩でも多く空き家の活用というふうに進めていきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。

○7番（山本辰見君）

美浜町、働き場所が遠いとか、離れているとか言いながら、名古屋圏に1時間で通える。本当に関東だとか大

阪から見たら、1時間で遠いって、むしろ近いぐらいという感じなわけですけど、たまたま視察に行ったところは、飯山市という長野県の北外れで新潟県に近い。でも、周りの近くの方々もですけども、関東のほうとか、あるいは大阪のほうから名古屋から、思い切って町とは違う環境のところで暮らしたいという要望もあって、結構そういう遠くから来た方もいるわけですけど、そういう方たちに対して、美浜町で例えば1週間滞在してもらって体験ツアーだとか、長いところは春、夏ぐらいを通じて田舎暮らしの体験ハウスとか、あるいは春にはこういうのがあるよということで2泊3日とか、そういう体験のことも含めた事業を、いわゆる飯山市は最初、飯山住んでみません課という、そういう名前をつけてスタートしたようです。今これはもう一つ発展して、移住・定住推進課というところがやっています。そこはいろいろな、例えばほかの市町で取り組んでいる施策を本当に取り入れて、具体的にやっていますので、ぜひこれはいいのがあれば検討したいということではなくて、実際に調べて、ぜひ都市計画課のほうから提案する形で取り組んでいただきたいと思います。これは答弁は結構です。

2点目に行きます。

先ほどの町長の構想している長期戦略、本当に実は多くの課題が、グラウンドの拡張については一定絵は描きましたけれども、多くが今検討中、あるいは構想を練っている段階で、もしかしたら構想を練るには1年、2年、3年かかって、事業が始まるのがみんな重なるような気がしているわけです。そういったときに、先ほど提案しました優先順位ですね、どれも重要だと思っているわけですけど、そういう面では、1点聞きたいのは、グラウンドの拡張の問題、この3月末に高層化が大体なるということですけども、大前提が昨年の選挙の公約で、見直しということを書いてきたと思いますけど、私たちストレートに受けとめる場合は縮小を前提とした見直しというふうに捉えるわけですね、単純に見直しということではなくて。そういう面では、率直に言わせてグラウンド2つと言ったことが町長の構想ベースの中にこういうふうにしたいという構想があるのか、まず1点目確認です。お願いします。

○町長（神谷信行君）

それでは、今の山本議員さんのグラウンドの関係につきましての御質問についてお答えさせていただきますが、確かに、先ほども御答弁させていただきましたように、グラウンドの関係につきましては、非常に規模的には私も町の町にはちょっとそぐわないかなということで見直しをかけるということでお話をさせていただいております。

そうした中で、グラウンドが、先ほどもちょっと御説明の中で申し上げますけれども、軟式野球またはサッカーが2面可能な競技場というのが計画されておりましたので、これについては私は、今の利用的な面やいろいろなことを、また防災面での必要な面積はどのぐらい必要かとか、そういったことも踏まえながら検討を今している最中ではございますけれども、実際の事業の実施に当たっては、グラウンドは1面で私はいいいのではないかと、ということで計画を今見直しをさせていただいております。ただ、やはり駐車場だとか、それからあと防災面で、そういった、仮に残土置き場、仮設住宅だとかいろいろな面を考えますと、容積的だけで事業で整備をするのではなくて、整備をするのはグラウンド1面部分。ただ、土地の確保としてはある程度面積は確保だけはしておらないかなのかなという部分は今考えておりますので、その辺を煮詰めながら、また3月のほうですね、今年度末に考え方は整えていきたいと考えておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

○7番（山本辰見君）

このグラウンド拡張については、10億円近い規模、これが縮小になっても、いわゆる8億円とかそのぐらいはかかるかと思ひます。先ほどの同僚議員の質問にも、美浜の里構想の事業規模、面積的なのは出ましたけれども、トータルでどのぐらいの予算を必要とする事業なのかということでは、金額的な案は示されませんで

した。それから、先ほどのグラウンドで9億5,000万円だとした場合、美浜町のことしの28年度の予算が77億円ですから、十何%、1割を超える事業でございます。もちろん何年かにわたってやるわけですけど、そういう事業が、野間駅前開発ではどの程度なのか、奥田駅前開発ではどの程度なのかと見たとき、それぞれやはり億、しかも2桁に近いような規模になるのか、いやそうでもないのかということがあって、そういう面では、事業が年度によって重ならないようにしていかなくやいかんじやないかなというのがあって、私は優先順位のことを申したわけですけど、美浜の里構想については、どの程度の規模のことを考えているのでしょうか。

○町長（神谷信行君）

それでは、美浜の里構想の関係でしたので、私のほうから答弁をさせていただきますが、この里構想については、先ほどエリアのほうの範囲はさせていただきましたが、その中での事業費の関係につきましても、まだまだ実際の事業費を積算していくには時間が要るかなというふうには考えております。ということは、ただ、私の中では、町が全体的なそういった施設をつくって進めていくという考えは毛頭持っておりません。ある程度やはり一番初めのころにもお話をさせていただいておりますように、地権者の皆様方の参画によって、また出資型の形で規模の美浜の里構想をつくってまいりたいというふうには考えております。ただ、主要な施設については、町がどうしてもこれは取り組まなくやいかん部分が出てくるのかなというふうには考えておりますが、それも、先ほども横田議員のほうでお話をさせていただいたかと思いますが、そういった道の駅の中でのいろいろなメニューがございます。多くのメニューがございますので、そういったメニュー等も、今からどれにどういうふうに使っていかれるかということも検討させていただきながら、実際の事業費的な面だとかそういったものも煮詰めていきたいというふうには考えておりますので、とにかく28年度がそういったスタートの中で今から1つつ前へ進めるための計画を具体的に確定していきたいというふうには考えておりますので、お願いしたいと思います。

○7番（山本辰見君）

今、民間の活力のようなニュアンスでつながったと思いますけど、実は今の、例えば道の駅とした場合にしても、いわゆる食と健康の館で私失敗したとは言いませんけれども、つまずいたように、また町立で町の職員が運営して商売に関係するようなことをやるのがいいのかどうかというのはすごく気になるところで、思い切って商工会なりそういうところとタイアップした、町はここまでは協力というか事業は展開できるけど、思い切って民間活力とか、民間が全部いいとは思っておりません。必要な課題については町、公立でやらないかん施設もあろうかと思いますが、その辺では建設から運営まで職員が主体で全部やるんだということではないほうがいいなということがあります。

それとあわせて次の点も質問したいと思います。

この構想の中に1つ触れていなかった奥田駅前開発と日本福祉大学との連携事業の中で、実は、日本福祉大学が29年4月から、正式じゃないかもしれませんが、スポーツ科学部が何かということで新しい学部をスタートさせます。温水プールもつくるようですし、新しくその学部の専用の体育館もつくるということをお聞きしております。1つ足りないのが、今足りなくて困っているかどうかはわかりません。400メートルの陸上競技の場がなく、何とかしたいなということをお聞きしていますけれども、これについて美浜町が、例えば土地を提供するだとか、美浜町がつくって貸し出すとか運営を任せるとかというようなのが、つくってほしいという気持ちではありません。日本福祉大学との関連でこういう事業が展開できないものかどうかということはどういう検討をされているのでしょうか。

○建設部長（斎藤 功君）

奥田駅前開発の御質問だと思っております。

現在、奥田駅前開発につきましては、今年度につきましては駅東で基本構想を練っております。これにつきましても、先ほど町長が御答弁差し上げたとおり、3月末において業務内容がほぼ確定するものでございます。その中で都市公園事業としての位置づけを今最終的な案として考えておりますので、御理解のほうをお願いいたします。

○7番（山本辰見君）

今具体的に答弁なかったんですが、陸上競技場に対する検討なり相談とか話題は出ていませんか。

○建設部長（斎藤 功君）

都市公園事業は、当然そういった陸上競技場も含まれた意味での都市公園事業ということで御理解いただければと思います。

○7番（山本辰見君）

では、時間が来ましたので最後の質問になりますけれども、先ほど教育長のほうから、通級指導教室のことでお話がありました。これは、あえて私が紹介するまでもありませんが、軽度の心身障害者児童・生徒のうち、いわゆる各教科等については、一定通常の学級において学習できるけれども、心身の障害の種類や程度によって特別の指導援助が必要な児童に対して補充している制度であります。

私は以前に取り上げたところでは、教育部長あるいは教育長からの答弁で、基本的には小学校低学年を対象として、3年生、4年生、5年生、6年生では極力通常の学級に復帰していただくこと、こういうことが前提であって、中学校では毛頭というか考えていない制度だということでした。

きょう私があえて取り上げたかったのは、学習面では一定ついていけるんですが、いわゆるコミュニケーションがうまくとれなくて、なかなか新しい環境になじんでいくのに時間がかかる、そういう子がいたとした場合、とりわけ皆様も御存じのように、小学校は今6校、多くのところは1クラスずつですから、1年生から6年生まで同じ友達と成長していくと思います。3年生で担任の先生が変わると少しなれるまで時間がかかろうかと。

当然中学校になりますと、それぞれの中学校3校から来ます。あわせて、授業ごとに担任の先生が変わります。部活が始まりますし、小学校とはうんと環境が違うわけですが、その中で、先ほど実際に相談も受けた方もいますし、それだけじゃないと思うんですけれども、特にコミュニケーションがうまくとれなくて、なれるまで一定の時間がかかる子のフォローは、通級学級という形じゃなくても、例えばクラスを持っていない先生がどういう補助、援助に入れるのかとか、そういうことがすごく大事なかなと思います。先ほど教育長のほうから、少しそれに触れたような御答弁いただきましたけど、もう少し中学校での対応をお願いしたいと思います。

○教育長（山本 敬君）

中学校での対応ということですが、まず1つ目、通級指導教室は、本当に、今例えば東側の先生は12人もっております、3校で。それぞれ週1ないし2時間、その子の発達障害、ハードルに合った指導をしております。山本議員がさっきおっしゃったコミュニケーション能力の不足という、そういう子もいます。

また一方で、これはアスペルガー症候群に多いのですが、急に何かをやれと言われるとパニックになる。例えば、月曜日から音楽でリコーダーをやるね。ずっと半年ぐらいリコーダーをやっていなかった子は、それを言われると非常にパニックになるんです。そういう子に対して前もってリコーダーの練習をさせておく。それも通級指導でありますし、コミュニケーション能力にやや問題がある、そういう子は、週1ないし2を使ってコミュニケーション能力を補っていくような、そういうスキルをするという、いろいろなケースがある。それは通級指導教室であります。

ただ、そういういろいろなケースをさばっていくには、本当に経験を踏んだ優秀な素質を持った、研修を積ん

だ教員が必要になってくるわけであります。そういう意味で、現状は本町は2人通級指導教員がおりますが、本当にどこへ出しても恥ずかしくない経歴、実力を持った教員だと思っております。そうした教員を中学校に派遣するということは、小学校でも既にそういう需要があるわけですよね。そういう需要を削って中学校へ行かなきゃならない、それが現実であります。限られた人間、限られた時間、それは当然のことです。そういう意味で、先ほど答弁させていただきましたことについては、教育委員会としては苦渋の決断であると。やはり中学校の子にも指導をしたい。ただ、それは小学校で削れてくるわけですよね。だから、最初の答弁で申し上げましたが、本当にあっちをやって、こっちをやってという、そういう簡単なものではないということは重々御理解をいただきたいと思います。

それから中学校につきましては、先ほど山本辰見議員おっしゃってございましたけれども、小学校に比べて人間に余裕が少しあります。担任を持っていない。ただ、そういう者がいつもフリーで動いているかという、そうではないんですね。例えば、中学校でいうと取り出した時間、それをいつ補うのか、これが問題になってきます。中学校ですと進路が絡んできます。評価、評定が絡んできます。取り出した時間、それをいつ保障するのだ、これは誰が、どこでやるのだ、これは大変な問題であります。数学の時間を取り出す。数学の先生が、また別なところで授業後でやらなければいけない。その数学の先生が部活の顧問をやっている。部活はどうするのだというような、それが生徒会だとか委員会だとか生徒指導だとかもろもろの状況と絡んでくるわけでありますので、非常に細かいデリケートな問題を含んでいるということで御理解をいただきたいと思います。

以上です。

○議長（森川元晴君）

山本君、時間となりました。

○7番（山本辰見君）

終わります。

○議長（森川元晴君）

以上をもって、山本辰見君の質問を終わります。

〔7番 山本辰見君 降席〕

○議長（森川元晴君）

次に、8番 鈴木美代子君の質問を許可します。鈴木美代子君は質問をしてください。

〔8番 鈴木美代子君 登席〕

○8番（鈴木美代子君）

議長の許可がありましたので、あらかじめ議長に提出しました一般質問通告書に基づいて順次質問し、町当局の明快なる答弁を求めるものです。

第1点目は、巨大地震に備えての防災対策であります。

巨大地震が来るぞ、来るぞと言われて久しいわけですが、地震が起きた場合、町民が避難所等に逃げる道路等の確保が重要であります。

1、町内には老朽化した危険な空き家があり、倒壊したとき、道路をふさいだりするなど非常に危険であります。しかし、家を壊して更地にするには多額なお金が必要であり、まずは老後の生活に必要な生活費が第一で、家を壊す余力がないと訴えている町民が多い。空き家を壊すために町として助成はできませんか。来年度の新規事業に「空き家対策推進業務委託」があり、危険な空き家に対する措置という内容ですが、これと関連はあるでしょうか。

2、町内には狭い道路が多く、一旦地震が起きたら、老朽化したブロック塀が倒壊して、町民が逃げるときに危険であります。町内のブロック塀を総点検して安全対策が必要ではないでしょうか。

3番、河和のお城山のふもとが土砂崩れをしております。このまま放置すると、もっと危険な状態になります。町としてどう対処するつもりですか。

2番、少子化が進む中で河和南部小学校の今後の対応をお伺いしたいと思います。

保護者は、子どもたちのこと、学校のことがとても心配でたまらないのです。学校がなくなるといううわさが本当のように伝わってくるのです。こんな不安な材料が子どもたちまでに伝わったらと思うと、子どもたちが知ったらと思うと、学校生活に不安なうわさが広がったら子どもたちがかわいそうです。保護者の不安をなくすためにも、現在の状況を説明する会合をぜひ開いてもらえないでしょうか。

前回の教育長の答弁では、将来的にはこのまま複式学級でいくか、統廃合にするのか、小学校区の見直しをするとか、統廃合をして小中一貫校を考えるのか、対策はいろいろあると言われましたが、教育委員会だけで一方的に考えて結論を出すのではなく、保護者・地域の人たちも一緒に話し合うべきであります。教育委員会だけで結論を出して、その後、その結論を保護者や地域の人に押しつけるというやり方は、やはりよくありません。町として責任ある対応を求めるものです。

3番です。介護保険の制度改善を求めます。

介護保険のうち、住宅改修と福祉用具の受領委任払い制度が、県内54市町村の約8割の自治体が実施しております。高齢者が安心・安全に老後を暮らしていくためにも、住宅改修と福祉用具の受領委任払い制度をこの美浜町でも実施すべきではないでしょうか。

最後になりました4番です。病児保育の実施についてお伺いします。

女性も男性同様、社会に貢献して働きたいと思っています。働く以上は、責任を持って仕事をしたいと考えています。言うまでもなく、子どもは夫婦の、そして家族の宝であります。同時に社会の宝でもあります。社会全体で子育てに責任を持っていくべきであります。しかし、一旦子どもが病気になると、周りに助けてくれる人がいないと女性が会社が休んだり、辞職したりしていきます。それがさも自然のように。私は、今、病児保育を子育て支援策の一つとして、この美浜町で計画的に実施すべきだと考えています。そのために、今何をなすべきか、まず若い子育て世帯に病児保育の実施に向けてアンケートをとったらでしょうか。知多厚生病院と町が実施のために何が足りないのか、何を準備したらいいのか話し合ったらどうでしょうか。

以上で壇上での質問を終わります。

〔町長 神谷信行君 登壇〕

○町長（神谷信行君）

先ほどは、私の喉の不調によりお聞き苦しい点がありましたこと、まことにすみませんでした。おわび申し上げます。また不調が出ましたら、お聞き苦しい点が出ましたら、申しわけございませんが、お許しいただきますようよろしくお願いいたします。

それでは、鈴木美代子議員の御質問にお答えいたします。

御質問の1点目、巨大地震に備えて防災対策をの3つ目の質問については教育部長より、御質問の2点目、少子化が進む中で河和南部小学校の今後については教育長よりそれぞれ御答弁申し上げますので、それ以外の御質問については私からお答えをさせていただきます。

初めに、巨大地震に備えて防災対策をの御質問の1点目、来年度の新規事業で、「空き家対策推進業務委託」があり、危険空き家等に対する措置ですが関連はあるのかについてでございますが、議員御質問の老朽化した空

き家を壊すための補助金等の助成は考えておりません。

なお、「空き家対策推進業務委託」についての御答弁の前に、昨年5月に施行されました「空き家等対策の推進に関する特別措置法第3条」につきまして御説明いたします。

この法第3条は、「空き家等の所有者・管理者は、周辺の生活環境に悪影響を及ぼさないよう、適切な管理に努めるものとする。」と規定しており、所有者・管理者の空き家等の管理責任を明らかにしたものであります。

しかしながら、空き家等の所有者等が経済的な事情などから自らの空き家等の管理を十分行うことができず、その管理責任を全うしない場合においては、所有者等の責任を前提としながらも、町はまず空き家等の状況を把握した上で、周辺の生活環境に悪影響を及ぼす空き家等については所要の措置を講ずることになります。

また、「特定空き家等」に該当すると認められた場合は、法的措置だけでなく、空き家等の除去や適正な管理を促すための財政支援措置なども用意すべき旨を規定しています。

これらの規定を踏まえ、町においては、議員の御質問の「空き家対策推進業務委託」により、来年度、空き家等の状況を把握する実態調査を行い、協議会の設置、空き家等対策計画の策定に向けた取り組みを進め、国及び県からの補助金等の獲得など、空き家等所有者への家屋解体費用や空き家等の有効活用を図る助成等を調査・検討してまいります。助成は先ほど御説明いたしました特定空き家等の対策に限定されますので、御理解いただきますようお願いいたします。

次に、御質問の2点目、町内ブロック塀を総点検し、安全対策が必要ではないかについてでございますが、ブロック塀の点検につきましては、かなりの過去となりますが、建築士等専門家により、通学路を中心に鉄筋の有無、傾き、亀裂などを点検し、所有者にその結果を通知する形で実施した経過がございます。

改修等の対応については各所有者にお願いしていたため、安全対策が全てとられているとは考えておりませんが、近年の震災によるブロック塀等への被害から、その対策の重要性を改めて認識しているところでございます。しかし、ブロック塀は、私的財産で所有者の責任において管理することが基本となりますので、町民の皆様にも御理解をいただきながら、ブロック塀から生け垣への変更等、より安全な対策の啓発に努めてまいりたいと考えております。

次に、御質問の大きい3番の介護保険の制度改善をについてでございますが、介護保険の住宅改修と福祉用具の受領委任払い制度については、現在、知多5町では、阿久比町、南知多町、美浜町の3町が未実施となっております。

住宅改修と福祉用具購入については、介護保険で認められた費用額については、一旦全額御自身で支払っていただいた後、本人の負担割合に応じて、9割もしくは8割分が支給される仕組みとなっております。

受領委任払いの制度を利用しますと、介護保険で認められた費用額については、御自身の負担割合に応じて、1割もしくは2割分を登録業者へ支払っていただき、残りの9割もしくは8割分については、町の介護保険から業者に支払われ、利用者が費用全額のお金を用意しなくても済むようになります。

本町におきましても、受領委任払いの制度を取り入れたほうが、介護保険の被保険者の方が制度を利用しやすくなると考えており、準備を進めております。来年度には、事業者の登録のための説明会を開催し、平成28年12月から受領委任払いが可能となるように考えておりますので、よろしく御説明いたします。

次に、病児保育の実施をについての御質問でございますが、子ども・子育て支援計画策定において、基礎データとして調査いたしました当事業へのニーズ調査では、回答者450人のうち約1割の方が「できれば病児・病後児保育施設を利用したい」と回答されました。また、サービスの形態では、約8割の方が「小児科に併設した施設で子どもを保育するサービス」の利用を希望されておりました。

そうしたことから、この事業を実施するに当たり、小児科を常設する知多厚生病院に御協力いただけることは、最もニーズに合った実施体制と考えられます。しかし、先ほどの大岩議員への答弁で申し上げましたとおり、病院施設内の開設、病院敷地内での設置は困難との回答をいただいております。先ほど申し上げましたことと同様ではございますが、引き続き、実現可能な実施体制につきまして検討してまいりたいと考えておりますので、よろしくお願ひしたいと思います。

私からは以上でございます。

〔降壇〕

○教育長（山本 敬君）

続きまして、鈴木美代子議員の2番目の御質問にお答えいたします。

少子化が進む中で、河和南部小学校の今後についてでございますが、目指すところは、河和南部小学校の児童にとって何が一番よいか。これから何十年も生きる、本町の宝であります、河和南部小学校の子どもたちが健やかに成長し、幸せな人生を送ってほしいということでもあります。

統合、校区の見直し、小中一貫校など、それぞれの可能性を探りながら、今申し上げましたように、河和南部小の子どもたちにとってどうすることがより幸福につながるのかということをお大原則に、いつ、どういう方策を講じることがその目的にかなうのか、慎重に検討しているところであります。

議員の御質問の中に、「教育委員会だけで結論を出して押しつける」というような文言がございましたが、私も行政に携わる者として、「白紙の上で、さあ考えましょう」ということは適切ではないと考えております。いずれのときにか、本町全体の小・中学校についての将来的な構想を含めて、町の方針を御説明申し上げながら、保護者や住民の皆さんと話し合う機会を設けたいと思っております。

いずれにしても、少子化の問題は河和南部小だけの問題ではありません。遠くない将来、町内の幾つかの小学校でも起き得る問題であります。教育委員会としましては、10年後、20年後、30年後の本町の小・中学校教育の発展と充実、そして、再三申し上げております、本町の子どもたちの幸せを目指して、その望ましい将来像を構築していく所存であります。議員におかれましては、御理解、御協力をよろしくお願ひいたします。

○教育部長（牧 守君）

第1問の巨大地震に備えて防災対策をの第3点目、河和お城山のふもとが土砂崩れをしている。町としてどう対処するつもりでいるのかについてでございますが、河和城跡につきましては、これまでも現状維持を原則といたしまして、竹払いなどの作業を地元区の方々の御協力をいただきながら行っております。

この場所は高低差のある丘陵地で、樹木に覆われ、唯一、階段を上って頂上に行けるような地形となっております。崖崩れは、昨年9月に城跡の北東側で、規模といたしましては高さ10メートル、幅約5メートル程度の規模で地滑りのような状況で起きております。

この現場は、近くの道路からは15メートルほど離れておりまして、手前には柵があり、人が容易に近づけない場所にあります。また、一般の通行人や近隣への危険が及ぶことは、現場の状況などから見ましても少ないと考えております。もともとこの現場は、昔、土砂採取の跡地であり、崖が削り取られ急斜面になっておりまして、竹などが生えておりましたが、その一部が風雨にさらされ、竹などの根が揺すぶられ崩壊したものと考えられます。

今後におきましては、手を加えるよりは経過を目視で観察しながら、自然の草木が回復するのを待ち、維持保全してまいりたいと考えております。もし、手を加えようとした場合、調査設計費を含めまして、500万円から数千万円の費用が必要だと試算しておりまして、費用対効果を考えますと、今後も経過観察という形で管理する

ことが最善の方法と判断しておりますので、よろしく願いいたします。

以上でございます。

○議長（森川元晴君）

再質問はありますか。

○8番（鈴木美代子君）

順番にやっていきますので。

ブロック塀についてでありますけれども、ブロック塀も調査をしたということですが、それは何年ごろの話ですか。

○建設部長（斎藤 功君）

これは相当以前、昭和の終わりぐらいということで、実際資料を探してみたんですけれども、すみません、もう見つかりませんでした。

以上でございます。

○8番（鈴木美代子君）

そんな古い話を持ち出さないでほしいと思います。

私、質問する以上はということで、ずっと歩いたり、車に乗ったりいろいろやって調べてみました。全部じゃないですよ、一部だけですけども。やはり危ないところがあるんです。今危ないとされているのは、ブロックが5段積んでいる、5段以上積んでいる、そういうブロック塀が危険だと言われてますよね。あるんです。色が黒く汚れてしまった古い老朽化したブロック塀があるんです。

私は、本当に地震対策というのはばんと大きなことをやるんじゃなくて、やはりブロック塀だとか、それから空き家の問題もそうですし、家具の転倒防止だとか、ああいう本当に小さなことの積み重ねで災害を大きくしないという、それがやはりその心構えが大切だと思うんですよね。やはりブロック塀はもう一度、そんな昔の昭和の終わりじゃなくて、やはりたくさんの人手が要るかもしれませんが、もう一度調査してほしいんですが、いかがですか。

○建設部長（斎藤 功君）

ブロック塀でございます。先ほどから空き家対策に対する御答弁をさせていただいております。この空き家につきましては、当然、建築物の敷地全てを確認するという作業になりますので、当然、ブロック塀についてもその際に、空き家に限ってしまいますけれども、チェック等はさせていただきたいというふうに考えております。

また、町として今、ブロック塀対策として生け垣設置奨励補助金も行っております。これ、平成2年から行っております。ということですので、先ほど私が、昭和の終わりぐらいにブロック塀の点検をしたといった中で、こういった補助制度ができたというふうに御理解いただければと思います。よろしく願いいたします。

○8番（鈴木美代子君）

私は覚えていますよ、昭和の終わりごろに64年、62年ごろから議論をやっていますから、その話は覚えてます。私自身も一般質問でブロック塀を総点検してほしいという質問もしたことあるんです。それぐらいやはりブロック塀は危ない。地震の絵を見たり写真を見たり、いろいろそういう映像を見ても、やはりブロック塀が倒れていますよ、みんなばたばたと。歩けないですよ、あの辺は。全然道路然としていなくて、大変危険な状態になりますので、やはりぜひブロック塀を点検してほしい。特に、まずは目視でもいいものですから、古いブロック塀はよくわかります。ぜひやってほしいんですが、いかがですか、できますか。

○建設部長（斎藤 功君）

先ほど御答弁させていただきました、空き家等に関する部分のブロック塀についてはもちろん調査させていただきます。ただ、今お住まいの、住んでみえる方の住宅のブロック塀、そういったものにつきましては、今現在調査するという方向性は出ておりませんが、もしそういった箇所がございましたら、職員も現場に行きよくそういったものは確認しております。その都度、所有者の方には修繕等をお願いしているような状況でございますので、議員の皆様におかれましては、もしそういった箇所がございましたら、私どものほうに御通報いただければ幸いかと存じます。

○8番（鈴木美代子君）

もちろん私たちも気にはしているんですけども、ちゃんとやるべきところは防災対策の部長さん以下の職員の方が全部やるのか、直接やるのか、誰がやるのかわかりませんが、私たちに振らないでください。私たちも協力はします。もちろん、やぶさかじゃありません。でも、やはりきちんとやってほしいんです、責任あるお仕事ですから。ぜひよろしくをお願いします。

それと、危険な空き家についてです。

私が言っているのは、確かに空き家は保存して使える空き家と危険な空き家とあるんです。私ずっと、西側は見えてませんが、東海岸のほうを見ましたが、やはりあるんですね。震度4か5ぐらいの地震が起きればがしゃんとくるような古い空き家もありました。やはりすごい危ないですね、あれは。うちだけが壊れるんじゃないで、その家もやはり国道に面していましたので、被害が大きくなるもとだと思うんです。ぜひそういった危険な空き家を壊して安全対策をとってほしいんですけども、1軒家を壊すのに最低でも100万円はかかると言われています。100万円というお金は大変なお金ですので、もう跡取りが出ていってお年寄りが残っている家なんかが多いんですが、そういうところでは100万円というのは大きなお金なんですけれども、そういう家を壊すのに財政的な援助は、特定家屋と認定されなければだめなんですか。

○建設部長（齋藤 功君）

本町におきましては、将来的には特定家屋、そういったものに認定された後において、もちろん最終的に取り壊していただくのは本人になります、所有者になります、これが大原則でございます。ただ、特定家屋等に認定されて、もし壊していただけない場合は、最終的には行政代執行という手法になろうかと思っています。そういった意味で、現段階では補助とまでは考えておりませんので、よろしく願いいたします。

○8番（鈴木美代子君）

もちろん全額助成してくれと言っているわけではなくて、細々と暮らしているお年寄りが払っていけなくて本当に困っている様子を見ると、少しでも町が助けてやれたらいいなと思っているだけなんですけど。

○建設部長（齋藤 功君）

先ほどはちょっと原則のことを述べさせていただきました。ただ、こういった空き家対策に対しましては、国・県も市町村に財政的支援をなささいというような法律になっております。そういった意味で、今後もそういった補助制度の新設等、国・県も検討していただいておりますので、その辺も見きわめながら行っていきたいと思っております。

○8番（鈴木美代子君）

ありがとうございます。

南部小学校についてであります。

南部小学校は、今、教育長さんが述べられたこと、私も本当によくわかります。南部小学校の子どもたちの幸せのために、将来的にどんな生き方をしていくのか、その幸せのために今私たちが頑張っていると思っています。

教育長さんのおっしゃるとおりだと思います。ただ、私は、今手をこまねいて本当に子どもたちをどうしたらいいかという、何もしないじゃなくて、やはり保護者も加えて、地域の人たちも加えて、今こういう現状なんだけれどもわかってほしいという説明が今必要ではないかなと思うんです。ただ急に、教育委員会ではこういうふうだから、教育委員会としてはこういう結論というのか、こういうふうにしたいんだけど、ぜひ御理解くださいじゃなくて、今こういう現状だから、何とか教育委員会も一生懸命やるから理解してほしいという今の現状を見てもらうというか、今の現状の中で親と地域の人と話し合う、それが必要だと思うんです。実は、河和保育所をなくしました、統廃合で。そのときも本当に反対が多くてつらい思いをしているんですね、地域の方は。だからこそ、今回は小学校がもしかして統廃合でなくなったりすると大変だから、その前にぜひこの現状をみんなに話してほしいと思っているんですけど、いかがですか。

○教育長（山本 敬君）

説明が必要であるというお言葉をいただきました。まさしくそのとおりであります。ただ、先ほど来申し上げておりますように、真っ白の状態、さあ、どうしましょうかというかという、そういうことはしませんからね。

教育委員会の方針としましては、私自身、少人数学級、通常40人ですが、それが30人、20人、それを否定するものではありません。ただし、少人数にもやはり限界があると思っております。実際に複式学級は、私は、教育委員会としましては、やる意思はありません。

複式学級のデメリットをお話ししますと、例えば、非常に複式学級、ほのぼのとした牧歌的なそういう雰囲気があるわけでありまして、現実には2学年と一緒に授業をするわけですね。算数の授業を5・6年生がやる。片や、5年生の子は分数の割り算をやっている。片や、6年生の子は算数の図形をやっているという、そういうような状況が生まれる。それはどの教科でも同じであります。そういう意味で、やはり学習効果は低いと言わざるを得ません。

もう一つ、幾つかあるんですが、例えば学年行事、修学旅行でも、5人で行って楽しいでしょうか。わかりませんがね。そういういろいろな活動が本当に小集団に帰結していく、これはやはり社会性を養う学校としては、私は適切ではないと思っております。

くどいですが、少人数学級を否定するものではありません。ただ、限界がありますよということでもあります。

それから、複式学級でもう一つしばしば問題になるのが、男女の性の偏りであります。例えば、うちは6人いるけど、女の子が1人、7人いるけど、男の子が2人というような集団でずっと育って行って本当にそれが幸せにつながるのか。けんかをすることもあるでしょう。けんかをした場合、何年も引きずることって実際あるわけじゃないですか。そういう意味で、少ない集団というのはいろいろな危険性を伴っているということは御理解いただきたいと思っております。

ということで、今申し上げましたけれども、いずれの時期にか、私どもとしては、そのときに河和南部小はこうなりますよ。でも、その次の段階、何年後かにはどこどこ小もこうなります、どこどこ小もこうなります、だから最終的に美浜町はこうなっていくんですというビジョンをお示しいたいということで今検討がされておりますけれども、すぐには結論は出ませんので、いましばらくお待ちください。ただ、いずれのときにか、やはり河和南部小の保護者の皆さんには、こういう形で、もう人数が減ってきます。保護者の皆さんもわかっていらっしやると思いますが、行く行くはこんな形で考えているというところでお話をしたいと思っております。

以上であります。

○8番（鈴木美代子君）

今、南部小については教育長、山本先生に私もお願いしたように、本当に子どもたちが第一ですから、本当に

子どもたちのことを考えてほしいと思います。そして、今先生おっしゃいましたように、話し合いをする、やるということですので、話し合いは保護者だけでなく、その地域の人たちもみんなお誘いして、今こういう状況だよという話し合い、説明をして、こういう方向とこういう方向ぐらいあるけど、何かそういうような話し合いをされるんだろうと思うんですけども、ぜひしていただきたいと思います。

それから、河和のお城山についてであります。

お城山は、当分あのままに観察していくという話でしたけれども、私は、あそこへ行って、子どもがもし親の不注意というか、地域の人不注意でも、あの近辺に行って、たまたまずれてきたらえらい事故になると思うんですよ。だから、あれはやはり幾らお金が要るか知りませんが、やはり手を加えてちゃんとしておかんと責任問題になると思いますよ、何かあったときには。だから、私はお城山の土砂崩れについては本当に早急に手を打ってほしい、ぜひやってください、そう思っています。

それから、病児保育ですけれども、病児保育は、10年前に厚生病院の片桐先生だと思うんだけど、施設の整備で毎年2,580万円ずつ美浜と南知多で補助金を出していく説明に来られたときに、先生に私は念を押ししたんです。「美浜としては病児保育をぜひやっていただきたいのだが、先生、どうですか」と言ったときに、その当時の院長先生は、「今、部屋もちゃんと、今度建てる部屋も用意してあるから大丈夫です」と言われましたので、今そういう答弁を、部長さんだったかな、したと思うんですね。確かにそのとおりで、そういう答弁をしていますし、私は山下課長さんとのことで話をし、1週間ぐらい前に、そのときも、山下さんもこういうふうで、やはり部屋はあるんだけど、院内感染を病院としては心配しておって、託児所と病児保育の部屋へ行くのに、病児保育の人たちが託児所の横の通路を通らなきゃいけないのかな、何かそういう感じで、院内感染が心配だということで、今なかなか話が煮詰まらないということも聞きました。全然だめじゃないものですから、ぜひ病児保育の実現に向けて粘り強く話していただきたいと思いますんですが、いかがですか。

○議長（森川元晴君）

まず、教育部長、答弁のほうをお願いします。

○教育部長（牧 守君）

早急にお城山の工事のほうをやってほしいということでございますけれども、直ちにやることは今のところ考えておりません。当然、道路のほうに土砂が流れてくるだとかそういうケースにつきましても、土木課のほうと調整しまして工事のほうを進めてまいりたいと思っております。現状におきましても、今、階段を上って頂上まで行って、あの崖の部分のところで子どもたちが遊んだとすると、落ちただけでも危険と言われれば危険なんですね、本当に。そういった意味では、現状、子どもたちが入らないようにということですか、立て札で注意喚起だとかそういうことだけはとりあえずやらせてもらいますけれども、工事については必要性がどうしてもやる必要があるということであれば、そういった判断をした場合については、こちらのほうで直ちに対応してまいりたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思います。

○厚生部長（岩瀬知平君）

厚生病院の病児保育の件ですけど、おっしゃるとおりでして、当初の基本設計の段階では、病児保育をやるということで建築が始まったと聞いております。それで、途中でいろいろと設計変更が行われて、でき上がったものに関しては、今、病児保育ができない状態ですということ聞いておまして、じゃあ、改造したらどうだということも申しあげましたけれども、改造に多額のお金がかかるということで、そもそも病院に来る入り口から分けたいというようなこともおっしゃられておまして、なかなかそうなると、現状では難しいねという話でございます。

それで、病児保育を病院以外でやるとどこでやるかという、保育所の専用スペースをつくるとか、あるいは保健センターで専用スペースをつくるとか、あるいは専用の建物をつくるとか、そのくらいの選択になってくるのかなと思っております。

厚生病院との話では、敷地の近くで何とか探せたらいいなというようなことをおっしゃっておられましたので、今後も交渉を続けていきたいと思っております。

○8番（鈴木美代子君）

実は、宮本先生とも一月ぐらい前にお会いしましたが、その前に常滑の病児保育をやっているタキタキッズ、瀧田医院にもお邪魔しました。やはり瀧田医院では、感染症の子どもたちを部屋にまとめて入れているんですが、感染症の子はこの部屋に、感染症の病気がない子もいるんですね。この部屋とかというふうに、同じ施設に入っていましたので、何か工夫はあると思うんですね。ぜひ、タキタキッズという常滑の病児保育を15年ぐらいやっているところですけども、ぜひ先進地の視察に行ってくださいと思います。

それから、先ほどの崖崩れですけど、この写真を撮ってきてあるんですが、大きくしていないのでわかりませんが、本当にずれているんですね。子どもがそこへ行って、もし巻き込まれたりしたら大変だし、何も、ただ竹の棒がこういうふうにしてあるだけで、それも折れていて、全然つかえ棒にはなっていないんですよ、遮断はされていません。だから、机上の論理と、やはりそこへ行って見ることと全然違いますので、ぜひきちんと対策をとるべきだと私は思います。

建設部長さんに、現場を見てきましたか、私、写真差し上げたから。どう思われたか。

○議長（森川元晴君）

まず、どうしましょう。まず、病児保育のほうから、順番に行きますので。

○教育部長（牧 守君）

現場のほうにつきましては、私は何回もあの前を通っておりますので確認させていただいております。確かに崖がずれておまして、それは確認しておりますので。ただ、先ほども答弁書の中で御説明させていただきましたけれども、土採り場の跡だということで、毎回毎回あそこはずれていくような状況は今後も続いていくと思います。道路からは15メートル以上も離れておりますし、竹の柵が一応完全な柵じゃないのかもしれないですけど、アジサイさんのほうで一生懸命やっただいて、一応中に入ろうと思えば入れますけれども、一応柵としての機能を果たしているのかなというような気がしております。

答弁でも申し上げたように、状況を経過を見ながら、本当にこれどうしても工事が必要だというふうに判断できるような状況になりましたら、町のほうもぜひやっていきたいと思っておりますが、現時点においては、すぐかどうかというような話ではないと判断しておりますので、その点御理解いただきたいと思っております。

○厚生部長（岩瀬知平君）

病児保育の件です。

保育室と安静室とか経過観察室ですね、それが分けられていないといけないという条件がございますんですけど、厚生病院さんのほうはかなり厳密にそこら辺を考えられていて、その辺、何とかならんかなというのは個人的には確かに思うわけですが、なかなか本当に院内の中で出したら大変だということを非常に危機感を持っておられるので、そこはなかなか調整できんのかなという感じはしております。

また、当該事業につきましては、必要な親御さんという気持ちは本当に私どもよくわかります。ですが、世間一般的に、本当に病児保育が必要なんだという認識はいま一步まだないような、そんな感じをいたしております。私ども今後も職員一同必要性を十分わかっておりますので、努力していきたいと思っております。

〔「建設部長は」と呼ぶ者あり〕

○議長（森川元晴君）

先ほど教育部長が答えられたんじゃないや……建設部長も。

〔「現場は見たんですか」と呼ぶ者あり〕

○議長（森川元晴君）

じゃあ、現場を見られたかということですので。

○建設部長（斎藤 功君）

現場につきましては、鈴木議員から写真を見せていただいた段階で土木課職員と見てまいりました。

〔「どう思うか」と呼ぶ者あり〕

○議長（森川元晴君）

鈴木君、質問してください。

○8番（鈴木美代子君）

どう思ったんですか。このままほかっとけばいいと思ったんですか。

○建設部長（斎藤 功君）

お城山に関することでございますので、担当教育部のほうで所管しておりますので、先ほど教育部長の答弁のとおりでよろしく願いいたします。

○8番（鈴木美代子君）

教育部長さんはそういうふうに言われましたけれども、やはり心配です、すごく。あのままずれてくる、下にもしかして子どもがいて、ずれてくる可能性もあるし、道路から大分離れていると言いますが、道路から入っていけないという、何もなかったですよ、一切、私行ってきましたけれども。だから、何としても、多分、子どもが遊んだりするので近くにいくかもしれません、あそこはきちっと対策をとらないと、後で責任問題になると思うんです、私。ぜひきちんとやってください。

それから、病児保育ですけれども……

○議長（森川元晴君）

鈴木君、1問ずつでいきますか。

○8番（鈴木美代子君）

はい。

○教育部長（牧 守君）

繰り返しの答弁になりますけれども、必要性が認められれば、私ども直ちに必要であるなら工事のほうをやらせていただきたいと思いますと考えておりますので、よろしく願いしたいと思います。

○8番（鈴木美代子君）

病児保育の話ですけれども、私は厚生病院に対して、もちろん要請があつてのことですけれども、毎年2,580万円を町民の税金から補助金も10年間、まだ今のところ8年間ですかね、出してきましたし、この計画、予定では2年間とか言いましたが、来年から1,984万円という大切な税金を厚生病院に補助金として出すことになっているんですね。ぜひ、私はもっと町としては、もうちょっと、もうちょっと強い態度で、ぜひ協力してほしいという態度で申し入れてもいいんじゃないかなと思うんですけれども、いかがですか。

○厚生部長（岩瀬知平君）

厚生病院さんとしては、病院が素人目から見ると大きな病院だなというふうに思われるみたいですけど、何分

コンパクトでスペースが非常に少ないということの中で、じゃあ、どの部分を優先するというところでございます。今でも病室というのは少ない、足りていないという状況の中で、病室を例えばつぶして病児保育をやるのかというところまで議論が必要かなと思います。もし町が強い態度で押していけばやってくれる可能性はないことはないというふうに考えております。

○8番（鈴木美代子君）

あと時間は全くありませんけれども、今回は災害対策と、本当に福祉の問題で病児保育、それから南部小学校の話で、これからは南部小学校だけの問題じゃないと思いますけれども、この美浜町の子どもが少ないというところに行き着くのではないかなと思うんです。

私はずっと質問してきて、これだけは言わなきゃいけないと思ったのは、ぜひ町長に子育て支援策を、子どもをふやそうという支援策をぜひとっていただき、そのことを最後をお願いして終わります。

○議長（森川元晴君）

町長、いいですか、答えられますか。

○町長（神谷信行君）

今、鈴木議員のほうからも、子育て支援策ということでお話がありましたように、当然、町としまして、今から子育てを支援することによって、やはり子どもさんを多く美浜町の中で産んでいただいて育てていただくということに力を入れていきたいと考えておりますので、先ほどの病児保育等につきましても、また厚生病院さんのほうともいろいろ協議させていただきながら、またどういった形になるかはわかりませんが、努力はさせていただきたいなと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

以上です。

○議長（森川元晴君）

ありがとうございました。

以上をもって、鈴木美代子君の質問を終わります。鈴木君は自席に戻ってください。

〔8番 鈴木美代子君 降席〕

○議長（森川元晴君）

これをもって、町政に対する一般質問を終わります。

○議長（森川元晴君）

以上で本日の日程は終了しました。

お諮りします。議事の都合により、あす3月4日から3月6日までの3日間を休会としたいと思います。これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森川元晴君）

御異議なしと認めます。よって、あす3月4日から3月6日までの3日間を休会することに決しました。

来る3月7日は午前9時より本会議を開き、引き続き町政に対する一般質問を行います。

本日はこれにて散会します。皆様、お疲れさまでした。

〔午後2時43分 散会〕

平成28年3月7日（月曜日）

第1回美浜町議会定例会会議録（第3号）

平成28年 3 月 7 日（月曜日） 午前 9 時 00 分 開議

◎ 議事日程（第 3 号）

日程第 1 町政に対する一般質問

◎ 本日の会議に付した事件

〔議事日程と同じにつき省略〕

◎ 本日の出席議員（13名）

1 番	横 田 貴 次 君	2 番	荒 井 勝 彦 君
3 番	大 岩 靖 君	4 番	横 田 全 博 君
5 番	大 崎 卓 夫 君	6 番	丸 田 博 雅 君
7 番	山 本 辰 見 君	8 番	鈴 木 美 代 子 君
9 番	野 田 増 男 君	10 番	森 川 元 晴 君
12 番	石 田 秀 夫 君	13 番	杉 浦 剛 君
14 番	江 元 梅 彦 君		

◎ 説明のため出席した者の職、氏名（25名）

町 長	神 谷 信 行 君	副 町 長	石 川 達 男 君
教 育 長	山 本 敬 君	会 計 管 理 者	大 井 徳 男 君
総 務 部 長	本 多 孝 行 君	企 画 部 長	永 田 哲 弥 君
厚 生 部 長	岩 瀬 知 平 君	経 済 環 境 部 長	齋 藤 博 君
建 設 部 長	斎 藤 功 君	教 育 部 長	牧 守 君
総 務 課 長	沼 田 治 義 君	防 災 安 全 課 長	石 濱 克 彦 君
税 務 課 長	廣 澤 辰 雄 君	企 画 政 策 課 長	磯 貝 尚 美 君
秘 書 広 報 課 長	谷 川 徳 寿 君	住 民 課 長	茶 谷 佳 宏 君
福 祉 課 長	西 田 林 治 君	健 康 推 進 課 長	坂 本 順 一 君
商 工 観 光 課 長	竹 内 康 雄 君	環 境 保 全 課 長	岩 本 健 市 君
土 木 課 長	鈴 木 学 君	都 市 計 画 課 長	石 川 喜 次 君
水 道 課 長	鈴 木 晴 雄 君	生 涯 学 習 課 長	河 村 伸 吉 君
学 校 給 食 セ ン タ ー 所 長	森 川 幸 二 君		

◎ 職務のため出席した者の職、氏名（2名）

議 会 事 務 局 長	岩 本 修 自 君	主 幹 兼 議 会 係 長	夏 目 明 房 君
-------------	-----------	---------------	-----------

〔午前 9 時 00 分 開議〕

○議長（森川元晴君）

皆様、おはようございます。

先週金曜日は、暖かい好天の中、美浜町両2校の卒業式が挙行されました。

河和中学校134名、野間中学校97名が巣立ちされました。涙ぐむ彼らを見て、思い出深い学園生活を送ったのではないかなど、また雇用の少ないこの美浜町から1度は出ていかれるかもしれませんが、いつか必ず戻ってくるのではないかなど確信しながら、私も隣にいた教育部長もハンカチを握り締めて、みんな美浜っ子、美浜の子だなと……えっ、鼻水もでしたっけ。もう本当にすばらしい卒業式であったなということを感じました。

本日は、傍聴されます皆様、早朝よりお出かけいただきましてありがとうございます。

本日は3名の一般質問が行われますが、美浜町の将来、町民の思いを代弁して質問をされます。どうか最後までおつき合いしていただき、忌憚のない御意見、御感想をお寄せいただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

それでは、お手持ちの携帯電話は、マナーモードか電源をお切りいただくよう御協力をお願いいたします。

それでは、会議に入ります。

ただいまの出席議員は13名であります。定足数に達しておりますので、これより本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、あらかじめお手元に配付したとおりであります。

日程に入るに先立ち、諸般の報告をします。

急遽、天木農業水産課長の欠席の連絡がありました。

また、本日の会議に、知多半島ケーブルネットワークのテレビカメラの持ち込みを許可しました。

以上で、議長の諸般の報告を終わります。

それでは、日程に入ります。

日程第1 町政に対する一般質問

○議長（森川元晴君）

日程第1、町政に対する一般質問を行います。

本定例会には8名の諸君より質問の通告をいただいております。そのうち3名を本日行います。通告の順に質問を許可いたしますが、質問時間は答弁等全ての時間を含め50分以内とし、関連質問は認めないこととします。

また、再度お願いを申し上げますが、この場は討論、お願いする場ではありませんので、節度ある質問のほうをよろしく願いいたします。

それでは、14番 江元梅彦君の質問を許可します。江元梅彦君は質問をしてください。

〔14番 江元梅彦君 登席〕

○14番（江元梅彦君）

では、皆様おはようございます。14番 江元梅彦でございます。2日目の第1番ということで、何か新鮮な気持ちを抱いております。

事前に議長宛てに提出をいたしました通告書に沿って3項目の質問をいたします。

初めに、新年度予算案に対する神谷町長の基本的な考え方についてでございます。

神谷町長は、皆様とともに「明るく・健康で・笑顔のたえないまち美浜」を目指し、最善の努力を尽くしてまいりますと御自身の行動目標、指針を力強く表明されておられます。

以下、2点を質問いたします。

1点目に、提出された新年度の予算案の中で、神谷町長の行動目標、指針に沿う施策として、特に力を入れた施策とその内容をお聞かせください。

2点目に、自治体の地方債は、民間の社債とは違い、法律による制限と地方財政計画による国の資金計画から抑制されているものと承知をしておりますが、当美浜町の財政規模で健全財政を堅持するという面から見て、無理のない起債額というのはどの程度が妥当であるのか、また臨時財政対策債の概念についてお聞かせをください。

次に、2項目めの生活排水処理事業についてでございます。

公共下水道事業は中止として、合併処理浄化槽による生活排水処理に方針転換をされた神谷町政の実施的スタートとなりますが、合併処理浄化槽による生活排水処理の構想をお聞かせください。

3項目めの道路工事承認申請制度についてでございます。

昨年9月議会で、歩道と車道が分離された道路に接した土地所有者が新たに入出口を確保するために歩車道分離ブロックを外したい場合、経費は原因者として土地所有者が全て負担することになっているが、設置者である美浜町が負担すべきではないかという質問に対し、道路法により原因者である地権者に負担してもらうとの答弁でございました。

その質問の最後に、美浜町が原因者とする町民に何かできることはないかを考えていただくことを期待する旨、申し上げました。

以後6カ月が経過をいたしております。優秀な職員皆様の英知を結集された答弁をお聞かせください。

なお、最初の質問の1点目の新年度の予算の中で、特に力を入れた施策と、その内容についてでございますが、一般質問1日目の同僚議員の質問にもお答えになっておられますが、日にちもあいた2日目でございます。改めて神谷町長の思いのたけをお聞かせいただけたらと思います。

以上、壇上での質問を終わります。

〔町長 神谷信行君 登壇〕

○町長（神谷信行君）

それでは、皆さんおはようございます。

きょうは、あと残すところ3名となりましたが、3名の方に関しましても精いっぱい答弁をさせていただきますので、よろしく願いをいたします。

それでは、江元梅彦議員の御質問のほうにお答えをさせていただきます。

まず初めに、新年度予算案の中で特に力を入れた施策と、その内容についてはでございますが、私は、「明るく・健康で・笑顔のたえないまち美浜」を目指していること、また私の美浜の里構想は地場産業である農業・漁業の活性化、雇用の創出及び交流人口の増加等を目指していることは、さきの議員の方々にも御答弁をさせていただいたとおりでございます。

そうしたところで、今回の平成28年度の当初予算の中で言いますと、私の今回の美浜の里の中心となる施設を建設するというような、明らかに構想を実現するために単独で何かをつくるというような予算は今回は計上はされておりませんが、そうした中で、ことしにおきましては、この里構想、またそれぞれ御説明をさせていただきました既存の住宅地等の開発、再開発等々につきましても、これらを現実のものとするため、職員、また住民の皆様方、そして時には議員の皆様方を交え御相談をさせていただきながら、こういったまちづくりに取り組んでまいりたいと考えておりますので、よろしく願いをいたしております。

そして、町の今回の予算の中では、町の発展のために、こういった里構想とあわせ並行しながら、住民の暮らしの安定のため、できることから事業を進めていくことが重要だと考えておりますので、御理解をお願いしたい

と思っております。

この限られた財源の中で、住民のために役立つことを少しでも早く着手していきたいという気持ちのあらわれでもございます。

具体的に申し上げますと、本議会においても、3月補正予算案として地方創生事業の加速化交付金の制度を活用して、繰越明許事業として平成28年度に実施する事業を数多く計上しておりますが、これらの地方創生事業を美浜の里構想、あるいは「明るく・健康で・笑顔のたえないまち美浜」の目的実現のために積極的に活用していきたいと考えているからであります。

そういう意味では、今回の加速化交付金を活用する事業、例えて申し上げるならば、生涯活躍のまち基本計画策定やコミュニティハウスの整備、買い物弱者の調査等、いずれも私が力を入れたい事業ではあると思っております。

また、平成28年度の当初予算における事業の中で、防災対策と上水道の安定した給水の確保を図るため、上野間配水池から総合公園体育館までの連絡管を布設するための配水管布設詳細設計の業務委託を計上いたしております。

災害発生時における住民の安定した生活を確保するという防災面の目的が第一であります。同時に、私の美浜の里構想においても、インフラ整備として活用できるものであり、そのほかについても申し上げますと、人口減少に歯止めをかけ、若い方の定住促進及び防災対策にも資することができる市街地整備を進めるために必要不可欠な事業として既成市街地整備調査業務委託に係る費用を計上いたしております。

また、名鉄知多奥田駅付近には、小学校、保育所など公共施設のみならず、大型観光施設や隣接市町唯一の大学も存在し、西部地区の核となる市街地整備を進めてまいりたいと考えておりますので、その実現を目指すために、奥田駅前拠点整備事業調査業務に係る費用を計上いたしました。

具体的には、まず奥田駅東地区において、交流拠点として日本福祉大学と連携できる土地利用を検討してまいります。

産業振興について申し上げますと、まず農業の振興として、先ほど触れた美浜の里構想以外のものとして、畜産クラスター事業に取り組んでまいります。これは、全額国の補助金により行われますが、地域最大規模のモデル的養豚経営を確立し、畜産における収益性の向上を目的とする事業でもあり、ブランド肉の生産と販売拡大を目指すものであります。

町といたしましても、税収の確保と雇用の拡大を見込むと同時に、田畑を利用する耕種農家との連携による循環型農業の推進と生産性の向上を期待するものでございます。

水産の振興といたしましては、漁場改良事業と産業活性化推進事業に対する補助費用を計上しております。まず、漁場改良事業でございますが、野間のりの品質の向上と生産量の確保を図るため、海底地盤を平たんに整地し、漁場環境の改善を行うものであります。

また、産業活性化推進事業は、アサリ等二枚貝の天敵でもあるツメタガイを地域ブランド商品として開発するための調査・研究を行うものでございます。

次に、地域医療の確保の施策として、本町の公的病院として位置づけられている知多厚生病院の救急医療体制を確保するため、知多厚生病院運営費補助金を計上いたしました。

この補助は、特別交付税により財政的な措置がなされる国の制度を有効に活用するものであり、本町の財政状況が厳しい中において、住民の皆様が安心して医療行為を受けられるように、同病院の運営を支援するものでございます。

最後に、子育てに対する支援事業として、放課後児童クラブの整備事業と認定こども園施設整備事業等の予算を計上いたしました。

まず、放課後児童クラブ整備事業について申し上げますと、河和小学校に開設している児童クラブにおいては利用児童の増加が見込まれる中、保護者の皆様のニーズに応えるため、保育室の増設整備を実施する予定でございます。

また、認定こども園施設整備事業は、私立幼稚園が保護者の保育と教育の両方を受けさせたいという要望に対応できるようにするものでもあります。

また、少子化が進む中、将来においては保育行政に係るコストの削減も期待できるものとして取り組んでまいります。

このほかにも、私の思いのこもった事業を予算計上いたしております。

初めに申し上げましたとおり、できることから少しでも早く取り組んでいくことがまちづくりと町民の皆様方の幸せにつながるものと考えて予算計上をいたしておりますので、議員の皆様方の御理解と御協力をよろしくお願いを申し上げます。

次に、御質問の2点目、美浜町の財政規模で無理のない起債額はどの程度が妥当であるか。また、臨時財政対策債の概念について聞きたいについてでございますが、まず地方債について簡単に御説明申し上げます。

地方債とは、地方公共団体の長期借入金のことを言い、国債の地方版と言えるものでございます。

そもそも地方公共団体は、地方債以外の収入である地方税や地方交付税等で歳入を賄うことが原則になっておりますが、地方財政法第5条により限定的に地方債を発行し、学校建設などの特定の事業の経費に充てることが認められています。

さて、御質問の本町の起債、つまり町債の現在高でございますが、臨時財政対策債を含め、平成27年3月末現在で56億6,000万円でございます。

このうち、約70%の39億7,000万円が臨時財政対策債でございまして、残りの約30%の16億9,000万円は本町が自主的に住民福祉、教育・文化の向上を図るため、インフラ整備に充てた町債でございます。

これらの町債は、今から20年から25年前に実施した大規模インフラ整備に係る償還が終了しつつあるため、その現在高は減少傾向にあり、今後も減少していくものと思われま。

また、本町の町債の現在高は、地方公共団体の財政の健全化に関する法律に規定する指標を全て下回っており、現状については、財政運営上、特に問題はないと認識をしております。

次に、臨時財政対策債の概念についてでございますが、臨時財政対策債は、平成13年度に創設された地方債でございまして、本来、地方交付税として交付されるべき金額の一部について地方公共団体が地方債を発行し、不足額を補填するものでございます。

平成13年度からは、毎年度、交付税総額の不足額については臨時財政対策債により対応しており、その元利償還金相当額の全額が後年度地方交付税の基準財政需要額に算入されるものでございます。

次に、生活排水処理事業についての御質問でございますが、議員も御存じのように、本町では汚水処理方法の一つとして公共下水道事業について調査・研究をしておりますが、再検討の結果、ことし2月に美浜町汚水適正処理構想をまとめ、県へ報告したところでございます。

その内容は、本町が抱える少子高齢化の急速な進行や人口減少といった社会情勢の変化に伴う税収の減少による町財政の悪化が予想されたことから、現時点においては、集合処理である公共下水道の導入が困難であると判断したところでございます。

今後は、合併処理浄化槽による汚水処理を推進することとし、現行の補助制度において補助対象としている個人住宅及び店舗併用住宅に加えて、商店や事業所、集合住宅につきましても、合併処理浄化槽への転換の推進や事業主等の費用負担を軽減すべく、新年度から補助対象として予算計上いたしましたので、よろしくお願いをいたします。

また、新年度には、さらなる合併処理浄化槽設置整備事業の普及促進を図るべく、これまでの個人設置型から市町村設置型への事業転換が可能かどうかアンケート調査等を実施し、その結果を踏まえて、PFIの導入も視野に入れながら、住民の方々の費用負担の軽減や町財政への影響なども含めて導入の可能性を検討してまいりたいと思っておりますので、よろしくお願いを申し上げます。

次に、道路工事承認申請制度についての御質問でございますが、昨年の9月議会において、江元議員の一般質問で、美浜町への転居を結婚の条件に新しく住んでいただける、このような人に美浜町が積極的にかかわれる方法はないかとおっしゃられたと思います。

住宅建築には、御家族のいろいろな思いが込められております。

少子高齢化・人口減少の対策が急がれる中、新たに美浜町に住んでいただける方に対して何かできることはないか、江元議員の言われることも御理解できますが、道路承認工事の費用負担、補助・助成等の制度が近隣市町・県・国にないかを調べてみましたが、そのような事案はございませんでした。

本町では、防災面から家具転倒防止対策事業、木造住宅耐震診断補助・耐震改修補助、環境面から住宅用の合併浄化槽設置整備補助、太陽光発電システム設置補助、介護保険法による住宅改修費の支給など、福祉面からも安心・安全な住空間のために費用の軽減を図られるよう各制度を設けておりますので、よろしくお願いをいたしたいと考えております。

私からは以上でございます。

〔降壇〕

○議長（森川元晴君）

再質問はありますか。

○14番（江元梅彦君）

1点目の神谷町長が特に力を入れた施策について、1日目の一般質問、同僚議員へのお答えを補足した御答弁をお聞かせをいただいたと思います。

神谷町長の美浜の里構想を念頭に置かれたものであるということで、美浜の里そのものに対する予算計上はなかったということでございます。

神谷町長が構想される美浜の里構想でございますが、かなり壮大な構想でございます。そして、民間、また町民の御理解、協力が不可欠な事業であると、そのように思っております。

その活力・協力を得るためには、先ほど町長も御答弁がりましたが、できることから予算計上をしていきたいということですが、余りに時間がたってからはなかなか協力体制というものも難しくなってくることもあろうかと思っております。職員の英知、また全職員が一丸となって構想を練り上げて一気呵成になし遂げていただく気概というものをまたあらわしていただけたらと思いますので、よろしくお願いいたします。

そして、私が思いますに、この美浜の里構想についてでございますが、町民——まあ、私たちも含めてでございますが、構想というものがわかりやすいなということを示していただくために、ある程度構想がまとまったときに、ジオラマというんですか、そんなものをつくっていただいて、ここはこんなふうになりますよというふうを示していただけたら、また皆さんの理解も進むんじゃないかと思っております。そのような神谷町長の美浜の

里構想を念頭に置かれた御答弁だと理解をいたしました。

次に、2点目に、無理のない起債額についてでございますが、現状では美浜町の運営に問題はないと理解をされているようでございます。そして、起債残高が56億6,000万円、そしてそのうちの70%の39億7,000万円が臨時財政対策債であるということでございます。

12月議会の同僚議員の質問の中でも、総務部長が臨時財政対策債は後年度に国が交付税措置をされるものだというふうに御答弁されたと思います。このことについて、本年度の予算案を見ますと、4億円の臨時財政対策債が予定をされております。

そこで、素朴な質問でございますが、後年度に国が交付税措置をされるものということでございますが、起債残高というものがふえております。後年度に措置という期間についてですが、いついつまでにとりいう約束をされたものではないということでございますか。

○総務部長（本多孝行君）

いついつまでにとりいう約束はということになりますと、まず臨時財政対策債というのは、一定の期間、たしか20年だったと思いますが、その間で例えば4億円を借りたら、4億円うちがお返しをしていくということになります。この費用について国が各年度負担をしてくれますので、借り入れた期間に対して、その間に返してくれると、そういうふうに解釈をいたしております。

○14番（江元梅彦君）

臨時財政対策債というのは、美浜町がこれ以上に起債をしたいという上限というものはありますか。

○総務部長（本多孝行君）

臨時財政対策債というのは、美浜町のほうで、例えばことしは4億円借りたい、その次は、では8億円借りたいとか、そういったものではございません。国のほうから美浜町が臨時財政対策債として借り入れる枠というのは幾らだという指示のほうがあります。その金額が上限となりますので、よろしく願いいたします。

○14番（江元梅彦君）

わかりました。何かなかなか複雑な交付税の税制と申しますか、そのようなことでございます。後年度に国が交付税措置をされるものということを知っていてということによろしいんですか。

○総務部長（本多孝行君）

制度的には国を信頼して借入れを行うということでございます。

以上です。

○14番（江元梅彦君）

わかりました。

次に、2項目めの合併処理浄化槽による生活排水処理の構想についてでございますが、神谷町長も所信の中で最大の懸案事項であると表明をされております。公共下水道事業整備計画の見直しでございますが、その所信表明の中でも、国・県ともに御理解をいただき、かつ従前と変わらぬ良好な関係を保つことができましたというふうにおっしゃっておられますが、よかったなというふうに思っております。

そして、個人設置型から市町村の設置型というものをお考えのようでございます。その中で、PFI方式という言葉が出ました。私も排水処理の造詣の深い方から、ちょっとそのお話もお聞きしておりますが、PFI方式というものについて御説明をいただけたらと思います。

○経済環境部長（齋藤 博君）

PFI方式についてでございます。これは、昔、第三セクターだとか、そんなような言葉があったかと思いま

すが、民間活力を利用して設置を行うという方式でございます。古くは、イギリスの地下鉄を整備するのに、イギリスお金がない時代に民間の活力によって地下鉄を整備したと、民間の資金において。それがスタートしたところでございます。

でありますので、例えばどういったメリットがあるかといいますと、今浄化槽担当2人で環境係やっておりますが、これみずから市町村が合併処理浄化槽、市町村設置型やっぺいこうと思ひますと、設計だとかいろいろな面で多分3人ぐらい職員も増員せにゃいかんということになるかと思ひますが、PFIを利用して民間の活力を利用していこうと思ひますと、多分担当が1人ふえる程度で賄っていけるんじゃないかなということ、このPFIについて今から勉強していこうというところでございます。

○14番（江元梅彦君）

民間の活力を利用する整備方法だということで、自治体のほうにも負担が少なくなるということですかね。そのような理解をした——今お聞きをして、そのように考えております。

この事業につきましても、神谷町長について一丁目一番地の政策だというふうに思っております。

公共下水道事業にかわる合併処理浄化槽による生活排水処理事業の神谷町長が言われた利益を町民が体感できるように果敢に進めていただくことを期待いたしております。

次に、移ります。

3項目めの道路工事承認申請制度についてでございます。

昨年の9月議会でもお尋ねをした件でございますが、現在、美浜町では空き家対策事業とか婚活事業とか、子育て支援事業、また社会福祉の向上に努めながら、あの手この手で美浜町に住んでくださいという事業を展開しているところでございますが、9月議会でも申し上げましたが、「私と結婚したいのなら美浜町の〇〇に住むのが条件だね」と。「まあ、それが嫌ならねえ」と言って彼を引っ張ってきてくれたというお話をさせていただきました。その話の心情といいますか、そのようなものは執行部の方にも少し理解していただけたかなというふうに考えております。

それで、近隣市町の動向についても触れられました。また、許認可権を持つ役場の立場というものはわからないわけではございませんが、「住んでよかったと思える町」とか、「住みやすい町」というような目標といいますか、指標といいますか、標語をよく見聞をいたします。そのような言葉が先に立って看板倒れということになってもどうかというふうに思ひます。町民が住みやすい町だな、住んでよかった美浜町というふうにも思ってもらえることは執行部の皆さん、どのようにお考えですか。

○建設部長（斎藤 功君）

美浜町に住んでいただけるということで大変ありがたいお話ということで、何とか町のほうでそういった方々に協力できないかという御質問だと思っております。

先ほど町長が壇上で御答弁させていただきました。道路関係については、今現在、美浜町としては、道路後退用地取得という制度がございます。これ以外、例えば道路承認、道路占用等に関する助成は、大変申しわけございませんが、今の段階ではちょっと計画等はございません。

ただ、ほかの防災面、環境面、そういった福祉面からも補助制度を設けておりますので、そういった制度を十分に活用していただいて、美浜町に一人でも多くの方が居住していただけるよう今後も頑張っていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

○14番（江元梅彦君）

町民に対する心構えというか、お聞かせをいただきました。

私の質問、なかなか無理だというのは自分でも承知をして質問しておるわけですが、例えば近隣市町の動向を調べましたというふうにお答えになれましたが、どのような施策にしても横並びというのが行政側の考え方ということも理解できますが、それが他市町から視察に来てもらえるとか、研究に来てもらえるような発想ですね、そのようなものをひねり出すといえますか、何か対策をお考えいただけたらという思いでの質問でございます。

行政側の町民に対する考え方というか、そのようなことはしっかりと受けとめました。

以上で私の質問を終わります。

○議長（森川元晴君）

以上をもって、江元梅彦君の質問を終わります。

〔14番 江元梅彦君 降席〕

○議長（森川元晴君）

次に、13番 杉浦剛君の質問を許可します。杉浦剛君は質問をしてください。

〔13番 杉浦剛君 登席〕

○13番（杉浦 剛君）

皆さん、おはようございます。ただいま議長の許可を得ましたので、通告書に従いまして一般質問させていただきます。13番 杉浦剛です。よろしく願いいたします。

もうことは、戦後も70年をもう過ぎまして、時代社会の変化には目を見張るものがあります。この通告書の一般質問である第1の質問である耕作放棄地対策、この問題の背景にはさまざまな原因が見えてきます。そのうちの一つに、国民の米の消費離れがあります。

食生活の多様なニーズは、パンやうどん、ラーメン、本当にさまざまな食品が市場に氾濫し、そのニーズも変わってきております。食生活においては、まさに米離れが進んでいるわけです。

私の記憶の限りでは、国民1人当たり、玄米が120キロも消費したというようなデータが記憶にありますけれども、現在は、それが大体1人1年間60キロを切る、おおよそ55キロぐらいにまで落ち込んでいるということでもあります。

また、その背景には少子・高齢社会がありまして、ますます全体の需要もなくなっているということも大きな要因であろうと思います。

そして、昨年12月に大筋合意しましたTPPは、今後2年間の正式な発効になりますと、外国産の関税も下がり、さらに安い米が入ってくるものと予想されます。

そんな中、一昨年秋には、天候にも恵まれて大豊作となり、長年私もお米をつくっておりますけれども、1俵1万円前後という、もうまさに信じられないような価格が現実のものとなりました。

思い起こせば、30年ほど前、私は農協青年部のほうで、当時機械銀行のオペレーターをやっております、いろいろな形でそのころの討論会に出たときに、1俵1万5,000円の時代が来たらどうやって対処するんだろうというような議論をしたことを覚えております。

農家の平均年齢は、おおよそ67歳と言われておりますけれども、米作の農家の平均年齢はさらに高く、70歳ほどとデータが出ております。実際には、町内にもそうですけれども、もっともとお元気な方々が実際にやられているというのが現実であります。

家族のためや孫のためなら、こういった赤字でもどれだけでもつくっていかうという意欲はありますけれども、このような米価では、今盛んになっております全面借地で他人の土地を借りて農業をやっかいかうという経営は

成り立っていきません。ですから、条件の悪い圃場はどんどんと耕作放棄が始まっており、それが顕著になってきたのが昨年でした。

もう既にことし、私はいろいろな情報を聞いておりますけれども、美浜町各地で条件の悪いところから耕作放棄が始まっていくだろうということは容易に推察できるところであります。

そんなところから、私はこの水田、または畑が持つ里山里地の重要性、いま一度本当にそのことを思い返してみ、この景観保全、または大雨のときの一時的な貯水池としての洪水の軽減等々、またはいろいろな生物も育てております。こういったものが本当に末永く守られて、憩いの場となることを願ひまして、以下何点か質問したいと思います。

全国でも同様な情勢の中、政府は農地の集積と耕作放棄地の解消を目指し、昨年末に農地の固定資産税改正を発表しました。この要点は何かを詳しくお聞きしたいと思います。

(2) 農地バンクに登録すれば減税となるようです。10アール当たり幾らぐらいになるのか。また、農地バンク登録の条件が当てはまらない事例がきつと出てくるとは思いますが、実際はどうなんでしょうか。そのこともお聞かせください。

(3) この施策を当てにするばかりでなく、我が町に合った水田農業・畑地農業の耕作放棄地対策を考えるべきと考えておりますけれども、その展望をお伺いしたいと思います。

そして、大きな2点目の質問に入ります。

山林や遊休農地の情報管理についてであります。

町内の山林や遊休農地へ、以前よりソーラーパネルが多く見られるようになりました。許認可は県が与え、町へは事後通達されるとお聞きします。それも役場の担当部署が幾つも分かれており、個人情報の関係もあり、実態がなかなか把握できないとお聞きしました。もちろん、法にのっとりて工事着工がなされているものとは思われますが、報道等で民事事件が取り上げられることもあります。山林を切り開いてのソーラーパネルや遊休農地への廃棄物投棄など、町内で行われている事態を把握し、経過を確認するシステムが必要であると考えますが、町のお考えをお伺いします。

大きな3番目、空き家バンク制度であります。

空き家バンク制度は、町内の空き家、または宅地の有効活用で新規に移住してもらい、町内に新たな活性化を呼び起こし、そのための物件の登録や提供を行うものを目的として制度が始まりました。町内でも少しずつ利用がされております。現在、12件の成立があったとお聞きしております。

美浜町には、現在1,760戸ほどの空き家があるということと同僚議員の質問からお聞きしました。今後、少子高齢が加速していけば、ますますふえていくものと推測されます。空き家の有効利用のためにも、同バンクを利用しやすくする必要があります。

ここ何年か、制度を施行してみてもの問題、課題をどのように検討しているのかをお伺いいたします。

壇上での質問は以上です。

〔町長 神谷信行君 登壇〕

○町長（神谷信行君）

それでは、杉浦議員の御質問にお答えをさせていただきます。

初めに、耕作放棄地対策についての御質問の1点目、政府は、昨年末に農地の固定資産税改正を発表した。この要点は何かについてでございますが、この改正案は、現在、開会中の国会にて地方税法改正法案として上程され審議中であり、例年のように年度末の成立・施行が見込まれております。

改正予定の概要でございますが、農地課税の強化と軽減を組み合わせたものでございます。耕作放棄地に対する課税の強化策として、農地法に基づき農業委員会による協議の勧告を受けた遊休農地については、固定資産税を現状の1.8倍に引き上げる措置を29年度から実施するものでございます。

一方、農地課税の軽減策としては、所有する全ての農地に農地中間管理事業のための賃貸権等を新たに設定し、かつ賃借権等の設定期間が10年以上の場合は最初の3年間、15年以上の場合は最初の5年間について固定資産税を半額とする措置を講ずるものでございます。

地方税法改正法案が成立・施行された際には、地方税法の一部改正に合わせて本町税条例の一部改正をするため、地方自治法第179条第1項の規定による専決処分をさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いをいたします。

2点目の農地バンクに登録すれば減税となる。10アール当たりどのぐらいになるか。また、農地バンク登録条件に当てはまらない事例があるが、実際はどうかについての御質問でございますが、最初に、減税につきましては、御質問の1点目の農地課税の軽減策の中でもお答えしましたとおりでございますが、仮に10アールの田を10年間賃借権設定した場合、評価額を10万円として、固定資産税が1,400円から700円に半減となる見込みでございます。

次に、農地バンク登録条件に当てはまらない事例があるが、実際はどうかについてでございますが、杉浦議員御質問のとおり、農地集積バンク、いわゆる農地中間管理機構への貸し付け申し込み、つまり機構への登録に当たりまして、10アール未満の自作地を除き、所有する全ての農地を農地中間管理機構へ10年以上の貸し付けが先ほど来の農地課税の軽減策の基本的条件となる見込みでございます。

そのほかにも、貸し付け条件としまして、農業振興地域内の農地、いわゆる色地であること、農用地として利用可能な農地であることなど、これらを満たさなければ税の軽減対象とならないということでございます。

3点目の我が町に合った水田農業・畑地農業の耕作放棄地対策を考えるべきだが、展望を伺うについての御質問でございますが、杉浦議員におかれましても、常日ごろ、さまざまな場面におきまして、本町農業の将来への御提言をいただき、この場をおかりしましてお礼を申し上げます。

現在の農業事情は、高齢化が進み、若い農業者がほとんどいない。今後も農業で生活していける安定した経営体も少ない。将来、耕作放棄地ばかりになってしまい農業は消えてしまわないかなど、全国の多くの市町村において地域農業の将来が深刻な問題となってきました。

このような状況の中で、人と農地の問題を解決するための施策として、「人・農地プラン」を国が提唱し、本町においても事業実施しているところでございます。

この事業は、地域単位で農業の将来の形を決めるために、地域農業の担い手、地域の担い手に農地を貸し出す意思のある方、新規就農者、そのほか、みずから現状維持が行える農業者、それぞれの持つ農地といった情報を整理したものが「人・農地プラン」であり、地域農業問題の基本となるものでございます。

具体的な支援内容といたしましては、この「人・農地プラン」に位置づけられた地域の農業を担う人、新規就農者、そして、それらの方々への農地集積に協力をしていただける人に対し3つの支援策が用意されており、国の予算により町が事業実施主体となり、就農者等に支援を行うものでございます。

農業の担い手としての認定農業者制度の充実、後継者を含めた新規就農者の発掘及び支援、そして農地の集積こそが地域農業の基本であると考えております。

農地の集積に当たりましては、本町の特性と申しますか、借り手側がみずから農地を探し、利用権設定による集積が行われてまいりました。

この制度は杉浦議員も御承知のとおり、農地の貸し手と借り手が同意の上、農業委員会の決定を受けた上で美浜町が公告することにより、契約書を交わすことなく、また農地法の許可を受けることなく貸借の効果が発生する制度でございます。本町としましても利用権設定の促進を行っているところでございますが、これにより農地の貸し借りが安心してスムーズに行われているところでございます。

地域農業の将来像については「人・農地プラン」の事業で地域農業を支える施策となっており、本町としましても、この推進に努めてまいりたいと考えておりますので、よろしくお願いをいたします。

次に、山林や遊休農地の情報管理についての御質問でございますが、本町における状況確認の方法の一つとして、農地部門におきましては、農業委員による農地パトロールを月1回以上実施し、農地が適正に管理されているか、土地の利用状況の把握に努めているところでございます。

また、圃場整備内の農地におきましても、土地改良区役員を初め、組合員が一丸となり、優良農地の保全に御尽力をいただいているところでございます。

山林部門につきましては、森林法に基づく伐採届や林地開発許可申請等を要する案件につきましては、現在のところ、太陽光発電施設の設置に当たりましては、届け出等適正に手続がなされているところであります。

なお、町職員におきましても、町政リポーターとして町有財産の不法占拠であるとか、交通上危険を伴う道路側溝、ガードレール等の破損であるとか、ごみの不法投棄、住民の苦情・要望、その他行政措置を必要とする場合の通報制度がございます。

今後さまざまな方法により、そういった事態の把握に努めてまいりたいと考えておりますが、何よりも町民の方々の目が物を言いますので、議員におかれましても御協力のほどよろしくお願いをいたします。

次に、空き家バンク制度についての御質問でございますが、本町の空き家バンクは町内の空き家の有効活用及び定住促進を図る目的で平成24年12月に創設し、空き家の活用に取り組んでまいりました。

しかし、この制度の運用のスタートは、広報やホームページを活用し制度の周知を行いました。利用者がなかなかふえない状況がありましたので、平成26年度にこの制度の利用促進を図る目的で、町外に発送する固定資産税納税通知書に空き家バンクの案内を同封しPRしたことや、補助金制度も設けました。

その結果、平成26年度の物件登録は、平成24年、25年度合わせた9件に対し18件に、利用者登録は19件に対し44件にふえました。

また、成約件数におきましても、これまでの総実績件数12件のうち11件が平成26年度の実績であり、補助金制度の効果と考えることができます。

しかし、この成約のうち、補助金を得る目的だけで空き家バンクに登録し、解除するケースが多く見受けられましたので、現在は補助金制度の内容を見直し、実施をしております。

この制度の運用の問題、課題につきましては、空き家バンク登録の関係、物件案内・契約等の関係、その他に分け、御説明をいたします。

まず、空き家バンク登録の関係については、まず物件登録件数が少ないことではありますが、この理由といたしましては、登録が空き家所有者の考えに左右することや、建物の耐震診断を義務化していることなどが考えられます。

次に、物件案内や契約等の関係については、本町のバンクは協力をいただける宅建業者の専門家を介して行われていることから、金額交渉など一部苦情は受けているものの、特に大きな問題は聞いておりません。

また、その他については、空き家バンクは町が窓口となることから気軽に頼みやすいという利点がある一方で、バンクで入居した人との隣人トラブルへの関与を求められるなど、所有者、利用者から多くの苦情を受けており

ます。

いずれにいたしましても、他の議員の御質問にお答えいたしましたとおり、来年度、町内全域の空き家の実態調査を行い、所有者及び物件の状態などを特定して、所有者へのアンケートを実施してまいります。

このアンケートの結果を参考に、支援や制度など利用しやすいものに見直しを行い、空き家バンクの活用が空き家対策、人口減少の抑制につながるよう努めてまいりますので、御理解いただきますようお願いいたします。

私からは、以上でございます。

〔降壇〕

○議長（森川元晴君）

再質問はありますか。

○13番（杉浦剛君）

御丁寧な答弁、ありがとうございました。

それでは、1番目の質問のほうから順番に再質問させていただきます。

この放棄地の問題に対しては、やはり放棄地解消を目指して、まさにあめとむちの施策が来年度、29年度から始まるようしております。

具体的に言いますと、先ほど町長の答弁にありましたように耕作放棄地が1.8倍に値上がりするとか、10年以上のいろいろな条件がありますが、農地バンクに貸し出して、そういったものをどんどんと推進しようという方には半減していきますよというような具体的な数字が出ておりました。

その中で、いろいろな施策に対する論評も私もいろいろと聞いておりますし、具体的にどうなっていくんだろうかなということも心配しておりますけれども、1つ、我が町に農地バンクに預けるいろいろな条件が結構厳しくて、10年以上というもの、または先ほどの説明でいきますと、全ての農地を預けるんだというようなことなど、ちょっとそこら辺で預けられない方が出てくるのかなということなどがありますので、まず農地バンクそのものの実態です。愛知県に事務所があるんですね。農地バンクそのものの実態で、では、うちはできないからそこに預けたいんだということですからすぐに受け付けて、例えば10年以上結構ですよとすぐ受け付けていただけるものなんでしょうか。そこから、まずちょっと。

○経済環境部長（齋藤博君）

中間管理機構の件でございます。美浜町につきましては、これまで私の記憶しておるところ、そこに登録したところはないということですので。そのかわり、もともと利用権設定という形で美浜町は3年だとか、5年だとか、10年とか長くはないですが、そうした中で数多く米づくりの方だとか、いろいろ利用権の設定で動いております。

ですから、機構……すみません、縮めのところはどのような質問だったですか。今ぼっと忘れちゃったんですが。

〔「機構そのものの実態を説明していただけますか」と呼ぶ者あり〕

○経済環境部長（齋藤博君）

そうやって国のほうとしましては、今日本の傾向なんですけど、個人の耕作する面積を拡大していこう、集積していこうというような動きがあります、高齢化だとか、そういったことで。ですから、1人当たりだとか、一経営体の経営規模をふやしていこうというのが大きな一番の目的のための機構でございます。

○13番（杉浦剛君）

ごめんなさい、ちょっと質問が余り絞られていなかったですね。

今までの利用権設定のやり方を町長は推し進めていきたいんだということを最後に言われましたけれども、私、それで十分なはずなのに、なぜここで農地バンクという機構が出て、また税制も改正してまでここに来たのかと

いう、この1つの強力な後押しする背景というのは、やっぱり今部長さんが言われたように、もう早急に農地を集めてやっていかないと、もう間に合いませんよというような感じにも受けるんですけれども。

実際のところ、現場では、本当にもう土地利用型農業のやる人が少ないです。実際の米価あります。今後ますます先行きが不透明ですね。先ほど壇上で説明したようにTPPも始まってくるでしょうし、需要もどんどんと少なくなってきました。

ただし、こういったものが今本当に個人の農家の販売力、どういったブランドでどういう付加価値をつけてやっていこうかというところの努力で今賄われております。

私、ずっとここ40年ほど携わってきて、この流れをずっと見ますと、ここまで面的な整備ができて、本当に大型機械だとか、いろいろなものが入るような整備が県・国の補助で、または地元の農家の土地改良区さんのいろいろな方々の補助でいろいろと整ってきました。やっと整ってきて、そしてこれからどんなふうでも絵が描けますよというときに肝心の農家がない、現実として。

ですから、私はもうきっと皆さんも同じ考えを持っていると思いますけれども、圃場を整備したような条件のいいところしか、もう残っていかないんじゃないかと思うんです、これから、農地としては。だから、そういった——前も耕作放棄地の問題で質問したときに、美浜町にはもう何百ヘクタールという耕作放棄地があります。その中で、再生可能な農地は80ヘクタールほどだということの答弁もいただいたことが覚えております。

ですから、そういった可能な農地をどうやってみなでこれからやっていくのかというのが基本的な焦点だと思うんです。そこに至るための1つの方策として、こういったことが出てきているはずなんです。

そこには、最後の人・農地プランであったように、もうこれは24年の民主党のときの政権のときに出てきました。アンケートもとり、新規就農を、要するに担い手の人たちだとか、いろいろな関係者の人たちがどうやって地域農業をこれから守っていくのかということをやったはずなんですけれども、私は地域の合意はなされていないんじゃないかと思います。

ですから、肝心なことは、これから各地域地域、いろいろな土地改良区の方、愛知用水の方、農業委員、そして新規就農の方、認定農業者の方、もろもろの方たちが1度地域地域の話合いの場所を持っていくことが、これが問題解決の一步になると思います。

ちなみに、私ごとですけれども、とても布土の今後に対しては危機感を持っておりまして、昨年の12月にいろいろな方に集まっておきまして、1回目の会合を持たせてもらいました。

今後、役場も農協も、それから今言ったいろいろな諸団体の方たちも入っていただいて、継続的にこの布土の農地・農業・農村をどうしていくのかということの話合いを持っていこうと思っています。

こういったことを各地区でも、これが僕は経済環境課、または農協が主導していただく一つの音頭取りとして大切な役目ではないかなというふうにも思っているんですが、部長さんの見解をお伺いします。

○経済環境部長（齋藤 博君）

まさに杉浦さんが言うとおりの、人・農地プランにおきまして、各地区、農業に携わる方々のお話し合いは大変重要だと町としても考えております。

たまたま美浜町の農地プランというのは、6つの小学校区に分かれております。武豊さんとか南知多さんですと、町一本の農地プランというようなことで、たまたま美浜の場合は地域性を持たせようという考えなのか、6学区でやりますので、杉浦さんが言うように、それぞれの地区が女性の方だとか兼業農家、いろいろなスタイルの農家の方々が集まって、JAさんとか町とか入って進めていくことが、今まで、これまで真剣に話したことは過去に多分なかったかと思います。今後は、やっぱりそういうことが必要だなとつくづく考えております。

この間も利用組合の方々だとか生産組——町の方々がちよつと役場へ集まって、新年度の米の関係を会合の折には、やっぱり人・農地プランの説明だけはしておきました。そこからもう一步というところが今後肝心だと思っておりますので、よろしくをお願いします。

○13番（杉浦 剛君）

まさにこういったピンチだからこそ、切実感を持って、本当に真剣に取り組めるのかなというふうにも思います。今まで厳しい厳しいという言葉は、もう聞き飽きるほど聞いてきましたこの業界ですけれども、正念場が迫っているのかなと思います。

また、聞きますと、齋藤部長も定年後は地元に戻って、地元の農地をたくさん引き受けられてやられるということですので、しっかりとまた南部地区を取りまとめていただきまして頑張ってくださいと思います。

それでは、次に移ります。

2番目の遊休農地、または山林の情報管理の問題です。

ことしの2月の後半に、愛知県の愛知万博の会場跡地、海上の森に隣接する民有林が無許可で伐採され、太陽光発電が建設された問題が中日新聞等でクローズアップされました。

事前に計画を相談され、現地確認も県の職員はしていたそうなんですけれども、瀬戸市が計画の中止を勧告したという事前のことは受けていまして、もう県は中止されたものと思っておったということでありました。

大村知事のコメントも、事態を確認・把握するシステムがなかったんだということで大いに反省をされており、市内、または県下の各自治体に通知をされたと思います。

このことに鑑みまして、我が町といたしまして、先ほど町長の答弁では、我が町内には問題はさほどないんだということを言っておりましたけれども、1ヘクタール以上の山林の許可でないと事前に通告は来ないと。1ヘクタール以下ですと、先ほど壇上で私が質問しましたように、事後通達となって、県が許可された工事がどこでどうなされているのかということが本当に後でないとわからないというような実態であります。

この辺について、こういった愛知県で起こった具体的な事件を鑑みて、我が町としては、どのような見解をお持ちでしょうか。経済環境部長、お願いします。

○経済環境部長（齋藤 博君）

私のほうで住宅の太陽光だとか、いろいろな関連で太陽光だとか山林開発——埋め立て条例ですね。いろいろなものを所管しておる関係上、答弁させていただきます。

1ヘクタール以上でしか把握できないというようなことはなくて、自然公園ですと1,000平米以上から届け出してくださいというようなこととなっております。

ですから、過去私も、ちよつとこの間調べてみましたところ、1件だけ太陽光に関しては知らんどの間に伐採をしておったというようなことがあって、指導によってとめてもらって、届け出をちゃんと出してもらって進めていただいたというようなのが1件だけありました。ほかは、自然公園法だとか農地法だとか国土利用計画法とのかね、国土法、いろいろな形で何らかの形で町の窓口は通ってきます。

ところが、いろいろよその県では問題になっておるような景観のちよつと乱開発じゃないかだとか、そんなようなことが今後起きてくるようなことがあれば、これはまた町としましては、例えば文化財の保護の関係だとか景観のことだとか、一応町の条例というのは、なかなか制約できないんですが、届け出して計画を町が把握する、その程度のことではなかなか条例もできないというようなことでありますが、ここだけは町として残さにかんたとか、守りたい。今後そういう場面が必要であれば、やはり町の幹部会だとか関係部署が集まって、町の条例も視野に入れながら考えていく必要はあるかなというふうには思っております。

○13番（杉浦 剛君）

かつて美浜町は、土砂の条例をいろいろな事件の後に急遽つくった経験があります。そういったことにならないようにしていただきたいなと思いますけれども。

経産省が17年4月から、新しく認定する発電業者に対して、パネルの管理やパネルを撤去する際に適切な処分をする方法を盛り込んだ事業計画を17年の4月に提出させる方針を発表いたしました。

申請段階でどういう業者がどこで発電するかなどの認定情報を地元自治体に提供し、チェック機能の強化を目指すというような記事も載っておりました。

こういったことが来年の4月からなされるそうですけれども、これを待つまでもなく、しっかりとした機能を持って事に臨んでほしいと思います。やっぱり地元のことで、地元の町民に迷惑のかからないように今後とも十分にひとつよろしく願いいたします。

3番目の質問に移らせていただきます。空き家バンクの制度についてであります。

この原因の問題点として、先ほど登録が少ないものは、所有者の考え方とか耐震義務というものが大きな壁に、ハードルになっているんじゃないかというような町長の答弁でした。私も本当にそう思います。

昨年末に隣町の南知多町、これは我が町よりも早くこういったバンクをされ、いろいろな成果を出されております。そこに勉強に行きました折、何でこんなに実績が上がるのかなという誰もが疑問に思ったことが最後に1つ解けました。余り大きな声では言えませんが、係が違うんですね。地域振興課でした。それ行っていたらわかるとは思いますが、我が町は建設課です。

そこで、どうしても私の町としては、無料耐震義務を進めているところが同じようにやっていますので、こういったことが一番の最初の課題になってきてハードルが高くなっていくというのは、もうやむを得ないのかなと思います。

そこで、私、この間、建設部長さん初めいろいろな方と話をしましたときに、いろいろな補助がありますけれども、こういった耐震の保険の補助も1つ、空き家バンクの補助制度につけ加えてもらったらどうでしょうかというような提案もさせていただきました。

本当にこれから市街地再編ということの中で、先ほどの同僚議員の答弁にも答えておりました町長の答弁の中に、市街地の中の空き家も十分若者の定住促進の1つの方策なんですよということの位置づけがありました。これから1,760戸の実態調査が始まってまいります。そのときには家主の意向調査も十分聴取していただきまして、これから本当に活用できる物件なのか、売買できる物件なのか。いや、もうそうじゃない。これは、もうそうじゃないよときちんと色分けをしていただきまして、町営住宅のときにもそうでしたけれども、これからの移住者の目的にかかった支援策が今後いかにできるかというものが私は鍵ではなかるうかと思っております。そういう面で……

○議長（森川元晴君）

杉浦さん、質問をまとめてください。

○13番（杉浦 剛君）

はい、わかりました。最後になります。

そういう面で、これはもう質問ではありません。私の最後のことになりますけれども、しっかりといろいろな実態を調査した中で色分けをしながら、今後の移住者にかなうような方策の補助メニューを考えていきながら対応していただきたいということで私の最後のあれになります。

○議長（森川元晴君）

答弁のほうはどうしますか。

○13番（杉浦 剛君）

ありましたら。

○議長（森川元晴君）

ちょっと質問という形式ではなかったので、質問でないと思いますが、最後に一言お願いいたします。

○建設部長（斎藤 功君）

今杉浦議員より、空き家バンクに関しましていろいろな地震保険の補助とか、いろいろな御提案をいただいております。また、利用者の目的に合ったいろいろな支援策、例えば貸し農園、そういったことも今後の検討課題というふうにせんだっての一般質問にも御答弁させていただきました。

来年度実施させていただく——まだ予定でございますけれども、実態調査、これを皮切りに空き家バンクのますますの活用を図っていきたくと職員一同努力してまいりますので、また御協力のほうよろしくお願いいたします。

○議長（森川元晴君）

以上をもって、杉浦剛君の質問を終わります。

〔13番 杉浦剛君 降席〕

○議長（森川元晴君）

ここで休憩としたいと思います。再開を10時50分とします。

〔午前10時28分 休憩〕

〔午前10時50分 再開〕

○議長（森川元晴君）

それでは、休憩前に引き続き会議を開きます。

12番 石田秀夫君の質問を許可します。石田秀夫君は質問をしてください。

〔12番 石田秀夫君 登席〕

○12番（石田秀夫君）

あらかじめ議長に提出させていただきました一般質問通告書に基づいて質問させていただきます。

上野間方面からの野間中学校生徒の自転車通学路について。

現在、上野間方面からの野間中学校生徒の自転車通学は、国道247号線グリーンベルトの外の斜面と割れた側溝のふたの上を通学している。

現状の通学路での走行は神わざで運動神経に驚いている。斜面と側溝との段差がある箇所、道路側溝のふたが老朽化し、水落ちのコンクリートの角が欠けて穴が大きくなり、歩いていて足をくじいてしまいそうな状態である。運動神経抜群、神わざに等しい中学生とはいえ、それに甘んじとってはいけないのではないのでしょうか。このまま放置しておいて、1つ間違えたら、重大な人身事故となることが十分予測できるため、早急に対応を望みます。

子どもたちは、地域の大切な宝ではないのか。その子どもたちを守るためにも、直ちに改修整備すべきであります。

当局の適切な回答を望むものであります。

壇上にての質問は、これで終わります。

〔町長 神谷信行君 登壇〕

○町長（神谷信行君）

それでは、石田秀夫議員の御質問にお答えさせていただきます。

上野間方面からの野間中学校生徒の自転車通学路についての御質問でございますが、野間中学校の通学路となっております国道247号につきましては、路側帯が狭く、朝夕の交通量の多い登下校時は危険であることから、歩行者等の安全対策のため、上野間地区から小野浦地区まで歩道設置の要望を私を初め、議長、副議長の同席をいただき、昨年8月に県へ要望をしまりました。このことは、12月議会で、ほかの議員の御質問にもお答えをさせていただきました。

県は、莫大な事業費、財政状況、優先順位等から要望の歩道設置には至っておりませんが、毎週道路パトロールを行い、路面・側溝・路肩などを確認していただいております。

本年は、富具崎周辺のカーブに誘導線を引き直していただき、交通安全の注意喚起を行うことができたものと思います。

自転車は、歩道、または路側帯の区分のある道路においては車道を通行しなければならないとありますが、軽車両については路側帯を通行することもできます。危険な場所は、早急に修繕等を行っていただくよう県にお願いをいたします。

また、引き続き歩行者等の安全対策のために歩道設置、道路側溝の整備等を県に要望してまいりますので、よろしくをお願いいたします。

〔降壇〕

○議長（森川元晴君）

再質問はありますか。

○12番（石田秀夫君）

県への要望ということですし、また応急処置、毎週パトロールをしていただいているというところでございますけれども、つくって以来といいますか、247号線が新道としてできて以来、とりわけ、そういった進展が見られない。計画道路——計画道路といいますか、都市計画法に基づいてうちを建てる時にでも、その拡幅幅以降に建てなければならない、また建てる場合には、それなりの制約を受けるという条件があるところだとは思いますが、そういう中で要望がなされているというところですが、進まないという現状について非常にわからない点ではないかということは思うわけです。

せんだって、卒業式の後、学区会がございました。西部の議員の方々は聞かれたということですが、学区会の中でも危険箇所と議題とされて、何とか議員の方々に力になっていただきたいという、力を出していただきたいという切なる要望をお聞きしたところでございます。

また、今敷かれておるグリーンベルトにおいては消えかかっておりますが、そのグリーンベルト自体の効果はあるということもその中で評価として言われておったことであります。

また、各区におかれましても、そういった草刈りなど、枝払いなど、危険箇所をなくすという意味では努力がなされている、非常に皆さん住民の方々が気にかけているというところでも発表もございました。

以前より老朽化してきた中でございますけれども、なぜここまでところどころ応急処置的にはやっただけだが、抜本的にといいますか、全般的に進んでいかないということにおいてはどういうことかな、議員が働きかけというよりも、町の要望というか、そういった点で不可解に思うところでございます。

ぜひともふたの取りかえ、路面改修時の技術的な問題もございましょうけれども、しっかりと要望をば上げていただきたい、折衝していただきたいというのが切なる願いでございます。

また、国道に至っては、湾岸道路、名古屋高速に続いての一番わかりやすい道であります。市町村での差がないと思っておりますが、上に行くほど走りやすくなっているのではないかなという気はいたします。

また、生活道路、産業道路の併用であります247号線、市街地を走る中心道路でありますものですから、産業の活性化の意味においても、当然そういうことが含まれており、要望事項の中でも、そういった西地区というよりも、南部をばどうするのだということをお切なる要望を上げていただきたいと思います。また、通学路としても一番ベストな路線として利用しているのでありまして、その安全面においても県への働きかけをしっかりと対応していただきたいと思います。

○議長（森川元晴君）

石田君、要するに対応してもらいたいというふうな……

○12番（石田秀夫君）

今までの要望の仕方でのいいのか。または、しっかりとした内容をば考えてやっていくべきではないのですかという質問です。

○建設部長（斎藤 功君）

石田議員おっしゃるとおり、道路、これのインフラ整備につきましては、地域住民、住民の方にとって一番大事な整備事業だと思っております。そういった中で、町はもちろん要望活動、先ほど町長の答弁にもございましたように、知多建設事務所長を初め、愛知県の建設部長様、あと県の幹部様、それとあと5市5町でも知多地区の道路整備期成同盟会というのがございます。その中でも地元の県会議員さん、また10月には国交省のほうにもお邪魔させていただきまして、道路の予算の確保といった要望活動は毎年精いっぱい行っておるところでございます。

また、国道247ということで、今現在、知多東部線・西部線を初め、本町としては10路線の要望をメインとして行っておる状況でございます。

全て国道247ということで県にお任せということでもございませぬ。奥田の山王川と国道が交差する奥田橋ですね、ここに平成24年度、26年度と上下線歩道橋を設置させていただきました。これは総事業費が約8,900万円かかっております。

こういったふうで、町としても全力を挙げて通学路の安全対策に取り組んでおるところでございますので、また議員の皆様におかれましても、要望活動と御協力のほう、よろしく願いいたします。

○12番（石田秀夫君）

ぜひとも頑張ってください、今後ともより安全な通学路にしていただきたいと思います。

これで終わります。

○議長（森川元晴君）

以上をもって、石田秀夫君の質問を終わります。

〔12番 石田秀夫君 降席〕

○議長（森川元晴君）

これをもって、町政に対する一般質問を終わります。

○議長（森川元晴君）

以上で本日の日程は終了いたしました。

あす3月8日は午前9時より本会議を開き、提出議案に対する質疑を行います。

本日はこれにて散会します。皆様、お疲れさまでした。

[午前11時04分 散会]

平成28年3月8日（火曜日）

第1回美浜町議会定例会会議録（第4号）

平成28年3月8日（火曜日） 午前9時00分 開議

◎ 議事日程（第4号）

- 日程第1 同意第1号 美浜町固定資産評価審査委員会委員の選任について
- 日程第2 議案第2号 行政不服審査法の施行に伴う関係条例の整理に関する条例について
- 日程第3 議案第3号 美浜町行政不服審査会条例について
- 日程第4 議案第4号 美浜町消防団条例の一部を改正する条例について
- 日程第5 議案第5号 美浜町消防団員等公務災害補償条例の一部を改正する条例について
- 日程第6 議案第6号 美浜町人事行政の運営等の状況の公表に関する条例の一部を改正する条例について
- 日程第7 議案第7号 美浜町職員の勤務時間、休暇等に関する条例等の一部を改正する条例について
- 日程第8 議案第8号 美浜町職員の退職管理に関する条例について
- 日程第9 議案第9号 美浜町議会の議員その他非常勤の職員の公務災害補償等に関する条例の一部を改正する条例について
- 日程第10 議案第10号 美浜町議会の議員の議員報酬、費用弁償及び期末手当に関する条例の一部を改正する条例について
- 日程第11 議案第11号 美浜町証人等の実費弁償に関する条例の一部を改正する条例について
- 日程第12 議案第12号 美浜町特別職の職員で常勤のもの給与及び旅費に関する条例の一部を改正する条例について
- 日程第13 議案第13号 美浜町職員の給与に関する条例の一部を改正する条例について
- 日程第14 議案第14号 美浜町母子家庭等医療費支給条例の一部を改正する条例について
- 日程第15 議案第15号 美浜町国民健康保険税条例の一部を改正する条例について
- 日程第16 議案第16号 美浜町遺児手当支給条例の一部を改正する条例について
- 日程第17 議案第17号 美浜町公共用物の管理に関する条例の一部を改正する条例について
- 日程第18 議案第18号 美浜町道路占用料条例の一部を改正する条例について
- 日程第19 議案第19号 美浜町漁港管理条例の一部を改正する条例について
- 日程第20 議案第20号 美浜町漁港土砂採取料等徴収条例の一部を改正する条例について
- 日程第21 議案第21号 町道路線の廃止について
- 日程第22 議案第22号 平成27年度美浜町一般会計補正予算（第6号）
- 日程第23 議案第23号 平成27年度美浜町国民健康保険特別会計補正予算（第1号）
- 日程第24 議案第24号 平成27年度美浜町介護保険特別会計補正予算（第2号）
- 日程第25 議案第25号 平成27年度美浜町土地取得特別会計補正予算（第2号）
- 日程第26 議案第26号 平成27年度美浜町農業集落家庭排水処理施設特別会計補正予算（第2号）
- 日程第27 議案第27号 平成27年度美浜町水道事業会計補正予算（第2号）
- 日程第28 議案第28号 平成28年度美浜町一般会計予算
- 議案第29号 平成28年度美浜町国民健康保険特別会計予算
- 議案第30号 平成28年度美浜町後期高齢者医療特別会計予算
- 議案第31号 平成28年度美浜町介護保険特別会計予算
- 議案第32号 平成28年度美浜町土地取得特別会計予算

議案第33号 平成28年度美浜町農業集落家庭排水処理施設特別会計予算

議案第34号 平成28年度美浜町水道事業会計予算

日程第29 発議第1号 子どもの医療費助成制度の創設を求める意見書について

発議第2号 国民健康保険の国庫負担減額調整措置の廃止を求める意見書について

◎ 本日の会議に付した事件

〔議事日程と同じにつき省略〕

◎ 本日の出席議員（13名）

1番	横田 貴次君	2番	荒井 勝彦君
3番	大岩 靖君	4番	横田 全博君
5番	大崎 卓夫君	6番	丸田 博雅君
7番	山本 辰見君	8番	鈴木 美代子君
9番	野田 増男君	10番	森川 元晴君
12番	石田 秀夫君	13番	杉浦 剛君
14番	江元 梅彦君		

◎ 説明のため出席した者の職、氏名（26名）

町長	神谷 信行君	副町長	石川 達男君
会計管理者	大井 徳男君	総務部長	本多 孝行君
企画部長	永田 哲弥君	厚生部長	岩瀬 知平君
経済環境部長	齋藤 博君	建設部長	齋藤 功君
教育部長	牧 守君	総務課長	沼田 治義君
防災安全課長	石濱 克彦君	税務課長	廣澤 辰雄君
企画政策課長	磯貝 尚美君	秘書広報課長	谷川 徳寿君
住民課長	茶谷 佳宏君	福祉課長	西田 林治君
子育て支援課主幹	久網 勇君	健康推進課長	坂本 順一君
農業水産課長	天木 孝利君	商工観光課長	竹内 康雄君
環境保全課長	岩本 健市君	土木課長	鈴木 学君
都市計画課都市開発係長	平野 和紀君	水道課長	鈴木 晴雄君
生涯学習課長	河村 伸吉君	学校給食センター所長	森川 幸二君

◎ 職務のため出席した者の職、氏名（2名）

議会事務局長	岩本 修自君	主幹兼議会係長	夏目 明房君
--------	--------	---------	--------

〔午前9時00分 開議〕

○議長（森川元晴君）

皆様、おはようございます。

間もなく東日本大震災発生から5年の節目を迎えます。この5年を振り返っても、火山の噴火、土砂災害、豪雨、台風など大きな自然災害が発生し、とうとい命が奪われています。

自然災害の驚異は、一瞬のうちに何もかも失います。命も、幸せな家庭も、住まいも、職場も、田んぼも、畑も、全てを失います。

私たちは、災害列島日本であることを常に忘れることなく、また風化させることなく、美浜町としても多くのさまざまな事業を展開していく中、住民の安心・安全が一番の基本であり、安心なまちには必ず人が寄ってくると思っています。

今後も住民の命を守る行政事業が一番大切であり、一番求められていると感じています。いま一度3.11の出来事を振り返り、皆さんと一緒に考えていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

それでは、会議に入ります。

ただいまの出席議員は13名であります。定足数に達しておりますので、これより本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、あらかじめお手元に配付したとおりであります。

日程に入るに先立ち、諸般の報告をします。

山本教育長、石川都市計画課長の欠席するとの連絡がありました。

以上で、議長の諸般の報告を終わります。

日程第1 同意第1号 美浜町固定資産評価審査委員会委員の選任について

○議長（森川元晴君）

日程第1、同意第1号、美浜町固定資産評価審査委員会委員の選任についてを議題とします。

これより質疑に入ります。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森川元晴君）

質疑なしと認めます。これをもって質疑を終わります。

お諮りします。本案は委員会付託を省略したいと思います。これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森川元晴君）

御異議なしと認めます。よって、本案は委員会付託を省略することに決しました。

これより討論に入ります。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森川元晴君）

討論なしと認めます。これをもって討論を終わります。

これより同意第1号、美浜町固定資産評価審査委員会委員の選任についてを採決します。

本案は同意することに賛成の諸君の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

○議長（森川元晴君）

挙手全員であります。

よって、本案は同意することに決しました。

日程第2 議案第2号 行政不服審査法の施行に伴う関係条例の整理に関する条例について

○議長（森川元晴君）

日程第2、議案第2号、行政不服審査法の施行に伴う関係条例の整理に関する条例についてを議題とします。
これより質疑に入ります。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森川元晴君）

質疑なしと認めます。これをもって質疑を終わります。

本案は、総務産業常任委員会に付託します。

日程第3 議案第3号 美浜町行政不服審査会条例について

○議長（森川元晴君）

日程第3、議案第3号、美浜町行政不服審査会条例についてを議題とします。
これより質疑に入ります。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森川元晴君）

質疑なしと認めます。これをもって質疑を終わります。

本案は、総務産業常任委員会に付託します。

日程第4 議案第4号 美浜町消防団条例の一部を改正する条例について

○議長（森川元晴君）

日程第4、議案第4号、美浜町消防団条例の一部を改正する条例についてを議題とします。
これより質疑に入ります。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森川元晴君）

質疑なしと認めます。これをもって質疑を終わります。

本案は、総務産業常任委員会に付託します。

日程第5 議案第5号 美浜町消防団員等公務災害補償条例の一部を改正する条例について

○議長（森川元晴君）

日程第5、議案第5号、美浜町消防団員等公務災害補償条例の一部を改正する条例についてを議題とします。
これより質疑に入ります。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森川元晴君）

質疑なしと認めます。これをもって質疑を終わります。

本案は、総務産業常任委員会に付託します。

日程第6 議案第6号 美浜町人事行政の運営等の状況の公表に関する条例の一部を改正する条例について

○議長（森川元晴君）

日程第6、議案第6号、美浜町人事行政の運営等の状況の公表に関する条例の一部を改正する条例についてを議題とします。

これより質疑に入ります。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森川元晴君）

質疑なしと認めます。これをもって質疑を終わります。

本案は、総務産業常任委員会に付託します。

日程第7 議案第7号 美浜町職員の勤務時間、休暇等に関する条例等の一部を改正する条例について

○議長（森川元晴君）

日程第7、議案第7号、美浜町職員の勤務時間、休暇等に関する条例等の一部を改正する条例についてを議題とします。

これより質疑に入ります。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森川元晴君）

質疑なしと認めます。これをもって質疑を終わります。

本案は、総務産業常任委員会に付託します。

日程第8 議案第8号 美浜町職員の退職管理に関する条例について

○議長（森川元晴君）

日程第8、議案第8号、美浜町職員の退職管理に関する条例についてを議題とします。

これより質疑に入ります。質疑はありませんか。7番 山本辰見君。

○7番（山本辰見君）

確認とか、議案説明のときに少し触れていなかったところを確認したいと思います。

第2条の「再就職者による依頼等の規則」の一番最初です。第2条、「法第38条の2第1項、第4項及び第5項の規定によるもののほか」となっていますが、この「規定」というのはどういう内容でございますか。

あわせて、全体として、率直に、ここに国家公務員法の部長、課長とありますが、美浜町の職員で部長、課長という捉え方でよかったのか。

とりあえず、その2点をお願いします。

○企画部長（永田哲弥君）

ちょっと順番が狂いますが、国家公務員で言う部長、課長、本職場においても部長、課長相当職ということで管理職に対応するということで。

それと規定の部分なんですけど、2条の同条の規定する再就職者というところでよかったですかね。

○7番（山本辰見君）

一番最初の1行目の「規定によるもののほか」ですから、ほかのことじゃなくて、規定による内容はどうです

かということです。そのほかは下にずっと書いていますから読み取れるんですけども。

○秘書広報課長（谷川徳寿君）

御質問の内容というのは、第2条の「離職前5年間についていた職が廃止された場合における当該再就職者が当該職についていたときに担当していた職務を担当している役職員（同項に規定する）」の、この規定でよろしかったでしょうか。

○7番（山本辰見君）

繰り返しますが、第2条の1行目のところを言っております。「法第38条の2第1項、第4項、第5項の規定によるもののほか」ですから、この2の1項、4項、5項というのはどういう内容でしょうかということをお聞きしております。

○秘書広報課長（谷川徳寿君）

この法第38条の2というのは、地方公務員法の第38条の2第1項、4項、5項ということになります。ここで言います、この規定については、職員であった者が離職後に職につく場合、それからその期間ですけれども、離職前の5年間に職についているということを規定されております。

4項につきましては、町長直近下位の職員ということにあります。いわゆる美浜町で言うと、部長職に相当します。

5項につきましては、再就職者に類する者の規定であります。再就職に類する者というのは、担当していた職務に働きかける……ごめんなさい。例えば、機構改革等で退職するときの職が廃止されていても、それに類する課に所属していた場合ということになりますので、よろしく願いいたします。

○7番（山本辰見君）

改めて、この全体を確認ですけれども、要は簡単に言いますと、役場で部長、課長に5年間——5年間のうちということで、5年間勤めたということじゃなくて、5年間のうちに部長、課長であった方が次の例えば民間のところ、あるいは美浜町と契約しているところ、寄附をもらうようなところが、その方が、おい、うちに有利……まあ、そういう言葉は使わないにしても、有利にしてくれとか、うちに仕事をくれとか、よそに仕事出すんじゃないとか、そういうことはやっちゃいかんよということで捉えればよかったですでしょうか。

○企画部長（永田哲弥君）

そのとおりです。役場に勤めておって退職されて、2年間は在職中の5年の範囲内において契約行為等職員に促してはいけないということで、そのとおりでございます。

○7番（山本辰見君）

再確認ですが、部長、課長職のみということによかったのかということと、それから読み方によっては、例えば今具体的に誰ということを目指すわけじゃないですけども、土木課の土木のほうで担当した人が厚生部の仕事にということは、自分の仕事場と違うという捉え方もあるわけですけども、そういう捉え方はよかったですでしょうか。

それから、最初のほうは、部長、課長の正式な職じゃない方では、そういうのはないということによかったですか。

○企画部長（永田哲弥君）

そのとおりでございます。部長、課長で、例えば先ほど土木だったですか、土木課に勤務して5年、役場を退職する5年前、土木に勤めておったということで、営利企業に就職された。2年間の間については、5年前の業務というのか、例えば契約行為をしたいということについては働きをかけちゃ……何とかうちへ応援してくれ

んかというようなことはしちやいけませんというようなことで変わらないと思いますが。

〔「一般職」と呼ぶ者あり〕

○企画部長（永田哲弥君）

すみません、一般職につきましては、今条例で部長、課長相当職——まあ、規則もあるんですが、その中でも課長相当職、部長相当職という言い方で規定しておりますので、それ未満というのか、の職については、特に規定はございません。

○議長（森川元晴君）

ほかによろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森川元晴君）

これをもって質疑を終わります。

本案は、総務産業常任委員会に付託いたします。

日程第9 議案第9号 美浜町議会の議員その他非常勤の職員の公務災害補償等に関する条例の一部を改正する条例について

○議長（森川元晴君）

日程第9、議案第9号、美浜町議会の議員その他非常勤の職員の公務災害補償等に関する条例の一部を改正する条例についてを議題とします。

これより質疑に入ります。質疑はありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森川元晴君）

質疑なしと認めます。これをもって質疑を終わります。

本案は、総務産業常任委員会に付託します。

日程第10 議案第10号 美浜町議会の議員の議員報酬、費用弁償及び期末手当に関する条例の一部を改正する条例について

○議長（森川元晴君）

日程第10、議案第10号、美浜町議会の議員の議員報酬、費用弁償及び期末手当に関する条例の一部を改正する条例についてを議題とします。

これより質疑に入ります。質疑はありますか。7番 山本君。

○7番（山本辰見君）

この改定によって、いわゆる議長じゃなくて一般の議員で結構かと思えますけれども、具体的に年間でどの程度影響あるのかということと、合計でどの程度の変更になるのかを教えてください。

○企画部長（永田哲弥君）

まず、どれぐらいということなんですが、期末手当につきましては0.05月分の引き上げでございますので、例えば、10万円いただいておりますと、0.05月分の増になるという考え方でよろしいかと思います。

それと、全体の予算につきましては、ちょっと計算のほうしてございませぬが、補正額のほうに載っておりますので、ちょっと調べますのでお待ちください。

じゃ、補正予算書の給与費明細のほうでお答えのほうさせていただきます。
比較の欄で21万7,000円という金額が載ってございます。そちらのほうが期末手当0.05カ月分の引き上げ分と
いうことで、議員におかれましては21万7,000円の増額ということでございます。

〔「ページ数はわかりますか」と呼ぶ者あり〕

○企画部長（永田哲弥君）

補正の40ページです。一番下の比較欄になります。

○議長（森川元晴君）

ほかによろしいでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森川元晴君）

これをもって質疑を終わります。

本案は、総務産業常任委員会に付託いたします。

日程第11 議案第11号 美浜町証人等の実費弁償に関する条例の一部を改正する条例について

○議長（森川元晴君）

日程第11、議案第11号、美浜町証人等の実費弁償に関する条例の一部を改正する条例についてを議題とします。
これより質疑に入ります。質疑はありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森川元晴君）

質疑なしと認めます。これをもって質疑を終わります。

本案は、総務産業常任委員会に付託します。

日程第12 議案第12号 美浜町特別職の職員で常勤のものの給与及び旅費に関する条例の一部を改正する条例について

○議長（森川元晴君）

日程第12、議案第12号、美浜町特別職の職員で常勤のものの給与及び旅費に関する条例の一部を改正する条例
についてを議題とします。

これより質疑に入ります。質疑はありますか。7番 山本君。

○7番（山本辰見君）

これも先ほどの質問と一緒にですが、同じようにこれでよかったか確認です。先ほどの説明書の特別職の欄の増
減比較でよかったですでしょうか。議員の隣にありますけれども。

○企画部長（永田哲弥君）

そのとおりでございます。

○議長（森川元晴君）

ほかに。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森川元晴君）

これをもって質疑を終わります。

本案は、総務産業常任委員会に付託します。

日程第13 議案第13号 美浜町職員の給与に関する条例の一部を改正する条例について

○議長（森川元晴君）

日程第13、議案第13号、美浜町職員の給与に関する条例の一部を改正する条例についてを議題とします。

これより質疑に入ります。質疑はありませんか。7番 山本君。

○7番（山本辰見君）

同じような確認でございますけれども、いわゆる補正予算のほうである次の41ページの資料の比較給料が233万5,000円から職員手当850万円、この比較は今の条例にかかわる総合的な職員のいわゆる影響額と見ていいわけでしょうか。

○企画部長（永田哲弥君）

こちらも同じでございますので、よろしく申し上げます。

○議長（森川元晴君）

ほかに。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森川元晴君）

これをもって質疑を終わります。

本案は、総務産業常任委員会に付託します。

日程第14 議案第14号 美浜町母子家庭等医療費支給条例の一部を改正する条例について

○議長（森川元晴君）

日程第14、議案第14号、美浜町母子家庭等医療費支給条例の一部を改正する条例についてを議題とします。

これより質疑に入ります。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森川元晴君）

質疑なしと認めます。これをもって質疑を終わります。

本案は、文教厚生常任委員会に付託します。

日程第15 議案第15号 美浜町国民健康保険税条例の一部を改正する条例について

○議長（森川元晴君）

日程第15、議案第15号、美浜町国民健康保険税条例の一部を改正する条例についてを議題とします。

これより質疑に入ります。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森川元晴君）

質疑なしと認めます。これをもって質疑を終わります。

本案は、文教厚生常任委員会に付託します。

日程第16 議案第16号 美浜町遺児手当支給条例の一部を改正する条例について

○議長（森川元晴君）

日程第16、議案第16号、美浜町遺児手当支給条例の一部を改正する条例についてを議題とします。

これより質疑に入ります。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森川元晴君）

質疑なしと認めます。これをもって質疑を終わります。

本案は、文教厚生常任委員会に付託します。

日程第17 議案第17号 美浜町公共用物の管理に関する条例の一部を改正する条例について

○議長（森川元晴君）

日程第17、議案第17号、美浜町公共用物の管理に関する条例の一部を改正する条例についてを議題とします。

これより質疑に入ります。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森川元晴君）

質疑なしと認めます。これをもって質疑を終わります。

本案は、総務産業常任委員会に付託します。

日程第18 議案第18号 美浜町道路占用料条例の一部を改正する条例について

○議長（森川元晴君）

日程第18、議案第18号、美浜町道路占用料条例の一部を改正する条例についてを議題とします。

これより質疑に入ります。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森川元晴君）

質疑なしと認めます。これをもって質疑を終わります。

本案は、総務産業常任委員会に付託します。

日程第19 議案第19号 美浜町漁港管理条例の一部を改正する条例について

○議長（森川元晴君）

日程第19、議案第19号、美浜町漁港管理条例の一部を改正する条例についてを議題とします。

これより質疑に入ります。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森川元晴君）

質疑なしと認めます。これをもって質疑を終わります。

本案は、総務産業常任委員会に付託します。

日程第20 議案第20号 美浜町漁港土砂採取料等徴収条例の一部を改正する条例について

○議長（森川元晴君）

日程第20、議案第20号、美浜町漁港土砂採取料等徴収条例の一部を改正する条例についてを議題とします。

これより質疑に入ります。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森川元晴君）

質疑なしと認めます。これをもって質疑を終わります。

本案は、総務産業常任委員会に付託します。

日程第21 議案第21号 町道路線の廃止について

○議長（森川元晴君）

日程第21、議案第21号、町道路線の廃止についてを議題とします。

これより質疑に入ります。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森川元晴君）

質疑なしと認めます。これをもって質疑を終わります。

本案は、総務産業常任委員会に付託します。

日程第22 議案第22号 平成27年度美浜町一般会計補正予算（第6号）

○議長（森川元晴君）

日程第22、議案第22号、平成27年度美浜町一般会計補正予算（第6号）を議題とします。

これより質疑に入ります。質疑はありませんか。7番 山本君。

○7番（山本辰見君）

補正予算歳出の中の総務企画費の中にあります、予算書ですと17ページです。生涯活躍のまち推進事業、あれこれの節があって予算がついているわけですが、これ全体の構想が、なかなか説明を受けても、よく理解できない。もう一度、このことが例えば福祉大学との関連もありましたけれども、奥田駅前整備だとか、例の美浜の里構想なんかとも関連してくるのか、それとはまた別な形になるのか、もう少し説明をして、それから最後の輝くまちづくり、それも少し見にくいというか、様子が見えてきません。もう一度お願いしたいと思います。

○企画部長（永田哲弥君）

じゃ、御説明のほうさせていただきます。

先ほど奥田東の開発というのか、構想の関係、美浜の里の関係ということでお話もございました。目的とします、まち・ひと・しごと創生戦略につきましては、雇用だとか定住、人口減少、高齢者の福祉だとか元気で活躍できるまちづくりというのが一応コンセプトというのか、目標になっております。

それで、先ほどの美浜の里についても雇用を生む場ということ、地域が活性化する場ということで合った部分があるということで、また奥田東の関係につきましても、雇用だとか交流の場だとか地域の活性化という部分では目的が一緒の部分があるということで、目指すところは一緒ということでお答えのほうさせていただきたいと思います。

それで、今回の生涯活躍のまちということで基本計画のほうをつくるんですが、じゃ、どういうものをつくるかということになります。例えば、産官学金労言というお言葉を耳にしておるかと思いますが、役場だけではなくて、民間の方、労働者の方、それと金融機関の方、学校の方と連携をしまして、おのおののノウハウを一つに集めるということで、これから例えば元気な高齢者が安心して安全で生活ができ、生きがいがあり、それと医

療も充実された町になるためにというようなことも含めて、それと子育てをしておる御家族、おうちの方たちが過ごしやすい、子どもを育てやすい町にするにはどうしたらいいかというような全体的なこれからの活性化に対する大きな目標を策定するというので、その策定に当たっては、大学とか金融機関だとか、そういうようなノウハウをいただいて構想をつくっていくというのが、まず1つ基本計画をつくるというような内容です。

それと、あと事務的なものは少しありますが、コーディネーター委託料ということで1,500万円ほど出ております。これも先ほどとちょっとダブる部分があると思うんですが、総合的なアドバイスをいただく専門知識を持った方をコーディネーターとして委託をさせていただいて道しるべをしていただくと。ただ単純にその方が道しるべじゃなくて、町も、関係者も含めて道しるべを出していただく、コーディネートしていただくという、そういうような仕組みをこの委託料でつくっていただくということです。

あと先ほどイルミネーションというのか、150万円ほどのシティブロモーションの事業ということで出ております。この1つの事業としてイルミネーションなどという言い方をちょっとさせていただいてはおるんですが、これにつきましては交流人口をふやす1つの手法という考え方をとっております。まち・ひと・しごと創生戦略の中では、交流人口をふやしていこうというのも大きな目標となっておりますので、イルミネーション事業とか、そこでイベントというのか、それこそ産官学金労言などを合同してまちづくりをしようというようなことで、1つの手法でイルミネーションという言い方をさせていただいております。

それと、例えば、イルミネーションというものを使って——まあ、ナイトツアーと言うと、ちょっと大きいですが、各町並みで実施されておるようなこと、例えばここで、美浜町でイルミネーションをやる、大学でもやる、例えばビーチランドでもやるというようなことが起きたときに、そういうところをめぐりめぐって行くような、そういう……まあ、ツアーと言うとちょっと大きいですが、いろいろな団体、地域の方が協力した中で、そういうような交流人口をふやしていこうというのが一応目的でございます。

以上でございます。

○議長（森川元晴君）

ほかに。8番 鈴木君。

○8番（鈴木美代子君）

25ページ、コミュニティハウスの事業ですけれども、これは説明で……間違っていたらごめんなさい。布土保育所の2階に部屋が幾つかあるから、子育て支援センターの隣につくる、これで合っていますね。

介護施設のコミュニティハウスは、よそでは宿泊施設もあるんですけれども、将来的にはそうしていくのか、その辺をお聞きしたいと思います。

○厚生部長（岩瀬知平君）

コミュニティハウスにつきましては、布土保育所の2階にも保育室が3室あったわけですが、現在、保育室としては3室とも使っていないということです。

2室、子育て支援センターとして使っております。残りの1室が倉庫のような形で使っておったものですから、そこを整備して、いろいろなコミュニティーの方々とか、住民の方々に使っていただきたいということで、飲食もできるようなコーナーとか、コーヒー飲んでゆっくりできるコーナーとかをつくったり、あるいは子育て支援センターに見えた親子が、例えば離乳食をできるようなコーナーをつくったりするところまで予算があればやりたいなということで、ちょっと詳細な設計のところまでは詰めていないですけれども、その程度はできるようにしたいなということと、トイレの改修をしますので、よろしくお願ひします。

また、コミュニティハウスは介護施設ではございませんので、ボランティアのサロンですね。サロンをそこで

開いていただくことは、もう全然問題ないんですけれども、サロンだけのための施設でもないということで今のところは考えておまして、また自由度はかなりありますので、御利用が進んでいくにつれて変わっていくのかなとは思っておりますけれども、いずれにしろ、十分に利用していただければ結構なことかなというふうに思っております。

○議長（森川元晴君）

ほかに。よろしいですね。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森川元晴君）

これをもって質疑を終わります。

本案は、お手元に配付しました議案審査付託表のとおり、各担当常任委員会に付託します。

日程第23 議案第23号 平成27年度美浜町国民健康保険特別会計補正予算（第1号）

○議長（森川元晴君）

日程第23、議案第23号、平成27年度美浜町国民健康保険特別会計補正予算（第1号）を議題とします。

これより質疑に入ります。質疑はありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森川元晴君）

質疑なしと認めます。これをもって質疑を終わります。

本案は、文教厚生常任委員会に付託します。

日程第24 議案第24号 平成27年度美浜町介護保険特別会計補正予算（第2号）

○議長（森川元晴君）

日程第24、議案第24号、平成27年度美浜町介護保険特別会計補正予算（第2号）を議題とします。

これより質疑に入ります。質疑はありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森川元晴君）

質疑なしと認めます。これをもって質疑を終わります。

本案は、文教厚生常任委員会に付託します。

日程第25 議案第25号 平成27年度美浜町土地取得特別会計補正予算（第2号）

○議長（森川元晴君）

日程第25、議案第25号、平成27年度美浜町土地取得特別会計補正予算（第2号）を議題とします。

これより質疑に入ります。質疑はありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森川元晴君）

質疑なしと認めます。これをもって質疑を終わります。

本案は、総務産業常任委員会に付託します。

日程第26 議案第26号 平成27年度美浜町農業集落家庭排水処理施設特別会計補正予算（第2号）

○議長（森川元晴君）

日程第26、議案第26号、平成27年度美浜町農業集落家庭排水処理施設特別会計補正予算（第2号）を議題とします。

これより質疑に入ります。質疑はありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森川元晴君）

質疑なしと認めます。これをもって質疑を終わります。

本案は、総務産業常任委員会に付託します。

日程第27 議案第27号 平成27年度美浜町水道事業会計補正予算（第2号）

○議長（森川元晴君）

日程第27、議案第27号、平成27年度美浜町水道事業会計補正予算（第2号）を議題とします。

これより質疑に入ります。質疑はありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森川元晴君）

質疑なしと認めます。これをもって質疑を終わります。

本案は、総務産業常任委員会に付託します。

日程第28 議案第28号 平成28年度美浜町一般会計予算から

議案第34号 平成28年度美浜町水道事業会計予算まで7件一括

○議長（森川元晴君）

日程第28、議案第28号、平成28年度美浜町一般会計予算から議案第34号、平成28年度美浜町水道事業会計予算まで、以上7件を一括議題とし、順次議事を進めます。

平成28年度予算の質疑に入るに先立ち、議長から議員にお願いいたします。

質疑については議案内容についての疑義をただすものでありまして、一般質問のごとく自己の意見を披瀝するものではありませんので、この点に御注意願います。

また、美浜町議会会議規則第53条並びに第54条の規定により、発言はできるだけ簡明に、質疑の回数については、平成28年度一般会計予算を除き1議題1議員につき3回までを限度としますので、御了承お願いいたします。

最初に、議案第28号、平成28年度美浜町一般会計予算についてですが、本案は各会計当初予算の中で最も重要な案件であり、かつ、その内容も多岐にわたりますので、4つの区分に分けて質疑を行います。

1つ目の区分として歳入全般について、2つ目の区分として歳出の1款議会費から4款衛生費まで、3つ目の区分として5款労働費から8款土木費まで、4つ目の区分として9款消防費以降の順で、それぞれ区分ごとに1議員は3回までを限度とし質疑を受けます。

初めに、歳入全般について、これより質疑に入ります。質疑はありますか。8番 鈴木美代子君。

○8番（鈴木美代子君）

歳入です。予算書で見ると、法人町民税が減額をしています。法人町民税が減額しているのは、どのような内容なのか、なぜか、ちょっとお聞きしたいと思います。

それから、都市計画税もいつもよりもうんと下がって、1億8,000万円という数字なんですけど、都市計画税は今後の見通しはどうでしょうか。そういうことをもちろん予算を査定するに当たって考えていると思いますので、お聞きしたいと思います。

さらに、地方特例交付金、地方交付税が28年度ではふえています。今まで減って本当に困った状況の中で、今28年度はふえていますけど、これからどういうふうになっていくのか予想ができるのかお聞きしたいと思います。

以上です。

○総務部長（本多孝行君）

それでは、お答えをいたします。

まず法人町民税の減額の部分でございますけれども、基本的には実績を踏まえて出すということは大前提でございます。でありますけど、27年度を見ますと、予算よりも決算そのものはふえてはおりますけれども、28年度の予算につきましては、先ほど申し上げましたように税率の改正等も見込まれますし、27年度収納状況、また法人税の不安定さを含めてかた目に見込んでおるということでございます。

議員の質問で零細企業のことを触れられておるということに、そこをちょっと触れますと、単純に言いますと、過去4年の均等割のみの法人数というのは、基本的にはふえていないということを見ますと、赤字のところもどんどんふえてきたということはまずは言えないのではないかとこのように思っております。また、法人町民税そのものは減収となるのが景気が悪くなったということだけではありません。具体的に名前は申し上げませんが、町内の企業でも大規模な投資をした場合、その投資に係る費用というのは経費として算入されますので、固定資産という形では増収はなりますけれども、法人町民税という形では、その部分は減収になるということもございまして、一概に景気が悪いということではないというふうに考えていいと思っております。

それから、都市計画税が大きく下がったけれどもということなんですけれども、都市計画税、固定資産税と同様の考え方ができるわけなんですけれども、都市計画税は土地と家屋に課税をされております。土地につきましては、毎年毎年新聞で美浜町、土地が下がった下がったと言われております。土地の価格が下がるということは、固定資産、ひいてはまた都市計画税も下がるという流れというものは間違いございません。

ですが、家屋につきましては、基本的には3年に1度の評価替えという年、そのときにつきましては、家屋も価格を見直しをいたしますので、評価替え——27年度の評価替えなんですけれども、そういったときは土地も下がっておるし、家屋についても評価替えで下がる流れが今はございます。

では、28年度どうなんだというのと、土地につきましては、時点修正という形で、まだなお下がる可能性ももちろんあります。ただ、家屋につきましては据え置きになりますので、そういった意味では新築の家屋がふえてくれば家屋に関する都市計画税はふえる可能性があります。

前も説明をちょっとしたことがあるかと思いますが、やや持ち直しが家屋に見られますので、そういった意味では、27年のと28年を比べますと、家屋に関する都市計画税は微増も見込めそうかなと。じゃ、今後どうなるんだということになりますと、一番大きいのは、先ほどから言っておりますように、土地の価格が下がり続ければ、基本的には固定資産税も都市計画税も土地に関する部分は下がり続ける。家屋についても、建築件数はどんどんふえなければ評価替えで下がるという流れがあるかと思っております。

あと地方交付税でよろしかったでしょうか。

地方交付税につきましては、27年度と28年度を比べますと大変大きくなっております。これにつきましては、前もこれも触れておりますけれども、交付税というのは算入するものというのはもちろん変わらないんですけれども、それは計算上の入のところでは変わらないんですけれども、実際に交付税を計算する段階では、国のほう

が一定の率を掛けることがあります。普通であれば100%来るはずなのに、ことしについてはどこかが減っているという部分があるのは、正直な話でございます。

そういった流れを踏まえまして、毎年毎年、交付税の算定におきましては、前年の交付税の交付申請、それが実際に来た実績、それから国のほうの財政関係もあります。そういうことを見て——まあ、収入に欠損が出てはいけませんので、やはり毎年毎年かた目に見てはおります。

そういうことを見た上で、去年の実績を見て、その結果として昨年度の当初予算と比べた段階では28年度の交付税の額はふえておりますけれども、決して、じゃ、実績に比べて大きくふえたかということはいいますと、そういうことではないと。交付税もなかなか厳しいという状況は変わらぬというふうにお考えいただければと思います。

以上です。

○8番（鈴木美代子君）

今いろいろな書物を読んでも、それからこういう町内の人の話を聞いても、本当に業者の方は景気が少しよくなってくるといふ実感が全くないと。不景気で大変だという、そういう声が多いんです。今の話を聞くと、不景気イコール法人町民税が減るとは限らないという話でしたけれども、これだけ不景気が続くと、こういったところに法人町民税だとか——まあ、法人税と言っていいと思うんですけども、こういうところに影響があるんじゃないですか。

○総務部長（本多孝行君）

不景気イコール法人町民……法人税が減るのではないということを行ったつもりはございません。申しわけございません。

町民税が減るといふことは、もちろん、景気が悪くなって、財政上、皆さんの経営状況が悪くなれば下がります。ですが、法人町民税が下がったからといって景気が悪くなったんだということではなくて、中には積極的な投資もあったので下がることもあると、そういうふうに申し上げておりますので、その点で、すみませんが、よろしくお願いいたします。

○議長（森川元晴君）

ほかに。7番 山本辰見君。

○7番（山本辰見君）

地方消費税交付金についてお尋ねしたいと思います。

歳入に占める中では、いわゆる町税から今の地方交付税だとかなんか等を見ても、全体の中の、計算しましたら9.1%ぐらい占める結構大きな金額だと思いますけれども、それから、ことしも少しふえているわけですが、これの仕組みについてお尋ねしたいと思います。

といいますのは、一昨年ですか、5%から8%に上がって、また10%に上がるようなことがあって、これがふえていることが、いや、実は自分たちが負担しているのが戻ってきているんだというふうに捉えていいのかということ。この仕組みをどんな形でそれぞれの自治体に戻ってくるのかということと、もう一点は、消費税全体の予算の中での負担額、一般会計ではこのぐらいを負担する、あるいは——あるいはじゃなくてもう一点は特別会計、水道会計も含めて全体の予算の中ではこの程度を占めるということをお示しいただきたいと思います。

○総務部長（本多孝行君）

それでは、まず地方消費税の交付金について申し上げますと、いわゆる消費税というのは8%、8%とっておりますけれども、これは一括してその場で徴収はされますけれども、8%のうち、1.7%がいわゆる地方消費

税ということになります。

今申し上げましたように、8%は一括して徴収されますけれども、そのうちの1.7%相当につきましては、都道府県の収入になるように消費に関する指標というのがあるそうですが、それに基づきまして、都道府県のほうへ精算をされることになってまいります。都道府県に入ってきたものにつきまして、再度市町村のほうへ分配するのが地方消費税交付金となるわけなんですけれども、例えば、愛知県ですと、愛知県に精算で入ってきた地方消費税のうちの半分、2分の1を市町村へ人口、あるいは従業員の数といった指標をもとに交付されるものであります。ですので、先ほど議員言われたように、自分が負担したものが戻ってくるのかというふうになりますと、もちろん、その人口も算定の基礎に入るわけですから、人口が多くて買う人が多ければ戻ってくるという考え方は一理あるのではないかとこのように考えております。

それから、消費税の総額でございますけれども、まず一般会計で申し上げますと、28年度については1億662万円ほどになるのではないかと見込んでおります。また、水道会計は除きますけれども、特別会計全部合わせますと、1億1,195万円ほど消費税がかかるのではないかとこのように考えております。

以上でございます。

○水道課長（鈴木晴雄君）

引き続きまして、水道課の水道事業につきましてですけれども、平成28年度の予算では1,000万円になると予想しておりますので、よろしく申し上げます。

以上でございます。

○7番（山本辰見君）

じゃ、今の3件、1億600万円から1億1,100万円。それを合計すれば、全体の町の28年度に影響を与える消費税ということではよろしかったでしょうか。はい。

○8番（鈴木美代子君）

ごめんなさい、これは通告していない。今考えて質問しますので、ごめんなさい。

23ページの補助金の中で、児童虐待・DV対策等の総合支援事業費補助金があるんですが、これがあるということは、私は余りDVのことも児童虐待のことも具体的には聞いていないんですが、今町内にあって予算を上げたのか、それをお聞きしたいと思います。

それからもう一つ、橋梁長寿命化、この補助金ですが、具体的にはどこを指しているのかお聞きしたいと思います。

もう一点、25ページの児童福祉費補助金の中で、第3子保育料無料化事業補助金がありますが、美浜町がやっているんじゃなくて、第3子の無料化ということは県の制度に幾らか町もお金を出しているということですか。ちょっと具体的に教えてください。

○厚生部長（岩瀬知平君）

まず最初は、児童虐待・DV対策等総合支援事業費補助金ですか、それでDVがあるのか、児童虐待があるのかという御質問ですけれども、DVも児童虐待もございます。当然ありまして、対策をしております。この補助金につきましては、専門員さんも雇っておりますので、専門員さんの人件費といいますか、賃金のほうに充てているという状況でございます。

それと、第3子保育料無料化事業補助金でございますけれども、現在も第3子無料化やっておりますので、18歳未満の方ですか、で、第3子が乳児に当たる方ですか、その方は無料になるということで県から補助金いただいておりますので、その額です。

〔「町の制度じゃないの」と呼ぶ者あり〕

○厚生部長（岩瀬知平君）

県の制度です。

○総務部長（本多孝行君）

先ほど山本議員の消費税の合計のときで、私2つを足すものと勘違いしていました。議員3つとおっしゃった。3つではなくてごめんなさい。先ほど申し上げた、まず一般会計だけだと1億662万円、そこに水道会計を除く特別会計を含むと1億1,195万円、そこに水道会計1,000万円を含みますので、1億2,195万円ということでございます。聞き違いしておりまして、申しわけございませんでした。

○建設部長（斎藤 功君）

橋梁の長寿命化修繕補助金の関係でございます。場所につきましては、浦戸の河浦橋、この長寿命化を図るということで、耐震化工事の補助金でございますので、お願いいたします。

○議長（森川元晴君）

ほかに。よろしいでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森川元晴君）

これをもって歳入の質疑を終わります。

次に、歳出のうち、1款議会費から4款衛生費まで、これより質疑に入ります。質疑はありますか。7番山本君。

○7番（山本辰見君）

事前に資料を出してありますので、順番にお願いしたいと思います。

2款総務費の中の6目財産管理の中で公共施設等総合管理計画策定支援業務というのがあります。当然、これまでも、いわゆる毎年毎年公有財産施設についていろいろな管理をするということから計画に上げられていると思いますけれども、28年度の場合は27年度に立てた計画、あるいは26年度に立ててやり残した仕事なんかがあるかと思いますが、これらとの兼ね合いはどう捉えたらいいのか。いわゆるこれまで立てている年次計画との関係では。もちろん、それを深めていくことにはなるとは思うんですけども、そこをちょっとお願いしたいと思います。

次は、3款の民生費、3目の児童福祉施設の中で特定教育・保育施設給付事業での認定こども園の関係だと思いますけれども、これは美浜町でも率直に言って、今、今度小学校の卒業式、保育園の卒園式があります。年々子どもの数が減って、大変な状況、一部の保育園の統廃合なんかも気になる場所ですけども、こういった少子化の流れと本来子育てについては町行政、いわゆる公が責任を持って親御さんの希望に沿っていくということが大事な課題だなと思っているわけですけども、それについて提案の説明のところでは、民間でやってくれると非常に助かるというようなニュアンスも感じた説明があったと思いますけれども、いわゆる行政、公が責任を持って子育てを、責任を持って保障していくんだという形との関係を確認したいと思います。

それから、同じく民生費の社会福祉費の中で臨時福祉給付金事業、ここに2本あると思います。臨時福祉給付金と年金生活者等の臨時給付金。これは、一定ちょっと説明ありましたけれども、この2つの区別された中身と、それから対象者は相当いると思うわけですけども、自動的に対象者に対しては役場のほうから手続して振り込みなり支払いをしてくれるのか。あくまで、これまでほかの課題もありますけれども、申請主義でそれぞれの方が申請して初めて手続が終わるといふ、いわゆる申請しない人はもらえないのかということ、これ日程的なスケ

ジュールも含めて説明をお願いしたいと思います。

次、4 款の衛生費ですけれども、知多厚生病院運営費補助金、新しく出されたと思いますけれども、これは説明の中では救急医療が赤字を抱えているため、その補填をしたいということでございますけれども、率直に少子化・人口減少問題からすると、もちろん、救急医療も大事な課題だと思いますし、地域の重点的な病院ですので、そのことはわかります。あわせて、人口減少の問題からすると、産婦人科、それから小児科の問題、同僚議員からも指摘されていると思いますけれども、この拡充こそ求められるわけですが、それを進めていこうと。それから、要望していくときに、これがさらに上乘せで助けてほしいと。まあ、言葉は悪いですが、そういう形になりかねないかと心配しているところですが、それも必要によっては支援も必要かと思えますけれども、それらとの兼ね合いはいかがでしょうか。

何か単発ですかと言ったら、いや、とりあえず2年だけしばらく続くと思うというふうなこともあったんで、非常に町の財政に負担がかかるかなと思うわけですが、

4 点目は、環境対策費の中の浄化槽整備事業、合併浄化槽の補助金ですけれども、新しくいろいろ手を打つわけですが、これまで多く取り残されている旧式のいわゆるくみ取り、あるいは単独浄化槽。新築の方は、うちを建てかえたりする場合は、もちろん新しく支援しているわけですが、旧式の、いわゆる、うちは建てかえないけれども、そういうところの家庭への普及をどう手だてをしてふやしていくのか、そのところはなかなか、予算上でも、説明の中でも余り見えてきません。どういう手だてを考えているのか、お願いしたいと思います。

以上です。

○厚生部長（岩瀬知平君）

私から、認定こども園の施設整備事業費補助金と保育所等整備事業補助金に関連しての質疑でございますけれども、公が子育てをするべきではないのかという御質問ですが、今の保育制度は、前提としては、民間がやるのが前提になっている保育制度になっております。民間がやらない、やれないとか、やれないところはもちろん公が出てやらなければいけないというふうに思っておりますが、知多大和幼稚園さんもそれなりの今の現状、経営してみえまして、それを強化して、子育てに力を入れていきたいということを考えておられますので、それに対して補助をするというのは至極まともな方向かなと思っております。また少子化になるから、それをやるべきじゃないというような御意見だったようですが、現在で、河和地区の乳児に関しましては、定員が全く足りておりませんで、例えば、よその保育園に行っていただくということで、かなり——この間も一般質問でもございましたとおり、上の子がおって、下の子がなぜそこへ入れないんだというような問題も、やはり定員が満たっていないということが最大の問題ですので、これによりまして、認定こども園になれば——今まで幼稚園だったので3歳以上のお子さんしか預かれなかったんですが、乳児もやっていただけるというようなことを聞いておりますので、乳児までやっていただければ、その定員不足も解消にもつながっていくとなっておりますし、民間でやっておられる経営についても4分の3は公費でやるわけでございます。民間だから責任はないとか、そういうことではございませんので、よろしくお願ひしたいと思います。

○福祉課長（西田林治君）

続きまして、質問の中にありました福祉給付金について御説明いたします。

予算書のページ数については、97ページになると思います。97ページの上のほうにある臨時福祉給付金支給事業で、その下のほうに黒丸印があります年金生活者臨時福祉給付金支給事業と2つございます。ちょっと予算書の順番とスケジュールの関係が逆になっていて申しわけないんですが、上のほうにある臨時福祉給付金支給事業

というのは、下半期に行います。

下のほうにある年金生活者等臨時福祉給付金支給事業というのは、年度明けた早々、実際に申しますと、作業については4月末ぐらいにうちのほうは対象者に発送できればなという形で考えております。

どんな人がもらえるんだということと、先ほど議員おっしゃられるとおり、申請しなければもらえないのかということで、それは申請しなければもらえません。どうしても支払い先が不明なことがございますので、こういうものは制度的に申請があつて初めてもらえるという制度になってございます。

ですので、ちょっと予算書の順番は逆ですが、下のほう、年金生活者のほうから先に、どんな人がもらえるんだということを御説明申し上げたいと思います。

これについては、今現在、非課税者という判定をしますと、住民税の非課税者は、28年度の4月に判定をしようとする、27年度のことしかわかりませんので、27年度の非課税者の方ということになります。それで、なおかつ課税されている人に扶養控除、税の扶養控除の対象にしていない人が対象になりますので、たまたまその人が非課税であっても、隣、近くに住んでいる息子さんに税扶養を取られておるよという、例えば町外の息子さんから仕送りを受けて税扶養取られておるよという方については対象外となってしまいます。

それで、その方のうち、65歳以上の方、この年度中に、28年度中に65歳に到達する方、今現在64歳でも誕生日が来ると、29年の3月までに65歳になるよという方を対象に1人当たり3万円の給付が受けられます。

このスケジュールですが、今のところ考えておりますのは、先ほど申しましたように、4月末の段階で何とか発送ができないかなと考えております。ひょっとしたら、5月、ゴールデンウイーク明けになるかもしれませんが、そういうことで、そのぐらいのところに発送をして、足かけ4カ月、8月いっぱいぐらいをめどに申請の受け付けをしたい、期限をしたいというふうに考えております。国のほうも、原則3カ月でやれ、受け付け期間を3カ月に定めようというふうに添えてきますので、ですので、とりあえず8月末ぐらいまでを目安に締め切りをしようというふうに考えております。それがスケジュールでございます。

片や、上のほうの年金じゃなくて臨時福祉給付金支給事業の対象者でございますが、この人については発送期間を9月に考えております。9月に発送して、対象者と思われる方に発送してということになります。この対象者については、28年度の住民税の非課税の方、年度が変わるだけです。27から28年が変わるだけです。28年の対象者の方で非課税の方で、なおかつ先ほどと同じように28年度の住民税の扶養控除を取られていない方、課税されている人に扶養控除を取られていない方が対象となります。その方は年齢制限ありません。全員に一律3,000円給付されます。一律3,000円給付されます、1人当たり。

その中のうち、65歳未満の方というふうに、要するに年の前半に3万円を受け取る権利の方は除かれます。それ以外の方で、65歳未満の方で障害基礎年金を受給されてみえる方と遺族基礎年金を受給されてみえる方、この2つの方については3万円の給付金が受けられます。ですので、簡単に言いますと、前半に3万円を受けた方は3万円は3,000円はもし該当すれば受けられますけれども、後半は3万円は受け取れません。ですので、年間で3万円と3万3,000円が最高額というふうになりますので、よろしく申し上げます。

これもスケジュールについては、先ほど言いましたように、9月に発送して、11月末までに出していただくという形で実施したいと考えておりますので、よろしく申し上げます。

○健康推進課長（坂本順一君）

では、続きまして、知多厚生病院の運営費補助金の救急医療の補助以外に上乗せできる補助金はないかについてでございます。

安心して子どもを産み育てる医療体制を整備するためには、小児科医師、それから産婦人科医師のこちらのほ

うの体制というのは引き続き確保というものが大切なものでございますので、厚生病院さんにはお願いをしていくつもりでございます。

今回、この運営費補助金を計上したものとしましては、特別交付税により財政的措置がなされる国の制度を活用するものであります。本町の財政状況の厳しい中においても、住民の皆様が安心して医療行為を受けられるように同病院の運営を支援するものでございます。救急医療体制の確保をするための補助金というのは特別交付税の中のメニューの一つというふうに考えていただきたいと思います。

今後厚生病院さんの運営状況、それから小児科、産婦人科医師の確保の状況なども考えて、今後のことについては考えていきたいというふうに考えておりますので、よろしくをお願いいたします。

以上です。

○総務部長（本多孝行君）

公共施設等総合管理計画の策定支援業務委託料についての御説明ですけれども、まず予算書の上のほうに固定資産台帳の更新委託料というのがございます。これとの絡みを多分議員おっしゃるんだと思いますので、ちょっと話が長くなるかもしれませんが、お願いいたします。

今まで市町村というのは、いわゆる会計的には現金主義・単式簿記主義というふうに言われておりましたけれども、これは国のほうから統一的な基準による新しい地方公会計を整備しなさいということが指示されておりますので、複式簿記の導入と、それから固定資産台帳の整備ということを大きな課題として持っております。そのうち、固定資産税台帳の整備というのが平成27年度において事業を進めております。この固定資産台帳というのは、今までの公有財産の台帳なんかと違っていて、取得年月日、取得価格、それから耐用年数、それから要するに価値です。不動産の価値というものにも着目した台帳というふうに考えていいんじゃないかと思います。そういった台帳を27年度に整備し、28年度以降も更新事業をやっていきますよというのがあります。

本題の公共施設等の総合管理計画の策定というのは、今言いました固定資産台帳の情報をもとに、例えば学校ですとか、保育所ですとか、そういったものが建築して何年たった、耐用年数は何年だ、今の状況はどういうふうだ、これを建てかえたとしたらどういうふうになるんだ、じゃ、その資金計画はどうするんだといったようなことまで含め、公有財産の今後の管理、その計画のほうを総合的につくるものというふうにお考えいただきたいと思います。

ですので、昨年までの事業との継続性といいますと、去年まででつくった台帳をもとにこれらの情報を整理・分析いたしまして、長期的な視点を持って公共施設の更新、統廃合、あるいは長寿命化、そういったことを計画的に行うための資料を策定、計画を策定するというものでございますので、よろしくをお願いいたします。

以上です。

○環境保全課長（岩本健市君）

それでは、旧式のくみ取り、単独浄化槽の家庭への普及についてはどうなるかということでございますが、これまでと同様に、町広報紙及び町ホームページで啓発活動を実施していきます。

また、28年度におきましては、単独浄化槽、くみ取り等による汚水処理世帯に対する合併処理浄化槽への転換意向アンケート調査の実施、集計結果に基づき、浄化槽設置の初期投資が安価で実施できる市町村設置型事業につきまして、財政分析、事業実施可能性の検討を実施してまいりたいと考えておりますので、よろしく願います。

以上でございます。

○7番（山本辰見君）

少しだけ補充させてください。

今総務部長のほうからありました、いわゆる管理計画をつくるに当たって、これまで予算は単年度主義だったのを少し長期戦略でもってやれると。複式簿記という言い方をしましたので、これの仕組みというか、ちょっと私数字は全く弱いで御説明願いたいと思います。

それから、最後に環境課長のほうからありました今の単独浄化槽の、これは新しく町営の、町で管理する形に切りかえるときに進めたいということですが、本当にこれよく説明して、負担がないということにしないと、なかなか。いわゆる今使っているトイレ——浄化槽だけじゃなくてトイレ自体も改善・解消しなきゃいかんと思いますし、とりわけ、混み合ったうちのところだと簡単にはいかないと思うわけですが、例えば、前もいろいろあったと思います。10軒でまとめて1個やる方法がないとか、そういうことも含めた、もう少し本当に具体的に広めるための施策、いろいろな手だてをとらにゃいかんと思いますけれども、その辺の計画の予定もお願いしたいと思います。

○総務部長（本多孝行君）

まず、私も簿記は正直言って全くわかりませんで、その前提でイメージでちょっとお答えをしたいと思います。

今までの現金主義・単式簿記というのは、例えば車を1台買ったとしたら、その日、お金は、ジャスト100万円買って、車を買いました。公有台帳に車が1台買って載っております。で、終了なんです。この車が何年たって、価格が——価値です。金銭的な価値がどういうふうになるのかということをお金でも民間の会社経営の方がおいでになるとは思いますけれども、そのお金の出入りだけではなくて、そこで持っている資産、そういったものも常に、ですから、貸借対照表ですとか、ああいったものがあると思うんですけれども、そういった方式をやらぬことには、単年のお金だけで地方公共団体の財政のことを語るのはいけぬということで、そういう民間企業の考え方を導入しようということがイメージとしては、そういうことであります。

長期的にというのは、今言いましたように、鉄筋コンクリート、普通60年という耐用年数があります。それを、じゃ、20年たったら、普通は使えますので、適切な維持・修繕をしていけば耐用年数延びていくけれども、じゃ、これが40年、50年たったもの、耐用年数あと10年あるけれども、これを多大な金額をかけて修理したほうがいいのか、それか需要がなければ壊したほうがいいのか、新たにつくるのか、そういったようなことも耐用年数、もちろん財政状況、そういったもの全て含めて長期的に計画立てようという内容だというふうに御理解いただきたいと思います。ちょっとお答えになっているかどうかわかりませんが、すみません、お願いします。

○経済環境部長（齋藤 博君）

浄化槽の設置関係でございますが、先ほど10世帯まとめてだとか、そういう手法もあります。とにかくことし、28年度いろいろアンケート調査をやりまして意思確認をしております。高齢の世帯だと、今かえてどうだとか、いろいろ対象的には一般世帯4,600ほどあると把握しておりますけれども、かなり減るんじゃないかなというふうには思っております。やってくれる方々には、市町村設置型で積極的にやっていただく。

昨年、紀宝町をちょっと視察に行ってきたところ、2世帯まとめて道路の中へ浄化槽を設置してやっているところもありますが、これは美浜で可能かどうかだとか、いろいろことしの調査結果を踏まえて考えていきたいというふうに考えております。

例えば、片方の世帯が転居だとかした場合にはどうしようこうしようという管理費が、結局市町村のほうにその管理費が回ってきますので、いろいろな財政的なことだとか、よく検討して考えていきたいと思っております。

○議長（森川元晴君）

ほかに。鈴木君。

○ 8 番（鈴木美代子君）

今の質問とやえるかもしれませんが、53ページの13節の公共施設等総合管理計画策定業務委託ですけれども、ちょっとわかりにくかったものですから、もう一度わかりやすく説明してください。

次です。53ページのリニア中央新幹線建設促進期成同盟会ですけれども、これ負担は3,000円ということなんですが、リニアというのは民間の事業なんです。今までの答弁だと、こういう美浜町も関係してきているから、ほかの市町が出しているからうちも出すというような答弁だったと思うんですけれども、これは本当に民間企業のやることですから、行政の金を出すのはちょっとまずいんじゃないかなと思います、いかがですか。

65ページの償還金、利子及び割引料と町税過誤納還付金ですけれども、これはもはや当てがあって予算に計上したのか、それともこういうことがあるだろうということで予算化したのか聞きたいと思います。

それから、87ページの保養施設の利用助成事業ですけれども、これについては、何で保養施設の利用施設が今できているのかというもとをたどると、谷川町長のときに老人福祉センターをつくと彼は言ったんです。でも、なかなか予算がなくてできなくて、齋藤町長が老人福祉センターをつくるかわりに、60歳以上の保養施設の利用券を配ろうと。大分前の話なんですけれども、そうしてできたのがこれなんです。

60歳から65歳になって、70歳になってとどんどん引き上げられて年齢が。3枚だったのが2枚になって、こういうふうになったんですが、当初の計画、お年寄りがゆったり老後暮らしていけるといって、その1つの材料として目的を達しているのか、どんどんとこれ年齢も枚数も縮小されているんですけれども、当初の目的を達成したと解釈して、こういうふうに縮小したのかお聞きしたいと思います。

高齢者タクシーです。免許をなくした人のためのタクシー料金の助成事業ですが、これは私はいつもお年寄りです。本当に節々がリウマチで曲がって、足も不自由なお年寄りですが、免許を持っているんです。それで、利用する手段が車しかないものだから、本当に苦労しながら運転しているんです。私らには全然恩恵はないなっていうのも言われるんです、顔を見るたびに。こういう本当に障害者と認定はされていないけれども、体の不自由な人に恩恵は考えなかったのでしょうか。前も私質問しているんです。

敬老事業ですけれども、相変わらず、ことしも野間はやれないのでしょうか。今までどんな支援をしてきて、結果は予想でき……やらないと予想しているのか、その辺をお聞きしたいと思います。

105ページの園庭芝生化事業ですけれども、芝生、現在はどうなっているのでしょうか。芝生化にはいろいろ意義もあるんですけれども、はだしがいいんだよという人もあるんですが、その辺、今の芝生の事業についてはボランティアでやっているのでしょうか。

127ページの火葬場の用地の借地料です。これについては、私も本当にしょっちゅう言われるんです。周辺の人、黒い煙がもうもうと出ているんです。これについては、ここで質問するんじゃなくて、一部事務組合かもしれませんが、私たちはここで住民の訴えを聞いて今までも質問したことあるんですけれども、これは火葬場は、新しい火葬場できるのってしょっちゅう言われるんですが、これは新しい火葬場に変えていく見通しはあって、この予算化をしたんですか。

それから、海岸の漂着物清掃委託料ですけれども、清掃するのはどういう時期でしょうか。時々海へ行っても汚いものがいっぱい漂着していることがあるものですから、誰に委託をするのか、どの時期にやるのか、それをお聞きしたいと思います。

○ 総務課長（沼田治義君）

鈴木議員の御質問にお答えをいたします。

公共施設等総合管理計画策定支援業務の概要をお聞かせ願いたいという質問だったと思います。まず、公共施

設につきましては、対象というのは町が所有する保育所だとか学校等の建築物、それ以外の道路、それから橋梁等、こういったインフラ施設についても含まれます。

過去に本町におきまして、こういった公共施設等を大量に建設いたしまして、その更新時期も来ておるというのも事実でございます。そうした中、人口減少だとか少子高齢化、こういった問題も市町村のほうには来てございます。

そうした中で、今後、この公共施設等の利用を縦横含めまして計画を立てるとというのがこの事業でございます。要は地方公共団体、町の公共施設の全体を把握させていただいて、老朽度等を含めました、そうした中で、長期的な視野を持って更新するとか、それから統廃合するとか、長寿命化を図るとか、それぞれの施設に合った計画を立ててまいりたい。これによりまして、町の財政負担の軽減、それから標準化等もあわせて行っていきたいというふうに考えておりますので、御理解をしていただきたいと思います。

ただ、この委託料につきましては、国の特別交付税の措置対象になっておりますので、この部分につきましては、国のほうの財政支援もいただけるというものでございますので、あわせてよろしくお願いをいたします。

以上でございます。

○企画政策課長（磯貝尚美君）

鈴木議員のリニア中央新幹線建設促進愛知県期成同盟会への補助金の件でございますが、毎回答弁のほうと同じになるかもしれませんが、これに関しましては、54市町村中全部加盟しているということで、これに加盟するというので2027年に東京から名古屋、2045年には名古屋から大阪へということでリニアの新幹線が走るに向けて、現在いろいろと取り組みをしているところでございます。

それに向けまして、特にリニアが通過いたします9都府県、東京、神奈川、山梨、長野、岐阜県、愛知県、三重県、奈良県及び大阪という、特にその9府県に対しましては新たにそういった同盟を組みまして、自分のところの沿線が栄えるようにということで、いろいろな調査等につきましても還元をいただいているところでございます。

金額は3,000円ということでございますし、民間であるということもありますが、こちらのほうの町の発展とか、そういったものを考えまして、引き続きこちらのほう継続していきたいと考えておりますので、御理解いただきたいと思います。

なお、こちらのほうの3,000円につきましては、総会のほうから見ますと、使われました費用に関しましては、広報啓発に関しましてパンフレット・啓発グッズの作成と、それから配布と、それからあと国に対してのいろいろなこちらのほうが不利益になるような状況に対しましても要望活動ということで積極的に活動している様子が報告されておりますので、それもあわせて御理解をお願いしたいと思います。

以上でございます。

○厚生部長（岩瀬知平君）

まず1点目、保養施設利用助成ということですけれども、70歳以上の方に、かんぼの入浴券を2枚配付させていただいている事業でございます。

これにつきましては、昭和40年ぐらいだったと思うんですけれども、老人福祉法というのができまして、60歳以上は老人だということで、老人を地域で面倒を見ようということで法律ができたわけでございます。60歳以上ということであれば、私も当然60歳ということで老人の仲間入りでございます。その方々に地域で気持ちよく過ごしていただくという趣旨で法律ができたんですが、その後、大変老人の方々ふえまして、なかなかそういうこともやっていけないということになって、いろいろと介護保険とかできたわけなんです。介護保険できまして、老

人の方々にも個人負担してもらおうということで、そういう趣旨に変わってきております。

それで、当初の目的で老人福祉施設できておりますけれども、福祉センターですね。武豊町もあって、それで武豊にあって美浜にないということで、この保養施設の助成が始まったわけですが、武豊も今度廃止になりましたですね。廃止になりまして、特養の施設が無料で何か開放していただけるというような、そんなような事業に変わりつつあります。

美浜につきましても、今の考え方、60歳以上にみんな配れというようなことだと、ちょっと現状にはなかなか合いくいのかなというふうには正直思っております、老人という概念を、介護保険の概念からいけば65歳以上ということで、65歳以上にするのか、個人負担を求めるのかにつきましては議論があるところだと思いますが、東浦町におきましても、あそこも大府の健康の森ですか、あそこに補助を出しておったんですけれども、それがちょっと多過ぎるじゃないかと。個人負担もあそこもあるんですけれども、それが議会の中で、ちょっとうま過ぎへんかというような議論もあって、美浜についてはもう無料で配っているの、こんな事業をやっているところは知多半島ではないんです。

それで、これがいいのか悪いのかということも議論にしていんじゃないかなと私も事務屋としては思うわけですが、これは住民の皆さんが決めることで、出せばいいじゃないかということであれば、特に大反対ということでも、財政が許す限りやればいいことだというふうには思っておりますが、今の流れからいけば、介護保険の中の仕組みに入れるのがベターではないかというふうになるというふうには検討しております。急に変わるということはありません。

あと高齢者タクシー助成でございます。高齢者タクシー助成につきましては、70歳以上で免許のない方、特に免許を返上した方です。にぜひ利用してくださいという形でやっております。それと、あと巡回ミニバスの停留所まで非常に遠いという方が停留所まででも、せめて停留所まで行けんだろうかということで始めたものでございまして、免許返上をされた方につきましては公安委員会のほうでも取り上げていただいて、公安委員会のホームページで美浜町は免許返上すると特典がありますという形で公安委員会のほうのホームページにも載っております、今の時期になると、かなり電話のお問い合わせも多くて、私、免許返上したけれどもどうしたらいいですかということで担当のほうにも電話がよくかかっておりますので、これについては今の時代には合っているのかなというふうには思っております。

それと、敬老事業でございます。野間をやるのかやらないのかということでございますが、毎年区長会の会議では、事業を説明いたしましてやっってくださいというふうにお願いをしております。野間につきましても、個々にお願ひに行った経緯もありまして、できないでしょうかということで区長さん方とお話をしたことはございません。

野間につきましては、なかなか老人が、区の役員が老人が多くて、自分たちがやってほしいぐらいだというようなことも言われまして、もっと若い手伝える人はいないかなというふうに逆に問われたぐらいのことですが、私どもから見れば、野間の今の現状でできないことはないのかなというふうには思っておりますけれども、あくまで自主性にお任せしたいなというふうには考えております。

手伝いに行こうということであれば、初回だけは手伝いに行った経緯がありまして、河和区で敬老会を始めたときに初回だけ職員として手伝いに行きました。その後は、順調に河和区のほうも回っておりますので、そんなような形で野間もやっていただけたらありがたいなというふうには思っております。

それと、あと芝生化です。奥田の芝生化でございます。

この事業につきましては、森林税ですか、愛知県の補助を受けて整備したものでございまして、この補助金ま

でございますので、できれば、ほかの保育園にも広げていきたいというふうに思っております。

管理につきましては、シルバー人材センターさんのほうに委託をしていただきまして、大変熱心に整備していただけますので、今後もそのような形でやっていきたいというふうに考えております。

○税務課長（廣澤辰雄君）

65ページの町税過誤納還付金と加算金ですが、予定するものがあるかという御質問でございましたが、この予算につきましては、町税を二重に納めた場合や確定申告によりまして納付後に減額となった場合、その納め過ぎた税額をお返しするもので、案件が発生した際に対応するための予算でございますので、よろしく願いいたします。

○環境保全課長（岩本健市君）

それでは、新火葬場の建設について御説明させていただきます。

現在のクリーンセンター内の敷地内に建設を予定しておりまして、昨年3月に住民説明会を開催させていただきました。その後、該当する内海地区より個別の地区の説明会の御要望がございまして、それにつきましても説明会に行っておりまして、それにつきまして、地元同意につきましては、今のところ順調に前向きに進んでいるということと思っております。

供用開始につきましては、32年度を供用開始に今事業を進めているところでございますので、よろしく願いします。

それから、次に海外漂着物清掃委託料でございます。これにつきましては、県の補助の関係でございますけれども、対象地域としましては、美浜町の西海岸一帯と布土地区。布土地区につきましては、布土川南より名鉄河和駅前の海岸でございまして、西海岸につきましては、7月から10月までの事業期間でございまして、この西海岸につきましては、各観光協会の支部をお願いして海岸に漂着したごみを集めていただきまして、それを収集業者、民間の業者に収集運搬をしていただき、処理をしているものでございます。

布土海岸につきましては1月から2月ということございまして、こちらにつきましては、業者に収集運搬及び処分をしていただいているということでございますので、よろしく願いします。

○議長（森川元晴君）

鈴木さん、今質疑の途中でありますので、一旦ここで休憩をとりたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。再開を11時ということでよろしく願いいたします。

〔午前10時40分 休憩〕

〔午前11時00分 再開〕

○議長（森川元晴君）

それでは、再開いたします。

引き続き1款から4款までの質疑を受けます。8番 鈴木美代子君。

○8番（鈴木美代子君）

いろいろいっぱい聞きたいんですが、説明を受けたのは除いて、保養施設ですけれども、私の質問は、齋藤町長以来やってきたこの事業がほぼ目的を達したもので、だんだん縮小しているのかと聞いているんですが、私は達したとは思っていないんです。お年寄り、本当に楽しみにしているお年寄りも多くて、保養施設へ行くよというお年寄りに何度か行き会いますけれども、もう行けなくなったという人もいますし、いろいろいるものから、お年寄りを介護保険等ができたから介護保険に移行するという考えは私はおかしいと思うんですけれども、もう一度よく保養施設の利用についてきちんとアンケートをとるなり、そういう事業をやって、そして縮小する

ならわかるんですけども、もう一度答弁願います。

それから、高齢者タクシーについて私が言ったのは、前回は質問したんですけども、高齢者タクシーについて、免許をなくした人、もう免許のなくした人についてはいいんですが、免許は持っているだけですけども、本当に私が見るからに厳しい、手がリウマチのように節々がなっていて、足も痛くて、そういう人について今全くないんです。そういう人たちの支援は全くないものですから、何か支援をしてあげたいな、町でやってもらいたいなと思うんですけども、そういう人の支援は考えなかったですか。

それから、火葬場の用地ですけども、火葬場については32年度に供用開始だと言われましたが、今現時点ではどんな作業に入っていて、工事に入るのはいつごろからですか。それもお聞きしたいと思います。

それから、海岸の漂着物の清掃ですけども、布土地区については1月、2月をやっているというんですが、布土も河和口もずっと海岸はあるものですから、私、在所は時志なんですけれども、時志でもいっぱい漂流物あるものですから、どこを清掃しているのかちょっとわかりませんが、もう一度答弁願います。

○厚生部長（岩瀬知平君）

それでは、保養施設の件でございますが、目的を達したか達していなかったかということは私どもは全く考えていなくて、これができた当時、武豊の老人福祉センターですか、あれが美浜にないので、かわりの施策としてこれが始められたということであれば、昭和40年代にできた老人福祉法に基づいた事業だということによって60歳以上、始められたときに60歳以上なのはそういう意味だと思いますが、その後、情勢というのは変わっていきまして、その当時は本当に老人の方は少なかったんです。だから、手厚くできたんですが、だんだん手厚くできなくなってきて、それで介護保険とか、いろいろ負担を求めながらやっていくというような方向に変わって行く中で、この一律負担を全く求めない無料のこういう福祉券、保養利用券ですか、いいのかということになると、全国的には余りやっていない事業でして、必ず大体個人負担を求めてやっておられるのが多いので、この財政状況から考えると、美浜町でこれやっていいのかなというのは正直思います。

ですが、いろいろな方からこれは必要だということも私ども聞いておりますので、その辺は皆さん議論していただいて、また決定していけばいいのかなと思います。今の流れからいけば、介護保険の今の包括ケアシステムのあの中にこれも入れて検討していく、皆さんで議論して行って将来決めていくべきものだというふうを考えております。

あと高齢者タクシーでございます。高齢者タクシーにつきましては、当初から免許のない方困っているよねという話と、あと免許返上をなかなかしない高齢者、私の亡くなった父もそんな感じでした。本当にぶつかって危ないんですけども免許をなかなか離さなかったんですけども、そういう方の少しでも後押しになればというようなことが狙いの1つと、先ほど申しましたとおり、巡回バスの停留所まで遠い方のためにやっておりますので、リウマチで困っておられる方とか、そういう方については、また別の障害者の福祉のほうでタクシーもあるので、そういうところに該当してくればということですけども、そういうところに該当しない方をどうするのかということについては、個々に相談に乗っていくのかなというふうに思っております。

○議長（森川元晴君）

経済環境部長、今後の計画ということよりも、鈴木さん、28年度の予算に対しての内容というふうで答弁していただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

○経済環境部長（齋藤 博君）

最初の火葬場の関係ですが、32年を目指しております。これも今のところは公式的にはそういうふうですが、都市計画決定だとか、敷地、環境アセスメント、こういうのが順調にいった場合ということで、これそういうふ

うで捉えておいてほしいと思います。

2カ年の工事で建設はやっていくということになるかと思います。

いわゆる組合のことです。今後組合議会、3月も暮れのほうでありますので、そこでもって組合議員さんにお話と情報提供をして、また委員長の報告とかで皆さんにはお伝えしていくということになっていきますので、よろしくお願いします。

それから、海岸漂着物の関係です。どこを清掃しておるのかというようなことですが、西海岸につきましては、観光の主要地で夏に流木、主には大きいごみです。缶々だとか、簡単なものもやっていただいておりますが、どうしても地元の人ではえらいようなことを町内にある許可業者をお願いしておるものでございます。

以上です。

○議長（森川元晴君）

ほかに、よろしいでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森川元晴君）

以上で1款から4款までの質疑を終わります。

次に、5款労働費から8款土木費までの質疑に入ります。質疑はありませんか。7番 山本辰見君。

○7番（山本辰見君）

それでは、お願いいたします。

ちょっとページ数を書いていなくて申しわけないですけれども、項目でわかるかと思いますが、お願いいたします。

6款農林水産業費の中の畜産クラスター事業補助金4億7,400万円とあります。これの概要は大体お聞きしましたけれども、この4億7,400万円のいわゆる例えば豚舎の建築にこれぐらいとか、全体の協議会にまいとか、そういうの内訳をお願いしたいと思います。

それともう一つ聞きたいのは、美浜町で4億7,000万円です。常滑と合体してということですから、例えば同じ規模だとしても、9億円とか10億円ぐらいの補助金で全額が国からということですが、当事者である知多ピッグですとか、その会社自体が自分のところの持ち出しはこのぐらいで、全体の事業はどのような規模なのか、少し見えてきませんので、その辺もお願いしたいと思います。

それから、7款商工費の商工振興費、商店街活性化補助金、いわゆるプレミアム商品券の事業かと思いますが、いろいろな方から指摘された27年度も、もちろんパーセントが違うとか、金額も違うわけですが、27年度の事業では大きな課題を幾つか残したかと思いますが、これに対するいわゆる希望者になかなか通らなかったとか細かいことを言うつもりはありませんが、その対策、あるいは改善策、今度はこういう形で27年の課題を克服したいというのがあれば、説明ください。

観光協会への補助金、観光費です。そこには補助金・交付金、それから1点見落としましたけれども、事業費でこれを観光協会に委託するとなったと思いますけれども、このほかに観光協会として、独自に例えば年間予算このぐらいのやつを持って、会員から集めたになるかはちょっとわかりませんが、そういういわゆる独自の事業規模というのはどのぐらいのことを持っているのでしょうか。

次、8款土木費ですけれども、都市下水道単独事業というのがあります。修繕とか改良工事をやるとは思いますが、昨年も非常に問題になりました。これは前からすごい西風で問題になっているんですけれども、新栄にある川田の排水路のしゅんせつというか、配管の大雨が降れば流れるときもあるし、そうじゃないときもある

しということで、この管路の汚泥引き抜きなんかは予定に、この予算の中には含まれているでしょうか。

もう一点——もう一点というか、次は、奥田駅前拠点整備調査業務でございますけれども、大ざっぱに都市公園をとということですけれども、そこにどういう形のものになるのか、指摘したグラウンドのこと、それから、いわゆるざっとした公園だけになるのか、例えば、もう少し何か拠点の建物も含まれるのか。できるならば、まだ3月にいろいろ出るとは言っておりますけれども、常任委員会でいろいろ細かい討議するときに、簡単な青写真なり手書きでも結構です。こんな形のことを構想していると。詳細については改めて出すということで言っておりますけれども、それを示すことができないのか、お願いしたいと思います。

最後です。公園管理費の中に土地鑑定業務委託というのがあります。どこの地区のどういうのを鑑定するのか。目的はどういうことになるのか。ひょっとしたら説明あったかもしれませんが、聞き漏らしておりますので、以上お願いいたします。

○農業水産課長（天木孝利君）

山本議員の御質問にお答えさせていただきたいと思っております。

畜産クラスター事業の内訳について説明を聞きたいということでございます。

事業費の内訳でございます。計画によりますと、肉豚舎が4棟、事業費としまして3億7,861万円、堆肥舎が1棟2,554万円、管理棟、これは建屋兼飼料倉庫と同一になりますが、これと合わせまして4,130万円、浄化槽施設、これが1億3,742万円、それと全体の敷地におけます外構工事分といたしまして1,590万円、給排水設備工事1,596万円、電気設備工事3,065万円、機械設備工事1億5,616万円、その他共通経費ですとか、設計管理等の合計といたしまして9億4,812万円が事業費となり、そのうちの2分の1を補助金として国から受けようとする計画でございます。

なお、常滑市における事業費の分についてということでございますが、美浜の分で繁殖豚を5,500頭規模をやるということで、それのもとになります繁殖豚、要はもとの部分ですが、この部分の畜舎の造成等の費用につきましては、今畜産クラスター事業にはのせずに——のせずにという言い方はちょっと語弊がございますが、自己資金において、もう今年度既に着工しております。ですから、この人としての全体の事業費としては10億円をちょっと超えるぐらいの事業費ではございますけれども、具体的な常滑のほうの事業費については、手元にちょっと資料がないんですけれども、全体の、今回のクラスター事業の分にのせない——のせないという言い方はおかしいんですが、それとは別に自己資金において実施するという計画でございます。

また、このクラスター事業自身、御承知のとおり、国のTPP対策ということで国のほうは増額予算を組んではおりますが、これの受け取り、確実な内報といたしますか、確実に補助金が受けられるかどうかにつきましては、まだまだ予断を許さないところでございますが、行政報告会においても説明させていただきましたが、本人としては補助対象がなくなったとしても事業は実施したいという御意向でございますので、よろしくお願いたします。

以上です。

○商工観光課長（竹内康雄君）

それでは、商工費に関しまして2点お尋ねがございましたので、お答え申し上げます。

最初に、商店街活性化補助金、いわゆるプレミアムつき商品券発行事業でございますけれども、御指摘のように、昨年は商品券購入者の皆様に大変な御迷惑をおかけいたしまして、おわび申し上げなければいけないというふうに思っております。

また、これまでも総合公園まで出かけていくことが大変難しいんだと、そういった声もございました。こうい

った点につきまして、商工会事務局とも改善策について協議をいたしました。その結果、この28年度からは購入希望者の方には、事前にはがき等で申し込んでいただきまして、申込者多数の場合においては抽せんを行った上で引きかえ券をお送りすると、そういった方法をとってまいりたいということでございますので、よろしくお願いをいたします。

次に、観光総務事務費の件でございますけれども、観光協会に対する補助金・交付金のほかに、協会独自の事業規模はどのぐらいあるのかというお尋ねでございます。

基本的には、現時点におきまして、町からの補助金・交付金が観光協会の事業規模ということになるわけでございますけれども、町からの補助金のうち事業補助金400万円というのがございます。これについては、各支部、あるいは事業部、例えば海水浴ですとか潮干狩りですとか、そういった事業を行っていただくわけですが、これにつきましては、原則的に半分を地元を持っていただくというものがございます。ですから、町の補助金としては400万円でございますけれども、観光協会といたしましては会費、負担金等を毎年250万円強のものを会員さんから頂戴をいたしております。こういうもので観光協会としての各種事業を行っている、ということになっておりますので、よろしくお願いいたします。

以上でございます。

○建設部長（斎藤 功君）

次に、8款土木費の関係で都市下水路単独事業の関係でございます。

これ修繕・改良工事で80万円の予算を計上させていただいております。これにつきましては、今現在、町内には11路線、都市下水路がございます。それに対応する修繕・改良工事の費用でございます。

当然川田下水路、これに対する修繕等も含まれておりますので、よろしくお願いいたします。

次に、奥田駅前拠点整備事業調査業務委託、この内容、青写真を少しでもどうかという御質問でございます。

これにつきましては、さきの一般質問でも町長より御答弁させていただきました。今本当に最終段階に来ております。そういったことで、担当といたしましては、4月当初の行政報告会にこの奥田駅前と総合公園グランド拡張、これにつきまして議員さんに御報告したいと、そういうふうに考えておりますので、よろしくお願いいたします。

次に、公園管理費の土地鑑定業務でございます。これにつきましては、美浜町総合公園グランド拡張の用地取得のために、当初は平成27年度、今年度用地買収を進める計画でございました。そういったこともございまして、平成26年度末に急遽不動産鑑定業務を実施いたしております。その委託費用といたしまして、土地特別取得会計から予算を出していただいておりますので、今回、その部分の繰り出しを行う予算でございますので、よろしくお願いいたします。

以上でございます。

○7番（山本辰見君）

最初に指摘しました畜産クラスターの関係ですけれども、主要施策の中では、いわゆる生産だけではなくて、常滑美浜養豚クラスター協議会、このいわゆる協議会の運営、あるいは販路拡大、販売拡大も含めて、トータル的に1つの生産のところだけ応援するんじゃないと、総合的にということを書いていました。さっきのほうですと、いわゆる豚舎の建設と運営というのか、だけにすごく絞られているような気がしますし、たまたまもともとは常滑の業者さんになるわけですが、さっき別に常滑がどんだけお金出す……。てっきり私常滑と美浜の両方が先ほどの9億円ぐらいのお金を半分ずつ出してというふうに最初は受けとめておったんですが、どうも違うようで、あらかた国の補助金だと言いながら美浜だけで負担するような……。負担というか、運営するような形

に見えますけれども、そこのところを再確認です。

もう一点、先ほどの奥田の駅前拠点です。口頭では、多分町長なり建設部長担当の部課長のところには、それなりに青写真はあると思うんです。僕らには公園整備というだけで奥田の大学のグラウンドの下に、あの一角に何かができるだろうなと思うんですけれども、それが何も見えないんです。だから、例えば、このぐらいの規模でとか、駅がここにあって、大学があって、このぐらいの面積で、ここにまだ確定していないけれども、こんなことを構想して今案をつくってもらっていると。先ほど言いましたように、詳細は後で示すがということで結構ですから、私たちに——実は本当にほかのところでも1点指摘したいんですが、議案説明に、美浜町はちょっと冷たいです。よその市町行きますと、結構予算の中身について資料を添えて説明してくれるんです。全部とは言いません。こういう今、もう3月に決まるということがわかっているような中身については詳細を出せと言っているわけじゃないんで、紙の資料を添付して説明することが大事だなと思いますので、もう一度お願いしたいと思います。

○農業水産課長（天木孝利君）

山本議員の再質問といいますか、質疑にお答えさせていただきたいと思います。

まず、山本議員の先ほどの中でもありましたように、この事業費補助金につきましては、先回も説明させていただきましたが、あくまでも国からたまたまこの町を通して支出されるその補助金でして、美浜町からの支出は一切ございません。同様に常滑からも一切ございません。

それと、この事業そのもの自身が要は協議会をつくって、そういった計画を立てて、そういった販売計画とか、そういった施設建設計画を立ててやる事業だよという国の補助メニューに対して、今回この都築さんが手を挙げたということで、その窓口がたまたま常滑市であり、美浜町であったということでございます。

ですから、単純に言えば、この知多ピッグさんが美浜町において繁殖豚の豚舎を建設する、それに当たって補助メニューとして畜産クラスター事業を選択して、補助金の申請を出したいという御要望があったということで、うちのほうが予算計上したということでございます。よろしく申し上げます。

○建設部長（斎藤 功君）

何とか青写真をという、再度の御質問でございます。

本町の都市計画事業、これにつきましては、本町には都市計画審議会という組織がございます。これは、どういった組織かと申しますと、美浜町が決定する都市計画事業を審議する機関というところもでございます。1度も、まだこの案件については都市計画審議会にも報告しておりません。ということで、まず都市計画審議会のほうに、何とか今月中にまず報告をさせていただきたいと。そこでおおむねの御同意をいただいた中での議員さんへの報告をというふうに今考えておりますので、よろしくお願いたします。

○議長（森川元晴君）

ほかに。12番 石田君。

○12番（石田秀夫君）

ただいまの163ページ、委託料についてで奥田駅前拠点整備並びに——まあ、最初からで基礎調査業務委託料、こういう委託料、ここの部分で5項目載っているわけですがけれども、この業務委託される委託先というか、こういう委託してで推進していくという部分で、どこの業者の方に委託されていくのかということをお伺いいたします。

○建設部長（斎藤 功君）

来年度の奥田駅前拠点整備業務委託料の関係でよろしかったでしょうか。これにつきましては、当然まだ業者

は決まっておりますので、入札等で業者を選定していきたいというふうに考えておりますので、よろしく願
いいたします。

○議長（森川元晴君）

ほかに。8番 鈴木美代子君。

○8番（鈴木美代子君）

135ページの補助金で、土地改良区の補助金ですが、これは具体的にどこの改良区を指しているのですか。

137ページの畜産クラスター事業の補助金ですが、この事業は、何遍聞いてもよくわからないんですが、常滑
在住の加藤……さんという方が……

〔「違う」と呼ぶ者あり〕

○8番（鈴木美代子君）

違った。市議員の方がやっているという話ですが、古布で今何かすごい臭いことをやっているんですけど
も、それと関係ありますか。

○議長（森川元晴君）

鈴木さん、あのう……

○8番（鈴木美代子君）

いや、わかっている、わかっている。28年度の予算ですけれども、28年度の予算で前もってやっているのかな、
準備をと思ったものですから。

それから、141ページの竹林整備事業補助金、それから竹林間伐再利用事業で25万円と8万円が計上されてい
ますが、皆さん御存じだと思うんですが、役場を出て町内をぐるっと回ると、本当に竹林ばかりで大変なこと
になるぞと、いつも私思っているんですけども、竹林を何とかしなければならぬということで28年の予算に
も計上していると思うんですが、何をやろうと、この25万円と8万円を計上しているのか、説明してください。

竹林をそのまま放置していると大変なことになるということは、ようわかっていると思うんですが、その辺で
28年度はどの程度仕事ができるのか言ってください。

それから、147ページの観光協会の交付金が1,600万円あるんですけども、ちょっと説明してください。

それから、153ページの名浜道路推進協議会3万円、これについて、名浜道路というと美浜町内を通るわけ
ではないものですから、これが何で必要なのか説明してください。

それから、157ページの橋梁点検業務委託料770万円、具体的に説明してください。

それから、河川改良事業で157ページの下欄にあると思うんですが、河川改良、どこを指しているんでしょ
うか。河川環境整備業務委託とか、河川等の清掃委託料なんかが出ているんですけども、どの川を指している
のか、町全体の川を予定しているのか、お聞かせ願います。

それから、169ページのドッグランですけれども、ドッグランについては美浜町でやっているんですけども、
今どの程度維持費が要るのか。これ無料でドッグランをやっているんですか。その辺を説明してください。

○農業水産課長（天木孝利君）

それでは、農業水産課の関連の部分についての135ページ、土地改良区補助金の執行先という考えでよかったです
か。執行先——まあ、支払い先という。

〔「そうです」と呼ぶ者あり〕

○農業水産課長（天木孝利君）

これにつきましては、美浜町土地改良区と知多南部土地改良区、この2つへの運営の補助金でございます。

参考までに、昨年の12月1日に、みはま奥田土地改良区というのがございましたが、それが美浜町土地改良区と吸収合併しまして一本化されましたので、現在においては美浜町の土地改良区と、あと要は開パの部分、これが知多南部土地改良区に入っておりますので、その2つへの運営に対する補助金でございます。

それから、次に畜産クラスター絡みは、これはなしということではよかったですか。

○議長（森川元晴君）

鈴木さん、この畜産クラスターの事業のことはよかったですか。

○農業水産課長（天木孝利君）

畜産クラスターじゃなくて、むしろほかの……

○議長（森川元晴君）

いや、それは困ります。先ほどの古布のこととか、それらはまた別のことですので、また予算とは関係ありませんので、よろしいでしょうか。

〔「はい、結構です」と呼ぶ者あり〕

○農業水産課長（天木孝利君）

それでは、次の竹林整備事業補助金25万円と竹林間伐材の再利用事業8万円についてということでございます。

まず、大きな言い方で言いますと、竹林整備事業補助金25万円というのは、竹林の間伐ですとか、全部伐採したりとか、そういった事業に対する補助金ということで、昨年、一昨年から補助金として事業メニューさせていただいておりました。これについての1件当たりが5万円で合計25万円というものでございます。

それから、もう一点の竹林間伐材再利用事業の8万円、これにつきましては、美浜町、炭焼き研究会がでございます。これに対する運営補助でございますので、ちょっと趣旨が違うかなと思っております。

それと、基本的に竹林をどうしたらいいかということは、本当にもう同僚議員と申しますか、皆様方から本当に毎度毎度御指摘いただいているわけですが、この竹林に対する事業としまして、昨年、一昨年とことしにかけて3年目でございますが、この事業そのものが。残念ながら、これ事業実施になったものが1件もございません。昨年もなかった。一昨年もなかった。ことしも1件相談はございました。こういった古布で竹林があるんだけど、その辺についていい補助金とか、そういったものはあるだろうかということでの御相談はございましたが、実際まだ事業実施に至っておりません。ただ、竹林に対しての問題は非常に深刻に私どもも考えておりますので、最低でも3年間ということで補助メニューということで一応要綱等をつくらせていただきまして事業実施をしていくものでございます。

使い勝手が悪いようでしたら、使い勝手のいいように要綱等を見直して行って、少しでもそういったものに対応できればなどは考えておりますが、何せいかんせん少額でございます。それに実際にかかる、本当にやっていただくと思うと、費用的なものがとてもじゃないですけども、例えば1ヘクタールというか、10アール、また仮に5でやるにしても、そんな5万円、10万円のできる金額じゃございません。大きな1,000万円も2,000万円もするような竹林のチップにするような機械を購入して、全美浜の竹山をやるというような計画もちょっと無理があると思います。基本的には、竹林の所有者である方の維持管理ということが役場的な言い方になっちゃいますが、基本ではございます。ただ、美浜町の景観ということを考えてときには、そればかりも言っておられないということで、この竹林の整備事業補助金というメニュー、来年にかけましての3年目でございますが、これについて一応事業化、予算化をさせていただきたいという考えでございますので、何とぞ御理解のほどよろしくお願い申し上げます。

以上です。

○商工観光課長（竹内康雄君）

それでは、観光協会に対します運営交付金1,600万円についての御質問でございます。

これにつきましては、本年1月4日に知多奥田駅高架下に開所いたしました観光協会事務局のまず常勤職員、事務局長と、それから事務局員2名、さらにはパート職員4名の人件費プラス事務所の維持経費でございます。知多バスさんから事務所スペースをお借りしておりますものですから、その家賃、それからコピーですとかファクスですとか電話等々、そういった事務機器のリース代、それから公用車につきましてもリースの車を使っております。さらには、光熱水費、ガソリン代等々、そういった人件費プラス事務所の維持管理経費ということで御理解をいただきたいと思っております。

よろしく願いいたします。

○建設部長（斎藤 功君）

土木総務の名浜道路推進協議会の負担金でございます。この名浜道路といいますのは、常滑市から蒲郡市まで約40キロの地域高規格道路でございます。この道路につきましては、知多・三河地区の新たな東西幹線道路としての物流・交流拠点を目指して整備を進めておる事業でございます。

なお、昨年、今年度、中部地方整備局へ名浜道路の要望活動も行っております。その中で、幹部職員の方が今現在、三河地方、こちらにつきましては名豊道路、これの整備を最優先させておると。ただ、この名豊道路ももう間もなく完成というめどが立ってきておるといことで、幹部の方からは次は名浜道路に着手したいというお言葉もいただいております。

また、知多半島の西部地区につきましては、西知多道路も事業決定されております。名浜道路もこの知多横断道路までの路線となっておりますので、早期完了を強く要望していきたいと、引き続き要望していきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

続きまして、河川の維持管理事業でございます。

環境整備業務委託料、これにつきましては、河川に雑草が生い茂りますと、増水時の氾濫等、住環境に悪影響を及ぼすということで、青山川、杉谷川の河川内の草刈りをお願いする事業でございます。

続きまして、河川等清掃委託料、これにつきましては、国交省が現在提唱しております、毎年7月、河川愛護月間、この期間に伴いまして、河川・水路等の清掃業務を各区をお願いするものでございます。

続きまして、河川改良事業、河川改良工事、この工事につきましては、準用河川、杉谷川の未整備区間の河川改修工事を行うものでございます。来年度は、名鉄野間駅東100メートルぐらいの地点から上流へ約40メートル護岸改修を実施したいと考えておりますので、よろしく願いします。

続きまして、公園管理事業、ドッグランでございます。

現在、町の管理するドッグランは、小野浦の食と健康の館の横と南知多道路美浜パーキング内の2カ所がございます。そのうちの美浜パーキング内のドッグランにつきましては、南知多道路の民営化に伴いまして、今年度をもって町の管理は終了いたします。来年度以降は民間委託ということで、民間会社による管理が続けられるものではないかというふうに思っております。

そういったことで、現在、来年度からは小野浦のドッグラン1カ所のみというふうになっております。もちろん、無料でございます。

予算につきましては、小野浦区へ委託しております管理委託料と用地の借地料を計上してございますので、よろしく願いいたします。

以上でございます。

○7番（山本辰見君）

先ほど答弁の中で1つだけ見落としというわけじゃないですけども、プレミアムつき商品券の事業で見直しをということで配布方法について、本当に検討しているということでしたけれども、もう一点、配布の仕方、今1人何枚までとかという形だけだと思いますが、具体的にそれがいかんとは言いませんけれども、子どもさんをたくさん連れてきてということもあったんで——赤ちゃんも含めてです。例えば、1人何枚、一家族何枚みたいな制限は私は必要じゃないかなと思うんですけども。いわゆる多分にまた抽せんになろうかと思えますから、全体に、いわゆる公平に全体を潤すというか、元気になってもらいたいということでいくと、1人のところに何十万円と行くことじゃなくて、そうしたらいいかなと思います。そういう検討はしていますでしょうか。

○商工観光課長（竹内康雄君）

今の山本議員の御提言といいましょうか、これにつきましては、さまざまな御意見、御要望がございますので、これにつきまして、事業実施主体でございます商工会にお伝えをしてみたいと考えております。よろしくお願いいたします。

○8番（鈴木美代子君）

名浜道路ですけども、3万円あるんですね、負担金が。これについては、名浜道路、常滑と蒲郡の間の道路だと言うんですが、なぜ美浜町が3万円も出すのか、その辺の根拠を説明していただきたいと思うんです。

○土木課長（鈴木 学君）

議員の御質問にお答えいたします。

金額の3万円につきましては、現在、名浜道路のほう、9市3町が会員となっております。会則に基づきまして、本町におきまして3万円という形のものをお支払いのほうさせていただいております。よろしくお願いいたします。

○8番（鈴木美代子君）

今の話ですと、名浜道路について9市3町であるんですが、美浜町も通らない名浜道路を何で美浜町が払わなきゃいけないのか、その辺の理由がわからないんです、どうしても。やっぱり説明してください。

○土木課長（鈴木 学君）

議員の言われるように、本町を通らないというふうでございますが、まだ現在のところ計画決定のほうはきちんとされておるわけではございませんが、衣浦港の南側を通るといような形でございます。当然隣接する私どもものほうといたしましては、高規格道路ができることによりまして、その南に位置する私どももその道路の受ける恩恵というのは非常に大きなものでございます。

よって、本名浜道路の建設につきましても、本町といたしましては、物流の、より多くの物流等もありますし、交流人口の増加というようなことも今懸念してございます。そういった中で本道路における将来の利用等を考えまして、本町においては有意義な道路というふうに考えておりますので、よろしくお願いいたします。

○建設部長（斎藤 功君）

すみません、先ほど鈴木議員の御質問に橋梁点検業務委託料、これについてちょっと答弁をしておりませんでしたので、申しわけございませんでした。

この業務につきましては、町が管理します橋梁の定期点検を行うものでございます。来年度は、古布の石田橋を初め12橋、平井陸橋を初め2橋、計14橋の定期点検を行う事業でございますので、よろしくお願いいたします。

どうも答弁が遅くなって申しわけありませんでした。

○議長（森川元晴君）

ほかによろしいでしょうか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（森川元晴君）

以上で5款から8款までの質疑を終わります。

次に、9款消防費以降について、これより質疑に入ります。質疑はありませんか。8番 鈴木美代子君。

○8番（鈴木美代子君）

185ページです。

教育費の中で学校ICT機器借上料が2,075万円、それといじめ不登校対策事業についてもそこにあると思うんですけども、27年度いじめと不登校があったからこそ28年度に予算化したと思うんですが、対策事業を。その辺を説明してください。

○教育部長（牧 守君）

まず、それでは185ページの学校ICTの関係の機器借上料の2,000万円でございます。これにつきましては、ICTということで横文字が最近ふえてきて我々も戸惑っておるんですけども、インフォメーション・アンド・コミュニケーション・テクノロジーという、その略だそうございまして、情報通信技術を教育分野のほうで応用してやっていくというようなことで、デジタルテレビ初めパソコン、それから電子黒板、そういったものを駆使して教育技術を高めていこうというような動きの中で機器の整備のほうを進めております。

議員御承知のように、既に小・中学校におきましてはパソコン教室のほうを整備されております。これにつきましては、23年9月1日から5年間のリースで、これまで小・中学校のパソコン、1人1台ずつ扱えるような状態でのリースのほうをやってまいりました。

あと職員のほうのパソコンのリースについても、パソコンの借上料の中で対応してきております。

今回、ちょうど28年8月31日でリース期間が満了になるものですから、そのパソコン教室の機器の更新とあわせて、これまで校務支援ソフト、これまで入ってございましたけれども、校務支援ソフトが先生方のパソコンを使っているとき、校務支援ソフトをさわっているときに、インターネット回線につながっておりますので、そちらのほうから校務支援ソフト——校務支援の中には、例えば通知表だとか、指導要録だとか、非常に重要な情報が入っております、インターネット回線を通じて、そちらのほうに侵入してもらっては困るということで、今年度パソコンの機器の更新にあわせて、セキュリティーの強化というのか、そこら辺を徹底してやっていこうということで、セキュリティーの強化といったものも含めまして、28年9月から、また5年間のリースということでパソコンのほうを更新させていただく予定にさせていただいております。

総額で5年間で、予定としましては1億7,700万円ぐらいの経費をかけて子どもたちのそういった情報関係機器の整備をやっていこうということで考えておりますので、お願いいたします。

それから、いじめ不登校の関係でございます。

いじめ不登校につきましては、いじめ等があるという前提でこれからも——これまでもそうですし、これからも当然そういったものがあるんだという前提で教育現場につきましては対応していかなければならないというふうに考えておりますけれども、実績のほうのお伺いでしたので、27年度の12月31日現在の数字のほうだけ御報告させていただきたいと思っております。

いじめ不登校の実態ということで、いじめの実態でございますけれども、平成27年度中です。新規の認知件数が12件ということでございます。そのうち解消されたものが8件、継続しているものが差し引きになりますけれども4件ということで、昨年度と比較しますと、新規認知につきましては5件の増、それから解消については2

件の増ということで、継続分については3件の増ということで、若干数字のほうはふえておりますけれども、いじめ不登校対策協議会等、あるいは各学校における学校内の対策協議会、非常に先生方、電話を保護者のほうにかけていただいたりだとか、家庭訪問をしていただいたりだとか、非常に精力的にそういった対応をやっていただいておりますので、引き続きやっていきたいというふうに思っております。

それから、不登校の実態でございます。これにつきましても、27年12月31日現在の数字になります。小学校につきましては7名、中学校につきましては21名ということで、合計28名の不登校の子どもたちがおります。

不登校になった原因等につきましては分析をしていただいておりますというのか、各学校のほうで毎月、さっきも不登校の関係……ごめんなさい。欠席の状況だとか、いじめ不登校の関係につきましては、毎月毎月学校のほうから、どんな状況なのかということで教育委員会のほうに報告いただいております、その分析をいじめ不登校対策協議会のほうでやっていただいておりますが、不登校になった理由につきましては、多いもの、3つぐらい言いますと、無気力型、それから不安だとか情緒混乱型というのが1つ。それから、意図的に拒否するという、そういったパターンが主な不登校になった理由ということで、いろいろな原因を抱えた子どもたちおります。そういった子どもにつきましても、いじめもそうですけれども、早い時点での発見、そしてまた対応が必要だと思っておりますので、学校にも御苦勞かけますけれども、そういった町としましても適応指導教室設置してあります。そういった逃げ場と言ったらあれなんですけれども、子どもたちが避難できるような場所を確保して、これからも受け入れのほうもしていきたいと思っておりますし、またそんなふうでやっていきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

以上でございます。

○議長（森川元晴君）

ほかに。山本君。

○7番（山本辰見君）

1点だけ、これは質問というよりもお願いでございますが、できるかどうかをお願いします。

議案説明の中で、小・中学校の特別備品購入と教育施設等工事、それぞれ100万円近いのがあって、口頭で説明はありました。これは先ほどの町の計画とは違って、今もう既に資料があるわけですから、それをここにというよりも、私はたまたま総務ですからここは管轄外になりますけれども、常任委員会に口頭で説明したのを資料として提示できませんでしょうか。

○教育部長（牧 守君）

今議員がおっしゃられたように、議案説明会の中で、これにつきましては口頭で説明させていただいたところでございます。

改めて資料提出のほうが必要なのか要らないのかということにつきましては、僕もちょっと疑問に思うところがございます。

本来の議案質疑のこういった場で資料の提出ができるかできないかという、それが本来の議案質疑に当たるのかということについては、ちょっと私も本当のことを言いますとどうなのかなというようなことを思いますが、いずれにしましても、各小・中学校のほうから、備品については授業を進める上で必要な教材備品、あるいはそれから管理をしていく上で必要な管理備品等々、さまざまなものを要求していただいております。

それから、工事につきましても、今年度野間中、河和中のエアコンが非常に不便されているということで対応させていただいておりますが、緊急やむない、すぐに対応しなければならない工事については、そういった形で財政当局のほうと交渉させていただいて、財政、予算のとれる範囲内で、財政が許す範囲内というんですか、そ

ういった範囲内で予算のほうをお認めいただいております。そういった中でやれるものについて、教育委員会としてはやっていきたいなというようなことを考えておりますので、お願いしたいと思います。

なお、どうしても、常任委員会の中で再度そういった備品工事費の内容を説明してほしいということであれば、資料の提出につきましては、改めてするというよりは、口頭でじっくり説明させていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いしたいと思います。

○7番（山本辰見君）

くどいようですけれども、実はもうわかっている中身ですから、私たち事前に資料請求しなかったのがいかんと言えばそれまでなんですけれども、本来的には——全部の事業とは言いません。こういうふうには、とりわけこれ小学校ですと1,500万円、1,600万円、それから中学校でも1,300万円とか、そういう大きな金額なわけですから、全部羅列せよと言っていない。中には表に出しちゃまずいものもあるかもしれません。それは当局のほうで判断していただければいいですが、口頭で説明して、おたくさんたちは持っているわけですから、私たちにも。それでメモで——私は一定メモはとりました。ほかの議員さんもとってみえると思いますが、全てを聞き取って書き取っているわけではないものですから、それが私たちにくれると何かまずいものがあるかどうか、そのことがあるんで、資料として手元に私たちは欲しいです、率直に。あれこれは言いません。今のところは明細を読み上げていただきましたので……

○教育部長（牧 守君）

何も本当に私も隠すつもりなどさらさらありません。聞かれれば幾らでもしゃべるつもりではおりますし、本当に当初から資料が必要であるということであれば、議長のほうに、議員さんはそういった権限ありますので、資料請求していただければ、私どもも何にも疑問に思わず出させていただくものだと思います。

口頭でまずいということであれば出しますけれども、今後例えばいろいろな形で資料提供をどうしても必要なんだということで、いろいろな場面でそういった形をまた要求されましても私どもも困ってまいりますので、できましたら口頭で丁寧に説明させていただきますので、よろしくお願ひしたいなど、そんなふうには思っております。

以上でございます。

○議長（森川元晴君）

ほかによろしいですね。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森川元晴君）

これをもって議案第28号の質疑を終わります。

それでは、休憩といたしますので、再開を午後1時からよろしくお願ひいたします。

〔午後0時00分 休憩〕

〔午後1時00分 再開〕

○議長（森川元晴君）

それでは、休憩前に引き続き会議を開きます。

次に、議案第29号、平成28年度美浜町国民健康保険特別会計予算について、これより質疑に入ります。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森川元晴君）

質疑なしと認めます。これをもって議案第29号の質疑を終わります。

次に、議案第30号、平成28年度美浜町後期高齢者医療特別会計予算について、これより質疑に入ります。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森川元晴君）

質疑なしと認めます。これをもって議案第30号の質疑を終わります。

次に、議案第31号、平成28年度美浜町介護保険特別会計予算について、これより質疑に入ります。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森川元晴君）

質疑なしと認めます。これをもって議案第31号の質疑を終わります。

次に、議案第32号、平成28年度美浜町土地取得特別会計予算について、これより質疑に入ります。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森川元晴君）

質疑なしと認めます。これをもって議案第32号の質疑を終わります。

次に、議案第33号、平成28年度美浜町農業集落家庭排水処理施設特別会計予算について、これより質疑に入ります。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森川元晴君）

質疑なしと認めます。これをもって議案第33号の質疑を終わります。

次に、議案第34号、平成28年度美浜町水道事業会計予算について、これより質疑に入ります。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森川元晴君）

質疑なしと認めます。これをもって議案第34号の質疑を終わります。

以上7件の平成28年度予算については、お手元に配付しました議案審査付託表のとおり、各担当常任委員会に付託します。

日程第29 発議第1号 子どもの医療費助成制度の創設を求める意見書についてから

発議第2号 国民健康保険の国庫負担減額調整措置の廃止を求める意見書についてまで2件一括

○議長（森川元晴君）

日程第29、発議第1号、子どもの医療費助成制度の創設を求める意見書について及び発議第2号、国民健康保険の国庫負担減額調整措置の廃止を求める意見書について、以上2件を一括議題とします。

以上2件について、提出者より提案理由の説明を求めます。

8番 鈴木美代子君、説明を願います。8番 鈴木美代子君。

〔8番 鈴木美代子君 登壇〕

○8番（鈴木美代子君）

議長の許可がありましたので、提案理由を述べさせていただきます。

発議第1号、子どもの医療費助成制度の創設を求める意見書について。

子どもの医療費助成制度の創設を求める意見書を別紙のとおり提出する。

平成28年3月8日提出、代表提出者、美浜町議会議員 鈴木美代子、同じく提出者、山本辰見、同じく提出者、江元梅彦であります。

提案理由。

この案を提出するのは、人口減少・少子化対策の一環として、子どもを安心して育てられる環境を整えるために、国が主体となって国の責任で子どもの医療費助成制度の創設をするよう強く要望する必要があるからである。

発議第2号、国民健康保険の国庫負担減額調整措置の廃止を求める意見書について。

国民健康保険の国庫負担減額調整措置の廃止を求める意見書を別紙のとおり提出する。

平成28年3月8日提出、代表提出者、美浜町議会議員 鈴木美代子、提出者、同じく山本辰見、提出者、同じく江元梅彦。

提案理由です。

この案を提出するのは、地方単独事業による乳幼児医療費助成制度の拡充に取り組んできた地方公共団体には減額調整措置が残されることから、同じ医療費助成制度を実施している地方公共団体間で国による新たな格差と不公平が生ずるため、国会及び政府に対し、乳幼児医療費助成等の地方単独事業を実施している地方公共団体に対する国民健康保険の国庫負担減額調整措置について廃止を強く要望する必要があるからであります。

以上です。

同僚議員には、ぜひ意見書を全文読んでいただいて御賛同いただけますように、よろしく願いいたします。

[降壇]

○議長（森川元晴君）

提案理由の説明が終わりました。

これより順次議事を進めます。

初めに発議第1号、子どもの医療費助成制度の創設を求める意見書について、質疑に入ります。質疑はありますか。1番 横田君。

○1番（横田貴次君）

ありがとうございます。発議第1号につきまして御質問をさせていただきたいと思います。

子どもの医療費助成制度の創設というふうにございますが、美浜町では、現在、中学校3年生までの医療費を負担しているということですが、どのような内容の助成制度の創設を望んでいるかということは、美浜町から出す意見書について意思を明確にしておくべきだと私は考えますが、提案者の方に御質問します。どれぐらいまでの年層の子どもたちに対しての医療制度の創設を求めていくのでしょうか。

○8番（鈴木美代子君）

内容については、もちろん、できれば大分学年の上のほうの医療費助成制度をやってほしいけれども、まだ今国においての子ども医療費助成制度は全くないんです。町と県がこの助成制度が創設されれば大いに助かることになると思いますので、町と県が相談するというのも変ですけれども、一定のところまでの医療費助成制度を創設してほしいと思っています。

○議長（森川元晴君）

質問。質問じゃないよね、もちろん。

[発言する者あり]

○7番（山本辰見君）

同じく提出者として補足をさせていただきたいと思います。

実は、この制度の見直しは、ここの次のほうの2項にもありますように、実は全国から大きく意見が出ている。全国知事会、市長会、町村会、それから森川議長も参加してみえる議長会など6団体からも医療費をつくれというのと、2項のほうも含めて検討しています。

国のほうとしても、どういう形が今可能なのかということを検討会を開いていまして、少し前までは3月中にでも方向が出るのかなということでしたが、一番新しいニュースで、夏にも——もう去年、昨年12月にも会合を開いて、この夏にも一定の方向が出るのではないかとということで、実はこの制度、スタートはもう10年、15年も前から乳幼児の医療費無料制度から始まって、順番に乳幼児、保育園に入る前まで、小学校入学前までという形で、愛知県はむしろ進んでいるほうで、県も入院については中学校まで、通院については小学校入るまでと。いろいろなところの全国の流れは違いますけれども、今の横田議員から質問あったような、じゃ、どこまでを要望するんだというのは、今私どものほうから小学校前までいいとか、中学校までやれとかという形の線引きをした要望ではなくて、本当に全国の状況はいろいろ違いますから、それを先ほど言いましたように、知事会から、あるいは市長会からも出ている意向を踏まえた形のちょうど今検討している段階なんで、私たち、この意見書がそれぞれの自治体——まあ、全部とは言いませんけれども、いろいろな自治体から出てくる要望を踏まえて、本当に国として責任を持って取り組んでほしいというのが、この提案した趣旨でございますので、特に、今鈴木議員からも言ったように、何歳までとかいう制限を設けた要望にはしていません。

○1番（横田貴次君）

美浜町から提出する意見書でございますので、現行美浜町が行っている中学校3年生までの医療費助成については、もう最低限。町民が求めるのであれば、せめて高校3年間も国に対して要望していく、私はそういった意見書としてしとめて、全国の顔色を見るのではなく、この美浜町の現状に合った意見書として胸を張って提出すべきだと思うのですが、変更されるような予定はあるかないかだけお聞かせください。

○8番（鈴木美代子君）

確かに、そういうことも言えると思いますが、この美浜町でも一番最初は乳児の医療費無料化から約20年かかって中3まで医療費の無料化を実現させました。それで、確かに美浜町にとってはそのとおりなんですけど、まだそこまでいっていない自治体もいっぱいあるものですから、このままで、この意見書でいきたいと思います。変更しないつもりです。

ぜひこれが実現して、町も、そして県もこれが実現すれば大いに助かることだと思いますので、ぜひよろしくお願いします。

○議長（森川元晴君）

ほかに。よろしいでしょうか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（森川元晴君）

これをもって発議第1号の質疑を終わります。

お諮りします。本案は委員会付託を省略したいと思います。これに御異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○議長（森川元晴君）

御異議なしと認めます。よって、本案は委員会付託を省略することに決しました。

次に、発議第2号、国民健康保険の国庫負担減額調整措置の廃止を求める意見書について、質疑に入ります。
質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森川元晴君）

質疑なしと認めます。これをもって発議第2号の質疑を終わります。

お諮りします。本案は委員会付託を省略したいと思います。これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森川元晴君）

御異議なしと認めます。よって、本案は委員会付託を省略することに決しました。

なお、審議の都合により、発議第1号及び発議第2号の討論、採決は最終日に行います。

○議長（森川元晴君）

以上で本日の日程は終了いたしました。

お諮りします。付託案件等の委員会審査並びに日程の都合により、3月9日から3月14日までの6日間を休会としたいと思います。これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森川元晴君）

御異議なしと認めます。よって、3月9日から3月14日までの6日間を休会とすることに決しました。

休会中に各担当常任委員会を開き、付託案件等の審査をお願いいたします。

来る3月15日は午前9時から本会議を開き、各担当常任委員長に付託案件等の審査結果の報告を求め、質疑、討論、採決を行います。

本日はこれにて散会します。御協力ありがとうございました。

〔午後1時16分 散会〕

平成28年 3 月15日（火曜日）

第 1 回美浜町議会定例会会議録（第 5 号）

平成28年3月15日（火曜日） 午前9時00分 開議

◎ 議事日程（第5号）

- 日程第1 議案第2号 行政不服審査法の施行に伴う関係条例の整理に関する条例について
議案第3号 美浜町行政不服審査会条例について
議案第4号 美浜町消防団条例の一部を改正する条例について
議案第5号 美浜町消防団員等公務災害補償条例の一部を改正する条例について
議案第6号 美浜町人事行政の運営等の状況の公表に関する条例の一部を改正する条例について
議案第7号 美浜町職員の勤務時間、休暇等に関する条例等の一部を改正する条例について
議案第8号 美浜町職員の退職管理に関する条例について
議案第9号 美浜町議会の議員その他非常勤の職員の公務災害補償等に関する条例の一部を改正する条例について
議案第10号 美浜町議会の議員の議員報酬、費用弁償及び期末手当に関する条例の一部を改正する条例について
議案第11号 美浜町証人等の実費弁償に関する条例の一部を改正する条例について
議案第12号 美浜町特別職の職員で常勤のものの給与及び旅費に関する条例の一部を改正する条例について
議案第13号 美浜町職員の給与に関する条例の一部を改正する条例について
〔総務産業常任委員長 報告〕
- 日程第2 議案第14号 美浜町母子家庭等医療費支給条例の一部を改正する条例について
議案第15号 美浜町国民健康保険税条例の一部を改正する条例について
議案第16号 美浜町遺児手当支給条例の一部を改正する条例について
〔文教厚生常任委員長 報告〕
- 日程第3 議案第17号 美浜町公共用物の管理に関する条例の一部を改正する条例について
議案第18号 美浜町道路占用料条例の一部を改正する条例について
議案第19号 美浜町漁港管理条例の一部を改正する条例について
議案第20号 美浜町漁港土砂採取料等徴収条例の一部を改正する条例について
議案第21号 町道路線の廃止について
〔総務産業常任委員長 報告〕
- 日程第4 議案第22号 平成27年度美浜町一般会計補正予算（第6号）
〔各担当常任委員長 報告〕
- 日程第5 議案第23号 平成27年度美浜町国民健康保険特別会計補正予算（第1号）
議案第24号 平成27年度美浜町介護保険特別会計補正予算（第2号）
〔文教厚生常任委員長 報告〕
- 日程第6 議案第25号 平成27年度美浜町土地取得特別会計補正予算（第2号）
議案第26号 平成27年度美浜町農業集落家庭排水処理施設特別会計補正予算（第2号）
議案第27号 平成27年度美浜町水道事業会計補正予算（第2号）
〔総務産業常任委員長 報告〕

日程第7 議案第28号 平成28年度美浜町一般会計予算

[各担当常任委員長 報告]

日程第8 議案第29号 平成28年度美浜町国民健康保険特別会計予算

議案第30号 平成28年度美浜町後期高齢者医療特別会計予算

議案第31号 平成28年度美浜町介護保険特別会計予算

[文教厚生常任委員長 報告]

日程第9 議案第32号 平成28年度美浜町土地取得特別会計予算

議案第33号 平成28年度美浜町農業集落家庭排水処理施設特別会計予算

議案第34号 平成28年度美浜町水道事業会計予算

[総務産業常任委員長 報告]

日程第10 発議第1号 子どもの医療費助成制度の創設を求める意見書について

発議第2号 国民健康保険の国庫負担減額調整措置の廃止を求める意見書について

日程第11 報告第2号 専決処分事項の報告について

同意第2号 美浜町副町長の選任について

同意第3号 美浜町固定資産評価員の選任について

議案第35号 平成27年度美浜町一般会計補正予算（第7号）

日程第12 議会閉会中の継続調査事件について

◎ 本日の会議に付した事件

[議事日程に同じにつき省略]

◎ 本日の出席議員（13名）

1番	横田 貴次君	2番	荒井 勝彦君
3番	大岩 靖君	4番	横田 全博君
5番	大崎 卓夫君	6番	丸田 博雅君
7番	山本 辰見君	8番	鈴木 美代子君
9番	野田 増男君	10番	森川 元晴君
12番	石田 秀夫君	13番	杉浦 剛君
14番	江元 梅彦君		

◎ 説明のため出席した者の職、氏名（14名）

町長	神谷 信行君	副町長	石川 達男君
教育長	山本 敬君	会計管理者	大井 徳男君
総務部長	本多 孝行君	企画部長	永田 哲弥君
厚生部長	岩瀬 知平君	経済環境部長	齋藤 博君
建設部長	斎藤 功君	教育部長	牧 守君
総務課長	沼田 治義君	税務課長	廣澤 辰雄君

商工観光課長 竹内 康雄 君

土木課長 鈴木 学 君

◎ 職務のため出席した者の職、氏名（2名）

議会事務局長 岩本 修自 君

主幹兼議会係長 夏目 明房 君

[午前9時00分 開議]

○議長（森川元晴君）

皆様、おはようございます。

先週は東日本大震災から発生5年目の節目の追悼式典が各地域で行われました。改めて命のとうとさ、ふるさとのありがたさ、人とのきずなを感じる3月11日でありました。

また、この地域も春のお祭り、山車引き祭りが月末から開催されます。ふるさとが、我が町が誇りと感じられるお祭り、人とのつながり、きずなを深める、そんなお祭りが展開されることを希望しています。間違っても事故がないことを願っています。

それでは、会議に入ります。

ただいまの出席議員は13名であります。定足数に達しておりますので、これより本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、あらかじめお手元に配付したとおりであります。

日程に入るに先立ち、諸般の報告をします。

本日の会議に美浜町広報紙用写真撮影のためのカメラの持ち込みを許可しました。

以上で、議長の諸般の報告を終わります。

それでは、日程に入ります。

日程第1 議案第2号 行政不服審査法の施行に伴う関係条例の整理に関する条例についてから
議案第13号 美浜町職員の給与に関する条例の一部を改正する条例についてまで12件一括

○議長（森川元晴君）

日程第1、議案第2号、行政不服審査法の施行に伴う関係条例の整理に関する条例についてから議案第13号、美浜町職員の給与に関する条例の一部を改正する条例についてまで、以上12件を一括議題とします。

以上12件について、総務産業常任委員長の報告を求めます。

委員長、報告をお願いします。

[総務産業常任委員長 杉浦剛君 登壇]

○総務産業常任委員長（杉浦 剛君）

おはようございます。

総務産業常任委員会は、去る3月9日午前9時より役場3階大会議室におきまして、委員全員出席のもとに、説明員として各担当部課長の出席を求め、当委員会に付託となりました議案を慎重に審査いたしましたので、その結果を御報告させていただきます。

ただいま議題となりました議案第2号、行政不服審査法の施行に伴う関係条例の整理に関する条例についてから議案第13号、美浜町職員の給与に関する条例の一部を改正する条例についてまで、以上12議案については、審

査、採決の結果、12議案とも全員賛成により可決しました。

なお、審査の過程で次のような質疑がありましたので、御報告させていただきます。

議案第3号におきまして、運営方法について確認したい、行政不服が出たときに審査するのか、定期的にするのかとの質疑があり、出たときに審議をする、総務課行政係が担当する、申し立ての後、審議員の審査を受け町長が第三者委員会を開き答申を受けるとの答弁がありました。

また、議案第4号におきまして、今回、野間分団が3班から2班に、45人を30人にするものだが、消防団全体を見ての活動状況はどうかとの質疑があり、全体としては15班から14班へ、253名から238名に減る、西側ではOBの方が率先して参加してくれているが、ボランティアでやってもらっている、臨時消防団員として万一の場合には最低限保証はしているとの答弁がありました。

また、OBの方々の組織化も検討したらどうかとの質疑があり、これから検討していきたいとの答弁がありました。

また、議案第8号においては、これまでの事例はどうか、また、部課長対応であるが、あえて一般職を入れていないのはなぜかとの質疑があり、事例は今のところない、地方公務員法に倣ってやっていると、そしてこの条例の基本は公平性であるとの答弁がありました。

また、議案第12号においては、一般職も含めて今まで3%、5%削減などが繰り返されてきたが、現状はどうかとの質疑があり、現在55歳以上の方について給与の1.5%カットを行っている、しかしそれも平成30年3月までで終了予定となっているとの答弁がありました。

なお、他の議案については質疑はありませんでした。

また、12議案とも討論はありませんでした。

以上で報告を終わります。

[降壇]

○議長（森川元晴君）

総務産業常任委員長長の報告が終わりました。

これより順次、ただいまの委員長長の報告に対する議事を進めます。

最初に、議案第2号について、委員長長の報告に対する質疑はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（森川元晴君）

質疑なしと認めます。これをもって質疑を終わります。

これより討論に入ります。討論はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（森川元晴君）

討論なしと認めます。これをもって討論を終わります。

これより議案第2号、行政不服審査法の施行に伴う関係条例の整理に関する条例についてを採決します。

本案に対する総務産業常任委員長長の報告は可決であります。本案は、委員長長の報告のとおり決することに賛成の諸君の挙手を求めます。

[賛成者挙手]

○議長（森川元晴君）

挙手全員であります。よって、本案は可決されました。

次に、議案第3号について、委員長の報告に対する質疑に入ります。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森川元晴君）

質疑なしと認めます。これをもって質疑を終わります。

これより討論に入ります。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森川元晴君）

討論なしと認めます。これをもって討論を終わります。

これより議案第3号、美浜町行政不服審査会条例についてを採決します。

本案に対する総務産業常任委員長の報告は可決であります。本案は、委員長の報告のとおり決することに賛成の諸君の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

○議長（森川元晴君）

挙手全員であります。よって、本案は可決されました。

次に、議案第4号について、委員長の報告に対する質疑に入ります。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森川元晴君）

質疑なしと認めます。これをもって質疑を終わります。

これより討論に入ります。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森川元晴君）

討論なしと認めます。これをもって討論を終わります。

これより議案第4号、美浜町消防団条例の一部を改正する条例についてを採決します。

本案に対する総務産業常任委員長の報告は可決であります。本案は、委員長の報告のとおり決することに賛成の諸君の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

○議長（森川元晴君）

挙手全員であります。よって、本案は可決されました。

次に、議案第5号について、委員長の報告に対する質疑に入ります。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森川元晴君）

質疑なしと認めます。これをもって質疑を終わります。

これより討論に入ります。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森川元晴君）

討論なしと認めます。これをもって討論を終わります。

これより議案第5号、美浜町消防団員等公務災害補償条例の一部を改正する条例についてを採決します。

本案に対する総務産業常任委員長の報告は可決であります。本案は、委員長の報告のとおり決することに賛成

の諸君の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

○議長（森川元晴君）

挙手全員であります。よって、本案は可決されました。

次に、議案第6号について、委員長の報告に対する質疑に入ります。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森川元晴君）

質疑なしと認めます。これをもって質疑を終わります。

これより討論に入ります。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森川元晴君）

討論なしと認めます。これをもって討論を終わります。

これより議案第6号、美浜町人事行政の運営等の状況の公表に関する条例の一部を改正する条例についてを採決します。

本案に対する総務産業常任委員長の報告は可決であります。本案は、委員長の報告のとおり決することに賛成の諸君の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

○議長（森川元晴君）

挙手全員であります。よって、本案は可決されました。

次に、議案第7号について、委員長の報告に対する質疑に入ります。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森川元晴君）

質疑なしと認めます。これをもって質疑を終わります。

これより討論に入ります。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森川元晴君）

討論なしと認めます。これをもって討論を終わります。

これより議案第7号、美浜町職員の勤務時間、休暇等に関する条例等の一部を改正する条例についてを採決します。

本案に対する総務産業常任委員長の報告は可決であります。本案は、委員長の報告のとおり決することに賛成の諸君の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

○議長（森川元晴君）

挙手全員であります。よって、本案は可決されました。

次に、議案第8号について、委員長の報告に対する質疑に入ります。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森川元晴君）

質疑なしと認めます。これをもって質疑を終わります。

これより討論に入ります。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森川元晴君）

討論なしと認めます。これをもって討論を終わります。

これより議案第8号、美浜町職員の退職管理に関する条例についてを採決します。

本案に対する総務産業常任委員長の報告は可決であります。本案は、委員長の報告のとおり決することに賛成の諸君の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

○議長（森川元晴君）

挙手全員であります。よって、本案は可決されました。

次に、議案第9号について、委員長の報告に対する質疑に入ります。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森川元晴君）

質疑なしと認めます。これをもって質疑を終わります。

これより討論に入ります。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森川元晴君）

討論なしと認めます。これをもって討論を終わります。

これより議案第9号、美浜町議会の議員その他非常勤の職員の公務災害補償等に関する条例の一部を改正する条例についてを採決します。

本案に対する総務産業常任委員長の報告は可決であります。本案は、委員長の報告のとおり決することに賛成の諸君の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

○議長（森川元晴君）

挙手全員であります。よって、本案は可決されました。

次に、議案第10号について、委員長の報告に対する質疑に入ります。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森川元晴君）

質疑なしと認めます。これをもって質疑を終わります。

これより討論に入ります。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森川元晴君）

討論なしと認めます。これをもって討論を終わります。

これより議案第10号、美浜町議会の議員の議員報酬、費用弁償及び期末手当に関する条例の一部を改正する条例についてを採決します。

本案に対する総務産業常任委員長の報告は可決であります。本案は、委員長の報告のとおり決することに賛成の諸君の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

○議長（森川元晴君）

挙手全員であります。よって、本案は可決されました。

次に、議案第11号について、委員長の報告に対する質疑に入ります。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森川元晴君）

質疑なしと認めます。これをもって質疑を終わります。

これより討論に入ります。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森川元晴君）

討論なしと認めます。これをもって討論を終わります。

これより議案第11号、美浜町証人等の実費弁償に関する条例の一部を改正する条例についてを採決します。

本案に対する総務産業常任委員長の報告は可決であります。本案は、委員長の報告のとおり決することに賛成の諸君の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

○議長（森川元晴君）

挙手全員であります。よって、本案は可決されました。

次に、議案第12号について、委員長の報告に対する質疑に入ります。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森川元晴君）

質疑なしと認めます。これをもって質疑を終わります。

これより討論に入ります。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森川元晴君）

討論なしと認めます。これをもって討論を終わります。

これより議案第12号、美浜町特別職の職員で常勤のものの給与及び旅費に関する条例の一部を改正する条例についてを採決します。

本案に対する総務産業常任委員長の報告は可決であります。本案は、委員長の報告のとおり決することに賛成の諸君の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

○議長（森川元晴君）

挙手全員であります。よって、本案は可決されました。

次に、議案第13号について、委員長の報告に対する質疑に入ります。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森川元晴君）

質疑なしと認めます。これをもって質疑を終わります。

これより討論に入ります。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森川元晴君）

討論なしと認めます。これをもって討論を終わります。

これより議案第13号、美浜町職員の給与に関する条例の一部を改正する条例についてを採決します。

本案に対する総務産業常任委員長の報告は可決であります。本案は、委員長の報告のとおり決することに賛成の諸君の挙手を求めます。

[賛成者挙手]

○議長（森川元晴君）

挙手全員であります。よって、本案は可決されました。

日程第2 議案第14号 美浜町母子家庭等医療費支給条例の一部を改正する条例についてから
議案第16号 美浜町遺児手当支給条例の一部を改正する条例についてまで3件一括

○議長（森川元晴君）

日程第2、議案第14号、美浜町母子家庭等医療費支給条例の一部を改正する条例についてから議案第16号、美浜町遺児手当支給条例の一部を改正する条例についてまで、以上3件を一括議題とします。

以上3件について、文教厚生常任委員長の報告を求めます。

委員長、報告をお願いします。

[文教厚生常任委員長 丸田博雅君 登壇]

○文教厚生常任委員長（丸田博雅君）

おはようございます。

それでは、文教厚生常任委員会のほうから御報告申し上げます。去る3月10日午前9時より役場3階大会議室におきまして、委員全員の出席のもと、説明員として教育長を初め各担当部課長の出席を求め、当委員会に付託となりました議案を慎重に審査いたしましたので、その結果を報告させていただきます。

ただいま議題となりました議案第14号、美浜町母子家庭等医療費支給条例の一部を改正する条例についてから議案第16号、美浜町遺児手当支給条例の一部を改正する条例についてまで、以上3議案については、審査、採決の結果、3議案とも全員賛成により可決をいたしました。

なお、審査の過程で次のような質疑がありましたので、御報告します。

議案第15号において、改正による影響はあるのかとの質疑があり、平成27年10月末の試算にて40世帯160万円の影響があるとの答弁がありました。

そのほかはありませんでした。

なお、ほかの議案についてはただいま申し上げましたように質疑はありませんでした。

また、3議案とも討論はありませんでした。

以上で報告を終わります。

[降壇]

○議長（森川元晴君）

文教厚生常任委員長の報告が終わりました。

これより順次、ただいまの委員長の報告に対する議事を進めます。

最初に、議案第14号について、委員長の報告に対する質疑に入ります。質疑はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（森川元晴君）

質疑なしと認めます。これをもって質疑を終わります。

これより討論に入ります。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森川元晴君）

討論なしと認めます。これをもって討論を終わります。

これより議案第14号、美浜町母子家庭等医療費支給条例の一部を改正する条例についてを採決します。

本案に対する文教厚生常任委員長の報告は可決であります。本案は、委員長の報告のとおり決することに賛成の諸君の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

○議長（森川元晴君）

挙手全員であります。よって、本案は可決されました。

次に、議案第15号について、委員長の報告に対する質疑に入ります。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森川元晴君）

質疑なしと認めます。これをもって質疑を終わります。

これより討論に入ります。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森川元晴君）

討論なしと認めます。これをもって討論を終わります。

これより議案第15号、美浜町国民健康保険税条例の一部を改正する条例についてを採決します。

本案に対する文教厚生常任委員長の報告は可決であります。本案は、委員長の報告のとおり決することに賛成の諸君の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

○議長（森川元晴君）

挙手全員であります。よって、本案は可決されました。

次に、議案第16号について、委員長の報告に対する質疑に入ります。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森川元晴君）

質疑なしと認めます。これをもって質疑を終わります。

これより討論に入ります。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森川元晴君）

討論なしと認めます。これをもって討論を終わります。

これより議案第16号、美浜町遺児手当支給条例の一部を改正する条例についてを採決します。

本案に対する文教厚生常任委員長の報告は可決であります。本案は、委員長の報告のとおり決することに賛成の諸君の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

○議長（森川元晴君）

挙手全員であります。よって、本案は可決されました。

日程第3 議案第17号 美浜町公共用物の管理に関する条例の一部を改正する条例についてから
議案第21号 町道路線の廃止についてまで5件一括

○議長（森川元晴君）

日程第3、議案第17号、美浜町公共用物の管理に関する条例の一部を改正する条例についてから議案第21号、町道路線の廃止についてまで、以上5件を一括議題とします。

以上5件について、総務産業常任委員長の報告を求めます。

委員長、報告を願います。

〔総務産業常任委員長 杉浦剛君 登壇〕

○総務産業常任委員長（杉浦 剛君）

御報告をいたします。

ただいま議題となりました議案第17号、美浜町公共用物の管理に関する条例の一部を改正する条例についてから議案第21号、町道路線の廃止についてまで、以上5議案については、審査、採決の結果、5議案とも全員賛成により可決しました。

なお、審査の過程で次のような質疑がありましたので、御報告いたします。

議案第21号において、この町道は水路として使われていたそうだが、どういうことかとの質疑があり、戦後の農地造成で用水路として使われていた、当初認定をかけたとき道路として認定されたようだ、今回町道路線の廃止としたとの答弁がありました。

なお、他の議案については質疑はありませんでした。

また、5議案とも討論はありませんでした。

以上で報告を終わります。

〔降 壇〕

○議長（森川元晴君）

総務産業常任委員長の報告が終わりました。

これより順次、ただいまの委員長報告に対する議事を進めます。

最初に、議案第17号について、委員長の報告に対する質疑に入ります。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森川元晴君）

質疑なしと認めます。これをもって質疑を終わります。

これより討論に入ります。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森川元晴君）

討論なしと認めます。これをもって討論を終わります。

これより議案第17号、美浜町公共用物の管理に関する条例の一部を改正する条例についてを採決します。

本案に対する総務産業常任委員長の報告は可決であります。本案は、委員長の報告のとおり決することに賛成の諸君の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

○議長（森川元晴君）

挙手全員であります。よって、本案は可決されました。

次に、議案第18号について、委員長の報告に対する質疑に入ります。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森川元晴君）

質疑なしと認めます。これをもって質疑を終わります。

これより討論に入ります。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森川元晴君）

討論なしと認めます。これをもって討論を終わります。

これより議案第18号、美浜町道路占用料条例の一部を改正する条例についてを採決します。

本案に対する総務産業常任委員長の報告は可決であります。本案は、委員長の報告のとおり決することに賛成の諸君の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

○議長（森川元晴君）

挙手全員であります。よって、本案は可決されました。

次に、議案第19号について、委員長の報告に対する質疑に入ります。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森川元晴君）

質疑なしと認めます。これをもって質疑を終わります。

これより討論に入ります。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森川元晴君）

討論なしと認めます。これをもって討論を終わります。

これより議案第19号、美浜町漁港管理条例の一部を改正する条例についてを採決します。

本案に対する総務産業常任委員長の報告は可決であります。本案は、委員長の報告のとおり決することに賛成の諸君の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

○議長（森川元晴君）

挙手全員であります。よって、本案は可決されました。

次に、議案第20号について、委員長の報告に対する質疑に入ります。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森川元晴君）

質疑なしと認めます。これをもって質疑を終わります。

これより討論に入ります。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森川元晴君）

討論なしと認めます。これをもって討論を終わります。

これより議案第20号、美浜町漁港土砂採取料等徴収条例の一部を改正する条例についてを採決します。

本案に対する総務産業常任委員長の報告は可決であります。本案は、委員長の報告のとおり決することに賛成の諸君の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

○議長（森川元晴君）

挙手全員であります。よって、本案は可決されました。

次に、議案第21号について、委員長の報告に対する質疑に入ります。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森川元晴君）

質疑なしと認めます。これをもって質疑を終わります。

これより討論に入ります。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森川元晴君）

討論なしと認めます。これをもって討論を終わります。

これより議案第21号、町道路線の廃止についてを採決します。

本案に対する総務産業常任委員長の報告は可決であります。本案は、委員長の報告のとおり決することに賛成の諸君の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

○議長（森川元晴君）

挙手全員であります。よって、本案は可決されました。

日程第4 議案第22号 平成27年度美浜町一般会計補正予算（第6号）

○議長（森川元晴君）

日程第4、議案第22号、平成27年度美浜町一般会計補正予算（第6号）を議題とします。

本案に関し、各担当常任委員長の報告を求めます。

最初に、総務産業常任委員長、報告を願います。

〔総務産業常任委員長 杉浦剛君 登壇〕

○総務産業常任委員長（杉浦 剛君）

御報告いたします。

ただいま議題となりました議案第22号、平成27年度美浜町一般会計補正予算（第6号）のうち、当委員会に付託となりました部分については、審査、採決の結果、全員賛成により可決しました。

審査の過程において次のような質疑がありましたので、御報告させていただきます。

生涯活躍のまち推進事業繰越について、平成28年度にはどのような計画を立てているのかとの質疑があり、単年度事業ではなく、5年間をめどとして計画を立てていく、平成28年においてはこれから何年にどんなことをやっていくのかという年間計画をしっかりと立てていきたい、美浜町の資源を生かして交流人口をふやすことや、高齢者に活躍してもらうことを目指すとの答弁がありました。

また、この事業はコーディネーターが中心となってやっていくのか、単年度の契約かとの質疑があり、単年度ではない、コーディネーターにはこれからもアドバイスをもらっていく、平成28年度からの計画はプロジェクト

チームの係長級、主査級の実行部隊の若い方々の力を発揮してもらい、そのプロジェクトチームが中心となっていくとの答弁がありました。

また、輝くまちづくり実行委員会とはとの質疑に、昨年はなかったイルミネーション事業だが、その効果を期待して住民の方々と一緒に運営し取り組んでいく、いろんな分野の方々を呼び出し活性化につなげたい、職員も一緒に入って商工会の方々にも声をかけやっていきたい、冬のイルミネーションだけではなく夏の竹灯籠も計画的にやっていきたいとの答弁がありました。

また、グリーンツーリズム、ブルーツーリズムの活性化交付金事業についての質疑があり、今回全部で600万円の補正を組んだが広く全国的にPRしていきたい、そのうち300万円はそのPR委託料として計上した、子どもたちに知ってもらうためにも漫画家の鳥山明氏に美浜版の漫画を描いてもらい、2万部を配布したい、また、看板設置も考えているというような答弁がありました。

なお、討論はありませんでした。

以上で報告を終わります。

〔降壇〕

○議長（森川元晴君）

次に、文教厚生常任委員長の報告をお願いします。

〔文教厚生常任委員長 丸田博雅君 登壇〕

○文教厚生常任委員長（丸田博雅君）

御報告をいたします。

ただいま議題となりました議案第22号、平成27年度美浜町一般会計補正予算（第6号）のうち、当委員会に付託となりました部分については、審査、採決の結果、全員賛成により可決いたしました。

審査の過程において次のような質疑がありましたので、御報告をいたします。

1台増車される車椅子対応のコミュニティーバスは、どのように運行されるのかとの質疑があり、町全体運行のコミュニティーバスに組み込んで運営されるとの答弁がありました。

なお、討論はありませんでした。

以上で報告を終わります。

〔降壇〕

○議長（森川元晴君）

各担当常任委員長の報告が終わりました。

これより、ただいまの各担当常任委員長の報告に対する質疑に入ります。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森川元晴君）

質疑なしと認めます。これをもって質疑を終わります。

これより討論に入ります。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森川元晴君）

討論なしと認めます。これをもって討論を終わります。

これより議案第22号、平成27年度美浜町一般会計補正予算（第6号）を採決します。

本案に対する各担当常任委員長の報告は可決であります。本案は、各担当常任委員長の報告のとおり決するこ

とに賛成の諸君の挙手を求めます。

[賛成者挙手]

○議長（森川元晴君）

挙手全員であります。よって、本案は可決されました。

日程第5 議案第23号 平成27年度美浜町国民健康保険特別会計補正予算（第1号）から
議案第24号 平成27年度美浜町介護保険特別会計補正予算（第2号）まで2件一括

○議長（森川元晴君）

日程第5、議案第23号、平成27年度美浜町国民健康保険特別会計補正予算（第1号）から議案第24号、平成27年度美浜町介護保険特別会計補正予算（第2号）まで、以上2件を一括議題とします。

以上2件について、文教厚生常任委員長の報告を求めます。

委員長、報告をお願いします。

[文教厚生常任委員長 丸田博雅君 登壇]

○文教厚生常任委員長（丸田博雅君）

御報告いたします。

ただいま議題となりました議案第23号、平成27年度美浜町国民健康保険特別会計補正予算（第1号）から議案第24号、平成27年度美浜町介護保険特別会計補正予算（第2号）まで、以上2議案については、審査、採決の結果、2議案とも全員賛成により可決いたしました。

なお、2議案とも質疑、討論はありませんでした。

以上で報告を終わります。

[降壇]

○議長（森川元晴君）

委員長の報告が終わりました。

これより順次、ただいまの委員長の報告に対する議事を進めます。

最初に、議案第23号について、委員長の報告に対する質疑に入ります。質疑はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（森川元晴君）

質疑なしと認めます。これをもって質疑を終わります。

これより討論に入ります。討論はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（森川元晴君）

討論なしと認めます。これをもって討論を終わります。

これより議案第23号、平成27年度美浜町国民健康保険特別会計補正予算（第1号）を採決します。

本案に対する文教厚生常任委員長の報告は可決であります。本案は、委員長の報告のとおり決することに賛成の諸君の挙手を求めます。

[賛成者挙手]

○議長（森川元晴君）

挙手全員であります。よって、本案は可決されました。

次に、議案第24号について、委員長の報告に対する質疑に入ります。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森川元晴君）

質疑なしと認めます。これをもって質疑を終わります。

これより討論に入ります。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森川元晴君）

討論なしと認めます。これをもって討論を終わります。

これより議案第24号、平成27年度美浜町介護保険特別会計補正予算（第2号）を採決します。

本案に対する文教厚生常任委員長の報告は可決であります。本案は、委員長の報告のとおり決することに賛成の諸君の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

○議長（森川元晴君）

挙手全員であります。よって、本案は可決されました。

日程第6 議案第25号 平成27年度美浜町土地取得特別会計補正予算（第2号）から

議案第27号 平成27年度美浜町水道事業会計補正予算（第2号）まで3件一括

○議長（森川元晴君）

日程第6、議案第25号、平成27年度美浜町土地取得特別会計補正予算（第2号）から議案第27号、平成27年度美浜町水道事業会計補正予算（第2号）まで、以上3件を一括議題とします。

以上3件について、総務産業常任委員長の報告を求めます。

委員長、報告を願います。

〔総務産業常任委員長 杉浦剛君 登壇〕

○総務産業常任委員長（杉浦 剛君）

御報告いたします。

ただいま議題となりました議案第25号、平成27年度美浜町土地取得特別会計補正予算（第2号）から議案第27号、平成27年度美浜町水道事業会計補正予算（第2号）まで、以上3議案については、審査、採決の結果、3議案とも全員賛成により可決いたしました。

なお、審査の過程において次のような質疑がありましたので、御報告いたします。

議案第25号について、土地の売り払いに関してどういう処理をしたのかとの質疑があり、土地回収するとして先行取得した土地が今回回収でき、一般会計に買い戻した、売り払いの分を基金償還したという答弁がありました。

また、議案第27号について、補正は人件費の部分だけであったのかとの質疑があり、そのとおりですとの答弁がありました。

なお、他の議案については質疑はありませんでした。

また、3議案とも討論はありませんでした。

以上で報告を終わります。

〔降 壇〕

○議長（森川元晴君）

委員長の報告が終わりました。

これより順次、ただいまの委員長の報告に対する議事を進めます。

最初に、議案第25号について、委員長の報告に対する質疑に入ります。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森川元晴君）

質疑なしと認めます。これをもって質疑を終わります。

これより討論に入ります。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森川元晴君）

討論なしと認めます。これをもって討論を終わります。

これより議案第25号、平成27年度美浜町土地取得特別会計補正予算（第2号）を採決します。

本案に対する総務産業常任委員長の報告は可決であります。本案は、委員長の報告のとおり決することに賛成の諸君の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

○議長（森川元晴君）

挙手全員であります。よって、本案は可決されました。

次に、議案第26号について、委員長の報告に対する質疑に入ります。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森川元晴君）

質疑なしと認めます。これをもって質疑を終わります。

これより討論に入ります。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森川元晴君）

討論なしと認めます。これをもって討論を終わります。

これより議案第26号、平成27年度美浜町農業集落家庭排水処理施設特別会計補正予算（第2号）を採決します。

本案に対する総務産業常任委員長の報告は可決であります。本案は、委員長の報告のとおり決することに賛成の諸君の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

○議長（森川元晴君）

挙手全員であります。よって、本案は可決されました。

次に、議案第27号について、委員長の報告に対する質疑に入ります。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森川元晴君）

質疑なしと認めます。これをもって質疑を終わります。

これより討論に入ります。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森川元晴君）

討論なしと認めます。これをもって討論を終わります。

これより議案第27号、平成27年度美浜町水道事業会計補正予算（第2号）を採決します。

本案に対する総務産業常任委員長の報告は可決であります。本案は、委員長の報告のとおり決することに賛成の諸君の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

○議長（森川元晴君）

挙手全員であります。よって、本案は可決されました。

日程第7 議案第28号 平成28年度美浜町一般会計予算

○議長（森川元晴君）

日程第7、議案第28号、平成28年度美浜町一般会計予算を議題とします。

本案に関し、各担当常任委員長の報告を求めます。

最初に、総務産業常任委員長の報告を願います。

〔総務産業常任委員長 杉浦剛君 登壇〕

○総務産業常任委員長（杉浦 剛君）

御報告いたします。

ただいま議題となりました議案第28号、平成28年度美浜町一般会計予算のうち、当委員会に付託となりました部分については、審査、採決の結果、賛成多数により可決いたしました。

審査の過程において次のような質疑がありましたので、御報告いたします。

行政不服審査会のメンバーの構成はどのようになっているのか、また、仕事の内容はどの質疑があり、大学経験者、行政経験者、区長代表、女性の会または民生委員の女性の方というような構成でなっていると。役場が行った処分について不服がある場合、町に審査請求ができる。審査員は弁護士になってもらい、意見を聞き、まとめ、町長には第三者委員会を招集し、それに関し、答申を出すというふうになっているそうです。

次に、マイナンバーに関する維持管理は結構かかる、いろんな関連分野があるが、それはどういったものかとの質疑があり、運用テストをしていく経費または番号発行に係る住民保険課の経費などがあるとの答弁がありました。

また、ふるさと納税について確認したい、寄附金額の80%は控除されるのかとの質疑があり、納税をされる方の収入によっても変わるが、町民が1万円を他市町に寄附すると美浜町に納める8,000円分は控除される、本来の趣旨は美浜町を応援したい、地域を元気にしていこうというふるさと納税ができ上がった経過がある、平成28年度1月からはカード決済がなされる運用開始が始まり、昨年1月から3月まで1件の申し込みであったものが、ことしは既に26件、45万円の寄附をもらっている、これから各種団体と連携をとりながら特産品をふやしていきたいとの答弁がありました。

また、送迎バスについて、ことしは1台ふえるが路線の見直しなどはどうかとの質疑、また、有料化すると経費が上がると言われているがどれぐらい上がるのかという質疑があり、半年ぐらいかけて路線は見直していきたい、ただ見直すというふうではなく増便するという方法もある、有料化すると中型バスの経費2,000万円、または改造費2,000万円など多額の経費がかかり、バスが大きくなるので狭いところには入っていきにくく、または運転手費用もふえるので、もろもろ考えて有料化は現在考えていないとの答弁がありました。

また、合併浄化槽で平成28年度は商店、事務所も補助対象となるが、新しく商売を始める方、事務所など大変

な経費がかかるがどのぐらい予定しているのかとの質疑があり、これまでは5人、7人、10人槽だったが、ことは11人から20人を1基、21人から30人槽を2基、31人から50人槽を1基、51人槽以上を1基予定しているとの答弁がありました。

また、竹林がすごい勢いでふえているが、竹林整備費25万円の予算は1件当たり5万円になる、本気度が感じられないのではないか、現状はどうなのかという質疑があり、この竹林整備費は本人が申し込んでもらい、町が認め、実行するものであると。過去2年間やってきたが実績はゼロである、しかし3年間実施していきたいとの答弁がありました。

また、この件に関して、この助成金は使い勝手が悪いのではないかと質疑があり、今年度は基準の見直しなどを検討していきたい、PR不足もあると思うので、さまざまな機会を通してPRしていきたいとの答弁がありました。

また、アサリの放流事業300万円とはどういう内容か、またアサリが2年育っていないが今後の対策はどうなっているかとの質疑があり、野間漁協が実施する事業の600万円のうちの半分の助成である、東海岸はカイヤドリグモがおり、放流はできなくなっている、これぞという抜本的な対策はないが、美浜町の重要な産業であるので、復活を望み助成をしていると。愛知県としても調査費を計上し取り組もうとしているとの答弁がありました。

また、観光協会関係について、650万円が活動費なのか、そして、独立する前との増減はどうか、活動費はこれでよいのかとの質疑があり、事務所代、人件費、車の経費など1,600万円ついている、650万円は商工観光課でやっていたころと変わらない、しかし現在は幅広く活動してもらっており、平成27年度9月議会において300万円の補正をつけたりして実質ふえている、将来観光協会に先導役を担っていただくよう予算も重点的につけるようにこれからも話し合っていきたいとの答弁がありました。

なお、討論はありませんでした。

以上で報告を終わります。

〔降壇〕

○議長（森川元晴君）

次に、文教厚生常任委員長の報告を願います。

〔文教厚生常任委員長 丸田博雅君 登壇〕

○文教厚生常任委員長（丸田博雅君）

御報告をいたします。

ただいま議題となりました議案第28号、平成28年度美浜町一般会計予算のうち、当委員会に付託となりました部分については、審査、採決の結果、賛成多数により可決をいたしました。

なお、審査の過程で次のような質疑がありましたので、御報告をいたします。

まず、歳出で款ごとに御報告いたします。

3款民生費、まず認定こども園施設整備事業補助金、また保育所等整備事業補助金はどこに使われるのかの質疑があり、大和幼稚園の補助金との答弁がありました。

次に、保育所施設維持修繕工事の内容はとの質疑に、河和北、河和南部、上野間、各保育所で空調機器、雨漏り等の修繕費であるとの答弁でありました。

また、特定教育保育施設給付事業とはの質疑に、平成28年度より大和幼稚園が保育部を新たに実施し、その施設型給付であるとの答弁でありました。

また、障害区分認定審査会委員の内容はに対し、障害者手帳に基づいて区分を審査する、委員は専門医師、薬

剤師、専門保健師、社会福祉職員であるとの答弁でした。

次に、地域活動支援センター事業委託料については、美浜南知多共同事業で半田保健所美浜分室にて地域活動認定のかもめが行っている事業であるとの答弁がありました。

また、地域生活支援事業の中の相談支援事業とはの質疑に対し、障害者に対し相談支援、現在2市3町、半田、常滑、美浜、武豊、南知多で行っているNPO法人ゆめじろうと武豊わっぱるが行っているとの答弁がありました。

また、敬老事業実施補助金についてを説明との質疑に、昨年までのように町から一律の記念品は配布しません、1人1,500円から1,700円にして対象者数にて実施する、実施していない地区、野間ですが、については何らかを考えたとの答弁でありました。

次に、4款衛生費につきましては最初に高齢者インフルエンザ予防接種は何人分かとの質疑に、一般3,400人、低所得者200人を予定しているとのことでした。

また、予防接種、これは子宮頸がん、ヒブ、肺炎球菌ワクチンの説明をしてくださいに対し、子宮頸がんは小学6年生から高校1年生の女子、インフルエンザ菌のヒブに対しては5歳未満、2歳から4歳児、肺炎球菌ワクチンにしましては小児であり零歳から1歳、これは3回を予定しておるとのことです。

また、高齢者肺炎球菌ワクチン接種について説明をに対し、1回のみで550人を予定しているとの答弁がありました。

10款教育費につきましては、まず、あいち・出会いと体験の道場推進事業の中で自衛隊体験はいかなものかの質疑に、県からの紹介の事業所であり、各事業所については自衛隊を含め生徒や保護者に選択権があり、学校側は決して強要強制などはしていないとの答弁がありました。

また、国際交流事業の臨時職員とは、また、特別旅費の内容について説明をについて、臨時職員は英語の翻訳など1名、特別旅費の7名分、これは先生が3名、役場職員が4名であるとの回答でございました。

次に、中学校電子教科書の予定はとの質疑に、教科書改訂により英語を予定しているとの答弁でありました。

次に、文化財保護事業の水野屋敷の管理運営などはどうなっているのかとの質疑に、約40万円の維持管理費で行っている、使用料は1時間300円、26年度は37件537人の利用があった、生涯学習課が担当している、ただし、水野屋敷は町指定文化財ではないとの答弁でした。

次に、公民館改修工事はどこで、内容は何かの質疑に、奥田公民館のトイレの改修工事600万円、上野間公民館のエアコン70万円であるとの答弁でありました。

また、児童生徒競技大会派遣費補助の内容はについて、選手の派遣の経費、これは公式試合のみであります、経費のみである、またユニフォームは廃品回収等の利益から補助、ジャージにつきましては保護者負担との答弁でした。

次に、第2町民グラウンドフェンス工事についての説明をしてくださいとの質疑に、隣接地の太陽光施設保護のためフェンスを少し高くし、ボール等が飛び越さないようにするためであるとの答弁でした。

また、図書館改修工事は何か、それから町スポーツ少年団補助金の内容との質疑に、図書館改修工事はエアコンであり、また、町スポーツ少年団は19団体、均等割、人数割で補助しているとの答弁でした。

次に、通級指導教室について事業内容を説明との質疑に、情緒障害児の対応として、東は河和小、西は野間小学校に各指導員を置いて、各小学校に出向き指導しているとの答弁でした。

また、文化祭、芸能祭負担金、町文化協会補助金を説明願いたいとの質疑に、文化祭、芸能祭は町主催、これは秋に行われます文化祭、芸能祭ですが、これは町主催、それから春に行われます文化協会は文化協会事業であ

るとの答弁でございました。

次に、小学校英語教育の内容と、なぜモデル校が布土小かとの質疑に、現在、5、6年生が週1時間、英語学習をしている。布土小をモデル校として全学年で実施をする、布土小学校につきましては英語教師が2名おり、まずモデル校として条件がよいからであるとの答弁でありました。

次に、歳入全般につきまして、自由契約時保育所使用料について無料化はないのかとの質疑に、保育料で実施時と契約時の国の対応補助の違いがあり、無料化は町には大きな負担になる、したがって現在無料化は難しいと考えているとの答弁でした。

なお、討論はありませんでした。

以上で報告を終わります。

〔降壇〕

○議長（森川元晴君）

各担当常任委員長の報告が終わりました。

これより、ただいまの各担当常任委員長の報告に対する質疑に入ります。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森川元晴君）

質疑なしと認めます。これをもって質疑を終わります。

これより討論に入ります。討論はありませんか。

最初に、まず反対討論からお願いいたします。7番 山本君。

○7番（山本辰見君）

7番 山本辰見です。私は、日本共産党議員団を代表してただいまの議案第28号、平成28年度美浜町一般会計予算に反対の立場で討論します。

まず最初に、一般会計にも、また特別会計にも計上されています消費税、美浜町の財政運営のみならず住民生活、町内の中小の企業活動にとっても大変大きな影響を及ぼしております。消費税は1989年4月に税率3%で導入され、97年には3%から5%に引き上げられ、また2014年には5%から8%に引き上げられ、安倍内閣は17年4月には10%への引き上げを画策しております。

消費税は導入時から、また5%への引き上げの際にも高齢化社会を迎えるためとか、社会保障に充当しますとの大宣伝のもとで導入されました。さらに8%、今後の10%の引き上げに際しても、税と社会保障の一体改革と呼号するのみで、年金、医療、介護など社会保障を切り下げる一方であります。

消費税が導入されて既に27年が経過しました。この間、健康保険の本人の医療費負担は1割から3割に引き上げられ、高齢年金の支給開始年齢も60歳から65歳におくられました。また、介護保険の分野では、保険料はスタート時の現在では2倍となった負担に加えて、利用料負担も2割にふやさされ、社会保障は充実どころか衰退の一途をたどりました。消費税は福祉のためということが真っ赤なうそであることがはっきりしました。

これまでの消費税の税収は延べで300兆円近くなりますが、同じ時期に大企業の法人資産税が大きく引き下げられ、ほぼ消費税の税収と同じような金額が法人税減税に使われました。安倍政権の3年間だけでも法人税の実効税率が37%から32.1%まで下がり、今度は新たに20%台まで法人税が引き下げられます。

このように、非常に危険な水準にある国の財政状況の中で、美浜町の予算に地方消費税交付金が3億円、歳入として計上されているとはいえ、美浜町一般会計予算、特別会計、水道事業会計合わせて1億2,000万円を超える負担をしております。

日本共産党は以前から消費税に頼らない別の道がありますという提言を示し、社会保障の充実、財政危機打開の道しるべを示しております。具体的中身で幾つか課題がありますので、指摘しておきます。

愛知県知多地方税滞納整理機構による滞納の税徴収について、これは町税徴収のノウハウを学ぶことを前提に始まった制度であります。そして本来なら1期3年で終わるところを2期まで延ばし、さらに継続しようとしております。ノウハウの取得ということであれば、これまでももちろん町でやっておったときも優秀な美浜町の職員です。とっくにこのノウハウの会得はできていますし、ほかでも指摘されたように、有無を言わずの納税の約束をさせるような状態をこのまま野放しにするわけにはいきません。これ以上の税滞納整理機構による徴税を引き延ばすことには反対であります。

大型公共事業団体などへの負担金についてであります。

リニア中央新幹線建設促進、名浜道路建設、東海環状道路建設などの負担金は、説明によりますと地域的な連携、美浜町にとっても有益だということで参加しているとのことでしたが、長年にわたるこういう姿勢が結果的には国と地方の財政悪化を招いていることは明白であります。この大型公共事業、大企業優遇へとつながる負担金は英断をもって勇気を持って廃止をすべきであります。

次に、社会保障と税番号制度システムに関係する予算が計上されております。この制度は、美浜町の住民にとって何ら利便性が伴う、いわゆるメリットとなる制度でもなければ急ぐ必要もありません。むしろ住民、国民の側からすれば、今からでも取りやめるべき制度ではないでしょうか。一定の国の補助金がつくとしても、町財政に占める維持管理費の負担は大きいものとなります。

福祉の分野でございます。

少子高齢化の中で子どもの数が激減しております。若い世代が子育てしやすい環境づくり、これが第一であります。そのためには、子育て支援策に本気で取り組まなければなりません。私どもから提案しておるように、例えば保育料や学校給食費の減免であります。兄弟や姉妹が同時入所の場合、全ての第2子は無料にすべきであります。

次に、老人福祉費の中の保養施設利用助成事業であります。いわゆる入浴券の補助で老人福祉センターを建設するかわりにとってつくられた制度であります。対象年齢を一気に引き上げて、60歳だったものが今や70歳になりました。無料での利用の枠が縮小されました。これはお年寄りの楽しみをどんどん削っていくものだと考えるところであります。

衛生の分野でございます。

かつてミニ人間ドックという制度があり、ほかにも人間ドックや住民健診がありました。今の特定健診より親切な制度であり、住民にとっては利用しやすい健診でありました。高齢になったことを全地域で本来なら喜び合う、こういう敬老事業、これらと関連しますが、町の責任において全区で実施できるようにしていくべきであります。

次は教育の分野になります。

いじめ、不登校の子どもの数が多くて、全国的な話題になっているように、そして命にかかわるような事件にならないように、子どもたちへの指導、細心の注意を払うことが大切であります。中学生になりますと、学生服やジャージ、ユニフォーム、かばんなど約7万円を超えるような経費が負担となって、大変であります。一部学校の中には補助もしているところもあるようですけれども、これを町が子どもたちを励ます、そういう意味から責任を持って補助支援をすべきではないでしょうか。

中学校2年生を対象に現在行われている県の事業、あいち・出会いと体験の道場、毎年、野間、河和、両中学

校の子どもたちが自衛隊へ体験入所していることは大変な問題であります。現在、自衛隊は南アフリカのスーダンへPKOとして、いわゆる出兵をしております。何も知らない子どもたちが選択の自由があるからといって体験させていいのでしょうか。70年前に日本は戦争に負けて、その大きな反省から学校の先生方は戦場に子どもたちを送らない、こういう固い決心をしました。この思いを酌んでいただき、この自衛隊体験入所はやめるべきであります。

既成市街地整備あるいは奥田駅前拠点整備など、調査段階の予算があります。大事な事業でありますけれども、私どもは無理のない事業として内容を職員とも相談しながらよく練り上げ、無駄を省き中身の濃い計画にしなければならぬと考えます。

以上、前進している事業も幾つかもちろんありますけれども、幾つかの課題で見直しを必要とする平成28年度予算について課題を指摘しまして、反対討論とさせていただきます。

以上です。

○議長（森川元晴君）

次に、賛成討論はありますか。14番 江元君。

○14番（江元梅彦君）

14番 江元です。議案第28号、平成28年度美浜町一般会計予算に賛成の立場で討論をいたします。

新しく町長となられた神谷町長の実質的なスタートの予算ということで、編成に当たってはいろいろ御苦労されたことと思っております。

神谷町長は施政方針でも述べられましたように、就任以来、住民の皆様に喜んでいただき、活力に満ち、安心、安全に暮らしていける町にするため、鋭意努力されたと思っております。

中でも公共下水道事業の中止、また総合公園グランド拡張整備計画を必要最小限にとどめることにしたことは、選挙で町民に訴えられた公約でもあり、大いに評価できるものでございます。

さて、美浜町の財政の現状でございますが、地価の下落、景気の低迷、人口減少等、依然として非常に厳しい実情にさらされております。

しかし、厳しい状況ながらも財政の健全運用を基本理念としながら、新年度予算案では第5次美浜町総合計画の基本構想である「ひと・まち・自然、健康に輝くまち みはま」の実現に向けて、限られた予算の中、数々課題に対しバランスよく予算が確保されており、日ごとに多様化する住民の要望にも応え、実施に向けての適切な予算であると評価をいたします。

まず、少子化、人口減少問題として利用児童の増加が見込まれることから、河和小学校内に開設している放課後児童クラブの増設整備を行うこと、また、保護者が就労している家庭に対し児童に教育を受けさせる場として新たに認定こども園を整備するための補助を行うこと、さらには保育所園児の熱中症対策として保育室にエアコンを設置し、保育環境の充実を図るなど、住民の方々が安心して子育てできる環境が整備をされます。

地域の活性化問題についてでございます。奥田駅前を西部地区の核となる市街地とするための拠点整備事業調査を実施すること、町の主要産業である農業、水産業の活性化につながる畜産クラスター事業への補助、のり養殖場の環境改善を図る事業に対する補助、さらには地域ブランド商品の調査、研究、開発や情報発信に取り組むための産業活性化推進費補助などが盛り込まれ、活性化促進への施政がうかがい知れるところでございます。

合併処理浄化槽普及整備事業についてでございます。

3月10日の中日新聞にも大きく報道されましたように、このことにつきましては神谷町長の一丁目一番地の政策であります。これまでの専用住宅、店舗併用住宅への補助に加えて、商店や事業所、集合住宅に対しても補助

対象として設置者の費用軽減を図り、合併処理浄化槽への転換を推進するものであり、補助を拡大したことにより新たな事業所、商店などの本町への誘致を推し進めることができ、町の活性化が期待できる施策であると評価をいたします。

また、従来の個人設置型から市町村設置型への転換が可能かどうか、PFIの導入も視野に入れた検討がなされるとのことで、町民の費用負担の軽減、町財政の健全な運営が大いに期待されるところでございます。

また、町民の方々が安心して暮らしていただくための事業として、地域の医療の充実、安定した救急医療体制の確保等を図るために、本町の公的病院に位置づけられている知多厚生病院への運営費補助を新たに行うこととしております。この補助に係る経費は国の特別交付税により財政的措置がなされる制度を活用するものであり、適切な財政計画のもとに行われるものと判断をいたしております。

美浜町の厳しい財政状況の中ではありますが、町民の皆様が安心して医療が受けられるように、補助しようとするものであり、町民各位へのサービスに徹し、安心、安全の明るい行政を念願する姿勢に敬意を表するものでございます。

防災計画につきましても防火水槽の新設、修繕計画に基づく橋梁耐震化、長寿命化修繕工事、地域の道路網の安全性と信頼性を維持するための道路舗装など、住民が安心して生活できるための予算が盛り込まれております。

ほかに、小学校の英語教育の必修化に伴うモデル事業として布土小学校の全学年で新たに行われる英語教育、また、小中学校の児童生徒による国際交流ホームステイ事業も引き続き行われることなど、次の地域社会を支える人づくりを行っていく姿勢は評価すべきものであります。

新年度一般会計予算は総額77億3,300万円と、平成27年度に比べ9.8%の増となっておりますが、これは国からの全額補助される畜産クラスター事業補助金を初め認定こども園施設整備事業補助金等の実施が主な要因であり、町税、地方交付税等につきましては昨年までの決算実績等に基づき勘案し、計上されたことにより、町の貯金である財政調整基金からの繰り入れが2億3,972万円と平成27年度に比べ58.0%の大幅な減となっております、健全な予算であると判断をいたします。

なお、本予算には神谷町長が目指しておられる美浜の里構想についての経費として、防災対策として実施する上野間配水池から町総合公園への連絡管整備に要する設計業務計画が計上されております。

美浜の里構想の全体計画については、コンサル業者等に委託するものではなく、町の若い職員によるプロジェクトチームを立ち上げ、検討していくということであります。この壮大な構想は民間、すなわち町民の理解、協力も不可欠であると思っております。また、その活力、協力を得るためには余りに時間がたつては難しくなるとも思われます。美浜町や町民にとって本当に魅力のあるものになるように、若い職員はもちろんでありますが、美浜町の全職員の英知を結集され、構想を練り上げ、一気呵成になし遂げる気概を持って不断の努力がなされることを切に願うものであります。

また、平成27年度は地方創生元年であり、本町でも美浜町まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定し、本町の特色や地域資源を生かした施策を展開することにより、人口減少と地域経済縮小の克服を目指していくものと理解をしております。

したがいまして、神谷町長にはぜひともこの総合戦略を達成するための施策を着実に堅実に実行されることを強く願うものでございます。

最後に、町政を取り巻く環境は大変厳しい状況ではありますが、神谷町長のまちづくりのスローガンであります「明るく・健康で・笑顔の絶えないまち美浜」の実現に向け、達成すべく各種施策を展開し、支え合いと活気に満ちた協働による持続可能なまちづくりの推進に鋭意努力されることを期待して私の賛成討論といたします。

○議長（森川元晴君）

次に、反対討論はありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森川元晴君）

では、次に賛成討論はありますか。9番 野田増男君。

○9番（野田増男君）

議案第28号、平成28年度美浜町一般会計予算案について、創世会として賛成の立場で討論いたします。

神谷町長にとって初めての予算編成であり、大変苦勞されたと思います。町に人を呼び込むため、保健、医療、福祉対策や生活関連施設の整備、地元産業への活性化など地域を挙げて取り組んでいくためには国、県においての人的支援、財政的支援が必要不可欠であり、美浜町の将来が左右されるのは確実であります。

国においては平成26年12月にまち・ひと・しごと創生総合戦略が策定され、地域創生に向けた具体的な取り組みを検討し、人口減少の克服と地方創生に向け2060年に1億人程度の人口を確保する長期ビジョンと今後5カ年の政策目標、施策を作成する総合戦略を策定されました。

また、昨年6月30日にはまち・ひと・しごと創生基本方針2015が閣議決定され、本格的に我が町も地方創生版総合戦略美浜町まち・ひと・しごと創生総合戦略2015、美浜町人口ビジョン2015を策定され、平成26年度補正予算で措置され、地方創生先行型交付金の活用が始まり、平成27年9月の補正予算上乗せ交付金を利用した地方産業の活性化、観光振興における観光協会の独立やインバウンド対策事業、子育て支援事業としてファミリーサポートセンター事業等も今年度中に終了し、成果が問われる中、28年は加速化交付金の活用、また地方創生推進交付金として新型交付金の使い方も期待しています。

そこで、28年度当初予算については各面に均衡のとれた予算になっていると思います。特に奥田駅前拠点整備事業においては、美浜町の将来がかかった事業であり、評価するものであります。

次に、本町の基幹産業である農業については、新規就農総合支援事業、漁業については漁業漁場改良事業、放流種苗育成事業、28年度も西海岸では潮干狩りは中止になりましたが、来年度に向けた予算が計上されています。

子育て支援事業に関しましては、認定こども園設備事業、保育所空調機設置事業など、安心して子育てができる環境も充実されています。

また、防災対策についても防火水槽の新設、体育館天井落下防止事業、災害時には避難場所として重要な役割があり、住民が安心して生活できる予算が盛り込まれています。また、おいおいと全学校の体育館天井落下防止も要望していきます。

空き家対策については、危険空き家対策に対する措置や空き家の活用など予算計上されており、評価するものであります。必要なところに必要な予算が計上されており、本予算は評価のできる予算であると考え、賛成の立場で討論いたします。

以上です。

○議長（森川元晴君）

ほかに討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森川元晴君）

これをもって討論を終わります。

これより議案第28号、平成28年度美浜町一般会計予算を採決します。

本案に対する各担当常任委員長の報告は可決であります。本案は、各担当常任委員長の報告のとおり決することに賛成の諸君の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

○議長（森川元晴君）

挙手多数であります。よって、本案は可決されました。

ここで休憩としたいと思います。再開を10時50分をお願いいたします。

〔午前10時30分 休憩〕

〔午前10時50分 再開〕

○議長（森川元晴君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

ここで文教厚生常任委員長さんのほうから訂正がありますので、よろしくをお願いいたします。

○文教厚生常任委員長（丸田博雅君）

先ほど一般会計予算の中で、歳出、10款の教育費の中でありますが、私のちょっと聞き取りがまずかったせいで、一部訂正をお願いしたいと思います。

問いの中で、通級指導教室についての授業内容で、答弁のほうで、私は情緒障害児の対応というふうで報告させていただいたんですが、だけではないと、軽度発達障害のある児童もということでもありますので、軽度発達障害児の対応等ということで訂正をお願いしたいと思います。

以上です。

日程第8 議案第29号 平成28年度美浜町国民健康保険特別会計予算から

議案第31号 平成28年度美浜町介護保険特別会計予算まで3件一括

○議長（森川元晴君）

それでは、日程第8、議案第29号、平成28年度美浜町国民健康保険特別会計予算から議案第31号、平成28年度美浜町介護保険特別会計予算まで、以上3件を一括議題とします。

以上3件について、文教厚生常任委員長の報告を求めます。

委員長、報告をお願いします。

〔文教厚生常任委員長 丸田博雅君 登壇〕

○文教厚生常任委員長（丸田博雅君）

それでは、御報告をいたします。

ただいま議題となりました議案第29号、平成28年度美浜町国民健康保険特別会計予算から議案第31号、平成28年度美浜町介護保険特別会計予算まで、以上3議案について、審査、採決の結果、議案第29号は全員賛成により可決、議案第30号及び議案第31号は賛成多数により可決をいたしました。

なお、審査の過程で次のような質疑がありましたので、御報告いたします。

議案第29号において、国保の今後の予算展開はとの質疑があり、平成26年度の決算において9,600万円の赤字、今後、平成30年度財政運営は愛知県にて一本化により、税率改正はあり得るとの答弁がありました。

なお、ほかの議案については質疑はありませんでした。

また、3議案とも討論はありませんでした。

以上、報告を終わります。

[降壇]

○議長（森川元晴君）

文教厚生常任委員長の報告が終わりました。

これより順次、ただいまの委員長の報告に対する議事を進めます。

最初に、議案第29号について、委員長の報告に対する質疑はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（森川元晴君）

質疑なしと認めます。これをもって質疑を終わります。

これより討論に入ります。討論はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（森川元晴君）

討論なしと認めます。これをもって討論を終わります。

これより議案第29号、平成28年度美浜町国民健康保険特別会計予算を採決します。

本案に対する文教厚生常任委員長の報告は可決であります。本案は、委員長の報告のとおり決することに賛成の諸君の挙手を求めます。

[賛成者挙手]

○議長（森川元晴君）

挙手全員であります。よって、本案は可決されました。

次に、議案第30号について、委員長の報告に対する質疑に入ります。質疑はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（森川元晴君）

質疑なしと認めます。これをもって質疑を終わります。

これより討論に入ります。討論はありませんか。

まず、反対討論。

[「反対討論ですか」と呼ぶ者あり]

○議長（森川元晴君）

じゃ、8番 鈴木美代子君。

○8番（鈴木美代子君）

平成28年度美浜町後期高齢者医療特別会計予算に反対の立場で討論いたします。

何のために高齢者を前期と後期に分けるのかといえば、後期高齢者には、現役世代とは違う差別医療を導入することなど、当時の厚生労働大臣みずからこのことをうば捨て山と称したものです。

この間たくさんの後期高齢者医療を払ってきたよ、奥さんの分も合わせると大変だよ、これも割高だよなど友人がぼつりと話しました。夫婦そろって健在はうれしいことなのに、2人分の負担、別々に払わなければならない、これは割高です。今まで国民健康保険は、一世帯単位で払えたのにと友人もつけ加えました。

また、年金が1月1万5,000円あれば口座から引き落とし、また、1万5,000円ない人は、普通徴収として、滞納すれば保険証を取り上げ、資格証明書を発行するとしています。

美浜町では、2014年度75歳以上の被保険者数3,116人のうち滞納者が8人いて、短期保険証を6人に発行しています。この制度は、国の医療費抑制が目的の中で生まれた制度であり、長寿を喜ぶ制度ではありません。国民

年金の受け取り額が1月4万9,000円と大変少なく、この保険料が高齢者の大きな負担となっていることは言うまでもありません。

国では、2017年度から段階的に後期高齢者医療の低所得者の保険料の特別軽減を廃止することを計画しています。長年苦勞してきたお年寄りをこれ以上苦しめるわけにはいきません。お年寄りが安心して老後を暮らしている、安心して医者にかかれる制度に改善することを強く求めて終わります。

○議長（森川元晴君）

ほかに討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森川元晴君）

これをもって討論を終わります。

これより議案第30号、平成28年度美浜町後期高齢者医療特別会計予算を採決します。

本案に対する文教厚生常任委員長の報告は可決であります。本案は、委員長の報告のとおり決することに賛成の諸君の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

○議長（森川元晴君）

挙手多数であります。よって、本案は可決されました。

次に、議案第31号について、委員長の報告に対する質疑に入ります。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森川元晴君）

質疑なしと認めます。これをもって質疑を終わります。

これより討論に入ります。討論はありませんか。

まず、最初に反対討論。

○8番（鈴木美代子君）

平成28年度美浜町介護保険特別会計予算に対して反対の立場で討論いたします。

介護保険が導入されて15年たちましたが、要介護高齢者をめぐる状況は決して安心できるものとはなっていません。

先日、ひとり暮らしのお年寄りを訪問しました。この2カ月前に御主人を亡くしたばかりで、今にも倒れそうなふらふらでした。このようなひとり暮らしのお年寄りをどこまで介護保険で把握しているのか、孤独死の可能性もあると思いますが、ひとり暮らしのお年寄りをきちんと把握しているのか、介護保険で孤独死の心配があるお年寄りを守ることができるのか、非常に心配しています。

介護保険制度を改悪によって要支援1、2のホームヘルプサービス、これは介護予防訪問介護です。デイサービス、介護予防通所介護は、地域支援事業に移行することになっていますが、その上これらのサービスの提供主体を現行の介護保険事業者から住民ボランティア、無資格者によるサービスに置きかえて、コストの大幅な削減を図ろうとしています。また、施設入所は、要介護3以上でなければ入所できません。

この制度改定によって、2015年8月から低所得の施設利用者の居住費、食費の補助、これを補足給付と言いますが、対象要件を厳しくします。

介護保険は、家族の介護負担は依然として重く、家族の介護のために仕事をやめる介護退職は、毎年10万人以上に上っています。悲しい介護心中、介護殺人も毎週のようにどこかで起きております。

介護保険料もスタート時2,500円だったのが、第6期では5,100円と2倍以上にはね上がりました。スタートしたとき、日本共産党は、保険料は青天井で引き上げられると指摘をしましたが、そのとおりとなっております。

介護保険成立以前は、老人福祉の国の補助負担はおおよそ5割でしたが、介護保険導入後は25%に減額しています。そのため、介護保険は国庫負担を引き上げなければ改善されません。つまり、介護保険料は、国と市町村の負担がふえない限り、保険料の上る仕組みになっているのです。3年ごとの改定により、際限なく高くなります。

最後に、美浜町独自の低所得者保険料、利用料の減免制度をぜひ設けてほしいと強く求めるものであります。以上で終わります。

○議長（森川元晴君）

ほかに討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森川元晴君）

これをもって討論を終わります。

これより議案第31号、平成28年度美浜町介護保険特別会計予算を採決します。

本案に対する文教厚生常任委員長の報告は可決であります。本案は、委員長の報告のとおり決することに賛成の諸君の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

○議長（森川元晴君）

挙手多数であります。よって、本案は可決されました。

日程第9 議案第32号 平成28年度美浜町土地取得特別会計予算から
議案第34号 平成28年度美浜町水道事業会計予算まで3件一括

○議長（森川元晴君）

日程第9、議案第32号、平成28年度美浜町土地取得特別会計予算から議案第34号、平成28年度美浜町水道事業会計予算まで、以上3件を一括議題とします。

以上3件について、総務産業常任委員長の報告を求めます。

委員長、報告をお願いします。

〔総務産業常任委員長 杉浦剛君 登壇〕

○総務産業常任委員長（杉浦 剛君）

御報告いたします。

ただいま議題となりました議案第32号、平成28年度美浜町土地取得特別会計予算から議案第34号、平成28年度美浜町水道事業会計まで、以上3議案については、審査、採決の結果、3議案とも全員賛成により可決しました。

なお、審査の過程において次のような質疑がありましたので、御報告いたします。

議案第34号、水道会計において、メイン管の耐震工事はどれほどの進捗か、また、これからの工事はどれほどの予定かとの質疑に対し、現在河和配水池から農免道路に大きなパイ200以上の管の工事を行っている。2.5%の進捗率である。その他パイ100の管も行っている。また、予定としては、河和配水池から災害拠点となる西は野間小学校、東は厚生病院までを平成41年度までに終了予定しているとの答弁がありました。

また、耐震管と普通管はどう違うのかとの質疑に、継ぎ手のところが随分と違うそうです。大きな地震が起き

でも抜けない構造になっているとの答弁でした。

また、災害時など、どんなときにも水の出るような特殊な管を手配しているのかとの質疑に対し、現在は考えていないが、今後検討していきたいとの答弁でした。

なお、他の議案については質疑はありませんでした。

また、3議案とも討論はありませんでした。

以上で報告を終わります。

[降壇]

○議長（森川元晴君）

総務産業常任委員長の報告が終わりました。

これより順次、ただいまの委員長の報告に対する議事を進めます。

最初に、議案第32号について、委員長の報告に対する質疑はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（森川元晴君）

質疑なしと認めます。これをもって質疑を終わります。

これより討論に入ります。討論はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（森川元晴君）

討論なしと認めます。これをもって討論を終わります。

これより議案第32号、平成28年度美浜町土地取得特別会計予算を採決します。

本案に対する総務産業常任委員長の報告は可決であります。本案は、委員長の報告のとおり決することに賛成の諸君の挙手を求めます。

[賛成者挙手]

○議長（森川元晴君）

挙手全員であります。よって、本案は可決されました。

次に、議案第33号について、委員長の報告に対する質疑に入ります。質疑はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（森川元晴君）

質疑なしと認めます。これをもって質疑を終わります。

これより討論に入ります。討論はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（森川元晴君）

討論なしと認めます。これをもって討論を終わります。

これより議案第33号、平成28年度美浜町農業集落家庭排水処理施設特別会計予算を採決します。

本案に対する総務産業常任委員長の報告は可決であります。本案は、委員長の報告のとおり決することに賛成の諸君の挙手を求めます。

[賛成者挙手]

○議長（森川元晴君）

挙手全員であります。よって、本案は可決されました。

次に、議案第34号について、委員長の報告に対する質疑に入ります。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森川元晴君）

質疑なしと認めます。これをもって質疑を終わります。

これより討論に入ります。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森川元晴君）

討論なしと認めます。これをもって討論を終わります。

これより議案第34号、平成28年度美浜町水道事業会計予算を採決します。

本案に対する総務産業常任委員長の報告は可決であります。本案は、委員長の報告のとおり決することに賛成の諸君の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

○議長（森川元晴君）

挙手全員であります。よって、本案は可決されました。

日程第10 発議第1号 子どもの医療費助成制度の創設を求める意見書についてから

発議第2号 国民健康保険の国庫負担減額調整措置の廃止を求める意見書についてまで2件一括

○議長（森川元晴君）

日程第10、発議第1号、子どもの医療費助成制度の創設を求める意見書についてから発議第2号、国民健康保険の国庫負担減額調整措置の廃止を求める意見書についてまで、以上2件を議題とします。

以上2件について、これより順次議事を進めます。

最初に、発議第1号について、これより討論に入ります。討論はありませんか。

まず、最初に反対討論からお願いします。

○1番（横田貴次君）

発議第1号、子どもの医療費助成制度の創設を求める意見書について反対の立場で討論をさせていただきます。

本議案上程時に質問させていただきました。今、現在、美浜町が行っている中学生までの医療費を補助する。また、国に創設を求める内容につきまして、最低限小学生までなのか、中学生までなのか、はたまた高校生を含むのかという質問に対しても明確な答弁をいただけませんでした。

基本的に、子どもの医療費助成制度に対する、私趣旨は賛同できますが、一議員としてこれを、意見書、美浜町議会として発することに反対をさせていただきます。

この各市町村から提出された意見書というものは、国のほうで衆参両議院、広報によって各委員会のほうへ通達がいくということを学びました。公益社団法人日本青年会議所の副会長として、1年東京にて活動させていただく中で、自分たちの事業の内容に関して、関係委員会に行きまして、全国の意見書を拝見する機会がございました。

この意見書、最後に書いてある愛知県知多郡美浜町議会という文言をとると、どこから出ている意見書なのか全くわかりません。こういった情報をつかむ側の立場からしてみると、愛知県知多郡美浜町という町では、今現在中学生までの医療費の補助を町負担でやっていると、引き続き国に対して、中学生までの医療費の補助を要望する、そのような意見書というのが非常に少なく、全国の声を知ろうと思う立場の一人として、大変無力さを

感じた次第でございます。

一議員としてこの趣旨には賛同するものの、もってこの意見書に関しては、美浜町が取り組む内容もきっちり記載をし、国に何を望むのかという細かいところまで記載するべきだと思い、反対にて答弁をさせていただきました。

以上です。

○議長（森川元晴君）

次に、賛成討論はありませんか。

○7番（山本辰見君）

私は、ただいま議題となっております発議第1号、子どもの医療費助成制度の創設を求める意見書について賛成の立場から討論します。

子どもの医療費窓口負担の拡充を求める切実な声が全国に広がっております。本来ならば国が支えるべき制度でなければならぬのに、国民、住民の世論と運動によって、全国全ての自治体が独自の努力で無料化や軽減策を行ってきていますが、国の制度としてはいまだに実現できていません。

貧困と格差が大問題となる中、お金の心配がなく、子どもが医療機関にかかれて、こういう制度の拡充が今ほど急がれるときはありません。国はこれまでの姿勢を改めて、子どもの医療費助成制度の拡充へ責任を果たすべきであります。

昨年12月に1回目の会合があったようですが、続いて1月27日に厚生労働省の中で子どもの医療費制度のあり方に関する検討会というのが開かれ、全国知事会、あるいは全国町村会など地方3団体の代表などが意見陳述しました。国による子ども医療費助成制度の創設を要望し、あわせて、次の議題となっております発議第2号に関する国庫負担減額についても国が進める少子化対策と逆行するとして、廃止を求めました。

この検討会での主な意見として、地方単独事業として実施している医療費助成制度の現状を踏まえ、国を挙げた制度化が必要だと。また、医療費が多少増加する、そういう意見もありますが、少子化対策上からは許容範囲だと。また、自治体間が、それぞれが競争するような内容ではないはずだと。これはこの3団体の代表の方の意見でございますけれども、せめて小学校入学前までは全国一律の条件でなければならないということを行いました。

このように全国知事会などの執行3団体と合わせて、議会の3団体であります全国都道府県議会議長会、全国市議会議長会、そして、当町の森川議長も参加されています全国町村議会議長会からも同様の意見が表明されているとお聞きしております。

国全体の大きな課題であります少子化対策の大きな柱として、この子どもの医療費助成制度の課題を、単に医療保険制度の改善としてだけではなくて、子ども・子育ての支援給付としての医療費助成制度の創設を検討することも必要だと考えます。

子どもの医療助成制度の創設を求める地方からの意見を国へ届けるために、ぜひとも同僚議員の皆さんの賛同をお願い申し上げます、私の賛成討論といたします。

○議長（森川元晴君）

ほかに討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森川元晴君）

これをもって討論を終わります。

これより発議第1号、子どもの医療費助成制度の創設を求める意見書についてを採決します。

本案に賛成の諸君の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

○議長（森川元晴君）

挙手多数であります。よって、本案は可決されました。

次に、発議第2号について、これより討論に入ります。討論はありませんか。

まず、最初に反対討論。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森川元晴君）

次に、賛成討論。

○7番（山本辰見君）

私は、ただいま議題となりました発議第2号、国民健康保険の国庫負担減額調整措置の廃止を求める意見書に賛成の立場から討論します。

子どもの医療費窓口負担の拡充を求める切実な声、先ほどの課題と同じように全国的に広がっております。国民の世論と運動によって、全国全ての自治体が独自の努力で無料化、あるいは軽減策を行っておりますけれども、国の制度としてはいまだに実現できておりません。それどころか国は、無料化を実施している自治体への国庫補助金を減らす、いわゆる罰則まで課しております。これが意見書にあります国民健康保険の国庫負担減額調整措置ということでもあります。

貧困と格差が大問題になる中、お金の心配がなく子どもが医療機関にかかる制度の拡充、これが急がれております。国はこれまでの姿勢を改めて、子どもの医療費助成制度の拡充へ責任を果たすべきであります。

子どもが医療機関を受診した場合、現在の公的医療保険の仕組みでは、かかった医療費の3割、小学校入学前は2割となっておりますけれども、これを患者家族が負担することになっております。

子どもさんが病気やけがをしたときに、お金を気にしなければならないほど家族にとってつらいことはありません。とりわけ病気にかかりやすい乳幼児がいる家庭、あるいはぜんそくやアトピーなど通院の回数の多い子どもがいる家庭にとっては医療費負担が大きなものとなっております。

今、日本の子どもの貧困率が過去最悪を更新し、統計によりますと6人に1人の子どもが貧困状態に置かれている、こういうことになっております。経済的な理由により必要な治療が受けられず、健康をむしばまれる子どもの深刻な問題が各地で生まれておりますし、命にかかわる事態であります。

この子どもの医療費無料化、軽減策は、スタート当初は、乳児医療費無料化制度として運動が始まりました。父母の皆さんや医療関係者の方々の長年にわたる住民運動、また、自治体の中での議員の論戦の力によって、今では全国全ての自治体を実施するところまで広がりました。ここ美浜町でも長年の取り組みにより、現在では入院、通院とも中学校卒業まで実施しております。しかし、この制度、自治体によっては、対象年齢が異なったり、あるいは所得制限が設けられていたりしております。窓口で支払わなくて済む自治体もあれば、一旦窓口負担をして、後日払い戻される、こういう自治体もあります。

各自治体で制度をさらに充実させることも、もちろん重要であります。厳しく問われるのは国の姿勢であります。子どもの医療費無料化の独自の努力をしている自治体に対して、国が行っている補助金減額という、いわゆる罰則、ペナルティーなどは論外であります。子どもの健康と家庭の負担軽減のために懸命に努力している自治体の足を引っ張る、この国の姿勢は余りにも異常であります。

昨年暮れから厚生労働省として始まった医療費助成制度のあり方の検討会では、報道によれば、3月にもということでしたけれども、もしくは遅くとも夏には結論をまとめることとなっているようです。子どもたちの健やかな成長を保障するため、この国民健康保険の国庫負担減額調整措置なる罰則を直ちに廃止させ、子どもの医療費無料化制度の拡充へ、世論と運動をさらに強めることが急がれます。美浜町議会からのこの意見書。ぜひ議員の皆さんの御賛同をお願い申し上げて、私の賛成討論とさせていただきます。ありがとうございました。

○議長（森川元晴君）

ほかに討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森川元晴君）

これをもって討論を終わります。

これより発議第2号、国民健康保険の国庫負担減額調整措置の廃止を求める意見書についてを採決します。

本案に賛成の諸君の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

○議長（森川元晴君）

挙手多数であります。よって、本案は可決されました。

日程第11 報告第2号 専決処分事項の報告についてから

議案第35号 平成27年度美浜町一般会計補正予算（第7号）まで4件一括

○議長（森川元晴君）

日程第11、報告第2号、専決処分事項の報告についてから議案第35号、平成27年度美浜町一般会計補正予算（第7号）まで、以上4件を一括議題とします。

以上4件について、提案理由の説明を求めます。

町長、説明をお願いします。

〔町長 神谷信行君 登壇〕

○町長（神谷信行君）

それでは、長時間の御審議お疲れの中とは存じますが、本日追加上程をいたしますのは、報告第2号、専決処分事項の報告についてを初め4件でございます。

早速、提案理由を御説明いたします。

初めに、報告第2号、専決処分事項の報告についてでございますが、去る2月13日午後5時30分ごろ、美浜町大字奥田字谷地内の町道3078号線において、本町在住の方が運転する普通自動車町道の側溝上を走行したところ、側溝のふたがはね上がり、車両右側フロントドアを破損する事故が発生いたしました。

この事故に関しまして、双方で話し合いを行ったところ、示談が成立し、損害賠償金として車両修理費の5割、6万3,477円を支払うことで協議が調いました。

よって、地方自治法第180条第1項の規定により、損害賠償の額及び和解について2月29日付で専決処分をいたしましたので、同条第2項の規定に基づき議会に御報告申し上げます。

次に、同意第2号、美浜町副町長の選任についてでございますが、現副町長の石川達男氏には、平成24年4月1日より1期4年間、副町長としてお務めいただきましたが、このたび任期満了となりますので、その後任として、現企画部長であります永田哲弥氏を副町長として選任いたしたく、地方自治法第162条の規定により議会の

同意を求めるものでございます。

永田氏は、お手元の資料のとおり、昭和50年に高校を卒業後、美浜町職員となりました。41年間の行政経験があり、その間には商工観光課長、農業水産課長、会計管理者、企画部長などを歴任し、行政全般に幅広く精通いたしており、副町長として適任と思っておりますので、御同意をいただきますようお願いを申し上げます。

次に、同意第3号、美浜町固定資産評価員の選任についてでございますが、評価員の石川達男氏より辞任届が提出されましたので、新たに永田哲弥氏を固定資産評価員に選任いたしたく、地方税法第404条第2項の規定により議会の同意を求めるものでございます。

次に、議案第35号、平成27年度美浜町一般会計補正予算（第7号）についてでございますが、第1条において歳入歳出それぞれ1万円を追加し、補正後の予算総額を72億9,728万6,000円とするものでございます。

歳出予算の内容でございますが、5款労働費、1項労働諸費、1目労働諸費において、わーくりい知多へのパートタイム労働者の加入増加に伴い、パートタイム労働者福祉対策事業補助金を増額計上するものでございます。なお、歳入不足となる分については、18款繰入金、財政調整基金繰入金を計上いたしました。

以上、慎重に御審議いただき、お認めくださるようお願い申し上げ、提案理由の説明を終わらせていただきます。

〔降壇〕

○議長（森川元晴君）

これをもって、提案理由の説明を終わります。

これより、ただいま議題となっております議案について順次議事を進めます。

ここで次の2件の議案は、人事にかかわる議案のため、企画部長 永田哲弥君の退場を求めます。

〔企画部長 永田哲弥君 退場〕

○議長（森川元晴君）

最初に、同意第2号、美浜町副町長の選任についてを議題とします。

これより質疑に入ります。質疑はありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森川元晴君）

質疑なしと認めます。これをもって質疑を終わります。

お諮りします。本案は委員会付託を省略したいと思います。これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森川元晴君）

御異議なしと認めます。よって、本案は委員会付託を省略することに決しました。

これより討論に入ります。討論はありますか。最初に、反対討論。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森川元晴君）

次に、賛成討論。

○9番（野田増男君）

同意第2号、美浜町副町長の選任について、創世会を代表して、賛成の立場で討論します。

我が町も少子高齢化、人口減少、地域産業の活性化など、いろいろな課題、難題を抱えております。神谷町長を中心に、今後町職員の皆さんが一体となって行財政、難題に取り組む中、現職であり、現在の美浜町を一番把

握している永田現企画部長は適任であり、大変期待するものであります。

神谷町長にとりましても、大変心強い存在になることを願い、賛成討論とさせていただきます。

以上です。

○議長（森川元晴君）

ほかに討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森川元晴君）

これをもって討論を終わります。

これより同意第2号、美浜町副町長の選任についてを採決します。

本案は同意することに賛成の諸君の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

○議長（森川元晴君）

挙手全員であります。よって、本案は同意することに決しました。

次に、同意第3号、美浜町固定資産評価員の選任についてを議題とします。

これより質疑に入ります。質疑はありませんか。

○7番（山本辰見君）

この、いわゆるポストですけれども、副町長の新しい方が自動的になるような形でしょうか、それとも、いわゆる任命的にふさわしいという立場なのか、そういうことを少しお聞きします。

○総務部長（本多孝行君）

地方税法に固定資産評価委員という規定がございます。これにつきましては、評価委員を置くことができるということになっておりますが、うちの場合は、固定資産評価委員の設置条例というのはございませんけれども、ほかのところの条例等を見ます、また、うちのほうもそうですけれども、やはり固定資産、税制に知識のある方を選ぶということをうたっております。副町長、あるいは市であったら副市長にするという文言ではございません。多くはそういう知識のある方で、なおかつそういう、いわゆるうちでいうところの副町長の立場のある方の兼任、そういうことをすることは可能というふうに考えていただければと。専属のものではございません。

以上です。

○議長（森川元晴君）

ほかに。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森川元晴君）

これをもって質疑を終わります。

お諮りします。本案は委員会付託を省略したいと思います。これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森川元晴君）

御異議なしと認めます。よって、本案は委員会付託を省略することに決しました。

これより討論に入ります。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森川元晴君）

討論なしと認めます。これをもって討論を終わります。

これより同意第3号、美浜町固定資産評価委員の選任についてを採決します。

本案は同意することに賛成の諸君の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

○議長（森川元晴君）

挙手全員であります。よって、本案は同意することに決しました。

ここで永田哲弥君の入場を求めます。

〔企画部長 永田哲弥君 入場〕

○議長（森川元晴君）

ただいま副町長に専任同意されました永田哲弥君より御挨拶をお願いいたします。

〔企画部長 永田哲弥君 登壇〕

○企画部長（永田哲弥君）

本当に、皆様方には日ごろからお世話になっております。ただいま議長よりお話をというお言葉いただきましたので、少し高い席ではございますが、お礼をさせていただきます。

先ほどは、副町長の選任同意、御承諾いただきましてまことにありがとうございました。石川副町長におきましては、私ども職員の見本であり、職員をまとめていただきました。本当にありがとうございました。まだ少しお時間もございますので、さらなる御指導のほうをよろしくをお願いいたします。

さて、副町長の職務でございますが、私若輩者でございますので、少しでも早く石川副町長の後に続けるような人間になりたいと思っております。微力ではございますが、頑張っていきたいと思っておりますので、職員ともども神谷町長を支えて、美浜町の町の発展、住んでよかったと思えるようなまちづくりを目指して頑張っていきたいと思っておりますので、よろしくをお願いいたします。

議員の皆様におかれましては、引き続き御指導、御支援お願い申し上げまして、簡単ではございますが、私ども職員と一体になって美浜町のために頑張っていきたいと思っておりますので、生涯活躍のできる町を目指して、何とぞ御協力のほどお願い申し上げまして、簡単ではございますが、お礼の言葉とさせていただきます。本日はどうもありがとうございました。

〔降壇〕

○議長（森川元晴君）

ありがとうございました。今後ともよろしくをお願いいたします。

次に、議案第35号、平成27年度美浜町一般会計補正予算（第7号）を議題とします。

これより質疑に入ります。質疑はありますか。

○7番（山本辰見君）

もう少し背景について説明願えるのかなと思っていたので、歳出のこのパートタイムの福祉対策事業、この1万円を計上しなければならなかった背景というか、経過について説明願えるともうちょっと理解できると思っておりますので、よろしくをお願いします。

○商工観光課長（竹内康雄君）

それでは、今回の追加上程の背景について御説明申し上げます。

本予算につきましては、先ほど町長からも御説明を申し上げましたように、わーくりい知多に加入するパートタイムの皆様に対する会費の負担軽減、それを図るためと加入促進につなげようということでございます。

お一人当たり月1,000円の会費が必要となってまいりますけれども、雇用主と行政が300円ずつ補助をいたしまして、本人負担は400円ということでございます。今回は、当初予算に想定をいたしました人数をはるかに上回りました、ある意味非常にいいことではあるんですけれども、ちなみに、昨年、平成26年度に比べまして100人以上ふえております。100人と申しまして、毎月毎月の通算でございますので、トータルとして100人以上ふえてきたということでございます。

ちなみに当初予算では、年間1,800人を想定しておりましたが、今回、最終的に1,833名の方が御加入をいただいたということでございまして、先ほど申しましたように、お一人当たり300円の補助金を町から支出しております。300円掛ける33名ということで9,900円の不足を生じたわけでございます。これにつきましては、もっと早くこういう状況を把握し、追加上程というような形をとらないようにするべきではございましたけれども、3月に入ってから初めてこの数字が確定をしたということもございまして、まことに御迷惑をおかけして申しわけございません。

いずれにいたしましても、私どもとわーくりい知多の事務局がもっと連絡を密にして事前にこのような形ではなく、補正予算をということですべきでございましたけれども、何とぞ御理解を賜りたいと存じます。よろしくお願いいたします。

○議長（森川元晴君）

ほかに質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森川元晴君）

これをもって質疑を終わります。

お諮りします。本案は委員会付託を省略したいと思います。これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森川元晴君）

御異議なしと認めます。よって、本案は委員会付託を省略することに決しました。

これより討論に入ります。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森川元晴君）

討論なしと認めます。これをもって討論を終わります。

これより議案第35号、平成27年度美浜町一般会計補正予算（第7号）を採決します。

本案に賛成の諸君の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

○議長（森川元晴君）

挙手全員であります。よって、本案は可決されました。

日程第12 議会閉会中の継続調査事件について

○議長（森川元晴君）

日程第12、議会閉会中の継続調査事件についてを議題とします。

議長宛てに各委員会委員長より議会閉会中の継続調査事件の申し出がありましたので、一覧表としてお手元に配付しました。

お諮りします。各委員会委員長より申し出のとおり、議会閉会中の継続調査事件とすることに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森川元晴君）

御異議なしと認めます。よって、各委員長からの申し出のとおり、議会閉会中の継続調査事件とすることに決しました。

以上をもって、本定例会に付議されました案件の審議は全て終了しました。

閉会に当たり、町長より御挨拶を願います。

〔町長 神谷信行君 登壇〕

○町長（神谷信行君）

それでは、平成28年第1回美浜町議会定例会の閉会に当たり、一言御挨拶を申し上げます。

今定例会に御提案いたしました、報告第1号、専決処分事項の報告についてを初め35件並びに本日追加提案をいたしました報告第2号、専決処分事項の報告についてを初め4件につきまして、いずれも慎重審議の上、全議案御承認をいただきましたことに対しまして、心よりお礼を申し上げます。ありがとうございました。

お認めいただきました新年度予算により、新しい体制のもと住民の皆様と力を一つにして、本町が自立した住みよい町であり続けられるよう、そして、「明るく・健康で・笑顔の絶えないまち美浜」の実現に向け、全力で取り組んでまいります。

議員の皆様方並びに住民の皆様の御理解と御協力を心からお願いを申し上げまして、閉会の御挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

〔降壇〕

○議長（森川元晴君）

ありがとうございました。

これにて平成28年第1回美浜町議会定例会を閉会します。御協力ありがとうございました。

〔午前11時46分 閉会〕

地方自治法第123条第2項の規定によりここに署名する。

平成28年3月15日

美浜町議会

議長 森 川 元 晴

議員 山 本 辰 見

議員 江 元 梅 彦